

SUSE Linux Enterprise Desktop

11

www.novell.com

2009 5 12

アプリケーションガイド



アプリケーションガイド

All content is copyright © 2006- 2009 Novell, Inc.

保証と著作権

このマニュアルは、Novellの知的所有権で保護されています。このマニュアルを複製、コピー、または配布するには、本使用許諾契約の各条項に明示的に同意する必要があります。

このマニュアルは、以下の条件を満たす限り、電子的または印刷物などの形式で、自由に複製、コピー、配布することができます。

複製、コピー、配布されるコピーには、この著作権表示と作成者、貢献者名が明示的かつ弁別的に表示する必要があります。このマニュアルは、特に印刷形式の場合、非商用の目的でのみ複製、配布できます。本マニュアルの全部または一部を他の目的で使用する場合は、事前にNovell, Incから明示的な許可を得る必要があります。

Novellの商標リストについては、<http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html>のNovell Trademark and Service Mark Listを参照してください。
Linuxは、Linus Torvaldsの登録商標です。他のすべての第三者の商標は、各所有者が所有権を有しています。商標記号(®、™など)は、Novellの商標を表しています。アスタリスク()は、サードパーティの商標を表します。

本書のすべての情報は、細心の注意を払って編集されています。しかし、このことは絶対に正確であることを保証するものではありません。Novell, Inc.、Suse Linux Products GmbH、著者、翻訳者のいずれも誤りまたはその結果に対して一切責任を負いかねます。

目次

このガイドについて	xi
パート I OpenOffice.org Novellエディション	1
1 OpenOffice.org Office Suite	3
1.1 OpenOffice.org モジュール	3
1.2 OpenOffice.org 3.0の新機能	4
1.3 OpenOffice.orgのNovell版	4
1.4 他のOfficeアプリケーションとの互換性	6
1.5 OpenOffice.orgを起動します。	8
1.6 パスワードを使用したOpenOffice.orgファイルの保存	9
1.7 文書の署名	9
1.8 OpenOffice.orgのカスタマイズ	10
1.9 グローバル設定の変更	13
1.10 テンプレートの使用	15
1.11 詳細情報	17
2 OpenOffice.org Writer	19
2.1 Writerの新機能	19
2.2 新しい文書の作成	20
2.3 他のワードプロセッサと文書を共有	21
2.4 スタイルによる書式設定	22
2.5 大きな文書に関する作業	26
2.6 HTMLエディタとしてWriterを使用する	28
3 OpenOffice.org Calc	31
3.1 Calcの新機能	32

3.2	新しい文書の作成	33
3.3	Calcでの書式設定とスタイルの使用	34
4	その他のOpenOffice.orgモジュール	35
4.1	Impressでプレゼンテーションを使用する	35
4.2	Base - データベースの使用	39
4.3	Draw - グラフィックの作成	43
4.4	Mathを使用して式を作成する	44
パート II	情報管理	47
5	Kontakt:電子メールとカレンダーリング	49
5.1	Kontaktの概要	49
5.2	メール	52
5.3	連絡先	60
5.4	カレンダー	63
5.5	KontaktとGroupWiseユーザ	65
5.6	詳細情報	68
6	Evolution:電子メールとカレンダーリング	69
6.1	Evolutionの初めての起動	70
6.2	Evolutionの使用:概要	82
7	GroupWise Linuxクライアント:電子メールとカレンダーリング	91
7.1	詳細情報	91
8	KPilotによるハンドヘルドコンピュータの同期	93
8.1	ハンドヘルド接続の設定	93
8.2	コンジット、通信、および同期	95
8.3	KPilotが使用するコンジット	95
8.4	KOrganizerによる同期	97
8.5	KAddressBookコンジットの設定	99
8.6	KPilotの使用	99
8.7	詳細情報	101
9	GNOMEパイロットによるハンドヘルドデバイスの同期	103
9.1	GNOMEパイロット設定ツール	103
9.2	パイロットアプレット	109

10 KGpgによる暗号化	111
10.1 署名と暗号化	111
10.2 新しい鍵ペアの生成	112
10.3 公開鍵のエクスポート	115
10.4 他のユーザの公開鍵のインポート	116
10.5 鍵サーバダイアログ	117
10.6 データの暗号化	119
10.7 詳細情報	121
11 パスワードと暗号キーによる暗号化	123
11.1 署名および暗号化	124
11.2 新しい鍵ペアの生成	124
11.3 鍵のプロパティの変更	127
11.4 鍵のインポート	132
11.5 鍵のエクスポート	133
11.6 鍵の署名	134
11.7 暗号化の初期設定	135
12 BasKetによるメモの記録	139
12.1 バスケットの作成	139
12.2 バスケットの使用	140
12.3 詳細情報	144
13 Tomboyによるメモの記録	145
13.1 ノートの作成	146
13.2 すべてのメモの検索	147
13.3 メモのリンク	148
13.4 メモのアクセス	149
13.5 メモのテキストの書式設定	149
13.6 HTMLへのメモのエクスポート	152
13.7 メモの削除	153
13.8 メモの印刷	153
13.9 Tomboyの初期設定	153
パート III 通信とコラボレーション	159
14 Kopeteによるインスタントメッセージング	161
14.1 Kopeteの設定	161
14.2 友人とのチャット	162
14.3 Kopeteのカスタマイズ	164

14.4	詳細情報	167
15	Pidginによるインスタントメッセージング	169
15.1	アカウントの設定	169
15.2	連絡先の管理	171
15.3	友人とのチャット	172
15.4	詳細情報	173
16	EkigaでのVoice over IPの使用	175
16.1	Ekigaの設定	176
16.2	Ekigaのユーザインタフェース	177
16.3	電話をかける	179
16.4	電話に出る	180
16.5	アドレス帳を使用する	180
16.6	詳細情報	181
パート IV	インターネット	183
17	Konquerorを使ったブラウズ	185
17.1	タブブラウズ	186
17.2	〔自動スクロール〕	186
17.3	〔プロファイル〕	187
17.4	Webページと画像の保存	187
17.5	Konquerorによる検索	188
17.6	ブックマーク	190
17.7	JavaとJavaScript	191
17.8	Advertisement Blocker(広告ブロッカー)の使用	191
17.9	詳細情報	192
18	Firefoxを使用したブラウジング	193
18.1	Webサイトのナビゲート	193
18.2	情報の検索	196
18.3	ブックマークの管理	199
18.4	ダウンロードマネージャの使用	205
18.5	セキュリティ	206
18.6	Firefoxのカスタマイズ	209
18.7	Firefoxからの印刷	214
18.8	MHTMLアーカイブを開く	215
18.9	Microsoft Silverlightコンテンツの表示	215
18.10	詳細情報	215

19 インターネットからのデータの転送	217
19.1 ASCII転送とバイナリ転送	218
19.2 リモートサーバへの接続	218
19.3 ファイルの転送	219
19.4 HTTPプロキシサーバの設定	220
19.5 詳細情報	220
 パート V グラフィックス	 221
20 GIMPによるグラフィックスの操作	223
20.1 グラフィックファCルの形式	223
20.2 GIMPの起動	224
20.3 はじめに	227
20.4 画像の保存	229
20.5 画像の編集	230
20.6 画像の印刷	239
20.7 詳細情報	240
 21 DigiKamによるデジタルイメージコレクションの管理	 243
21.1 カメラの設定	244
21.2 カメラからの写真ダウンロード	246
21.3 アルバムの管理	247
21.4 タグの管理	248
21.5 強力な検索フィルタの作成	250
21.6 画像コレクションのエクスポート	251
21.7 画像の表示と編集	253
21.8 便利なツール	263
21.9 バッチ処理	263
21.10 トラブルシューティング	265
21.11 詳細情報	265
 22 F-スポットによるデジタルイメージコレクションの管理	 267
22.1 写真のインポート	269
22.2 カメラからの写真ダウンロード	271
22.3 写真情報の取得	272
22.4 タグの管理	272
22.5 写真の検索	274
22.6 画像コレクションのエクスポート	276
22.7 基本的な写真の編集	279
22.8 写真の共有	283

パート VI マルチメディア 285

23 音楽と動画の再生:amaroK、Kaffeine、その他 287

23.1	ミキサー	288
23.2	音楽ファイルの再生	289
23.3	オーディオCDの取り扱い	296
23.4	ムービーファイルの再生	299
23.5	トラブルシューティング	300

24 Bansheeでの音楽の再生と管理 303

24.1	音楽の再生	304
24.2	音楽ライブラリの管理	310
24.3	デジタルオーディオプレーヤーでBansheeを使用する	313
24.4	オーディオおよびMP3 CDの作成	316
24.5	音楽の共有	317
24.6	Bansheeの初期設定の設定	318

25 Totemによるビデオの再生 321

25.1	Totemの使用	321
25.2	Totem動画プレーヤーの初期設定の変更	327

26 K3bによるCDおよびDVDの書き込み 331

26.1	データCDまたはDVDの作成	331
26.2	オーディオCDの作成	334
26.3	CDまたはDVDのコピー	335
26.4	ISOイメージの書き込み	336
26.5	マルチセッションCDまたはDVDの作成	337
26.6	詳細情報	338

27 BraseroによるCDおよびDVDの書き込み 339

27.1	データCDまたはDVDの作成	339
27.2	オーディオCDの作成	341
27.3	CDまたはDVDのコピー	342
27.4	ISOイメージの書き込み	342
27.5	マルチセッションCDまたはDVDの作成	343
27.6	詳細情報	343

パート VII 付録 **345**

28 ヘルプとドキュメント **347**

28.1	KDE Help Centerの使用方法	348
28.2	GNOME Yelpの使用	350
28.3	デスクトップからのマニュアルページと情報ページのブラウズ	351
28.4	追加のヘルブリソース	352

29 Linuxソフトウェアの概要 **353**

29.1	オフィスアプリケーション	354
29.2	Network	360
29.3	マルチメディア	364
29.4	グラフィックス	370
29.5	システム管理とファイル管理	374
29.6	ソフトウェア開発	379



このガイドについて

このマニュアルでは、SUSE® Linux Enterprise Desktopに付属するさまざまなアプリケーションについて紹介します。また、これらのアプリケーションの使用方法や作業手順についても説明します。このマニュアルは主に、エンドユーザを対象としています。

マニュアルは、以下の各部に分かれています。

OpenOffice.org Novellエディション

Writer、Calc、Impress、Base、Draw、およびMathを含むOpenOffice.orgスイートについて紹介します。OpenOffice.orgのNovellエディションに含まれる追加機能について紹介します。

情報管理

製品により提供される電子メールおよびスケジュールソフトウェアについて説明します。ハンドヘルドデバイスに対してデータを同期する方法、および文書またはメールを署名および暗号化することにより保護された情報の転送方法について説明します。情報の収集とソート、アイディアの整理のためにメモ記録アプリケーションを使用します。

通信とコラボレーション

他のユーザとの接続を維持し、インスタントメッセージングまたはVoice over IP(VoIP)によりネットワーク接続で通信します。

インターネット

最新の閲覧技術とセキュリティ技術を組み合わせたブラウザによりWeb上の情報を検索します。インターネットからデータを転送するためにファイル転送クライアントを使用します。

グラフィックス

未経験者および専門家の双方のニーズを満たす画像処理プログラムであるThe GIMPについて紹介します。カメラからデジタル写真をダウンロードする方法、またはアルバムを作成するかWeb上の画像ギャラリーにエクスポートすることにより画像コレクションを管理する方法について説明します。

マルチメディア

音楽および動画を再生するためのアプリケーション(デスクトップ)を導入します。データをアーカイブするために、データ用またはオーディオ用のCDおよびDVDを作成する方法を説明します。

このマニュアル中の多くの章に、他の資料やリソースへのリンクが記載されています。これらの資料の中には、システムから参照できるものもあれば、インターネット上に公開されているものもあります。

ご使用の製品に利用できるドキュメントおよび最新のドキュメントアップデートの概要については、<http://www.novell.com/documentation>または後続のセクションを参照してください。

1 利用可能なマニュアル

これらのガイドブックは、HTMLおよびPDFの各バージョンを複数の言語で提供しています。この製品については、次のユーザー用および管理者用マニュアルがあります。

GNOME ユーザガイド (↑*GNOME* ユーザガイド)

SUSE Linux Enterprise DesktopのGNOMEデスクトップについて説明しています。デスクトップの使用および設定方法と、キータスクの実行方法を説明します。主として、デフォルトのデスクトップとしてGNOMEデスクトップを効率的に使用したいと考えるエンドユーザ向けです。

アプリケーションガイド (1 ページ)

SUSE Linux Enterprise Desktopの主なデスクトップアプリケーションの使用および設定方法について説明しています。ブラウザ、E-mailクライアント、オフィスアプリケーション、コラボレーションツールについて説明しています。グラフィックとマルチメディアアプリケーションについても扱っています。

Deployment Guide (導入ガイド) (↑*Deployment Guide* (導入ガイド))

単一または複数のシステムをインストールする方法および展開インフラストラクチャに製品本来の機能を活用する方法を示します。ローカルインストールまたはネットワークインストールサーバの使用から、リモート制御の高度にカスタマイズされた自動リモートインストール技術による大規模展開まで、多様なアプローチから選択できます。

管理ガイド (↑管理ガイド)

当初のインストールシステムの保守、監視、およびカスタマイズなど、システム管理タスクについて説明します。

Security Guide (セキュリティガイド) (↑Security Guide (セキュリティガイド))

システムセキュリティの基本概念を紹介し、ローカルセキュリティ/ネットワークセキュリティの両方の側面を説明します。製品固有のセキュリティソフトウェア(プログラムが読み込み/書き込み/実行の対象にするファイルをプログラムごとに指定できるNovell AppArmorなど)や、セキュリティ関係のイベント情報を確実に収集する監査システムを使用する方法を示します。

System Analys and Tuning Guide (システム分析およびチューニングガイド)

(↑System Analys and Tuning Guide (システム分析およびチューニングガイド))

問題の検出、解決、および最適化に関する管理者ガイド。ツールの監視によってシステムを検査および最適化する方法およびリソースを効率的に管理する方法を見つけることができます。よくある問題と解決、および追加のヘルプとドキュメントリソースの概要も含まれています。

Virtualization with Xen (Xen 仮想化ガイド) (↑Virtualization with Xen (Xen 仮想化ガイド))

ご使用製品の仮想化技術を紹介します。SUSE Linux Enterprise Serverでサポートされているプラットフォームのアプリケーションとインストールタイプに関するさまざまなフィールドの概要、およびインストール手順の簡単な説明について記載しています。

総合的なマニュアルに加えて、クイックスタートガイドも利用できます。

クイックスタートのインストール (↑クイックスタートのインストール)

システム要件を一覧し、DVDまたはISOイメージからのSUSE Linux Enterprise Desktopのインストールをステップごとに順を追って説明します。

Linux Audit Quick Start (Linux 監査クイックスタート)

監査システムを有効にし設定する方法と、主要タスク(監査ルールの設定、レポートの生成、ログファイルの分析など)を実行する方法を簡単に説明します。

Novell AppArmor Quick Start (Novell AppArmor クイックスタート)

naareg;の背景をなす主要概念を説明します。

大半のSUSE Linux Enterprise DesktopマニュアルのHTMLバージョンは、インストールしたシステム内の/usr/share/doc/manualか、ご使用のデスクトップのヘルプセンターで見つけることができます。マニュアルの最新の更新バージョンは、<http://www.novell.com/documentation>にあります。ここでは、製品のマニュアルのPDFまたはHTMLバージョンをダウンロードできます。

2 フィードバック

次のフィードバックチャンネルがあります：

- 製品コンポーネントのバグの報告や、改善強化要求の提出には、<https://bugzilla.novell.com/>を使用してください。Bugzillaを初めてご使用になる場合は、Novell Bugzilla ホームページの*Bug Writing FAQs*が参考になることがあります。
- 本マニュアルおよびこの製品に含まれているその他のマニュアルについて、皆様のご意見やご要望をお寄せください。オンラインドキュメントの各ページの下部にあるユーザコメント機能を使用して、コメントを入力してください。

3 マニュアルの表記規則

本書では、次の書体を使用しています：

- /etc/passwd: ディレクトリ名およびファイル名
- `placeholder:placeholder`は、実際の値で置き換えられます
- PATH:環境変数PATH
- `ls, --help`: コマンド、オプション、およびパラメータ
- `user`: ユーザまたはグループ
- **Alt**、**Alt + F1**: キー: 押すためのキーまたはキーの組み合わせ、キーはキーボードと同様に、大文字で表示されます

- [ファイル] , [ファイル] > [名前を付けて保存] :メニュー項目、ボタン
- *Dancing Penguins*(「*Penguins*」の章、↑他のマニュアル):他のマニュアル中の章への参照です。



パート I. OpenOffice.org Novell エディション



OpenOffice.org Office Suite

OpenOffice.orgはパワフルなオープンソースのオフィススイートで、テキスト文書の作成、表計算ドキュメントの使用、図形やプレゼンテーションの作成など、あらゆる種類のオフィスタスクに対応するツールを備えています。

OpenOffice.orgでは、異なるコンピューティングプラットフォーム間で、同じデータを共用できます。また、必要に応じて、Microsoft Officeなどの他の形式でファイルを開いて編集し、この形式に戻して保存することもできます。この章は、すべてのOpenOffice.orgモジュールを対象とするもので、SUSE® Linux Enterprise Desktopに付属するOpenOffice.orgのNovellエディション固有の機能について概要を説明します。

1.1 OpenOffice.org モジュール

OpenOffice.orgは、互いに連携する複数のプログラムモジュールで構成されています。モジュールの一覧は、表1.1にあります。各モジュールの詳細については、1.11項「詳細情報」(17 ページ)で説明するオンラインヘルプを参照してください。

表 1.1 OpenOffice.org アプリケーションモジュール

モジュール	目的
Writer	ワードプロセッサアプリケーションモジュール
Calc	表計算アプリケーションモジュール

モジュール	目的
Impress	プレゼンテーションアプリケーションモジュール
Base	データベースアプリケーションモジュール
Draw	ベクタ図形の描画用アプリケーションモジュール
Math	数式生成用アプリケーションモジュール

以降の章は、個別のOpenOffice.orgモジュールを対象にしています。

第2章 *OpenOffice.org Writer* (19 ページ)

OpenOffice.org Writerの紹介

第3章 *OpenOffice.org Calc* (31 ページ)

OpenOffice.org Calcの紹介

第4章 その他の*OpenOffice.org*モジュール (35 ページ)

OpenOffice.org Impress、Base、Draw、およびMathの紹介

1.2 OpenOffice.org 3.0の新機能

OpenOffice.org 3.0で使用可能な新しいコア機能のリストについては、http://www.openoffice.org/dev_docs/features/3.0/を参照してください。

1.3 OpenOffice.orgのNovell版

SUSE® Linux Enterprise Desktopには、OpenOffice.orgのNovell版が含まれます。Novell版には、標準版に含まれていないさまざまな拡張機能が追加されています。

Excel VBAマクロとの互換性:

OpenOffice.org Novell版では、Microsoft Excelから多くのマクロを簡単に移行できます。すべてのマクロが正常に移行されるわけではありませんが、

ある程度のマクロ互換性が保たれています。一方、スタンダード版では、マクロの移行はサポートされていません。

データパイロット:

データパイロットは、Microsoft Officeピボットテーブル*と相互運用できます。OpenOffice.org Novell版では、データパイロット機能が実質的に向上しており、作成後にパイロットを編集できます。

フォントサポートの強化:

OpenOffice.org Novell版では、データパイロット機能が実質的に向上しており、作成後にパイロットを編集できます。これにより、OpenOffice.org Novell版で作成されたドキュメントを開くときにフォントを一致させることができ、ページ数や書式設定が大幅に乱れることはありません。

EMF+のサポート:

EMF+フォーマットのグラフィックスを描画できます。

SVGのサポート:

スケーラブルなベクトルグラフィックスをインポートできます。

インポートファイルの形式:

Microsoft Works、WordPerfect* テキストおよびグラフィックス、T602ファイル、Office Open XMLなど。

GroupWise®の統合:

OpenOffice.org Novell版は、たとえばGroupWise用のODMA (Open Document Management Architecture) サービスに対する統合性が向上しています。

OpenOffice.org Novell版は、たとえばGroupWise用のODMA (Open Document Management Architecture) サービスに対する統合性が向上しています。

Novell版の代わりに標準版のOpenOffice.orgを利用することもできます。Novell版の代わりに標準版のOpenOffice.orgを利用することもできます。ただし、標準版にはNovell版に用意されている拡張機能は含まれていません。

1.4 他のOfficeアプリケーションとの互換性

最新版のOpenOffice.orgをインストールした場合でも、Novell版のファイルそのまま利用できます。これらのファイルは元のファイルと同様にシームレスに開いたり、元の形式で保存したりできます。相互運用性を対象に一部の作業がすでに実施されていますが、依然として形式の問題が存在しています。ドキュメントの問題が発生した場合は、元のアプリケーションで開き、テキストドキュメントのRTFなどのオープン形式で再び保存してみます。ドキュメントの問題が発生した場合は、元のアプリケーションで開き、テキストドキュメントのRTFなどのオープン形式で再び保存してみます。

ティップ: OpenOffice.org マイグレーションガイド

他のオフィススイートからOpenOffice.orgへ移行する場合に役立つ情報については、『OpenOffice.org Migration Guide』(<http://documentation.openoffice.org/manuals/oooauthors2/0600MG-MigrationGuide.pdf>)を参照してください。

1.4.1 OpenOffice.org形式への文書の変換

OpenOffice.orgは、さまざまな形式のドキュメントを開いたり、編集したり、保存したりできます。他のアプリケーションからのファイルを利用するために、ファイル形式をOpenOffice.org形式に変換する必要はありません。ただし、必要であれば、ファイルを変換しても構いません。ドキュメントを変換する場合は、次の手順に従ってください。

- 1 [ファイル] > [ウィザード] > [ドキュメント変換] の順に選択します。
- 2 変換前のファイル形式を選択します。

StarOfficeとMicrosoft Officeの複数の形式が用意されています。

- 3 [Next]をクリックします。

- 4 変換するドキュメントとテンプレートがある場所、および変換されるファイルの保管場所を指定します。

Windowsパーティションから取得した文書は、通常、/windowsのサブディレクトリにあります。

- 5 設定内容を確認し、[次へ]を選択します。
- 6 実行するアクションの概要を確認したら、[変換]をクリックして変換を開始します。すべての操作が終了したら、[閉じる]をクリックすることによりウィザードを終了します。

変換にかかる時間は、ファイル数やファイル形式の複雑さによって異なります。たいていの場合、変換にはさほど時間はかかりません。

1.4.2 他のオフィススイートのユーザとのファイル共有

OpenOffice.orgは、多くのオペレーティングシステムで使用できます。このため、OpenOffice.orgはユーザのグループが頻繁にファイルを共有する必要がある各自のコンピュータのシステムが異なる場合、有効なツールになります。

他のアプリケーションと文書を共有する場合は、いくつかの方法があります。

受信者がファイルを編集できるようにする必要がある場合

そのユーザが必要とするファイル形式でドキュメントを保存します。たとえば、Microsoft Wordファイルとして保存する場合は、[ファイル] > [名前を付けて保存]の順にクリックして、適切なバージョンのMicrosoft Wordファイル形式を選択します。

受信者がドキュメントを編集する必要がない場合

[ファイル] > [PDFとしてエクスポート]の順に選択して、ドキュメントをPDFファイルとして保存します。PDFファイルは、任意のプラットフォームでPDFビューアを使用して読み取ることができます。

ドキュメントを共有して編集する場合

すべてのユーザが使用できる共通の交換形式について同意を得ます。TXTとRTF形式は書式設定に制限がありますが、テキスト文書には良い選択肢です。

ドキュメントをPDF形式でメール送信する場合

[ファイル] > [送信] > [PDFとしての電子メール] の順にクリックします。デフォルトの電子メールプログラムが起動し、PDF形式のファイルが添付されます。

Microsoft Wordユーザにドキュメントをメール送信する場合

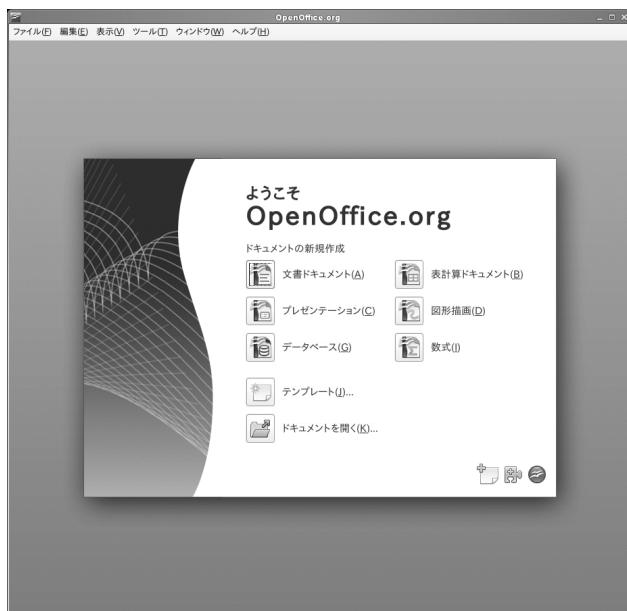
[ファイル] > [送信] > [Microsoft Word として電子メール] の順にクリックします。デフォルトの電子メールプログラムが起動し、ファイルが添付されます。

ドキュメントを電子メール本文として送信

[ファイル] > [送信] > [E-mailとしてのドキュメント] の順にクリックします。デフォルトの電子メールプログラムが起動し、電子メール本文にドキュメントの内容が表示されます。

1.5 OpenOffice.orgを起動します。

OpenOffice.orgスイートを起動するには、Alt+F2を押し、oofficeと入力します。OpenOffice.orgウィンドウが開きます。



選択ダイアログは、開くモジュール、または作成するファイルの種類を選択します。OpenOffice.orgアプリケーションが開かれている場合、[ファイル] > [新規作成] > [<アプリケーション名>] の順にクリックして、他のアプリケーションを起動できます。

また、メインメニューから選択するか、Alt + F2を押して対応するモジュールのコマンドを入力することにより、個別のOpenOffice.orgモジュールを起動することもできます。たとえば、OpenOffice.org Writerの場合はoowriter、Calculatorの場合はoocalc、Impressの場合はooimpressと入力することにより、それぞれのモジュールを起動できます。

1.6 パスワードを使用した OpenOffice.orgファイルの保存

どのOpenOffice.org形式でも、パスワードを使用してファイルを保存できます。この保護機能は、制限されることに注意してください。より強力な保護機能が必要な場合は、第11章 *Encrypting Partitions and Files* (↑Security Guide (セキュリティガイド))の暗号化方式を使用します。パスワードを使用してファイルを保存するには、[ファイル] > [保存] または [ファイル] > [名前を付けて保存] を選択します。開いたダイアログで、[Save with password(パスワードを使用して保存)] チェックボックスを有効にし、[OK] をクリックします。パスワードを入力し、確認した後、ファイルが保存されます。次回にユーザがファイルを開くときに、パスワードの入力が要求されます。

パスワードを変更するには、[ファイル] > [名前を付けて保存] を選択することにより同じファイルに上書きするか、または [ファイル] > [プロパティ] を選択して [パスワード変更] をクリックすることによりパスワードのダイアログを開きます。

1.7 文書の署名

文書を保護するために文書をデジタル署名できます。文書を保護するために文書をデジタル署名できます。このためには、個人用の鍵(証明書)が必要です。このチェックサムは、文書とともに保存されます。別のユーザが文書を開くと、最新のチェックサムが元のチェックサムと比較され、両者が一致する場合に、文書が途中で変更されていないことが通知されます。文書を署名

するには、[ファイル] > [Digital Signature(デジタル署名)] を選択し、[追加] をクリックして署名で使用する証明書を追加します。

SUSE Linux Enterprise Desktopでは、証明書ストアから証明書にアクセスできます。詳細については、第12章 *Certificate Store* (↑*Security Guide* (セキュリティガイド))を参照してください。

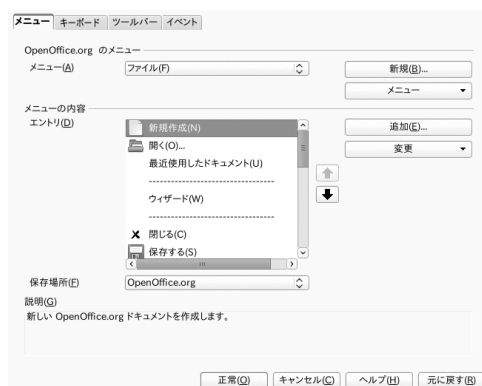
1.8 OpenOffice.orgのカスタマイズ

自分の作業スタイルやニーズに応じて、OpenOffice.orgをカスタマイズすることができます。たとえば、ツールバー、メニュー、およびキーボードショートカットをカスタマイズして、最も頻繁に使用する機能に簡単にアクセスできるようになります。また、特定のイベントに対してマクロを割り当てることにより、イベント発生時に特定の操作を実行することができます。自分の作業スタイルやニーズに応じて、OpenOffice.orgをカスタマイズすることができます。

ここでは、ご利用の環境をカスタマイズするための一般的な方法について説明します。変更はすぐに反映されるため、目的どおりに変更されたか確認でき、目的に合わない場合は戻って修正できます。詳細な手順は、OpenOffice.orgのヘルプファイルを参照してください。

開いているOpenOffice.orgモジュールでカスタマイズダイアログを表示するには、[ツール] > [Customize(カスタマイズ)] を選択します。

☒ 1.1 Writerのカスタマイズダイアログ



手順 1.1 ツールバーのカスタマイズ

- 1 カスタマイズダイアログで、[ツールバー] タブをクリックします。
- 2 [ツールバー] ドロップダウンリストから、カスタマイズするツールバーを選択します。
- 3 コマンドをツールバーに表示する場合は、コマンドの隣にあるチェックボックスを選択します。ツールバーに表示しないコマンドは、チェックボックスの選択を解除してください。ダイアログの下側に各コマンドの簡単な説明が表示されます。
- 4 [Save In(保存場所)] で、現在のOpenOffice.orgモジュールまたは現在の文書のいずれにカスタマイズしたツールバーを保存するかを選択します。OpenOffice.orgモジュールに保存した場合は、そのモジュールを開くときに常に、カスタマイズしたツールバーが使用されます。OpenOffice.orgモジュールに保存した場合は、そのモジュールを開くときに常に、カスタマイズしたツールバーが使用されます。
- 5 必要に応じて他のツールバーもカスタマイズします。
- 6 [OK] をクリックします。

元の設定に再度切り替える場合は、カスタマイズダイアログを開き、[ツールバー] ドロップダウンリストをクリックし、[Restore Default Settings(デフォルト設定に戻す)] を選択します。[はい] および [リセット] をクリックし、続行します。

手順 1.2 ツールバーのボタンの表示または非表示

- 1 変更するツールバーの端にある矢印アイコンをクリックします。
- 2 [ボタンの表示/非表示] をクリックして、ボタンのリストを表示します。
- 3 ボタンのリストから、表示するボタン(チェックする)や非表示にするボタン(チェックを解除する)を選択します。

手順 1.3 メニューのカスタマイズ

メニューへの項目の追加、メニューからの項目の削除、項目の位置変更、および新規メニューの作成ができます。

- 1 [ツール] > [カスタマイズ] > [メニュー] の順にクリックします。
- 2 変更するメニューを選択します。新しくメニューを作成する場合は、[新規] をクリックします。

[カスタマイズ] ダイアログ中のオプションの詳細を参照するには、[ヘルプ] をクリックします。
- 3 必要に応じてメニュー項目を追加、削除、または変更します。
- 4 [OK] をクリックします。

手順 1.4 キーボードショートカットのカスタマイズ

現在割り当てられているキーボードショートカットを変更して、頻繁に使う機能に新たなショートカットを割り当てることができます。

- 1 [ツール] > [カスタマイズ] > [キーボード] の順にクリックします。
- 2 機能を割り当てるキーを選択するか、機能を選択してキーまたはキーの組み合わせを割り当てます。

[カスタマイズ] ダイアログ中のオプションの詳細を参照するには、[ヘルプ] をクリックします。
- 3 必要に応じてキーボードショートカットを追加、削除、または変更します。
- 4 [OK] をクリックします。

手順 1.5 イベントのカスタマイズ

OpenOffice.orgでは、アプリケーションの起動やドキュメントの保存など、特定のイベントに対してマクロを割り当てることもできます。イベントが発生すると、割り当てられたマクロが自動的に実行されます。

1 [ツール] > [カスタマイズ] > [イベント] の順にクリックします。

2 変更するイベントを選択します。

[カスタマイズ] ダイアログボックス中のオプションの詳細を参照するには、[ヘルプ] をクリックします。

3 選択したイベントにマクロを割り当てるか、または割り当てを削除します。

4 [OK] をクリックします。

1.9 グローバル設定の変更

OpenOffice.orgの全般的な設定を変更するには、メニューバーから [ツール] > [オプション] の順にクリックします。次の図に示すようなウィンドウが表示されます。ここでは、設定項目がツリー構造で分類されています。

図 1.2 [オプション] ウィンドウ



表示される設定カテゴリは、作業しているモジュールによって異なります。たとえば、Writerで作業を行っている場合は、リストにOpenOffice.org Writerカテゴリが表示されます。ただし、OpenOffice.org Calcカテゴリは表示されません。OpenOffice.org Baseカテゴリは、CalcとWriterのどちらにも表示されます。テーブルの [アプリケーション] 列は、各設定カテゴリを利用できるアプリケーションを表しています。

次の表に、各カテゴリとその簡単な説明を示します。

表 1.2 グローバル設定のカテゴリ

設定カテゴリ	説明	アプリケーション
<i>OpenOffice.org</i>	ユーザデータ(住所や電子メールアドレスなど)、重要なパス、およびプリンタや外部プログラム関連の設定など、さまざまな基本的な設定オプションがあります。	すべて
読み込みと保存	さまざまな種類のファイルの表示、保存に関連する設定オプションがあります。一般的な設定のほかに、外部形式の処理方法を定義するのに使用するオプションも用意されています。	すべて
言語設定	ロケールやスペルチェック設定など、言語およびドキュメント入力に関するさまざまな設定があります。ここで、ドキュメントの標準言語を日本語などのアジア言語に設定することもできます。	すべて
<i>OpenOffice.org Writer</i>	フォントやレイアウトなど、Writerの使用に関する設定オプションがあります。	Writer
<i>OpenOffice.org Writer/Web</i>	OpenOffice.orgのHTMLオーサリング機能に関する設定オプションがあります。	Writer
<i>OpenOffice.org Calc</i>	リストやグリッドなどの、Calc関連の設定オプションがあります。	Calc
<i>OpenOffice.org Impress</i>	すべてのプレゼンテーションに適用する設定を変更します。たとえば、エレメントを配置する場合に使用するグリッド間隔の単位を指定できます。	Impress
<i>OpenOffice.org Draw</i>	図形描画の倍率、グリッドのプロパティ、印刷など、ベクタ描画モジュールに関連する設定オプションがあります。	Draw

設定カテゴリ	説明	アプリケーション
<i>OpenOffice.org Math</i>	Formulaに特殊な印刷オプションを設定するための単一ダイアログを提供します。	Math
<i>OpenOffice.org Base</i>	接続と登録データベースの設定、編集を行うダイアログを提供します。	Base
チャート	新規作成したグラフに使用するデフォルトの色を設定するオプションがあります。	すべて
インターネット	プロキシや検索エンジンに関する設定オプションがあります。	すべて

重要項目: 設定のグローバルな適用

テーブルに記載されているすべての設定は、指定したアプリケーションにグローバルに適用されます。これらの設定内容は、新しくドキュメントを作成する場合のデフォルト値として使用されます。

1.10 テンプレートの使用

テンプレートは、該当する種類の各文書に表示するスタイル(および内容)のみを含む文書です。テンプレートを使用してドキュメントを作成、または開く場合、そのドキュメントには、定義されているスタイルが自動的に適用されます。テンプレートを利用して、さまざまな種類のドキュメントの書式設定作業を簡略化できます。たとえば、ワープロでレター、メモ、およびレポートを作成する場合。これらのドキュメントはそれぞれ外観も違えば、使う書式やスタイルも異なります。たとえば、ワープロでレター、メモ、およびレポートを作成する場合。これらのドキュメントはそれぞれ外観も違えば、使う書式やスタイルも異なります。このような場合、それぞれの用途に応じたテンプレートを使用することで、ドキュメントの種類に応じた適切な書式設定/スタイルを手軽に利用することができます。

OpenOffice.orgには、事前定義されたいくつかのテンプレートが用意されています。また、インターネットから他のテンプレートを検索して入手することもできます。詳細については、1.11項「詳細情報」(17 ページ)を参照してください。独自のテンプレートを作成する場合は、若干の事前の計画が必要です。たとえば、テンプレートで使うスタイルを作成するために、ドキュメントの外観をどのようにするかを決める必要があります。テンプレートは後でいつでも変更できますが、あらかじめこのような事柄を検討しておけば、後の時間や手間を節約できます。

テンプレートに関する詳細な説明は、このセクションでは触れません。OpenOffice.orgテンプレートの作成(16 ページ)では、既存の文書からテンプレートを生成する方法についてのみ説明しています。

手順 1.6 OpenOffice.orgテンプレートの作成

テキスト文書、スプレッドシート、プレゼンテーション、および図のテンプレートは、次の手順に従って既存の文書から簡単に作成できます。

- 1 OpenOffice.orgを起動し、同じ種類の他の文書で再使用するスタイルおよび内容を含む文書を開くか、作成します。
- 2 [ファイル] > [テンプレート] > [保存] の順にクリックします。
- 3 テンプレートの名前を入力します。
- 4 [範囲] ボックスから、このテンプレートを保存するカテゴリをクリックします。カテゴリは、テンプレートを保存するフォルダです。
- 5 [OK] をクリックします。

注意: 以前のMicrosoft Wordテンプレートの変換

また、Word文書と同様に、Microsoft WordテンプレートをOpenOffice.orgのテンプレートに変換することもできます。詳細については、1.4.1項「OpenOffice.org形式への文書の変換」(6 ページ)を参照してください。

1.11 詳細情報

OpenOffice.orgには詳細なオンラインヘルプが含まれています。また、OpenOffice.orgは多数のユーザおよび開発者によってサポートされています。次のリストに、追加情報の参照先をいくつか示しておきます。

OpenOffice.orgオンラインヘルプメニュー

OpenOffice.orgのタスク実行に関する詳細なヘルプ;

<http://support.openoffice.org/index.html>

オフィシャルOpenOffice.orgサポートページ。マニュアル、チュートリアル、ユーザおよび開発者フォーラム、users@openoffice.orgメーリングリスト、よく寄せられる質問などを掲載しています。

<http://documentation.openoffice.org/manuals/oooauthors2/0600MG-MigrationGuide.pdf>

OpenOffice.org マイグレーションガイドMicrosoft Officeを含む他のオフィススイートからOpenOffice.orgへの移行に関する情報を掲載しています。

<http://www.taming-openoffice-org.com/>

OpenOffice.orgの調整: 書籍、ニュース、ヒント、テクニック。

<http://www.pitonyak.org/oo.php>

マクロの作成と使用方法に関する詳細情報。

http://documentation.openoffice.org/Samples_Templates/User/template_2_x/index.html

OpenOffice.org文書のWebサイトでは、Writer、Calc、Impress、Drawのテンプレートを提供しています。OpenOffice.org文書のWebサイトでは、Writer、Calc、Impress、Drawのテンプレートを提供しています。

<http://www.worldlabel.com/Pages/openoffice-template.htm>

OpenOffice.orgでラベルを作成するためのさまざまなテンプレート。

http://documentation.openoffice.org/HOW_TO/index.html

テンプレートを作成および使用方法を含めて、さまざまなOpenOffice.orgタスクに関する詳細なハウツー。



OpenOffice.org Writer

OpenOffice.org Writerは、ページおよび文字列の書式設定機能も含め、豊富な機能を持つワードプロセッサです。Writerのインタフェースは、他の一般的なワードプロセッサと似ています。また、通常、高価なDTPアプリケーションにしかないような機能も用意されています。

ここでは、Writerの主な機能について取り上げます。Writerの機能の詳細や使用方法については、OpenOffice.orgのヘルプや、1.11項「詳細情報」(17 ページ)に記載されているソースを参照してください。

ここで説明している情報は、他のOpenOffice.orgモジュールにも適用されます。たとえば、Writerでスタイルを使用する場合と同様に、他のモジュールでもスタイルを使用することができます。

2.1 Writerの新機能

次に、重要な拡張機能をいくつか示します。

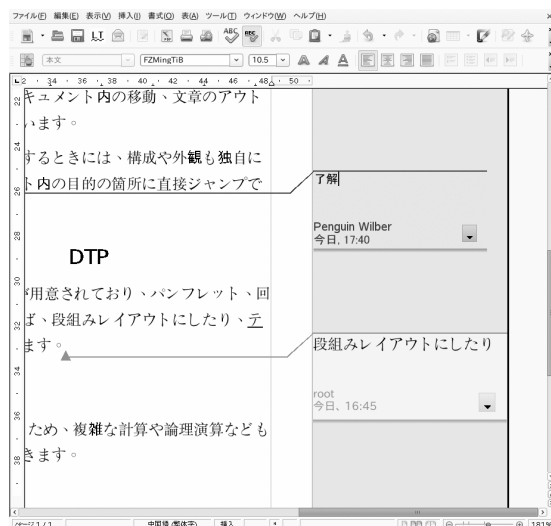
編集モードでの複数ページの表示

編集モードでの複数ページの表示スライドバーで、文書をシームレスに拡大、縮小できます。縮小した場合は、文書で表示されるページが増えます。

メモの表示と操作性

ユーザは、文書の編集またはレビュー時にテキストにメモを追加できます。ユーザは、文書の編集またはレビュー時にテキストにメモを追加でき

ます。メモがテキスト内の小さな長方形としてのみ表示される
OpenOffice.orgの以前のバージョンとは異なり、メモが文書の横に表示されるようになりました。



OpenOffice.org のNovellエディションでは、拡張フォント、特定のファイル形式のサポート、GroupWiseの統合など、Writerで使用可能な追加機能も含まれています。詳細については、1.3項「OpenOffice.orgのNovell版」(4 ページ)を参照してください。

2.2 新しい文書の作成

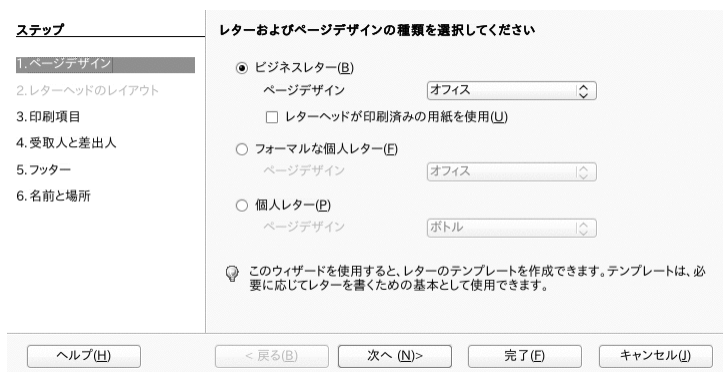
新しい文書を作成するには、次の2種類の方法があります。

最初から文書を作成する場合は、[ファイル] > [新規作成] > [文書ドキュメント] の順に選択します。

作成する文書に標準形式や定義済みの形式を使用する場合は、ウィザードを使用します。ウィザードは小さなユーティリティで、基本的な決定を行うと、テンプレートからレディメードの文書が作成されます。たとえば、ビジネスレターを作成する場合は、[ファイル] > [ウィザード] > [レター] の順に選択します。ウィザードのダイアログを使用すれば、標準書式を使用する

基本文書を簡単に作成できます。ウィザードのダイアログのサンプルは、「図 2.1」にあります。

図 2.1 OpenOffice.org ウィザード



必要に応じて文書ウィンドウにテキストを入力します。[Formatting (書式設定)] ツールバーまたは [Format (書式)] メニューを使用して文書の外観を調整します。[ファイル] メニューまたはツールバーの該当するボタンを使用して、文書を印刷または保存します。[挿入] メニューのオプションを使用すれば、文書にテーブル、画像、図などの項目を追加できます。

2.3 他のワードプロセッサと文書を共有

Writerを使って、他のさまざまなワードプロセッサで作成されたドキュメントを編集できます。たとえば、Microsoft Word文書をインポートして編集し、再びWord文書として保存することができます。大部分のWord文書は、OpenOffice.orgに問題なくインポートできます。また、書式やフォントなど、ドキュメント中の情報も同じように保持されます。ただし、複雑な表、Wordマクロ、または特殊なフォントや書式などを含むドキュメントの場合は、インポートした後にドキュメントを修正しなければならないこともあります。OpenOffice.orgでは、ドキュメントを他の一般的なワードプロセッサのファイル形式で保存することができます。また、OpenOffice.orgで作成したドキュメントをWord形式のファイルとして保存し、それをMicrosoft Wordで開くこともできます。

また、OpenOffice.orgで作成したドキュメントをWord形式のファイルとして保存し、それをMicrosoft Wordで開くこともできます。ファイルを開いて編集し、Wordファイルとして保存してください。

2.4 スタイルによる書式設定

OpenOffice.orgでは、ドキュメント中のさまざまな要素や書式の一貫性を保つためにスタイルを利用することができます。利用できるスタイルの種類を以下に示します。

表 2.1 スタイルの種類について

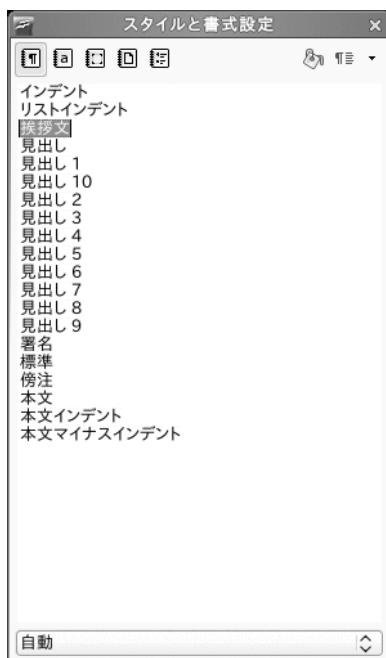
スタイルの種類	機能
段落	ドキュメント中のさまざまな種類の段落に、標準の書式を適用します。たとえば、段落スタイルを適用して、見出しにフォント、フォントサイズ、見出しの上下の間隔、見出しの位置、および他の書式仕様が設定されるようにします。
文字	文字列に対して標準の書式を適用します。たとえば、強調する文字列を斜体で表示する場合は、文字列を斜体にするスタイルを作成し、それを目的の文字列に適用します。
枠	枠に対して標準の書式を適用します。たとえば、ドキュメントでサイドバーを使用している場合、画像、境界、位置、および他の書式を定義した枠を作成し、適用することにより、すべてのサイドバーが一貫性のある概観を持つように設定できます。
ページ	特定のページに対して標準の書式を適用します。たとえば、ドキュメントの先頭ページ以外の各ページにヘッダやフッタを表示する場合は、ヘッダとフッタを表示しない「最初のページ」スタイルを使用します。また、左ページと右ページで異なるスタイルを使用することで、見開きページの内側の余白を大きくし、外側にページ番号を記載することもできます。

スタイルの種類	機能
リスト	特定のリストに標準の書式を適用します。たとえば、四角いチェックボックスを先頭に記載したチェックリストや、先頭に中点を記載したリストスタイルを定義しておけば、それを適用して簡単にリストを作成することができます。

2.4.1 [スタイルと書式] ウィンドウを開く

[スタイルと書式] ウィンドウ(以前のバージョンの *[Stylist]*)では、文字列、段落、ページ、枠、およびリストに対して、さまざまな書式のスタイルを適用することができます。このウィンドウを表示するには、[書式] > [スタイルと書式] の順にクリックします。

図 2.2 [スタイルと書式] ウィンドウ



OpenOffice.orgには、あらかじめ定義されたさまざまなスタイルが用意されています。これらのスタイルをそのまま利用したり、スタイルを変更したり、新しいスタイルを作成したりできます。ウィンドウ下部のドロップダウンリストから、ウィンドウで表示するスタイルの種類を選択します。ウィンドウ下部のドロップダウンリストから、ウィンドウで表示するスタイルの種類を選択します。

2.4.2 スタイルの適用

スタイルを適用するには、スタイルを適用する要素を選択してから、[スタイルと書式] ウィンドウ中の適切なスタイルをダブルクリックします。たとえば、ある段落にスタイルを適用する場合は、その段落中の任意の場所にカーソルを移動してから、目的の段落スタイルをダブルクリックします。

ティップ: [スタイルと書式] ウィンドウのドッキング

デフォルトでは、[スタイルと書式] ウィンドウは個別のウィンドウに表示され、画面上の任意の場所に移動することができます。[スタイルと書式] ウィンドウは、Writerインタフェースの同じ部分に常に表示するようにドッキングできます。このためには、灰色のフレームが表示されるまで、Writerのメインウィンドウの左または右にタイトルバーをドラッグした後、マウスボタンを離してその位置を決定します。ウィンドウのドッキングを解除し、再びフローティングウィンドウとして表示するには、タイトルバーを別の場所に単純にドラッグします。

ドッキングとドッキング解除の要領は、ナビゲータを含めて、OpenOffice.orgの他のウィンドウでも同じです。

2.4.3 スタイルを使う場合と書式設定ボタン/メニューオプションを使う場合の比較

[書式] メニューのオプションやボタンを使うかわりにスタイルを利用すれば、ページ、段落、文字列、およびリストの一貫性を保ちながら、後で簡単に書式を変更することができます。たとえば、[太字] ボタンをクリックして文字列を強調した場合、後で太字から斜体に変更しようと思ったら、太字の箇所を1つ1つ探して手動で変更しなければなりません。文字スタイルを使

えば、そのスタイルの書式定義を太字から斜体に変更するだけで、その書式を適用したすべての文字列が、太字から斜体に変わります。

メニューオプションやボタンによる書式設定は、適用されているスタイルの設定に優先します。たとえば、ある文字列に対して [太字] ボタンを使って書式を設定し、他の文字列にはスタイルを適用して太字を設定した場合、スタイルを変更してもボタンを使って書式が設定された文字列は変わりません。また、ボタンを使って太字にした文字列に、後からスタイルを適用しても、ボタンを使った太字の設定が優先されます。スタイルの設定を使うには、手動で太字の設定を解除してから、スタイルを適用する必要があります。

同様に、[書式] > [段落] の順に選択して段落に書式を設定すると、段落間の書式設定に不整合が発生する可能性があります。特に、書式設定が違う他のドキュメント間で段落をコピー、貼り付ける場合などに、この問題が発生する可能性が高くなります。ただし、段落スタイルを適用した場合、書式は一貫性が維持されます。スタイルを変更すると、そのスタイルで書式設定されたすべての段落に変更が自動的に適用されます。

2.4.4 スタイルの変更

スタイルを使えば、スタイルの内容を変更するだけで、ドキュメント全体に書式設定を反映させることができます。ドキュメント中の各部の書式を個別に変更していく必要はありません。

- 1 [スタイルと書式] ウィンドウで、変更するスタイルを右クリックします。
- 2 [変更] をクリックします。
- 3 選択したスタイルの設定を変更します。

設定可能な項目の詳細については、OpenOffice.orgオンラインヘルプを参照してください。

- 4 [OK] をクリックします。

2.4.5 スタイルの作成

OpenOffice.orgには、さまざまな用途に適したスタイルがあらかじめ用意されています。また、ユーザのニーズに合わせて、新しいスタイルを作成することもできます。新しいスタイルを作成するには、次の手順に従います。

- 1 [スタイルと書式] ウィンドウの、空の領域を右クリックします。

この操作は、作成するスタイルの種類に合ったスタイルのリストが表示されている状態で行ってください。たとえば、文字スタイルを作成する場合は、ウィンドウに文字スタイルのリストを表示してください。

- 2 [New] をクリックします。

- 3 [OK] をクリックします。

- 4 作成したスタイルに名前を付け、そのスタイルで適用したい設定を選択します。

各タブで設定できるオプションの詳細を表示するには、該当するタブをクリックしてから、[ヘルプ] をクリックします。

2.5 大きな文書に関する作業

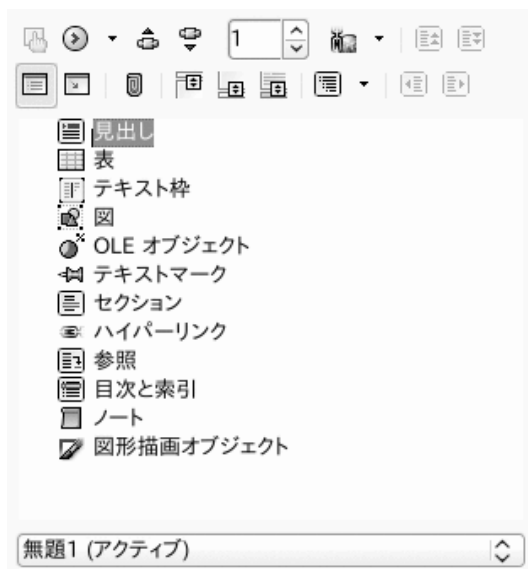
Writerを使って大きな文書を作成、編集したり、他の作業を行うことができます。大きな文書は、単一のファイルのこともあれば、複数のファイルから1つの文書が成り立っていることもあります。

2.5.1 大きな文書内の移動

ナビゲータには、文書の内容についての情報が表示されます。また、このツールを使って、ドキュメント内の別の部分に素早く移動することもできます。たとえば、ナビゲータを使って文書に含まれているイメージのリストを表示することができます。

ナビゲータを開くには、[編集] > [ナビゲータ] をクリックするか、またはF5を押します。Navigatorに表示される要素は、Writerにロードされている文書によって異なります。

図 2.3 Writerのナビゲータツール



ナビゲータ中の項目をクリックすると、文書内の該当する項目に移動します。

2.5.2 マスタ文書の使用

本などの、大きな文書を作成、編集する場合、その内容をすべて1つのファイルに保存する代わりに、複数のファイルを管理するマスタドキュメントを作成し、作業を簡素化することができます。マスタドキュメントを利用すれば、大きな文書に素早く書式を設定したり、個々のサブドキュメントに移動して編集することができます。

Writerのマスタドキュメントは、複数のWriterファイルを保管するコンテナとしての役割を果たします。たとえば、章単位にファイルを作成し、それをまとめてマスタドキュメントに保管、管理することができます。マスタドキュメントは、単一の文書に対して複数のユーザが共同作業を行うような場合にも役立ちます。このような場合、各ユーザの担当範囲に応じて文書を分割し、

それをマスタドキュメントで管理すれば、複数の担当者が同時に文書に対して作業を行うことができます。他のユーザの妨げになることはありません。

手順 2.1 マスタ文書の作成

- 1 [新規作成] > [マスタドキュメント] の順にクリックします。

または

既存の文書を開いて、[ファイル] > [送信] > [マスタドキュメントの作成] の順にクリックします。

- 2 サブ文書を挿入します。

- 3 [ファイル]、[保存] の順にクリックします。

OpenOffice.orgヘルプファイルには、マスタ文書での作業に関する詳細な情報が含まれています。「マスタドキュメントとサブドキュメントを使用する」を参照してください。

ティップ: マスタ文書のスタイルとテンプレート

サブドキュメントにあるスタイルは、すべてマスタドキュメントにインポートされます。マスタドキュメントで一貫した書式設定を利用するには、各サブドキュメントで同じテンプレートを使ってください。必ず同じテンプレートを使わなければならない訳ではありませんが、サブドキュメント間で書式設定が違っている場合、不整合になるのを防ぐために書式を再設定する必要があることもあります。たとえば、2つのサブドキュメント間で、同じ名前でも異なる書式が設定されたスタイルが使われている場合、それらをマスタドキュメントにインポートすると、最初にインポートされた文書のスタイルが使われます。

2.6 HTMLエディタとしてWriterを使用する

完全装備のワードプロセッサとしての機能のほかに、WriterにはHTMLエディタとしての機能があります。WriterにはHTMLタグが含まれています。このタグはWriter文書に他のスタイルを適用するときと同じように適用されます。オ

ンラインに表示される状態でドキュメントを表示したり、HTMLコードを直接編集することができます。

手順 2.2 HTML文書の作成

- 1 [ファイル] > [新規作成] > [HTMLドキュメント] の順にクリックします。
- 2 F11を押し、[スタイルと書式] ウィンドウを開きます。
- 3 [スタイルと書式] ウィンドウの下にある矢印をクリックします。
- 4 [HTML Styles] を選択します。
- 5 スタイルを使ってテキストにタグをつけ、HTML文書を作成します。
- 6 [ファイル] > [名前を付けて保存] の順にクリックします。
- 7 ファイルを保存したい場所を選択して、ファイルの名前を入力し、[フィルタ] リストから [HTML文書(\\.html)] を選択します。
- 8 [OK] をクリックします。

HTMLコードを直接編集したい場合、または、HTMLファイルをWriter文書として編集したとき作成したHTMLコードを表示したい場合、[表示] > [HTML Source] の順にクリックします。これで、[HTML Source] モードでは、[スタイルと書式] リストは使用できなくなります。

まだHTMLドキュメントを保存していない状態で、初めてHTMLソースモードに切り替えると、ファイルの保存を求めるダイアログが表示されます。



OpenOffice.org Calc

Calcは、OpenOffice.orgのスプレッドシートおよびデータプロットモジュールです。スプレッドシートは、テキスト、数値、数式などの要素を入力できるセルを含むシートから構成されます。式を使用すれば、他のセルからのデータを操作して、式を挿入したセルの値を生成できます。スプレッドシートは、テキスト、数値、数式などの要素を入力できるセルを含むシートから構成されます。DataPilotsを使用することにより、より大量のデータの組み合わせ、分析、比較を行うことができます。

OpenOffice.orgスイート全体の場合と同じように、Calcはさまざまなプラットフォームで使用できます。多数の交換フォーマット(PDF文書に対するエクスポートを含む)を提供しており、Microsoft Excelフォーマットでのファイルの読み取り、保存を行うことができます。その相互運用性は常に強化されています。

この章では、非常に基本的なCalc機能のみを紹介します。詳細について、および全手順については、OpenOffice.orgのヘルプ、または1.11項「詳細情報」(17 ページ)の資料を参照してください。経験豊富なユーザであれば、3.1項「Calcの新機能」(32 ページ)で新しい機能のリストを確認できます。

注意: VBAマクロ

また、Calcでは、Excelドキュメントの多数のVBAマクロを処理することができます。ただし、すべてのVBAマクロをサポートしている訳ではありません。マクロを多用するExcelスプレッドシートを開くとき、一部のマクロが機能しないことがあります。

3.1 Calcの新機能

次に、重要な拡張機能をいくつか示します。

表計算のコラボレーション

他のユーザと表計算を共有できるようになりました。このためには、[ツール] > [Share Document(文書の共有)] をクリックします。表示されるダイアログで、共有モードを有効にし、文書を保存します。これにより、ロックファイルが作成されます。現在文書にアクセスしているユーザのリストを保存する同じディレクトリ内の~sharing.ods#。異なるユーザtuxがファイルを開くと、共有モードに関する情報が提示され、ファイルに変更を加えることができます。変更結果の保存時に(文書が別のユーザにより途中で変更されていれば)、メッセージが表示されます。文書を保存するときに、両ユーザの変更結果がマージされます。

注意: Access Permissions (アクセス許可)

共有文書で作業するすべての記述者が共有ファイルとロックファイルの両方について書き込み許可を必要とすることに注意してください。

Calcシート当たりのカラム数が増加

OpenOffice.orgでは、1つの表計算文書で256カラムではなく1024カラムを処理できるようになりました。

OpenOffice.orgのNovellエディションでは、Calcで次の追加機能が使用可能です。

可変数式構文のサポート(Calc A1、Excel A1、およびExcel R1C1)

[オプション] ダイアログから使用可能です。[ツール] > [オプション] > [OpenOffice.org Calc] > [計算] をクリックし、対応する [数式の構文] を選択します。

外部範囲名のサポート

外部範囲名のサポート例:

```
=SUM('file:///external.ods'#NamedRange)
```

暗号化されたExcelエクスポートのサポート

パスワードにより*.xlsファイルに保存し、その内容を暗号化できます。

[ファイル] > [名前を付けて保存] をクリックし、[Microsoft Excel

97/2000/XP (.xls)] フォーマットを選択します。 [Save with password(パスワードで保存)] チェックボックスを設定し、パスワードを保存、入力します。

シートの保護

シートおよびロックされたセルの内容をパスワードにより保護できます。
[ツール] > [Protect Document(文書の保護)] > [Sheet(シート)] をクリックして、使用可能なオプションを表示します。

DataPilotのソースデータ範囲の変更

テーブルを作成した後、DataPilotのソースデータ範囲を変更できます。

シートごとのグリッド線の切り替え

シートごとにグリッド線を個別に非表示にするか、表示することができます。グリッド線の設定は、文書とともに保存されます。この機能は、ツールバーの右端から使用できます。

数式表現での引数のセパレータ

数式表現の引数セパレータは、ロケールに依存します。数式表現の引数セパレータは、ロケールに依存します。たとえば、=SUM(A1;A2;A3)ではなく=SUM(A1,A2,A3)と記述できます。

3.2 新しい文書の作成

OpenOffice.orgを起動し、[ファイル] > [新規] > [スプレッドシート] を選択して新しい表計算文書を最初から作成します。ウィンドウ下部の対応するタブをクリックすることにより、個別のシートにアクセスします。

必要に応じてセルにデータを入力します。外観を調整するには、3.3項「Calcでの書式設定とスタイルの使用」(34 ページ)の説明に従って、[Formatting(書式設定)] ツールバーまたは [Format(書式)] メニューを使用してスタイルを定義します。[ファイル] メニューまたはツールバーの該当するボタンを使用して、文書を印刷または保存します。

3.3 Calcでの書式設定とスタイルの使用

Calcには、スプレッドシートやレポートの外観を変更するセルやページ用スタイルがいくつか用意されています。通常はこれらのスタイルでも十分ですが、必要に応じて独自のスタイルを作成することもできます。

手順 3.1 スタイルの作成

- 1 [書式] > [スタイルと書式] の順にクリックします。
- 2 [スタイルと書式] ウィンドウで、[Cell Styles(セルのスタイル)] または、[Page Styles(ページのスタイル)] アイコンをクリックします。
- 3 [スタイルと書式] ウィンドウを右クリックし、[新規] をクリックします。
- 4 スタイルの名前を入力し、さまざまなタブを使用して希望どおり書式設定オプションをセットします。
- 5 [OK] をクリックします。

手順 3.2 スタイルの変更

- 1 [書式] > [スタイルと書式] の順にクリックします。
- 2 [スタイルと書式] ウィンドウで、[Cell Styles] または、[Page Styles] アイコンをクリックします。
- 3 変更したいスタイルの名前を右クリックし、[変更] をクリックします。
- 4 選択した書式設定オプションを変更します。
- 5 [OK] をクリックします。

その他のOpenOffice.orgモジュール

4

OpenOffice.org WriterおよびOpenOffice.org Calcに加えて、OpenOffice.orgにはモジュールImpress、Base、Draw、およびMathが含まれます。こうした機能により、プレゼンテーションの作成、データベースの設計、グラフィックスと図の描画、数式の作成を行うことができます。

4.1 Impressでプレゼンテーションを使用する

OpenOffice.orgを使用して、スライドショーやOHPシートなどのプレゼンテーションを作成、画面に表示したり印刷したりできます。Impressは他のプレゼンテーションソフトウェアと操作や機能が似ているため、他のプレゼンテーションソフトウェアを使用していたユーザでも、簡単にImpressに移行することができます。

Impressは、Microsoft PowerPointプレゼンテーションを開いたり、PowerPoint形式で保存したりできます。PowerPoint形式でファイルを保存できるため、PowerPointユーザとプレゼンテーションを簡単にやり取りすることができます。

4.1.1 Impressの新機能

OpenOffice.orgのNovellエディションでは、スライドで3D遷移を使用できます。
[スライドショー] > [Transitions(遷移)] を選択することにより、使用可能な遷移を表示できます。

4.1.2 プレゼンテーションの作成

事前にフォーマットされたスライドを使用しないで新しいプレゼンテーションを最初から作成することもできますし、新しい文書の既存のテンプレートまたはプレゼンテーションを使用することもできます。Impressでは、他のOpenOffice.orgモジュールと同じ方法でスタイルとテンプレートを使用します。テンプレートの詳細については、1.10項「テンプレートの使用」(15ページ)を参照してください。ウィザードにより、新しいプレゼンテーションを作成するために使用可能なオプションの設定が案内されます。

- 1 OpenOffice.org Impressを直接、またはOpenOffice.org内で起動し、[ファイル] > [新規] > [プレゼンテーション] をクリックします。
- 2 新しいプレゼンテーションを作成するために、いずれかのオプションを選択します。
- 3 テンプレートからプレゼンテーションを作成する場合は、ドロップダウンリストからいずれかのテンプレートを選択し、[次へ] をクリックします。



- 4 さまざまな背景と既製のプレゼンテーションからスライドのデザインを選択します。独自のデザインを作成するには、**[オリジナル]**を選択します。
- 5 出力メディアを選択します。出力メディアは、特にオーバーヘッドシート、用紙、画面スライドショーなど、最後のプレゼンテーションで使ったフォームです。

選択肢を表示するサムネイルのプレビューを選択します。すべてのオプションが希望どおりに設定されたら、**[次へ]**をクリックします。
- 6 スライドの遷移で効果を使用する場合は、使用する**効果**を選択し、**[Speed(速度)]**を指定します。
- 7 デフォルトのプレゼンテーションの種類を使用するか、または**[自動]**を選択して各ページの表示時間とプレゼンテーション間の一時停止時間を指定します。
- 8 すべてのオプションが希望どおりに設定されたら、**[作成]**をクリックします。

プレゼンテーションが開き、編集の準備ができます。

4.1.3 マスタページの使用

マスタページを利用して、各スライドの外観、使用するフォント、および他のグラフィック要素を定義し、一貫性のあるプレゼンテーションを作成することができます。Impressには、2種類のマスタページが用意されています。

スライドマスタ

すべてのスライドに表示される要素を含みます。たとえば、スライドマスタを使って、各スライドの同じ場所に企業ロゴを表示することができます。また、スライドマスタには、見出しの文字書式スタイルや各スライドのアウトライン、およびヘッダ/フッタに表示する情報も定義されます。

メモマスタ

プレゼンテーション内のメモの書式と外観を決定します。

スライドマスタの作成

Impressには、あらかじめ定義されたマスタページがいくつか用意されています。また、独自のスライドマスタを作成することもできます。

- 1 Impressを起動して、新規の白紙のプレゼンテーションを作成します。
- 2 [表示] > [マスタ] > [スライドマスタ] の順にクリックします。
[Master View] で現在のスライドマスタを開きます。
- 3 左のパネルを右クリックして、[New Master] をクリックします。
- 4 希望する外観になるまでスライドマスタを編集します。
- 5 [マスタ表示を閉じる] をクリックするか、または [表示] > [標準] の順にクリックすると、標準表示に戻ります。

ティップ

プレゼンテーションで使用するスライドマスターをすべて作成した後は、これらをImpressテンプレートに保存することができます。以降、保存したスライドマスターを使ってプレゼンテーションを作成する場合には、このテンプレートを開きます。

スライドマスタの適用

スライドマスタは選択したスライド、またはプレゼンテーションにあるすべてのスライドに適用できます。

- 1 プレゼンテーションを開いて、[表示] > [マスタ] > [スライドマスタ] の順にクリックします。
- 2 (オプション)スライドマスタをすべてのスライドではなく複数のスライドに適用する場合、そのスライドマスタを使用したいスライドを選択します。

複数のスライドを選択するには、使用するスライドをクリックしながらCtrlをスライドペインで押します。

3 タスクペインでは、適用したいマスタページを右クリックします。

タスクペインが表示されていない場合、[表示] > [Task Pane] の順にクリックします。

4 次のオプションから1つクリックしてスライドマスタを適用します。

- すべてのスライドに適用

選択したスライドマスタをプレゼンテーションにあるすべてのスライドに適用します。

- 選択したスライドに適用

選択したスライドマスタを、現在のスライド、またはスライドマスタの適用前に選択する任意のスライドに適用します。たとえば、プレゼンテーション中の最初のスライドに別のスライドマスタを適用する場合は、そのスライドを選択した後でマスタ表示に切り替え、そのスライドにスライドマスタを適用します。

4.2 Base - データベースの使用

OpenOffice.orgには、データベースモジュールのBaseが含まれています。Baseを使用して、簡単なアドレス帳や料理レシピ集から、複雑なドキュメント管理システムまで、さまざまな種類の情報を格納するデータベースを設計できます。

テーブル、フォーム、クエリ、およびレポートは、手動で作成するか、または便利なウィザードを使用して作成できます。たとえば、テーブルウィザードには、ビジネスおよび個人用途のための一連の共通フィールドがあります。Baseで作成されたデータベースは、フォームレターを作成する場合などのデータソースとして使用できます。

Baseを使用した詳細なデータベース設計については、このマニュアルでは触れません。詳細は、1.11項「詳細情報」(17 ページ)にある各種資料を参照してください。

4.2.1 事前定義されたオプションを使ったデータベースの作成

Baseには、データベースを作成するために役立つ、事前定義されたデータベースフィールドが用意されています。新しいデータベースを作成する手順がウィザードにより案内されます。ここでは、この事前定義されているフィールドを使ってアドレス帳を作成する手順について説明していきますが、これらの手順を応用すれば、他のデータベースも手軽に作成できます。

データベースの作成プロセスは、いくつかのサブプロセスに分けられます。

データベースの作成

- 1 [ファイル] > [新規作成] > [データベース] の順にクリックします。
- 2 [データベースの新規作成] > [Next] を選択します。
- 3 [Yes, register the database for me(はい、データベースを登録する)] をクリックして自分のデータベース情報を他のOpenOffice.orgモジュールに對して有効にし、ダイアログボックスの下部にあるチェックボックスを両方オンにして、[完了] をクリックします。
- 4 データベースを保存したいディレクトリを参照してデータベースの名前を入力し、[OK] をクリックします。

データベーステーブルのセットアップ

次に、データベーステーブルで使用したいフィールドを定義します。

- 1 テーブルウィザードで、[パーソナル] をクリックします。
[Sample tables] リストが個人用の定義済みテーブルに変わります。
[Business] をクリックした場合、リストには定義済みビジネステーブルが含まれます。
- 2 *[Sample tables]* リストで、*[Addresses]* をクリックします。

定義済みのアドレス帳に使用可能なフィールドが、 *[Available fields]* メニューに表示されます。

- 3 *[Available fields]* メニューで、自分のアドレス帳に使用したいフィールドをクリックします。

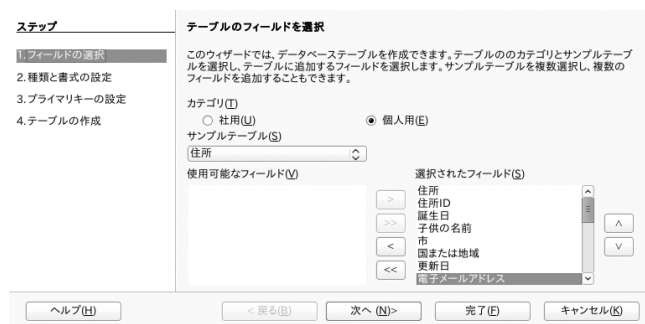
1つずつ項目を選択して追加することも、複数の項目を選択して追加することもできます。複数の項目を選択する場合は、キーを押しながら項目を選択します。

- 4 選択した項目を *[選択されたフィールド]* メニューに移動するには、矢印のアイコンをクリックします。

使用可能なフィールドをすべて *[Selected fields]* メニューに移動するには、右矢印をダブルクリックします。

- 5 選択したフィールドの表示順序を変更する場合は、↑キーと↓キーを使います。

テーブルやフォームには、フィールドがここに記載されている順序で表示されます。



- 6 *[Next]* をクリックします。

- 7 各フィールドが正しく定義されていることを確認します。

フィールド名、種類、エントリが必要かどうか、フィールドの最大長(入力可能な最大文字数)を変更できます。この例では、設定はそのまま変更しないでください。

8 [Next]をクリックします。

9 [プライマリキーの作成] をクリックして、 [プライマリキーを自動的に追加] をクリックして、 [自動設定値] をクリックして、次に [次へ] をクリックします。

10 テーブル名のデフォルト値をそのまま使用します。 [このテーブルに基づいてフォームを作成] を選択して、 [完了] をクリックします。

フォームの作成

次に、アドレス帳にデータを入力するときに使用するフォームを作成します。

1 フォームウィザードで、右矢印アイコンをダブルクリックして使用可能なフィールドをすべて [Fields in the form(フォーム内のフィールド)] リストに移動し、 [次へ] を2回クリックします。

2 フォームをどのように調節したいか選択し、 [次へ] をクリックします。

3 すべてのデータを表示するフォームを使用するオプションを選択し、チェックボックスをすべて空欄にして、 [次へ] をクリックします。

4 スタイルとフィールドの枠線を適用し、 [次へ] をクリックします。

この例では、デフォルトの選択肢を使用します。

5 フォームに名前を付け、 [Modify the form] オプションを選択し、 [完了] をクリックします。

フォームの変更

フォームを定義したら、設定に合うようフォームの外観を変更します。

1 変更手順が終了したら、開いているフォームを閉じます。

2 データベースのメインウィンドウで、変更したいフォームを右クリックし(オプションは1つだけです)、 [編集] をクリックします。

- 3 フォーム中のフィールドをドラッグして、フォームを別の場所に移動できます。

たとえば、[First Name] フィールドを、[Last Name] フィールドの右に表示されるよう移動します。それから、設定に合うよう他のフィールドの場所を調節します。

- 4 フォームの修正が完了したら、保存して、フォームを閉じます。

次に行う作業?

データベースのテーブルとフォームを作成したら、データを入力できます。また、クエリやレポートを作成してデータをソートしたり表示したりすることもできます。

Baseの詳細については、OpenOffice.orgオンラインヘルプと、1.11項「詳細情報」(17 ページ)に記載されている資料を参照してください。

4.3 Draw - グラフィックの作成

OpenOffice.orgを使って、グラフィックや図を作成できます。OpenOffice.orgを使って、グラフィックや図を作成できます。描画のFlashバージョンも作成できます。

OpenOffice.orgマニュアルではDrawの使用方法について詳細に説明していません。詳細については、1.11項「詳細情報」(17 ページ)を参照してください。

4.3.1 Drawの新機能

OpenOffice.orgのNovellエディションでは、スケーラブルベクトルグラフィックス(*.svg)およびWordPerfectグラフィックス(*.wpg)をインポートできます。

[ファイル] > [開く] を選択し、[フィルタ] ドロップダウンリストを使用して、開くことのできるファイル形式を表示します。

4.3.2 グラフィックスの作成および挿入

手順 4.1 グラフィックスの作成

- 1 Alt + F2を押し、oodrawと入力して、OpenOffice.org Drawを開きます。
- 2 ウィンドウ下部のツールバーを使用して、グラフィックスを作成します。
- 3 そのグラフィックスを保存します。

既存のDrawグラフィックスをOpenOffice.org文書に埋め込むには、[挿入] > [オブジェクト] > [OLEオブジェクト] を選択します。[Create from file(ファイルから作成)] を選択し、[検索] をクリックして挿入するDrawファイルに移動します。OLEオブジェクトとしてファイルを挿入した場合は、後でファイルをダブルクリックすることによりオブジェクトを簡単に編集できます。

手順 4.2 他のOpenOffice.orgモジュールからDrawを開く

他のOpenOffice.orgモジュールからDrawを開く

- 1 OpenOffice.orgモジュール(例:Writer)から、[挿入] > [オブジェクト] > [OLEオブジェクト] > [OpenOffice.org 3.xの図形描画] > [OK] の順にクリックします。

これにより、Drawが起動します。

- 2 描画を作成します。
- 3 ドキュメント内で、Drawの枠外の領域をクリックします。

描画が自動的に文書に挿入されます。

4.4 Mathを使用して式を作成する

一般的に、ドキュメントに複雑な数式を表記することは、複雑さを伴います。OpenOffice.org Math数式エディタでは、演算子、関数、および書式設定機能を使って、このような数式を作成できます。作成した数式をオブジェクトとして保存し、他のドキュメントにインポートできます。Mathで作成した数式や

関数は、他のグラフィックオブジェクトと同様に、他のOpenOffice.orgドキュメントに挿入できます。

注意

Mathは計算機ではありません。**Math**が作成する関数は、グラフィックオブジェクトです。**Calc**にインポートできますが、これらの関数は評価されません。



パート II. 情報管理



Kontact:電子メールとカレンダーリング

Kontactは、複数のKDEアプリケーションの機能を1つの使いやすいインタフェースに統合した個人情報管理ツールです。これらのアプリケーションには、KMail (電子メール)、KOrganizer (カレンダー)、KAddressBook (連絡先管理)、KNode (ニュースグループ)、およびKNotes (ノート) が含まれます。KontactはKDEデスクトップの空いている領域に容易に配置できます。また、Kontactはさまざまなグループウェアサーバに接続します。ジャーナルエントリ、スパムやウィルスのフィルタリング、RSSリーダなどの追加機能も備えています。

Kontactはメインメニューから起動します。または、Alt + F2キーを押してkontaktと入力します。一部の機能だけが必要な場合には、複合のアプリケーションとしてではなく、個々のコンポーネントを開くこともできます。

5.1 Kontactの概要

図5.1. 「Kontactの要約ビュー」 (50 ページ)で、デフォルトのウィンドウビューが表示されます。別のコンポーネントにアクセスするには、左側のセクションにあるアイコンを使用します。[要約] には、近づいている誕生日やToDo、天気、および新規のメールメッセージ数などの基本情報が表示されます。ニュースセクションでは、RSSフィードにアクセスして興味のある最新ニュースを読むことができます。表示される情報を設定するには、[設定] > [概要表示の設定] の順に選択します。

図 5.1 Kontactの要約ビュー



メール

左側のフォルダ領域には、自分のメールフォルダ(メールボックス)から成るリストがあり、メッセージの総数と未読の件数が表示されます。特定のフォルダを選択するには、そのフォルダをクリックするだけです。そのフォルダ内のメッセージが、右上のフレームに表示されます。フォルダ内のメッセージの件数は、アプリケーションウィンドウの下端にあるステータスバーにも表示されます。

各メッセージの件名、送信者、および受信日時が、右側のヘッダ領域に表示されます。特定のメッセージをクリックすると、そのメッセージが選択され、メッセージウィンドウ内に表示されます。列の見出し(件名、送信者、日時など)のいずれかをクリックすると、メッセージをソートできます。現在選択されているメッセージの内容は、ウィンドウのメッセージフレームに表示されます。添付ファイルは、その添付ファイルが使用しているMIMEタイプに基づき、メッセージの最後にあるアイコンとして、またはインラインで表示されます。

連絡先

このコンポーネントの左上のフレームには、現在有効なアドレス帳に登録されているすべてのアドレスが表示されます。左下のフレームには、アドレス帳と、各人が現在アクティブかどうかが表示されます。右側のフレームには、現在選択されている連絡先が表示されます。上にある検索バーを使用して、特定の連絡先を検索できます。

カレンダー

カレンダービューは、複数のフレームに分割されています。デフォルトでは、今月の小さなカレンダーを含むフレームと、今週の週表示を含むフレームが表示されます。To-Doリスト、現在のイベントまたはTo-Doの詳細表示、およびそれぞれの状態を示すカレンダーリストもあります。別の表示を選択するには、ツールバーまたは [表示] メニューを使用します。

To-Doリスト

[To-doリスト] には、タスクのリストが表示されます。リストに新しいタスクを追加するには、上にあるフィールドをクリックします。既存のタスクの列を右クリックすると、その列の値を変更できます。タスクをいくつかのサブタスクに分割できます。サブタスクを作成するには、タスクを右クリックして [新規サブTo-Do] を選択します。タスクを他の人々に割り当てることもできます。

ジャーナル

[ジャーナル] では、考え事、出来事、または経験などを保存する場所を提供します。カレンダーフレームの中で日にちを選択し、[Add Journal Entry (ジャーナルエントリの追加)] をクリックし、新しいエントリを追加します。選択した日にちに対するジャーナルエントリがすでに存在する場合は、右のフレーム内でそれを編集します。

ノート

このコンポーネントは、覚え書きとして使用します。KDEを使用している場合は、システムトレイのKNotesアイコンを使用すると、デスクトップに表示されるようになります。

フィード

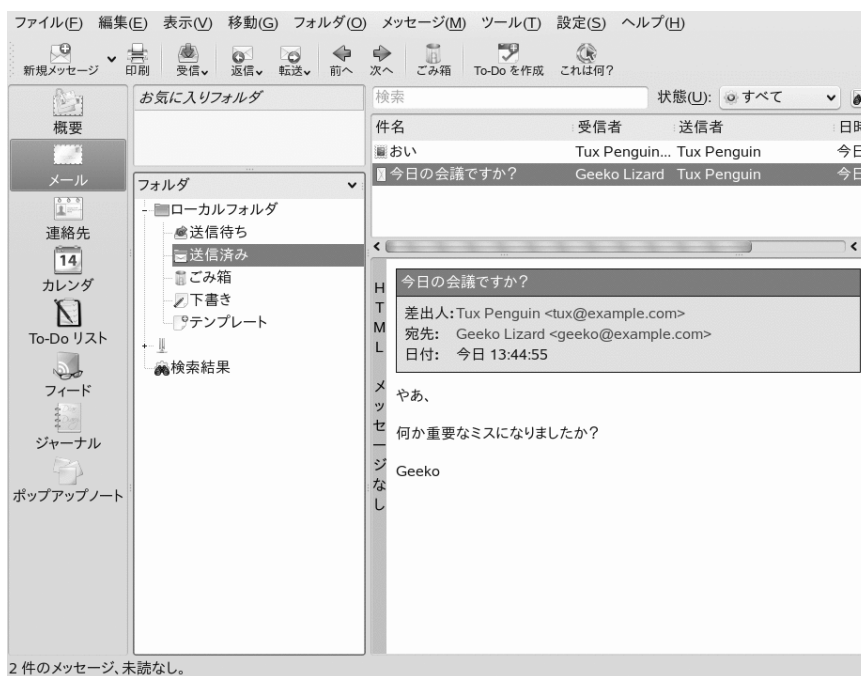
[Feeds] ウィンドウは3つのフレームに分割されています。左側のRSSフィードのツリービュー、右上の部分の記事リスト、および右下の部分の記事ビューで構成されています。ツリービューでフィードをクリックしてそれを表示します。フィードの更新、編集、または削除を行うには、対象のフィードを右クリックします。ツリービュー内のフォルダを右クリッ

くすると、新しいフィードの追加、またはこのフォルダ内の既存のフィードの操作用のメニューが開きます。

5.2 メール

Kontactは、電子メールコンポーネントとしてKMailを使用します。また、コマンドkmailにより個別に開始することもできます。KMailを設定するには、**[設定] > [KMail設定]**の順に選択します。KMailは機能豊富な電子メールクライアントであり、多くのプロトコルをサポートしています。

図 5.2 Kontactのメールコンポーネント



5.2.1 IDの設定

KMailでは、複数の電子メールアカウント(たとえば、自分の個人用電子メールアドレスと、ビジネス用のアドレス)を管理することができます。異なる電

子メールアカウントについて別個のIDを作成することにより、それぞれのアカウントに異なる送信元アドレス、暗号化設定、および署名を関連付けることができます。IDを作成するには、[設定] > [Configure KMail(KMailの設定)] を選択し、[Identities(ID)] > [追加] を選択します。新しいIDを最初から作成するか、[個人設定] > [パスワード & ユーザアカウント] のユーザ設定を使用するか、または既存のIDを複製するかを決定します。

新しいIDを最初から作成するには、[一般] タブで新しいIDの名前と、自身の名前、組織、および電子メールアドレスを入力します。必要に応じて、次のオプションを設定します。

暗号

署名および暗号化メッセージのために使用する鍵を設定します。暗号化を使用するには、第10章 *KGpg* による暗号化(111 ページ)で説明している *KGpg* を使用して鍵を事前に作成しておく必要があります。

Advanced

デフォルトの返信先およびデフォルトのBccアドレスの入力、辞書を選択を行い、草案、送信メッセージ、およびテンプレートのフォルダを選択し、メッセージを送信するための送信アカウントを定義します。

Templates

新しいメッセージ、送信者およびリストへのデフォルトの応答、および転送メッセージで使用するテンプレートを定義します。テンプレートを使用するには、まず [Use Custom Message Templates(カスタムメッセージテンプレートの使用)] を有効にします。

署名

使用するには、まず [Enable Signature(署名を有効にする)] をクリックします。メッセージの署名方法を決定します。署名を設定するか、またはファイルまたはコマンドの出力から署名を取得する場合は、次の入力フィールドを使用します。

画像

メッセージにX-Face形式の画像を含める場合は、このタブを使用します。X-Faceでは、48x48ピクセルの寸法の白黒イメージのみを格納できます。外部ソースまたは次の入力フィールドの画像を取得できます。

5.2.2 Creating Accounts(アカウントの作成)

電子メールを送受信する前に、1つまたは複数のアカウントを作成します。

【アカウント】では、Kontactによる電子メールの送受信方法を設定します。この2つのタブの設定値の多くは、使用するメールサーバのシステムと配置先ネットワークによって大きく異なります。どのような設定値と項目を使用すればいいのかわからない場合は、ご利用のISP、またはシステム管理者に問い合わせてください。

- 1 Kontactを起動し、【設定】 > 【Configure KMail(KMailの設定)】 > 【アカウント】を選択します。
- 2 【受信】タブをクリックすることにより、着信アカウントを作成します。
 - 2a 【追加】をクリックし、アカウントの種類を選択します。次のダイアログボックスでは、選択した種類の対応するエントリのみが表示されます。
 - 2b POP3、IMAP、または切断したIMAPを選択する場合は、ユーザー名、パスワード、およびホスト名を入力します。選択したアカウントの種類に応じて、メールチェック間隔、非表示フォルダ、セキュリティ設定などの追加パラメータを設定します。
 - 2c ローカルメールボックスまたはmaildirメールボックスを選択した場合は、フォルダの場所を入力します。
 - 2d 【OK】をクリックして、続行します。
- 3 【送信】タブをクリックすることにより発信アカウントを作成し、【追加】をクリックして【SMTP】または【Sendmail】のいずれかを選択します。
 - 【SMTP】を選択する場合は、アカウント名、SMTPサーバのホスト名を入力します。サーバでログインとパスワードが必要な場合は、【サーバは認証を必要とする】をチェックし、必要な資格情報を入力します。オプションで、【セキュリティ】タブを使用して、追加セキュリティ設定を指定します。

- [Sendmail] を選択した場合は、追加設定は必要ありません。

4 変更を適用するには、[OK] をクリックしてアカウント設定ダイアログを閉じます。

5.2.3 メッセージの作成

新しいメッセージを作成するには、[メッセージ] > [新規メッセージ] の順に選択するか、ツールバーの該当するアイコンをクリックします。他の電子メールアカウントからメッセージを送信するには、5.2.1項「IDの設定」(52 ページ)の説明に従って設定したIDのいずれかを選択します。[表示] > [ID] を選択し、ポップアップメニューを表示します。[宛先]に、電子メールアドレス全体を入力するか、アドレス帳に入力されている氏名またはアドレスの一部を入力します。入力した文字に一致する項目がアドレス帳の中で見つかった場合、選択リストが表示されます。希望の連絡先をクリックします。入力に一致する項目が見つからなかった場合は、最後まで入力します。アドレス帳から直接選択するには、[アドレス] のフィールドの隣にある [選択] ボタンをクリックします。

メッセージにファイルを添付するには、クリップのアイコンをクリックして、添付するファイルを選択します。代わりに、デスクトップまたは他のフォルダから [メール作成] ウィンドウまでファイルをドラッグするか、[添付] メニュー内でオプションのいずれかを選択することもできます。通常は、ファイルの形式は正しく認識されます。形式が正しく認識されない場合は、ファイルのアイコンを右クリックします。表示されるメニューから、[プロパティ] を選択します。次のダイアログで形式とファイル名を設定し、説明を追加します。また、添付ファイルを署名または暗号化するかどうかも指定できます。

メッセージの作成が完了したら、[メッセージ] > [送信] を選択して直ちに送信するか、[メッセージ] > [送信待ち] をの順に選択して [送信待ち] フォルダに移動します。メールを送信すると、メッセージは正常に送信された後に [送信済みメール] フォルダにコピーされます。[送信待ち] フォルダに移動されたメッセージは、編集または削除することもできます。

5.2.4 フォルダの管理

メッセージフォルダを使用すると、メッセージを整理することができます。デフォルトでは、メッセージフォルダは`~/.kde/share/apps/kmail/mail`ディレクトリにあります。KMailを最初に起動するときに、プログラムにより複数のフォルダが作成されます。IMAPを使用している場合は、ローカルフォルダの下にIMAPフォルダも表示されます。各着信メールサーバに対して、そのフォルダが「フォルダ」リストに表示されます。

メッセージを整理するためにフォルダを追加するには、「フォルダ」>「新規フォルダ」の順に選択してフォルダを作成します。ウィンドウが表示されるので、新しいフォルダの名前と形式を指定できます。

フォルダを右クリックすると、コンテキストメニューが表示されて、フォルダに対する操作が行えます。「*Expire*」を選択すれば、既読および未読のメッセージの保存期間と、削除やフォルダへの移動など、その期間の終了後に行う処理を指定できます。メーリングリストのメッセージを格納するためにフォルダを使用する場合には、「フォルダ」>「*Mailing List Management*」の順に選択して、必要なオプションを設定します。

あるフォルダから別のフォルダに1つ以上のメッセージを移動するには、上のウィンドウ内にあるメッセージをドラッグし、左のウィンドウ内にある適切なフォルダにドロップします。メッセージを反転表示し、Mキーを押すか、「メッセージ」>「移動」を選択することによってもメッセージを移動できます。フォルダのリストが表示されるので、メッセージの移動先として使用するフォルダを選択します。

さらに、「*Favorite Folders*(お気に入りフォルダ)」ペインにフォルダを追加できます。これにより、特にフォルダの構成が深い場合に、よく使用するメールフォルダをすばやく開くことができます。対応するフォルダを選択し、「*Add to Favorite Folders*(お気に入りフォルダへの追加)」を選択します。

5.2.5 電子メールの署名と暗号化

電子メールは、理論的に誰かに読まれたり、他者の名前で送信されたりする可能性がある安全でないメディアです。電子メールに署名することにより、署名で使用する鍵が自身にのみ使用可能であるために、電子メールの受信者がメッセージの送信者を確認できます。電子メールの内容を暗号化すること

により、受信者のみが電子メールを読めるように保証できます。KMailは、電子メールの署名および暗号化の両方をサポートします。

電子メールの署名および暗号化のためのKMailの設定

- 1 10.2項「新しい鍵ペアの生成」(112 ページ)の説明に従って鍵のペアを生成し、10.3項「公開鍵のエクスポート」(115 ページ)に従って公開鍵をエクスポートします。
- 2 KMailで暗号化手順の詳細を設定します。
 - 2a KMailを起動し、[設定] > [Configure KMail(KMailの設定)] > [Identities(ID)] に移動します。
 - 2b 暗号化および署名されたメッセージを送信するIDを選択します。
[変更] をクリックし、[暗号化] に進みます。
 - 2c [変更] をクリックしてOpenPGP署名用の鍵を変更し、ダイアログボックスから鍵を選択します。
 - 2d [変更] をクリックしてOpenPGP暗号化用の鍵を変更し、ダイアログボックスから鍵を選択します。
- 3 変更を適用するには、[OK] をクリックして設定ダイアログを閉じます。

署名済みメールの送信

実際に送信者が送信したかどうかを受信者が確認できるように、電子メールに署名します。KMailは、秘密鍵を使用してメッセージを署名します。受信者は、鍵サーバで使用可能な公開鍵を使用して署名を確認できます。電子メールを署名するには、次の手順に従います。

- 1 通常通りに電子メールを作成します。
- 2 [オブション] > [Sign Message(メッセージの署名)] を選択します。
- 3 公開鍵を含む電子メールへの添付ファイルを作成するために、[添付] > [Attach My Public Key(公開鍵の添付)] を選択します。

- 4 [メッセージ] > [メールの送信] により、通常通りにメッセージを送信し、入力が求められたら鍵のパスフレーズを入力します。KMailは秘密鍵を使用してメッセージを署名します。受信者は、メッセージに関連付けられた公開鍵によって署名を確認できます。

暗号化されたメールの送信

受信者のみが内容を読むことができるように保証したい場合は常に、電子メールで暗号化を使用します。暗号化された電子メールを他のユーザと交換するには、適切な公開鍵を取得し、それをメッセージの暗号化のために使用する必要があります。相手側では、メッセージの内容を復号化するために秘密鍵を使用します。もちろん、メッセージで署名と暗号化の両方を使用することもできます。

暗号化された電子メールを送信するには、次の手順に従います。

- 1 Alt + F2によりKGpgを起動し、kgpgを入力します。
- 2 受信者の公開鍵を取得します。
 - 受信者から直接入手する場合は、[鍵] > [鍵のインポート] によりKGpgで鍵をインポートします。
 - 公開鍵サーバにアクセスし、鍵をインポートします。KGpgで [ファイル] > [Key Server Dialog(鍵サーバのダイアログ)] を選択し、鍵を検索します。対応する鍵を選択し、それをキーリングにインポートします。
- 3 新しいメッセージを作成します。
- 4 [オプション] > [Encrypt Message(メッセージの暗号化)] を選択します。さらに、鍵でメッセージを署名する場合は、対応するメニュー項目を選択します。
- 5 メールを送信します。
- 6 すべての鍵が正しいかどうかをチェックします。
- 7 パスフレーズを入力します。

5.2.6 他のメールプログラムからの電子メールのインポート

他のアプリケーションから電子メールをインポートするには、Kontactのメールビューで [ツール] > [メッセージをインポート] の順に選択します。現在、Outlook Express、mbox形式、電子メールテキスト形式、Pegasus Mail、Opera、およびEvolutionなどのインポートフィルタがサポートされています。インポートユーティリティは、kmailcvtコマンドを使用して単独で起動することもできます。

対応するアプリケーションを選択し、[次へ] をクリックします。選択したタイプによっては、ファイルまたはフォルダを指定する必要があります。その後、KMailによって、自動的にプロセスが完了されます。

5.2.7 フィルタ

フィルタは、着信メールを自動的に処理するための便利な方法です。送信者やサイズなどのメールの特徴に基づいて、メールを特定のフォルダに移動したり、不要なメールを削除したり、メールを送信者に返送します。

フィルタの作成

既存のメッセージに基づいてフィルタを作成するには、適用対象のメッセージを右クリックして [フィルタを作成] を選択し、フィルタの条件を選択します。フィルタを新規に作成するには、[設定] > [フィルタの設定] の順に選択します。

フィルタ条件の照合方法(すべて、またはいずれか)を選択します。次に、対象のメッセージだけに適用する条件を選択します。[フィルタアクション] で、条件に一致するメッセージに対するフィルタのアクションを設定します。[詳細] タブでは、フィルタが特定のアカウントにのみ適用されるかどうかを管理します。

フィルタの適用

フィルタは、右クリックして [設定] > [フィルタを作成] を選択したときに開くダイアログ内にリストされている順序に従って、適用されます。特定

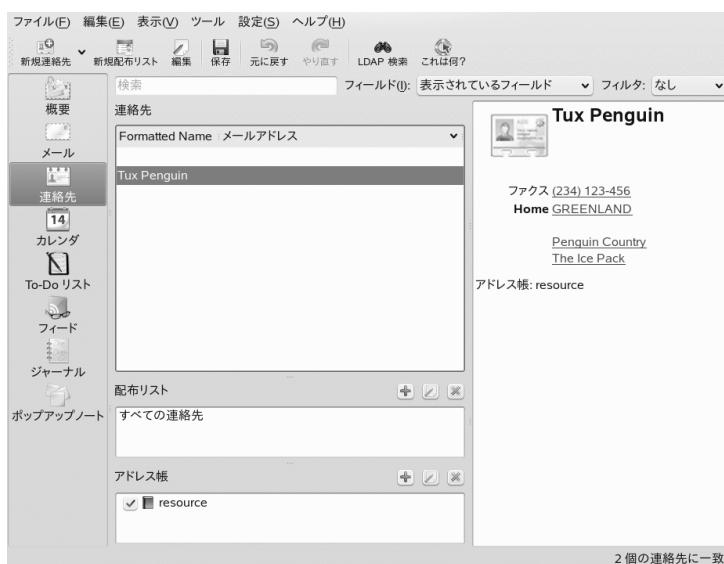
のフィルタを選択し、矢印ボタンをクリックすることにより、順序を変更できます。フィルタは、[詳細オプション] で指定した新着メッセージと送信メッセージだけに適用されます。受信済みのメッセージにフィルタを適用するには、適用対象のメッセージを右クリックして、[メッセージ] > *[Apply Filter(フィルタの適用)]* を選択し、適用対象のフィルタを選択します。

フィルタが期待どおりに機能しない場合は、[ツール] > [フィルタログビューア] を使用して監視できます。このダイアログでログ機能を有効にすると、フィルタがどのようにメッセージを処理したか記録されるので、問題の特定に役立ちます。

5.3 連絡先

Kontactは、連絡先コンポーネントとしてKAddressBookを使用します。また、コマンドkaddressbookにより個別に開始することもできます。KAddressBookを設定するには、[設定] > *[KAddressBookを設定]* の順に選択します。特定の連絡先を検索する場合は、検索バーを使用します。[フィルタ] を使用すると、特定のカテゴリの連絡先だけを表示できます。連絡先を右クリックするとメニューが表示され、さまざまなオプションを選択できます。たとえば、電子メールで連絡先情報を送信することができます。

図 5.3 Kontactのアドレス帳



5.3.1 連絡先の追加

電子メール内の名前や電子メールアドレスを使用して連絡先を追加するには、メール内のアドレスを右クリックして [アドレス帳で開く] を選択します。新しい連絡先を追加するには、[ファイル] > [新規連絡先] の順に選択します。どちらの方法でもダイアログが表示されるので、連絡先に関する情報を入力します。

[一般] タブでは、名前、電子メールアドレス、電話番号などの連絡先の基本情報を入力します。カテゴリを使用してアドレスをソートすることもできます。[詳細] では、誕生日や配偶者の名前など、より個人的な情報を入力します。

連絡先でインスタントメッセージを使用している場合は、[IMアドレス] にそのIDを追加できます。この操作を実行して、KopeteなどのKDEチャットプログラムをKontactとともに実行すると、これらのIDに関する状態情報がKontactに表示されます。[暗号設定] には、連絡先の暗号化データ(公開鍵など)を入力します。

[その他] には、写真や予定の有無情報の場所など、ユーザの追加情報を入力します。連絡先またはアドレス帳に自分自身の情報を追加する場合は、[カスタムフィールド] を使用します。

連絡先をさまざまな形式でインポートすることもできます。インポートするには、[ファイル] > [インポート] を使用して形式を選択します。次に、インポートするファイルを選択します。

5.3.2 配布リストの作成

特定のグループの人々に頻繁に電子メールのメッセージを送信する場合には、配布リストを作れば、複数のメールアドレスを1つの連絡先項目として保管できるので、グループにメールを送信するたびに、個々の名前を入力する必要がなくなります。配布リストを作成するには、以下の手順に従います。

- 1 [設定] > [拡張バーを表示] > [送付リストエディタ] の順に選択します。新しいセクションが表示されます。
- 2 [新規リスト] をクリックします。
- 3 リストの名前を入力し、[OK] をクリックします。
- 4 連絡先をアドレスリストから送付リストウィンドウにドラッグアンドドロップして、リストに追加します。
- 5 このリストは、メールを作成するときに、個人の連絡先と同じように使用できます。

5.3.3 アドレス帳の追加

重要項目: グループウェアのアドレス帳

グループウェアリソースを追加するには、個別のツールである **Groupware Wizard** を使用するのが最善の方法です。これを使用するには、**Kontact**を終了してから、コマンドラインで `groupwarewizard` を実行するか、**KDE**メニューのオフィスのグループから選択します。表示されるリストから **SLOX**、**Groupwise**、**Exchange**などのサーバタイプを選択し、アドレスと認証データを入力します。使用可能なリソースが**Kontact**に追加されます。

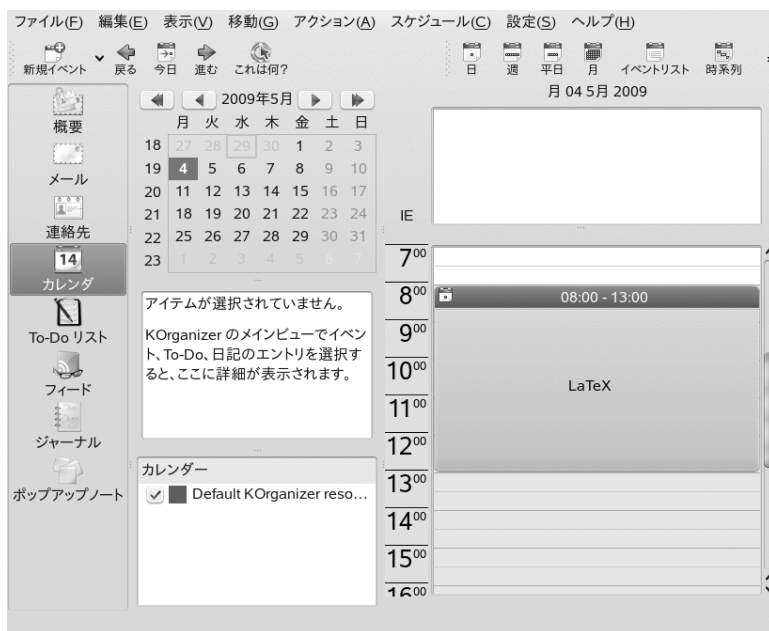
Kontactは複数のアドレス帳にアクセスできます。たとえば、Novell GroupWiseやLDAPサーバが提供する共有のアドレス帳があります。現在のアドレスブックを表示するために、[表示] > [アドレス帳] の順に選択します。アドレス帳を追加する場合は、[追加] をクリックし、タイプを選択して必要な情報を入力します。

アドレス帳の前のチェックボックスは、それぞれの有効状態を示します。アドレス帳を削除せずに非表示にするには、そのチェックボックスをオフにします。[削除] を選択すると、選択したアドレス帳がリストから削除されます。

5.4 カレンダー

Kontactは、カレンダーコンポーネントとしてKOrganizerを使用します。また、コマンドkorganizerにより個別に開始することもできます。KOrganizerを設定するには、[設定] > [Configure Calendar(カレンダーの設定)] を選択します。カレンダーでは、アポイントを入力したり、会議をスケジュールリングしたりします。必要に応じて、今後のイベントの通知を設定できます。[ファイル] メニューのオプションを使用して、カレンダーのインポート、エクスポート、およびアーカイブを行うこともできます。

図 5.4 Kontactのカレンダー



5.4.1 イベントのスケジューリング

新しいイベントまたは会議を追加するには、[アクション] > [新規イベント] の順に選択します。詳細情報を入力します。[アラーム] では、出席者にイベントを通知する時間(何日前、何時前、何分前など)を正確に指定します。繰り返し実施されるイベントの場合は、間隔を指定します。カレンダーの特定の時点にイベントを作成するもう1つの方法は、プログラムのいずれかのカレンダービューで、対応するフィールドをダブルクリックすることです。これによって、メニューから実行した場合と同じダイアログウィンドウが表示されます。または、カレンダー表示で時間の範囲を選択して、右クリックします。

ダイアログに手動でデータを入力するか、またはアドレス帳からデータを挿入してイベントの出席者を指定します。手動で入力する場合は、[新規] を選択します。データをアドレス帳からインポートする場合は、[アドレスの選択] をクリックしてダイアログから該当するエントリを選択します。出席

者の予定に合わせてイベントをスケジューリングするには、[予定の有無]を選択して[日付を選択]をクリックします。

定期的に実施されるイベントを設定するには、[繰り返し]タブを使用します。その他の情報(議事録など)をイベントにリンクするには、[添付ファイル]を使用できます。

5.4.2 カレンダの追加

重要項目: グループウェアのカレンダ

グループウェアリソースを追加するには、個別のツールであるGroupware Wizardを使用するのが最善の方法です。これを使用するには、Kontaktを終了してから、コマンドラインでgroupwarewizardを実行するか、KDEメニューのオフィスのグループから選択します。表示されるリストからSLOX、Groupwise、Exchangeなどのサーバタイプを選択し、アドレスと認証データを入力します。使用可能なリソースがKontaktに追加されます。

カレンダモジュールは、同時に複数のカレンダに接続できます。この機能は、個人のカレンダを組織のカレンダに統合する場合などに役立ちます。新しいカレンダを追加するには、[追加]をクリックしてカレンダタイプを選択します。必須フィールドにデータを入力します。

カレンダの前のチェックボックスは、それぞれの有効状態を示します。カレンダを削除せずに非表示にするには、そのチェックボックスをオフにします。[削除]を選択すると、選択したカレンダがリストから削除されます。

5.5 KontaktとGroupWiseユーザ

GroupWiseの使用に慣れていれば、ほとんど問題なくKontaktに合わせることができるようでしょう。これら2つのプログラムは多くの概念を共有しており、提供しているサービスの多くも共通しています。このセクションでは、注意すべき用語の違いと、GroupWiseユーザがKontaktを十分に活用するためのヒントについて説明します。

表 5.1 KontactとGroupWiseの用語の違い

GroupWise	Kontact
アポイント	イベント
予定の有無	空き時間/予定あり
メモ	Journalのエントリ
ポストされた/ポストされていない項目	出席者のないイベントは、ポストされます。イベントに主席者がある場合には、送信済みの項目になります。
仕事	To-do

5.5.1 GroupWiseメールアカウントのアクセス

GroupWiseサーバにアクセスする手順は、IMAPサーバまたはPOP3サーバにアクセスする手順と大きく異なるわけではありません。次の手順に従います。

- 1 Kontactを起動し、メールコンポーネント(KMail)を選択します。
- 2 メニューから [設定] > [Configure KMail(KMailの設定)] の順に選択します。
- 3 [アカウント] を選択します。
- 4 [追加] により新しいアカウントを作成します。
- 5 アカウントの種類を選択します。ほとんどの場合、GroupWiseアカウントはIMAPです。
- 6 ログイン情報、パスワード、およびホスト名を入力し、[OK] をクリックして次に進みます。

5.5.2 GroupWiseカレンダーのアクセス

KontactによりGroupWiseカレンダーにアクセスするには、次の手順に従います。

- 1 Kontactを起動し、カレンダービュー(KOrganizer)を開きます。
- 2 [追加] をクリックします。このボタンは左下隅にあります。
- 3 [Novell GroupWiseサーバ] を選択し、[OK] をクリックして次に進みます。
- 4 名前、URL、ユーザ、およびパスワードを入力します。URLは、使用するGroupWiseサーバ(例:
https://groupwiseexample.com:7191/soap)です。
- 5 [OK] をクリックして設定を適用し、設定ダイアログを終了します。
カレンダービューにGroupWiseカレンダーエントリが含まれるようになります。

5.5.3 GroupWiseユーザのためのヒント

このセクションでは、GroupWiseのユーザが、GroupWiseとKontactの違いを理解するために役立つヒントを説明します。

連絡先情報

GroupWise Messengerと電子メールの連絡先は、Kontactの連絡先情報に追加することができます。それから、[コンタクト] 表示の名前を右クリックして、電子メールを作成したり、インスタントメッセージングセッションを開始したりすることができます。

カラーコード

GroupWiseの項目、および他のソースからの項目にカラーコードを付けると役立ちます。カラーコードを付ければ、電子メール、連絡先、特定のソースからの項目についての他の情報をスキャンするのが簡単になります。

イベントに出席者を招待する

GroupWiseとは異なり、**Kontakt**では、自分がスケジュールしたイベントに自分自身を自動的に出席者として入れることはありません。自分自身を招待することを忘れないようにしてください。

5.6 詳細情報

Kontaktには、**Kontakt**とその各種コンポーネントのヘルプが含まれています。ヘルプにアクセスするには、**[ヘルプ] > [Kontakt Handbook]** の順に選択します。このプロジェクトのWebページ<http://www.kontakt.org>も参考になります。

Evolution:電子メールとカレンダーリング

6

Evolution™はユーザの個人情報を保存、整理、および取得する作業を簡素化し、より効率的に他のユーザと共同作業や、やり取りができます。これは高度に進化したグループウェアプログラムであり、インターネット接続のデスクトップに不可欠な部分です。

Evolutionを使用すると、電子メール、アドレス、その他の連絡先情報や1つまたは複数のカレンダーを扱うことができ、グループでの作業が容易になります。1台のコンピュータ、または直接接続またはネットワークで接続された複数のコンピュータ上で、1人の個人または大きなグループに対してそれを行うことができます。

Evolutionを使用することで、最も一般的な日々の作業を迅速に行うことができます。たとえば、1回または2回のクリックだけで、電子メールで送られてきたアポイントや連絡先の情報を入力したり、連絡先へ電子メールやアポイントを送ったりできます。大量の電子メールを受け取るユーザの場合、通常の電子メールフォルダのように検索結果を保存できる検索フォルダのような拡張機能が便利です。

この章ではEvolutionについて紹介し、初めて使用するユーザに役立つ情報を提供します。詳細については、Evolutionのマニュアルを参照してください。

- 6.1項 「Evolutionの初めての起動」 (70 ページ)
- 6.2項 「Evolutionの使用:概要」 (82 ページ)

6.1 Evolutionの初めての起動

Evolutionクライアントを起動するには、[コンピュータ] > [Evolution] の順にクリックするか、またはターミナルウィンドウで「evolution」と入力します。

6.1.1 セットアップアシスタントの使用

初めてEvolutionを起動すると、.evolutionというディレクトリがホームディレクトリ内に作成され、ここにローカルデータのすべてが保存されます。その後、電子メールアカウントのセットアップや他のアプリケーションからのデータのインポートに役立つセットアップアシスタントが開きます。

セットアップアシスタントの使用には2～5分かかります。

後でこのアカウントを変更する場合、または新しいアカウントを作成する場合は、[編集] > [初期設定] の順にクリックした後、[メールのアカウント] をクリックします。変更するアカウントを選択し、[編集] をクリックします。あるいは、[追加] をクリックして新しいアカウントを追加します。

セットアップアシスタントは、Evolutionの使用を始めるのに必要な情報を入力するのに役立ちます。

個人情報の定義

アシスタントの最初のステップは個人情報ウィンドウです。

ここでは、基本の個人情報をいくつか入力します。後で複数の個人情報を定義する場合は、[編集] > [初期設定] の順にクリックした後に [メールのアカウント] をクリックします。

初回起動アシスタントが起動すると、ようこそページが表示されます。[進む] をクリックして個人情報ウィンドウに進みます。

- 1 [Full Name] フィールドにフルネームを入力します。
- 2 [E-Mail Address] フィールドに電子メールアドレスを入力します。

3 (オプション) このアカウントがデフォルトアカウントである場合に選択します。

4 (オプション) *[Reply-To]* フィールドに返信アドレスを入力します。

別のアドレスに電子メールを返信する場合にこのフィールドを使用します。

5 (オプション) *[Organization]* フィールドにユーザの組織名を入力します。

これはユーザが働いている会社、または電子メールの送信時にユーザが代表する組織です。

6 *[進む]* をクリックします。

メールの受信

[Receiving E-mail(電子メールの受信)] オプションでは、電子メールを受信するサーバを指定できます。

メールを受信するサーバの種類を指定する必要があります。サーバの種類が不明な場合は、システム管理者またはISPまでお問い合わせください。

- *[サーバのタイプ]* リストの中でサーバのタイプを選択します。

次に、使用可能なサーバの種類のリストを示します。

Novell GroupWise: Novell® GroupWise®に接続する場合は、このオプションを選択します。Novell GroupWiseは電子メール、カレンダー、および連絡先情報をサーバ上に保持します。

Microsoft Exchange: Microsoft® Exchange用のコネクタをインストールしてある場合にのみ利用できます。Microsoft Exchange 2000、2003、または2007サーバに接続し、サーバ上に電子メール、カレンダー、および連絡先情報を保存できます。

IMAP: 電子メールをユーザのサーバ上に保持するため、複数のシステムから電子メールにアクセスできます。

IMAP4rev1: 電子メールをユーザのサーバ上に保持するため、複数のシステムから電子メールにアクセスできます。

POP: 電子メールを固定記憶域のユーザのハードディスクにダウンロードし、電子メールサーバ上のスペースを解放します。

USENETニュース: ニュースサーバに接続し、使用可能なニュースダイジェストの一覧をダウンロードします。

ローカル配信: スプूलから電子メールを移動し、それをホームディレクトリに保存する場合は、使用するメールスプूलのパスを指定する必要があります。システムのスプूलファイルにメールを残しておく場合は、代わりに標準Unix Mboxスプूलオプションを選択します。

MH形式メールディレクトリ: mhまたはその他のMHスタイルのプログラムを使用して電子メールをダウンロードする場合は、使用したいメールディレクトリへのパスを提供する必要があります。

Maildir形式メールディレクトリ: Qmailまたは別のmaildirスタイルのプログラムを使用して電子メールをダウンロードする場合は、このオプションを使用します。使用するメールディレクトリへのパスを入力する必要があります。

標準Unix Mboxスプूलまたはディレクトリ: ローカルシステム上のメールスプूलの電子メールを読み取り、保存する場合は、このオプションを選択し、使用するメールスプूलのパスを指定する必要があります。

なし: このアカウントで電子メールをチェックすることを計画していない場合は、このオプションを選択します。設定オプションは存在しません。

リモート設定オプション

Novell GroupWise、IMAP、POP、またはUSENETニュースをサーバとして選択している場合、追加の情報を指定する必要があります。

- 1 **[Hostname]** フィールドに電子メールサーバのホスト名を入力します。

ホスト名が不明な場合は、システム管理者まで連絡してください。

2 [Username(ユーザ名)] フィールドにアカウントのユーザ名を入力します。

3 セキュア(SSL)接続を選択します。

サーバが安全な接続をサポートしている場合は、このセキュリティオプションを有効にします。セキュア接続に関する情報が不明な場合は、システム管理者まで連絡してください。

4 [Authentication] リストの中で認証タイプを選択します。

または

[Check for Supported Types] をクリックして、サポートされているタイプをEvolutionに確認させます。サポートしている認証メカニズムを通知しないサーバも一部あるため、このボタンをクリックしても、使用可能なメカニズムが実際に機能するかどうかは保証されません。

必要なサーバの種類が不明な場合は、システム管理者まで連絡してください。

5 Evolutionにパスワードを記憶させる場合に選択します。

6 [進む] をクリックします。

7 (条件付き)Microsoft Exchangeを選択した場合、[Username] フィールドにユーザ名を、[OWA Url] フィールドにOutlook Web Access (OWA) URLを入力します。OWAと同じようにOWA URLおよびユーザ名を入力しなければなりません。メールボックスパスがユーザ名と異なる場合、OWAパスにはメールボックスパスも含まれている必要があります。

「http://<server name>/exchange/<mail box path>」のような形式で指定してください。

終了したら、メール受信オプション項 (74 ページ)に進みます。

ローカル設定オプション

ローカル配信、MH形式メールディレクトリ、Maildir形式メールディレクトリ、または標準UnixMboxスプールまたはディレクトリを選択した場合、パスフィールドでローカルファイルへのパスを指定する必要があります。に進んでください。メール受信オプション項 (74 ページ)

メール受信オプション

メール配信メカニズムを選択した後、その動作に対して設定をいくつか行うことができます。

- Novell GroupWiseの受信オプション項 (74 ページ)
- Microsoft Exchangeの受信オプション項 (75 ページ)
- IMAPおよびIMAP4rev1の受信オプション項 (76 ページ)
- POPの受信オプション項 (77 ページ)
- USENETニュースの受信オプション項 (77 ページ)
- ローカル配信の受信オプション項 (78 ページ)
- MH形式メールディレクトリの受信オプション項 (78 ページ)
- Maildir形式メールディレクトリの受信オプション項 (78 ページ)
- 標準Unix Mboxスプールまたはディレクトリの受信オプション項 (79 ページ)

Novell GroupWiseの受信オプション

受信サーバタイプとしてNovell GroupWiseを選択した場合は、次のオプションを指定する必要があります。

- 1 Evolutionに新規メールを自動確認させる場合に選択します。
このオプションを選択した場合、Evolutionに新規メッセージを確認させる頻度を指定する必要があります。
- 2 すべてのフォルダの中で新規メッセージを確認する場合に選択します。
- 3 サーバのInbox内の新規メッセージにフィルタを適用する場合に選択します。
- 4 新規メッセージの中身がジャンクであるか確認する場合に選択します。

5 Inboxフォルダ内のジャンクメッセージのみを確認する場合に選択します。

6 ローカルでリモートメールを自動同期させる場合に選択します。

7 *[Post Office Agent SOAP Port]* フィールドにポストオフィスエージェントSOAPポートを入力します。

お使いのポストオフィスエージェントSOAPポートが不明な場合は、システム管理者にお問い合わせください。

8 *[進む]* をクリックします。

終了したら、メールの送信項 (79 ページ)に進みます。

Microsoft Exchangeの受信オプション

受信サーバタイプとしてMicrosoft Exchangeを選択した場合は、次のオプションを指定する必要があります。

1 Evolutionに新規メールを自動確認させる場合に選択します。

このオプションを選択した場合、Evolutionに新規メッセージを確認させる頻度を指定する必要があります。

2 *[Global Catalog Server Name]* フィールドでグローバルカタログサーバ名を指定します。

グローバルカタログサーバにはユーザのユーザ情報が格納されています。グローバルカタログサーバ名が不明な場合は、システム管理者にお問い合わせください。

3 グローバルアドレスリスト(GAL)の数を制限する場合に選択します。

GALにはすべての電子メールアドレスのリストが格納されています。このオプションを選択した場合は、最大応答数を指定する必要があります。

4 パスワード期限切れ警告期間が必要な場合に選択します。

このオプションを選択した場合、**Evolution**にパスワード期限切れメッセージを送信させる頻度を指定する必要があります。

5 ローカルでリモートメールを自動同期させる場合に選択します。

6 **[進む]** をクリックします。

終了したら、メールの送信項 (79 ページ)に進みます。

IMAPおよびIMAP4rev1の受信オプション

受信サーバタイプとして**IMAP**または**IMAP4rev1**を選択した場合は、次のオプションを指定する必要があります。

1 **Evolution**に新規メールを自動確認させる場合に選択します。

このオプションを選択した場合、**Evolution**に新規メッセージを確認させる頻度を指定する必要があります。

2 カスタムコマンドを使用して**Evolution**に接続する場合に選択します。

このオプションを選択した場合、**Evolution**で使用するカスタムコマンドを指定します。

3 加入フォルダのみを表示する場合に選択します。

加入フォルダとは、フォルダに加入するという方法で、メールの受信元として選択したフォルダのことです。

4 サーバより提供されるフォルダネームスペースを上書きする場合に選択します。

このオプションを選択することによって、サーバが指定したフォルダの名前を変更できます。このオプションを選択した場合は、使用するネームスペースを指定する必要があります。

5 **Inbox**内の新規メッセージにフィルタを適用する場合に選択します。

6 新規メッセージの中身がジャンクであるか確認する場合に選択します。

7 **Inbox**フォルダ内のジャンクメッセージを確認する場合に選択します。

8 ローカルでリモートメールを自動同期させる場合に選択します。

9 [進む] をクリックします。

終了したら、メールの送信項 (79 ページ)に進みます。

POPの受信オプション

受信サーバタイプとしてPOPを選択した場合は、次のオプションを指定する必要があります。

- 1 Evolutionに新規メールを自動確認させる場合に選択します。このオプションを選択した場合、Evolutionに新規メッセージを確認させる頻度を指定する必要があります。
- 2 メッセージをサーバ上に残す場合に選択します。
- 3 すべてのPOP3拡張機能のサポート (POP3のサポート)を無効にする場合に選択します。
- 4 [進む] をクリックします。

終了したら、メールの送信項 (79 ページ)に進みます。

USENETニュースの受信オプション

受信サーバタイプとしてUSENETニュースを選択した場合は、次のオプションを指定する必要があります。

- 1 Evolutionに新規メールを自動確認させる場合に選択します。このオプションを選択した場合、Evolutionに新規メッセージを確認させる頻度を指定する必要があります。
- 2 短い表記でフォルダを表示する場合に選択します。
たとえば、comp.os.linuxはc.o.linuxと表示されます。
- 3 加入ダイアログボックスの中に相対フォルダ名を表示する場合に選択します。

加入ページ内に相対フォルダ名を表示すると選択した場合、フォルダの名前のみが表示されます。たとえば、フォルダevolution.mailはevolutionと表示されます。

- 4 [進む] をクリックします。

終了したら、メールの送信項 (79 ページ)に進みます。

ローカル配信の受信オプション

受信サーバタイプとしてローカル配信を選択した場合は、次のオプションを指定する必要があります。

- 1 Evolutionに新規メールを自動確認させる場合に選択します。このオプションを選択した場合、Evolutionに新規メッセージを確認させる頻度を指定する必要があります。

- 2 [進む] をクリックします。

終了したら、メールの送信項 (79 ページ)に進みます。

MH形式メールディレクトリの受信オプション

受信サーバタイプとしてMH形式メールディレクトリを選択した場合は、次のオプションを指定する必要があります。

- 1 Evolutionに新規メールを自動確認させる場合に選択します。このオプションを選択した場合、Evolutionに新規メッセージを確認させる頻度を指定する必要があります。

- 2 .foldersサマリファイルを使用する場合に選択します。

- 3 [進む] をクリックします。

終了したら、メールの送信項 (79 ページ)に進みます。

Maildir形式メールディレクトリの受信オプション

受信サーバタイプとしてMaildir形式メールディレクトリを選択した場合は、次のオプションを指定する必要があります。

- 1 Evolutionに新規メールを自動確認させる場合に選択します。このオプションを選択した場合、Evolutionに新規メッセージを確認させる頻度を指定する必要があります。
- 2 Inbox内の新規メッセージにフィルタを適用する場合に選択します。
- 3 [進む] をクリックします。

終了したら、メールの送信項 (79 ページ)に進みます。

標準Unix Mboxスプールまたはディレクトリの受信オプション

受信サーバタイプとして標準Unix Mboxスプールまたはディレクトリを選択した場合は、次のオプションを指定する必要があります。

- 1 Evolutionに新規メールを自動確認させる場合に選択します。このオプションを選択した場合、Evolutionに新規メッセージを確認させる頻度を指定する必要があります。
- 2 Inbox内の新規メッセージにフィルタを適用する場合に選択します。
- 3 Elm、Pine、およびMutt形式でステータスヘッダを保存する場合に選択します。
- 4 [進む] をクリックします。

終了したら、メールの送信項 (79 ページ)およびメールの送信項 (79 ページ)に進みます。

メールの送信

メールの受信方法についての情報を入力し終わったところで、次はメールの送信方法を指定する必要があります。

- [サーバのタイプ] リストからサーバのタイプを選択します。

使用可能なサーバタイプは次のとおりです。

Sendmail: Sendmailプログラムを使用して、ユーザのシステムからメールを送信します。Sendmailのほうが柔軟性がありますが、設定が容易で

はないため、Sendmailサービスのセットアップ方法が分かっている場合にのみこのオプションを選択します。

SMTP: アウトバウンドメールサーバを使用してメールを送信します。これは最も一般的なメール送信の選択肢です。SMTPを選択した場合、追加の設定オプションがあります。

SMTP設定

- 1 [ホスト] フィールドにホストアドレスを入力します。

お使いのホストアドレスが不明な場合は、システム管理者にお問い合わせください。

- 2 サーバで認証が必要な場合に選択します。

認証が必要なサーバであると選択した場合、次の情報を入力する必要があります。

- 2a [Authentication] リストの中で認証タイプを選択します。

または

[Check for Supported Types] をクリックして、サポートされているタイプをEvolutionに確認させます。サポートしている認証メカニズムを通知しないサーバも一部あるため、このボタンをクリックしても、使用可能なメカニズムが実際に機能するかどうかは保証されません。

- 2b [Username] フィールドに、ユーザ名を入力します。

- 2c Evolutionにパスワードを記憶させる場合に選択します。

- 3 セキュア接続(SSL)を使用する場合に選択します。

- 4 [進む] をクリックします。

アカウント管理項 (81 ページ)に進んでください。

アカウント管理

電子メールの設定プロセスが終了したところで、次はアカウントに名前を与える必要があります。任意の名前を指定できます。 *[Name]* フィールドにアカウント名を入力した後、 *[進む]* をクリックします。

タイムゾーン項 (81 ページ)に進んでください。

タイムゾーン

このステップでは、ユーザのタイムゾーンを地図上で選択するか、タイムゾーンドロップダウンリストから選択します。

終了したら、 *[進む]* をクリックし、 *[Apply]* をクリックします。作成された新しいアカウントでEvolutionが起動します。

別の電子メールクライアントから電子メールをインポートする場合は、メールのインポート(オプション)項 (81 ページ)に進みます。NICI 2.6.4が不要な場合は、6.2項「Evolutionの使用:概要」 (82 ページ)に進みます。

メールのインポート(オプション)

Evolutionが別のアプリケーションから電子メールまたはアドレスファイルを検出した場合、インポートするよう求められます。

Microsoft Outlook*およびバージョン4以降のOutlook Expressは、Evolutionでは読み取ったりインポートしたりできない独自規格の形式を使用しています。情報をインポートするには、Windows*のエクスポートツールを使用します。

Netscape*から電子メールをインポートする前に、 *[ファイル]* > *[Compact All Folders(すべてのフォルダを圧縮)]* の順に選択したことを確認します。選択しなかった場合、Evolutionはごみ箱フォルダ内のメッセージをインポートして復帰させます。

注意

Evolutionは電子メールおよびカレンダー情報に標準のファイルタイプを使用するため、*~/ .evolution*ディレクトリからそれらのファイルをコピーで

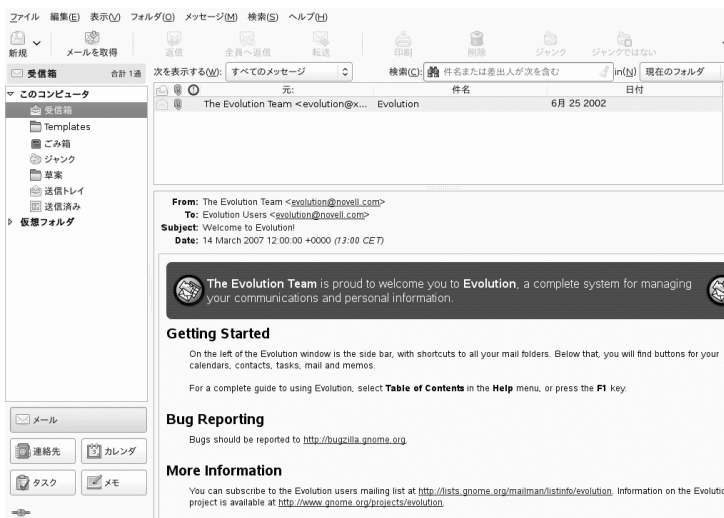
きます。使用するファイル形式は、電子メールの場合はmbox、カレンダー情報の場合はiCalです。

連絡先ファイルはデータベースに保存されますが、標準のvCard*として保存できます。連絡先データをエクスポートするには、連絡先ツールを開き、エクスポートする連絡先を選択します(Ctrl+Aキーを押すと、すべての連絡先が選択されます)。[ファイル] > [vCard形式で保存] の順にクリックします。

6.2 Evolutionの使用:概要

これで初回起動設定が完了したので、Evolutionの使用を始める準備が整いました。次はEvolutionメインウィンドウの中にあるものの簡単な説明です。

図 6.1 Evolution ウィンドウ



メニューバー

メニューバーからは、ほぼすべてのEvolution機能にアクセスできます。

フォルダリスト

フォルダリストは、各アカウントで使用可能なフォルダを一覧表示したものです。フォルダの内容を見るにはフォルダ名をクリックします。内容が電子メールリストの中に表示されます。

ツールバー

ツールバーからは、各コンポーネントの中で頻繁に使用する機能にすばやく簡単にアクセスできます。

検索ツール

検索ツールにより、現在のアカウントまたはすべてのアカウントの電子メールを検索できます。さまざまな条件を使用して、電子メール、連絡先、カレンダーエントリ、およびタスクにフィルタを適用できます。検索ツールではまた、よく使用する検索を検索フォルダに保存しておくことができます。

メッセージリスト

メッセージリストには、受信した電子メールの一覧が表示されます。リストの上にあるラジオボタンにより、事前定義されたラベルおよびカスタムラベルに従ってメッセージを表示できます。プレビューペインの中に電子メールを表示するには、電子メールリスト内の電子メールをクリックします。

ショートカットバー

ショートカットバーを使用すると、フォルダを切り替えることができます。ショートカットバーの下には、ツールを切り替えられるツールボタンがあり、ショートカットバーの上には、現在のツールで使用可能なすべてのフォルダの一覧が表示されます。Evolution Connector for Microsoft Exchangeをインストール済みである場合は、他のツールのボタンに加えてExchangeボタンがあります。

ステータスバー

ステータスバーは、メッセージを定期的に表示するか、タスクの進行状況を知らせます。これはユーザが電子メールをチェックしているときや送信しているときに最も頻繁に表示されます。進行状況のキューは前の図で示したとおりです。ウィンドウの左下には、オンライン/オフラインインジケータもあります。

プレビューペイン

プレビューペインには、電子メールリストで選択された電子メールの内容が表示されます。

6.2.1 メニューバー

メニューバーの中には、特定のデータ表示に対して可能なアクションすべてが表示されます。Inboxを見ている場合、ほとんどのメニュー項目は電子メールに関するものです。Evolutionの他のコンポーネントに関係するものもあれば、特にファイルメニュー内のものなど、アプリケーション全体に関係するものもあります。

ファイル: 作成、ディスクへの保存、印刷、プログラムの終了など、ファイルまたはアプリケーション操作に関係するものは、通常はこのメニューの中に入ります。

編集: テキストを編集したり、移動したりするのに役立つ便利なツールがあります。編集メニューの中で設定オプションにアクセスできます。

表示: Evolutionの表示方法を決定できます。Evolution全体としての外観を制御する機能もあれば、特定の種類の情報の表示方法を制御する機能もあります。

フォルダ: フォルダに対して実行できるアクションがあります。コピー、名前の変更、削除といった項目があります。

メッセージ: メッセージに適用できるアクションがあります。メッセージの返信など、アクションの対象が1つだけの場合、通常はメッセージメニューの中にあります。

検索: メッセージまたはメッセージ内のフレーズを検索できます。前に行なった検索内容も見ることができます。検索メニューのほかに、メッセージの検索に使用できるテキスト入力ボックスがツールバーの中にあります。検索機能から検索フォルダを作成することもできます。

ヘルプ: Evolutionヘルプファイルを開きます。

6.2.2 ショートカットバー

Evolutionの最も重要な仕事は、情報にアクセスできるようにし、情報をすぐに使用できるようにすることです。その方法の1つはショートカットバーです。ショートカットバーは、メインウィンドウの左側にある列です。[Mail]や[Contacts]などのボタンがショートカットです。その上には、選択されたEvolutionツールのフォルダリストがあります。

フォルダリストは、電子メール、カレンダー、連絡先リスト、およびタスクリストを、ファイルツリーのようなツリーの形に整理したものです。ほとんどの場合、ツリーのベースには1〜4つのフォルダがあり、これはツールおよびシステム設定によります。各Evolutionツールには少なくとも1つ、ローカル情報用のOn This Computerというフォルダがあります。たとえば、電子メールツールのフォルダリストには、ユーザがセットアップしたリモート電子メールストレージに加えて、ローカルフォルダおよび検索フォルダが表示されます。

大量の電子メールを受信する場合は、受信箱以外に複数のフォルダを作成することが必要になる場合があります。複数の電子メールフォルダ、アドレス帳、カレンダー、タスクリスト、またはメモの一覧を作成できます。

新規フォルダを作成する:

- 1 [フォルダ] > [新規] の順にクリックします。
- 2 [Folder Name] フィールドにフォルダの名前を入力します。
- 3 新しいフォルダの場所を選択します。
- 4 [OK] をクリックします。

フォルダ管理

フォルダまたはサブフォルダを右クリックして、次のオプションを含むメニューを表示します。

新規フォルダ: 同じ場所で新しいフォルダまたはサブフォルダを作成します。

コピー: フォルダを別の場所にコピーします。この項目を選択すると、Evolutionはフォルダのコピー先とする場所を選択して表示します。

移動: フォルダを別の場所に移動します。

削除: フォルダとその中身をすべて削除します。

メッセージに既読マークを付加: フォルダ内のすべてのメッセージに既読マークを付けます。

名前: フォルダの名前を変更できます。

[更新]: フォルダを更新します。

無効: アカウントを無効にします。

プロパティ: フォルダ内のメッセージ総数および未読メッセージ数をチェックし、リモートフォルダの場合は、オフライン操作のためにフォルダをローカルシステムにコピーするかどうか選択できます。

フォルダおよびメッセージは、ドラッグおよびドロップすることで配置し直すこともできます。

新しい電子メールが電子メールフォルダに到着したときは必ず、そのフォルダ内の新規メッセージ数と共に、フォルダラベルが太字で表示されます。

6.2.3 電子メール

Evolution電子メールは、次のようにいくつかの点で他の電子メールプログラムと似ています。

- HTMLまたはプレーンテキストとして電子メールの送受信ができ、複数の添付ファイルを送受信するのが簡単です。
- IMAP、POP3、および他の電子メールプログラムによって作成されたローカルmbox/mhスプールやファイルなど、複数の電子メールソースをサポートします。
- フォルダ、検索、およびフィルタなどを使用し、さまざまな方法で電子メールをソートし整理することができます。
- 暗号化によりユーザのプライバシーを守ります。

ただしEvolutionは、いくつかの非常に基本的な部分で他の電子メールプログラムとは異なります。第一に、非常に大量の電子メールを処理できるよう構築されています。ジャンク電子メール、メッセージフィルタリングおよび検索機能は、スピードと効率性を考えて作られています。一部、他の電子メールクライアントにはない高度な整理機能である検索フォルダもあります。大量の電子メールを受け取った場合、または後で参照する必要があるために受信したすべてのメッセージを残しておく場合に便利な機能です。以下にEvolutionの電子メールメインウィンドウの機能について簡単に説明します。WindowsでもEvolutionを実行できるようになりました。

メッセージリスト

メッセージリストには、ユーザが所有するすべての電子メールが表示されます。この中にはすべての既読メッセージと未読メッセージ、および削除のフラグを立てた電子メールがあります。メッセージの上にある[表示]ラジオボタンを使用すると、複数の事前定義されたラベルおよびカスタムラベルを使用してメッセージリストビューにフィルタを適用できます。

プレビューペイン

電子メールが表示される場所です。

プレビューペインが小さすぎる場合は、ペインのサイズを変更したり、ウィンドウ全体に拡大したり、メッセージリスト内のメッセージをダブルクリックして新しいウィンドウの中で開いたりすることができます。ペインのサイズを変更するには、2つのペインの間の仕切りをドラッグします。

フォルダと同様に、メッセージリスト内のメッセージを右クリックし、メッセージの移動または削除、メッセージに基づいたフィルタまたは検索フォルダの作成、ジャンクメールのマーク付加など、可能なアクションのメニューを表示することができます。

返信や転送などの電子メールに関連するアクションはボタンとしてツールバーに表示され、右クリックにより表示されるメニューにも存在し、ショートカットキーとしても割り当てられています。

6.2.4 カレンダー

カレンダーの使用を開始するには、ショートカットバーの [Calendar] をクリックします。デフォルトでは、カレンダーには、罫線が引かれた背景の上に本日のスケジュールが表示されます。右上にはタスクリストがあり、タスクのリストをカレンダー予定と分けておくことができます。その下には、メモの一覧があります。

予定リスト

予定リストには、ユーザがスケジュールした予定がすべて表示されます。

月ペイン

月ペインは、カレンダー月を小さく表示したものです。月ペインの中で期間(日)を選択し、独自に決めた期間(日)を予定リストに表示することもできます。

仕事

タスクは、一般的には時間と関連付けられていないため、予定とは異なります。ショートカットバーの [Tasks] をクリックすると、タスクリストを大きく表示できます。

メモ

タスクなどのメモには時間が関連付けられません。ショートカットバーの [メモ] をクリックすると、メモの一覧を大きく表示できます。

6.2.5 連絡先ツール

Evolution連絡先ツールは、あらゆるアドレス帳または電話帳の機能を扱うことができます。ただし、EvolutionがPalm OS*デバイスと同期し、ネットワーク上のLDAPディレクトリを使用できるため、実際の紙のアドレス帳や電話帳を変更するよりもEvolutionを更新する方が簡単です。

また、Evolution連絡先ツールでは、残りのアプリケーションと統合できます。たとえば、Evolutionメールの中で電子メールアドレスを右クリックして、すぐに連絡先エントリを作成することができます。

連絡先ツールを使用するには、ショートカットバーの *[Contacts]* をクリックします。デフォルトでは、すべての連絡先が、ミニカードの中にアルファベット順で表示されます。*[表示]* メニューから他の表示を選択することができ、グレーの列仕切りをドラッグすることで列の幅を調整できます。

連絡先表示の中で最も大きな部分には、各連絡先の一覧が表示されます。電子メールフォルダを検索する場合と同様に、ツールバーの右側にある検索ツールを使用して、連絡先を検索することもできます。



GroupWise Linuxクライアント: 電子メールとカレンダーリング

7

GroupWise®は、堅牢で信頼性の高いメッセージング/コラボレーションシステムで、いつでもどこからでもユニバーサルメールボックスに接続することができます。ここでは、GroupWise Cross-Platformクライアントを簡単に使用開始できるように、GroupWiseクライアントの概要について説明します。

7.1 詳細情報

GroupWiseの詳細については、次の資料を参照してください。

7.1.1 GroupWise 7ドキュメントWebページ

最新バージョンのGroupWiseユーザガイド、およびGroupWise管理者用のマニュアルについては、NovellドキュメントWebサイト(<http://www.novell.com/documentation/gw7>)のGroupWise 7のセクションを参照してください。

このユーザガイドは、GroupWiseクライアントから [ヘルプ] > [ユーザガイド] の順に選択して参照することもできます。

7.1.2 GroupWise Cool Solutions Web Community

GroupWiseのCool Solutions Webコミュニティでは、ヒント、活用例、機能詳細、およびFAQに対する回答を参照できます。メインウィンドウで、[ヘルプ] > [Cool Solutions Webコミュニティ] の順に選択するか、または<http://www.novell.com/cool solutions/gwmag>を参照してください。

7.1.3 Online Help

詳細なユーザマニュアルが『ヘルプ』に記載されています。メインウィンドウから [ヘルプ] > [ヘルプ項目] の順に選択して、[コンテンツ] タブ、[インデックス] タブ、または [検索] タブを使用して、目的のトピックを検索します。

KPilotによるハンドヘルドコンピュータの同期

8

ハンドヘルドコンピュータは、スケジュール、To-doリスト、メモなどをどこにでも持ち歩くユーザの間に広く普及しています。多くの場合、ユーザはデスクトップとポータブルデバイスの両方で同じデータを使用することを求めます。そこで役に立つのがKPilotです。これは、ハンドヘルドのデータをKontactの構成要素であるKAddressBook、KOrganizer、KNotesなどのKDEアプリケーションと同期するためのツールです。

8.1 ハンドヘルド接続の設定

KPilotを使用するには、はじめに、ハンドヘルドコンピュータとの接続をセットアップします。設定は、ハンドヘルドで使用するクレードル(ドッキングユニット)のタイプによって異なります。これには次の2つのタイプがあります。

USB

通常、USBクレードルは自動検出されます。

シリアル

シリアルクレードルの場合は、実際にどのシリアルポートに接続されているのかを調べる必要があります。シリアルデバイスには、`/dev/ttyS?`という名前が付けられています。最初のポートを使用しているデバイスの名前は、`/dev/ttyS0`です。

次に進む前に、ハンドヘルドを使用するグループuucplにユーザを追加します。YaSTを起動し、`[セキュリティとユーザ] > [ユーザとグループの管理]` モジュールの順に選択します。`[グループ]` タブに移動し、`[フィ`

ルタの設定] から [システムグループ] エントリを選択します。uucpグループを見つけ、[編集] を選択し、ハンドヘルドを使用することが認められているユーザをすべて追加します。[OK] および [完了] をクリックして次に進みます。

接続をセットアップする最も簡単な方法は、設定ウィザードを使用することです。以下を実行します。

- 1 KPilotを起動し、[設定] > [Configuration Assistant (設定ウィザード)] の順に選択してウィザードを起動します。
- 2 ユーザ名およびハンドヘルドが接続されているデバイスの名前を入力します。デバイスは、上記のリストにある種類(USBまたはシリアル)に依存します。
- 3 次のオプションのうちの1つを選択します。
 - ウィザードにハンドヘルドを自動検出させたい場合は、[Autodetect Handheld & Username (ハンドヘルドとユーザ名を自動検出)] を選択します。
 - 手動設定するには、[次へ] をクリックします。
- 4 同期に使用するアプリケーションを指定します。[General KDE-PIM suite] (デフォルト)、[Evolution]、[No sync, just backup] の中から選択できます。アプリケーションを選択したら、[完了] をクリックしてウィンドウを閉じます。現在のデスクトップからログアウトし、再度ログインします。
- 5 シリアルデバイスを使用している場合は、[設定] > [Configure KPilot(KPilotの設定)] を開き、[デバイス] タブで速度を変更します。ほとんどの場合、値57600で適切なのですが、旧式のPalmPilotモデルの場合は9600のままにする必要があります。場合によっては実験を行って適切な値を見つける必要があります。特別なハンドヘルドを使用している場合は、[回避方法] もチェックしてください。

8.2 コンジット、通信、および同期

KPilotの主な目的は、ハンドヘルドコンピュータのアプリケーションとそれに対応するKDEアプリケーション間のデータの共有です。KPilotには、メモビューア、アドレスビューア、およびファイルインストーラが組み込まれていますが、これらはKPilot環境以外では使用できません。しかしファイルインストーラを除いて、すべての機能は、別の独立したKDEアプリケーションで実現できます。

KPilotは、ハンドヘルドと別のデスクトッププログラム間の通信をコンジットによって処理しています。コンジットは、同期アクションを実行する外部プログラムです。KPilot自体は、2つのコンピュータデバイス間のデータ交換を監視するプログラムです。ハンドヘルドの特定の機能（例：945c）をデスクトップコンピュータで使用するには、対応するコンジットを有効にして設定する必要があります。ほとんどの場合、コンジットは特定のKDEプログラムとの連携を前提に設計されているので、一般に、他のデスクトップアプリケーションでは使用できません。

時間同期コンジットは、ユーザが955c示できるプログラムを持たない点で特殊です。これは同期操作のたびにバックグラウンドでアクティブ化されますが、ネットワークタイムサーバを使用して時間のずれを修正するコンピュータ上でしか有効化できません。

同期を開始すると、コンジットが次々にアクティブ化され、データ転送を実行します。同期方法には、2種類があります。HotSync操作は、コンジットが有効化されているデータのみを同期させるのに対し、バックアップ操作はハンドヘルド上に格納されているすべてのデータの完全バックアップを実行します。

中には同期操作時に一定のファイルを開くコンジットもあるので、操作時には対応するプログラムを終了しておく必要があります。特に、KOrganizerは同期操作中には実行しないでください。

8.3 KPilotが使用するコンジット

KPilotで利用できるコンジットを有効化して設定するには、`[設定] > [KPilotを設定]` の順に選択します。以下では、いくつかの重要なコンジットを紹介します。

アドレス帳

このコンジットは、ハンドヘルドのアドレス帳とのデータ交換を処理します。この連絡先を管理するKDEの対応アプリケーションは**KAddressBook**です。これは、メインメニューまたは**kaddressbook**コマンドを使用して起動します。

KNotes/Memos

このコンジットは、**KNotes**で作成したメモをハンドヘルドのメモアプリケーションに転送します。このKDEアプリケーションは、メインメニューまたは**knotes**コマンドを使用して起動します。

Calendar (KOrganizer)

このコンジットは、ハンドヘルドの予定(イベント)を同期します。これに対応するKDEアプリケーションは**KOrganizer**です。

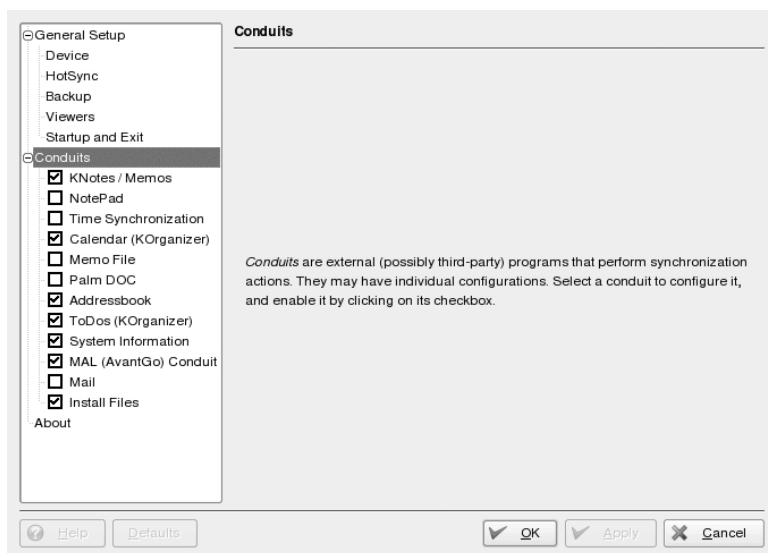
ToDo's (KOrganizer)

このコンジットは、タスク(to-do)アイテムを同期します。これに対応するKDEアプリケーションは**KOrganizer**です。

[時刻同期]

このコンジットを有効化すると、同期操作時にハンドヘルドのクロックがデスクトップコンピュータのクロックに合わせて調整されます。これは、デスクトップコンピュータ自体のクロックが、タイムサーバによって頻繁に修正されている場合のみお勧めします。

図 8.1 利用可能なコンジットが表示された設定ダイアログ



8.4 KOrganizerによる同期

KDEデスクトップでは、カレンダー、to-do(タスク)とイベント(予約)がKOrganizerによって管理されます。

8.4.1 カレンダーの予定の管理

KPilotにより、予定を同期してKOrganizerで表示できます。デフォルトでは、KPilotは標準のKOrganizerファイルを使用します。ただし、これは常に正しいとは限りません。異なるファイルに予定を保存すれば、KOrganizer内でカレンダーのオンとオフを簡単に切り替えることができ、その予定を他のソースと区別できます。次の手順に従います。

- 1 Alt+F2キーを押し、「korganizer」と入力してKOrganizerを起動します。
- 2 新しいカレンダーファイルを作成します。左下のペイン [カレンダー] を右クリックし、[追加] を選択します。現在非表示の場合は、[設定] >

[サイドバー] > [Show Resource View(リソースビューの表示)] の順に選択して表示を有効にします。

- 3 [ローカルファイルのカレンダ] を選択します。新しいダイアログウィンドウが開きます。
- 4 テキストフィールド(例: 「 [Palm] 」)に名前を挿入し、カレンダファイルの場所を選択します。ディレクトリ ~/.kde/share/apps/korganizer/ を使用することをお勧めします。 [OK] をクリックして、続行します。
- 5 KPilotを起動します。
- 6 [設定] > [Configure KPilot(KPilotの設定)] の順に選択します。[設定] ダイアログが表示されます。 [Conduits(コンジット)] > [Calendar (KOrganizer)(カレンダ(KOrganizer))] を有効にし、 [Calendar Destination(カレンダの出力先)] を [Calendar file(Calendar ファイル)] に切り替えます。KOrganizerで作成したカレンダファイルを選択します。 [OK] をクリックして、作業を完了します。

次回に予定を同期するときに、予定は新しいファイルに保存されます。

8.4.2 To-Do アイテムとイベントの管理

最初は、デフォルト設定を変更せずにTo-Doコンジットを有効にするだけで十分です。8.4.1項「カレンダの予定の管理」(97 ページ)と同じファイルにTo-Doリストを保存する場合は、次の手順に進みます。

- 1 KPilotを起動し、 [設定] > [Configuring KPilot(KPilotの設定)] の順に選択します。
- 2 [ToDos (KOrganizer)(ToDo (KOrganizer))] コンジットを有効にします。
- 3 [To do Destination(ToDoの出力先)] で [Calendar file(カレンダファイル)] エントリを選択します。ステップ 2 (97 ページ)で作成したファイルを参照します。

次回にTo-Doを同期するときに、To-Doは上記のファイルに保存されます。

8.5 KAddressBookコンジットの設定

最初は、デフォルト設定を変更せずにKAddressBookコンジットを有効にするだけで十分です。ただし、ハンドヘルドのアドレスをアドレス帳の他のアドレスと分けておくに役立つ場合があります。これは、KOrganizerの場合とほとんど同じです。アドレスを区切る場合は、次の手順に従います。

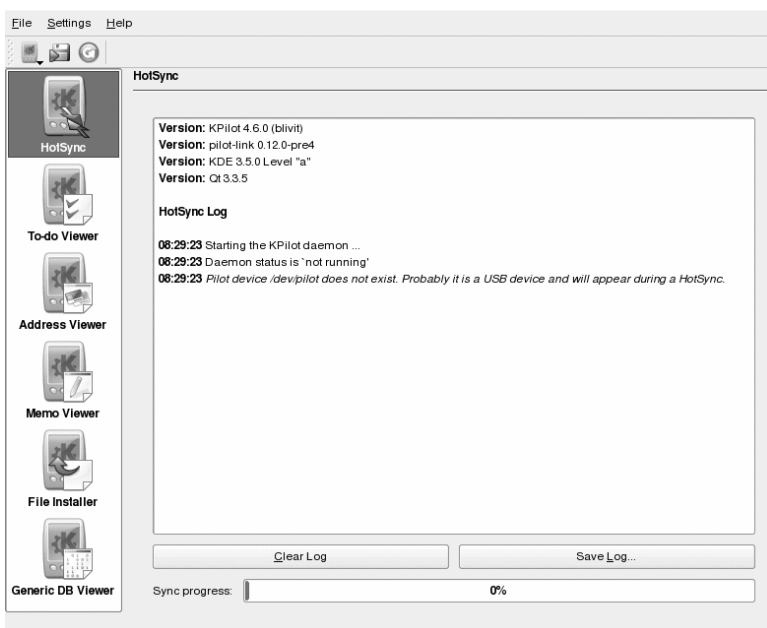
- 1 Alt + F2キーを押し、「kaddressbook」と入力してKAddressbookを起動します。
- 2 新しいアドレス帳を作成します。左下のペイン([アドレス帳])で緑の十字のアイコンをクリックします。アドレス帳が現在表示されていない場合は、 [表示] > [アドレス帳] の順に選択してアドレス帳を有効にします。
- 3 [ファイル] を選択します。新しいダイアログウィンドウが開きます。
- 4 テキストフィールド(例: 「 [Palm Addressbook(Palmアドレス帳)] 」)に名前を挿入し、カレンダーファイルの場所を選択します。ディレクトリ~/ .kde/share/apps/kabc/を使用することをお勧めします。 [OK] をクリックして、続行します。
- 5 KPilotを起動します。
- 6 [設定] > [Configure KPilot(KPilotの設定)] の順に選択します。 [設定] ダイアログが表示されます。 [Conduits(コンジット)] > [アドレス帳] を有効にし、 [Sync Destination(同期の出力先)] を [vCard file(vCard ファイル)] に切り替えます。KAddressbookで作成したアドレス帳ファイルを選択します。 [OK] をクリックして、作業を完了します。

次回の同期時に、新しいファイルにすべてのアドレスが保存されます。

8.6 KPilotの使用

KDEアプリケーションのデータは、簡単にハンドヘルドコンピュータのデータと同期できます。KPilotを起動し、クレードルのHotSyncボタンを押して同期操作を開始するだけです。

図 8.2 KPilotのメインウィンドウ



8.6.1 ハンドヘルドのデータのバックアップ

完全バックアップを行うには、[ファイル] > [バックアップ] の順に選択します。バックアップは次の同期操作の際に実行されます。その後、メニューから [ファイル] > [HotSync] の順に選択して通常の同期に戻します。そうしなければ、次の同期操作の際に、時間のかかる完全バックアップが再度実行されます。

完全バックアップを行うと、ハンドヘルドのすべてのプログラムとデータベースが `~/ .kde/share/apps/kpilot/DBBackup/USERNAME` に格納されます。ここで、`USERNAME` は、ハンドヘルドに登録されているユーザ名です。

KPilotには内蔵ビューアが2つあり、アドレスやメモを簡単に確認するために使用できますが、実際にこのデータを管理することはできません。前に触れたKDEアプリケーションの方が、はるかにこのような作業に適しています。

8.6.2 ハンドヘルドへのプログラムのインストール

[ファイルインストーラ] モジュールは、ハンドヘルドプログラムをインストールするための便利で興味深いツールです。ハンドヘルドプログラムの拡張子は一般に.prcで、ハンドヘルドにアップロードするとすぐに起動します。このようなアドオンプログラムを使用する前に、付属のライセンスと説明を確認してください。

8.7 詳細情報

詳細については、KPilotのホームページ「<http://cvs.codeyard.net/kpilot/>」を参照してください。



GNOMEパイロットによるハンドヘルドデバイスの同期

GNOMEパイロットにより、GNOMEデスクトップをハンドヘルドコンピュータに統合できます。GNOMEパイロットを使用することで、PDAとGNOMEデスクトップ間の同期を設定、実行できます。

gnome-pilotパッケージは、evolution-pilotのオプションのコンジットと併用することで、ハンドヘルドデバイスとGNOMEデスクトップ間で情報を移動できます。同期を行う前に、セットアップツールを実行する必要があります。セットアップツールにより、GNOMEパイロットデーモンであるgpilotdが起動します。このデーモンが実行していない場合

は、`/usr/lib/gnome-pilot/gpilotd`コマンドでデーモンを起動できます。また、GNOMEパイロットアプレットを使用してデーモンを起動することもできます。

GNOMEパイロットアプレットを起動するには、`[コンピュータ] > [他のアプリケーション] > [システム] > [GNOMEパイロット]`をクリックするか、または`/usr/bin/gpilotd-control-applet`を起動します。

9.1 GNOMEパイロット設定ツール

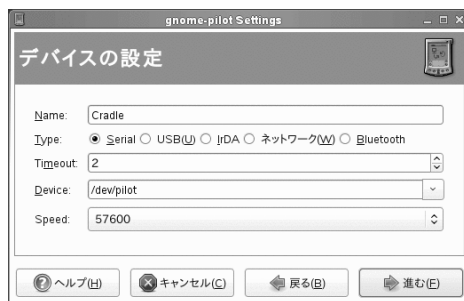
GNOMEパイロット設定ツールを起動するには、`[コンピュータ] > [他のアプリケーション] > [システム] > [GNOMEパイロット]`をクリックします。

パイロット設定ツールには、[PDA]、[デバイス]、および[コンジット]の3つのタブがあります。最初にGNOMEパイロットツールを実行すると、アシスタントにより初期設定の手順が案内されます。

9.1.1 GNOMEパイロットセットアップアシスタント

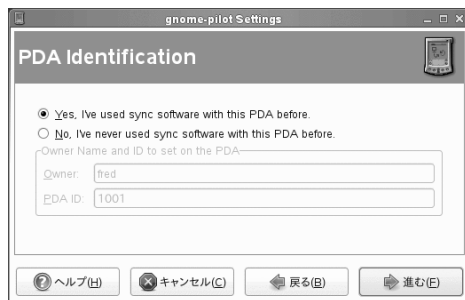
セットアップアシスタントは、ハンドヘルドデバイスをデスクトップシステムに対して同期する準備を行うための手順を案内します。

- 1 [コンピュータ] > [その他のアプリケーション] > [システム] > [GNOMEパイロット] の順にクリックします。続いて、[Forward(進む)] により、GNOMEパイロットセットアップアシスタントを起動します。



- 2 [デバイスの設定] ダイアログボックスでハンドヘルドのクレイドルについて記述します。[Forward(進む)] により次に進みます。

この手順で必要な情報については、9.1.3項「[デバイスの設定] タブでのエントリの追加または編集」(107 ページ)を参照してください。

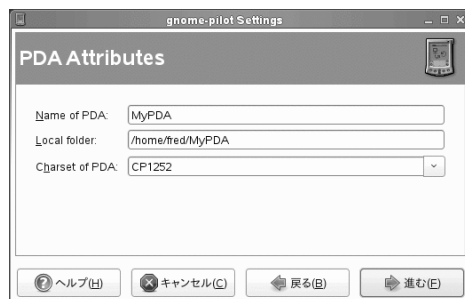


- 3 PDAのデータを同期する必要があるかどうかを指定します。 *[Forward(進む)]* により次に進みます。ここでの選択に応じて、PDAのHotSyncボタンを押します。

ここでの選択に応じて、PDAのHotSyncボタンを押します。このPDAで同期ソフトウェアを使用していない場合は、デスクトップからPDAのユーザ名とIDを設定できます。続いて、 *[Forward(進む)]* によりPDAデバイスを接続します。



- 4 *[Initial Sync(初期同期)]* ダイアログボックスで、名前とその他の情報を設定します。



PDAの参照時に使用する名前、バックアップおよびその他のデータを保存するデスクトップシステム上のディレクトリを選択します。

[Forward(進む)] により次に進みます。

9.1.2 ハンドヘルドエントリの追加または編集

[PDA] タブには、設定したハンドヘルドデバイスの一覧が表示されます。

[PDA] タブには、設定したハンドヘルドデバイスの一覧が表示されます。新しいパイロットを追加するために、[追加]をクリックします。既存のパイロットエントリを編集するには、それを選択し、[編集]をクリックします。

エントリを編集または作成する場合、次の5種類の情報が求められます。

- **所有者:** これは、パイロットの所有者です。パイロットですでに名前が設定されている場合は、[Get from PDA(PDAから取得)] ボタンをクリックすることにより、パイロットから名前を取得できます。また、[Send to PDA(PDAに送信)] ボタンをクリックすることにより、パイロットの名前を設定できます。
- **PDA ID:** これは、パイロットからのユーザID番号です。[Get from PDA(PDAから取得)] ボタンをクリックすることにより、ハンドヘルドからこの値を取得できます。また、[Send to PDA(PDAに送信)] ボタンをクリックすることにより、ハンドヘルドの名前を設定できます。
- **PDAの名前:** ハンドヘルドを識別する名前です。たとえば、MyPilot、Palm5、Rogerという名前を付けることができます。

- **ローカルフォルダ:** これは、ハンドヘルドからバックアップした情報を保存するためのディレクトリです。
- **PDAの文字セット** PDA上で使用されている文字セット(エンコード)。

9.1.3 [デバイスの設定] タブでのエントリの追加または編集

[デバイスの設定] タブでは、デスクトップシステムでハンドヘルドをハードウェアとして検索する方法を管理します。リストにエントリを追加するには、[追加] をクリックします。デバイスを編集するには、そのデバイスを選択し、[編集] をクリックします。

各エントリについて、次のオプションを指定できます。

- **名前:** リスト内でデバイスを示す名前です。
- **タイプ:** リスト内でデバイスを示す名前です。
- **タイムアウト:** 接続の種類(シリアル、USB、IrDA(赤外線)、またはネットワーク)を選択します。システムへの接続を試みる時間(秒)を指定します。
- **デバイス:** ほとんどの場合は、/dev/pilotで適切です。その他に有効な値は、シリアルクレイドルの/dev/ttyS0または/dev/ttyS1です。

次に進む前に、ハンドヘルドを使用するグループuucpにユーザを追加します。YaSTを起動し、[セキュリティとユーザ] > [ユーザとグループの管理] モジュールの順に選択します。[グループ] タブに移動し、[フィルタの設定] から [システムグループ] エントリを選択します。uucpグループを見つけ、[編集] を選択し、ハンドヘルドを使用することが認められているユーザをすべて追加します。[OK] および [完了] をクリックして次に進みます。

適切なデバイスを選択していない場合は、[OK] をクリックしたときにエラーメッセージが表示されます。

- **速度:** ドロップダウンメニューから数値を選択します。この数値が大きいほど、より高速に情報を転送することをシステムに要求することになり

ます。この数値が大きいほど、より高速に情報を転送することをシステムに要求することになります。高速な設定で問題が生じた場合は、転送速度を下げることで解決できることがあります。

9.1.4 コンジットの設定

コンジットは、コンピュータとハンドヘルド間でデータのチャネルを確立する専用プログラムです。gnome-pilotパッケージには、いくつかのコンジットが含まれており、Evolutionなどの追加コンジットをインストールできます。

gnome-pilotパッケージには、いくつかのコンジットが含まれており、Evolutionなどの追加コンジットをインストールできます。

設定する各ハンドヘルドでは、独自のコンジットおよびコンジット設定のセットを割り当てることができます。コンジットが有効の場合、データは設定に従って同期されます。コンジットを有効または無効にするには、コンジットを選択し、コンジットのリストの右側にある [有効] ボタンまたは [無効] ボタンをクリックします。

設定を編集するには、コンジットを選択し、[設定] ボタンをクリックします。各コンジットは、同期時に常に実行する [アクション] と、次回の同期時にのみ実行する [One Time Action(1回限りのアクション)] の少なくとも2つの設定を持ちます。

すべてのコンジットがこうしたアクションをすべて持つとは限りません。次に、使用可能なアクションのいくつかを示します。

- **無効:** 何もしない。
- **同期:** 次に、使用可能なアクションのいくつかを示します。
- **パイロットへのコピー:** デスクトップからパイロットにすべてのデータをコピーします。パイロットで追加された新しいデータは、デスクトップにコピーされません。
- **パイロットからのコピー:** パイロットからデスクトップにすべてのデータをコピーします。パイロットからデスクトップにすべてのデータをコピーします。

コンジットを使用する順序を決定する *[Conduit Priority(コンジットの優先度)]*、および公開情報に加えて個人情報情報をコピーするか、または公開データのみをコピーするかを決定する *[同期するプライベートレコード]* を含めて、その他の設定も使用できます。

9.2 パイロットアプレット

ハンドヘルドデバイスを同期化する準備ができるまで、GNOMEパイロットパネルアプレットがパネルに表示されます。パイロットアクセスデーモンが実行中である場合は、アプレットは白と黒で表示されます。パイロットアクセスデーモンが実行中でない場合は、アプレットは赤と黒で表示されます。デーモンが一時停止中である場合は、アプレットは黄と黒で表示されます。

パネルにアプレットを追加するには、パネルの空き領域を右クリックし、*[パネルに追加]* を選択します。ウィンドウが開きます。*[Pilot Applet(パイロットアプレット)]* を検索し、*[追加]* をクリックします。

アプレットボタンをクリックし、GNOMEパイロット設定ツールを起動します。右クリックメニューで、アプレットに対する次のアクションが使用可能です。

- **復元:** PalmOSデバイスがすべてのデータを喪失している場合は、この項目を選択することで、以前に作成したバックアップからデータを復元できます。
- **デーモンの一時停止:** GNOMEパイロットデーモン `gpilotd` を一時停止します。デーモンが一時停止すると、この項目は *[Continue(続行する)]* になります。
- **再起動:** デーモンを中止し、再起動します。
- **最終ログ:** 実行された最後の同期の結果を表示します。
- **初期設定:** この項目をクリックしてアプレットをクリックしたときの処理を選択し、ダイアログボックスで通知を表示するかどうかを指定します。



KGpgによる暗号化

GnuPG用のグラフィカルユーザインタフェースであるKGpgを使用して、データの署名や暗号化を行うことができます。このプログラムは、必要なすべての鍵の生成と管理に役立ちます。また、そのエディタ機能を使用してファイルの迅速な作成と暗号化を行うか、パネル内にあるアプレットを使用して、ドラッグアンドドロップ形式で暗号化または復号化を行うことができます。電子メールプログラム(KontactまたはEvolution)のような他のプログラムは、鍵データにアクセスして、署名済みまたは暗号化済みの内容进行处理します。以降のセクションでは、KGpgを使用した署名と暗号化に必要な手順を説明します。

1. 新しい鍵ペアの生成 (112 ページ)
2. 公開鍵のエクスポート (115 ページ)
3. 他のユーザの公開鍵のインポート (116 ページ)
4. データの暗号化 (119 ページ)

10.1 署名と暗号化

署名

署名とは、電子署名をメールまたはソフトウェアに添付して、その由来が正しいことを証明するものです。誰かに名前を使われてメールを書かれるのを防止したり、自分とメールの送信先の両方を保護したりするために、

メールに署名する必要があります。署名によって、受信したメールの送信者を簡単に確認し、無害なメールと悪意のあるメールを見分けられます。

ソフトウェア開発者はソフトウェアに署名して、整合性を確認できます。非公式のサーバからのソフトウェアを所有している場合でも、パッケージを署名で検証できます。

暗号化

他者から保護する必要がある機密情報を所有していることがあります。暗号化によって、データを変換して他者が読めないようにすることができます。これは、内部情報のほか従業員のプライバシーを保護する必要がある企業にとって特に重要です。

10.2 新しい鍵ペアの生成

暗号化済みメッセージを他のユーザとの間で交換するには、最初に自分専用の鍵ペアを生成します。その1つである公開鍵(公開キー)は、通信相手に対して配布するものであり、通信相手はファイルや電子メールメッセージを送信する前に、公開鍵を使用してそれらを暗号化します。鍵ペアのもう一方は、秘密鍵(秘密キー)です。これは、暗号化済みの内容を復号化する目的で使用されます。

重要項目: 秘密鍵と公開鍵

公開鍵は、公開されること、およびすべての通信相手に対して配布されることを意図しています。一方、秘密鍵にアクセスするのはそれを所有しているユーザだけです。秘密鍵のデータにアクセスすることを他のユーザに許可しないでください。

秘密鍵はパスフレーズによって保護されています。パスフレーズは慎重に選択してください。辞書から用語を選択せずに、アルファベット文字とそれ以外の文字を混合して使用してください。

KGpgはメインメニューから起動するか、またはAlt + F2キーを押して、「kgpg」と入力します。プログラムを初めて起動すると、設定を支援するウィザードが開きます。鍵の作成が要求される時点まで、アシスタントの指示に従って進みます。

鍵ペアを生成済みで、新しい鍵ペアを作成する場合は、`[鍵] >> [鍵ペアの生成]` の順に選択します。

図 10.1 KGpg: 鍵の作成



The dialog box titled "鍵ペアを作成" (Create Key Pair) contains the following fields and controls:

- 名前(N): Penguin Tux
- メールアドレス(M):
- コメント (オプション) (C): tux@example.com
- 有効期限: 0 (dropdown menu set to 無期限)
- 鍵長(K): 1024 (dropdown menu)
- アルゴリズム(A): DSA & ElGamal (dropdown menu)
- Buttons: 上級者モード(E), OK, キャンセル(C)

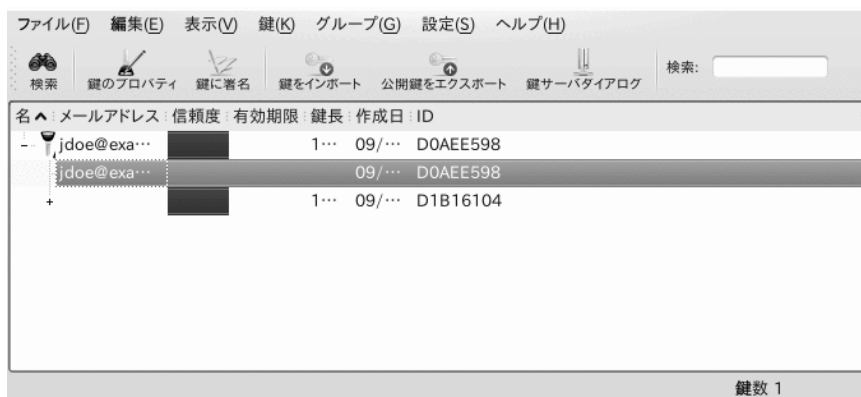
名前と電子メールアドレス、そして必要に応じて、コメントを入力します。デフォルト設定が適当でない場合は、鍵の有効期限、サイズ、および使用する暗号化アルゴリズムも設定します。標準的な鍵を生成するには、`[OK]` を押して設定を確認します。

注意: エキスパートモード

上級ユーザの場合は、`[エキスパートモード]` を使用して追加のオプションを定義します。これによってターミナルウィンドウが表示され、生成する鍵のタイプ、鍵のサイズ(ビット数)、有効期限を設定できます。名前と電子メールアドレスを入力したら、秘密鍵を保護するパスフレーズの入力を促されます。

`[OK]` をクリックすると、再度パスフレーズを入力するように促すダイアログが表示されます。パスフレーズによって秘密鍵を保護します。パスフレーズの入力後、鍵ペアが生成されます。これにはしばらく時間がかかります。終了後、プログラムにサマリが表示されます。証明書取り消しをすぐに保存、印刷して、保存場所に保管します。パスフレーズを忘れた場合に、パスフレーズの取り消しのためにこの証明書が必要になります。`[OK]` をクリックして確認すると、KGpgのメインウィンドウが表示されます。

図 10.2 KGpgメインウィンドウ: 鍵の管理



メインウィンドウには、キーリングに含まれている自分の鍵とインポート済みの他のユーザの鍵が表示されます。GnuPGは高度な実装技術によって鍵ペアを実装するので、各ユーザ名に対して複数のサブキーが表示されますが、この章ではこれについては無視します。鍵の有効期限、作成日、IDなどの詳細情報以外に、メインウィンドウには各鍵の信頼度が色分けされて表示されます。白は信頼度が不明で、青は信頼度が高いことを示します。詳細については、10.4.2項「鍵の信頼レベル」(117 ページ)を参照してください。

注意: KGpgアイコンとメインウィンドウ

後のセッションでKGpgを起動すると、小さな錠前アイコンのみがシステムトレイに表示されます。KGpgのメインウィンドウをデスクトップに表示するには、そのアイコンをクリックします。

10.3 公開鍵のエクスポート

鍵ペアを生成した後で、公開鍵を他のユーザが利用できるようにします。その結果、他のユーザが自分(鍵生成者)にメッセージやファイルを送信する前に、その公開鍵を使用して暗号化または署名できるようになります。たとえば、ユーザtuxに対するメッセージを暗号化する場合、tuxの公開鍵を使用して暗号化します。tuxはこの秘密鍵を使用してメッセージを復号化します。tuxがメッセージを送信する場合、相手先の公開鍵を使用して暗号化し、相手先の秘密鍵を使用して復号化します。

公開鍵を他のユーザが利用できるようにするには、`[鍵] >> [公開鍵をエクスポート]`の順に選択します。ダイアログが表示され、4つのオプションが表示されます。

電子メール

公開鍵は、選択した受信者へ電子メールで送信できます。このオプションを選択し、`[OK]`をクリックしてその選択結果を確定した場合は、デフォルトのメールプログラムで新しい電子メールを作成するためのダイアログが開きます。受信者を入力し、`[送信]`をクリックします。受信者は、生成された鍵を受信し、その後は、暗号化された内容を鍵生成者へ送信することができます。

クリップボード

鍵生成者は自分の公開鍵の操作を続ける前に、その公開鍵をクリップボードに書き込んでおくことができます。

デフォルト鍵サーバ

自分の公開鍵を幅広いユーザが利用できるようにするには、インターネット上に存在する鍵サーバのいずれかにその鍵をエクスポートします。詳細については、10.5項「鍵サーバダイアログ」(117 ページ)を参照してください。

ファイル

自分の鍵を電子メールで送信する代わりに、データメディア上のファイルとしてその鍵を配布することもできます。このオプションをクリックし、ファイルのパスと名前をデフォルト値のままにするか変更を加え、`[OK]`をクリックします。

10.4 他のユーザの公開鍵のインポート

ファイルの形で(たとえば、電子メールへの添付物として)鍵を受け取った場合、[鍵をインポート]を使用してその鍵を自分の鍵束に統合し、その送信者との間で暗号化された通信を行う場合にその鍵を使用します。通信先のユーザが公開サーバに公開鍵を保存している場合は、そこから公開鍵をインポートすることもできます。詳細については、10.5項「鍵サーバダイアログ」(117ページ)を参照してください。この手順は、既に説明した、鍵をエクスポートする手順に似ています。

10.4.1 鍵への署名

他のファイルと同様に、鍵に署名して、その鍵の正当性と整合性を保証することもできます。インポート済みの鍵が、所有者として明示されている個人に所属していることが確かな場合は、その鍵に自分が署名することにより、その鍵の正当性を自分が信頼していると表明することができます。

重要項目: 信頼の連鎖の確立

暗号化された通信がセキュア(安全)であるのは、配布されている公開鍵を、指定されたユーザに積極的に関連付けている場合だけです。それらの鍵を互いにチェックし、署名することは、信頼の連鎖の確立につながります。このような理由により、個人的に確認した鍵にのみ署名するようにしてください。

鍵を使用する前に、鍵に署名しておく必要があります。

手順 10.1 鍵の署名

- 1 [Key Management (鍵の管理)] ウィンドウの鍵リストから、署名する鍵を選択します。
- 2 [鍵] >> [鍵に署名] の順に選択します。
- 3 続いて表示されるダイアログで、署名に使用する秘密鍵を指定します。署名する前に、その鍵の正当性を確認するよう注意する警告が表示されます。ドロップダウンリストから、通信相手の鍵であることを入念にチェックしたことを確認します。

- 4 [続ける] をクリックして、次の手順でパスフレーズを入力します。パスフレーズの入力によって、自身の秘密鍵でその鍵を署名したことになります。署名した鍵が、信頼列に緑で表示されます。

他のユーザは、自分への公開鍵を使用することにより、その署名をチェックできます。

10.4.2 鍵の信頼レベル

通常、ユーザがその鍵を信頼しているかどうか、承認された所有者が実際にその鍵を使用していると考えているかどうかについて、使用しているプログラムによる確認が行われます。これはメッセージを復号化する、または署名を確認する必要があるたびに行われます。これを防ぐには、新しくインポートした鍵の信頼レベルを編集します。鍵を信頼し、特定の信頼度を設定するには、以下の手順に従います。

- 1 鍵を右クリックし、[Key Properties (鍵のプロパティ)] を選択します。
- 2 [Owner Trust (所有者の信頼)] ドロップダウンリストから、信頼度を調整します。この値はこの鍵の所有者をどの程度信頼しているのかを示し、署名された鍵の識別情報を正しく検証します。
- 3 [プロパティ] ダイアログを閉じます。信頼度を [Fully] または [Ultimately] に設定すると、信頼列に鍵が青で表示されます。

信頼レベルがより低ければ、鍵が署名された真の身元を確認する鍵の署名者をより信頼していないことを意味します。署名者の身元が完全にわかっている場合もありますが、署名者が鍵に署名する前に他者の身元を十分に確認していない場合も考えられます。したがって、署名者と署名者の鍵を信頼しても、署名者により署名された他の鍵については低い信頼レベルを使用できません。信頼レベルによって、KGpgの自動処理が発生することはありません。

10.5 鍵サーバダイアログ

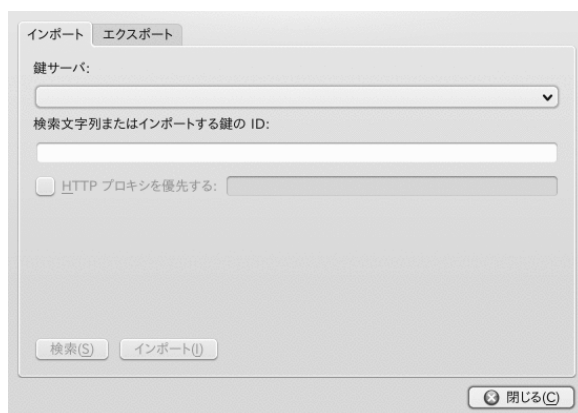
インターネットベースの鍵サーバのいくつかは、多くのユーザの公開鍵を提供しています。多くのユーザとの間で暗号化された通信を実施するには、これらのサーバを使用して、公開鍵を配布します。この目的を果たすには、公開鍵をこれらのサーバのいずれかにエクスポートします。同様に、KGpgを使

用して、特定のユーザに対応する鍵を保持しているそれらのサーバのいずれかを検索すること、またはサーバからそれらのユーザの公開鍵をインポートすることができます。[ファイル] > [鍵サーバダイアログ] の順に選択して、鍵サーバダイアログを開きます。

10.5.1 鍵サーバからの鍵のインポート

[鍵サーバ] ダイアログの [インポート] タブを通して、インターネットベースの鍵サーバのいずれかから公開鍵をインポートします。構成済みの鍵サーバのいずれかを選択し、検索文字列(通信相手の電子メールアドレス)または検索する鍵のIDを入力します。検索] をクリックすると、使用中のシステムがインターネットに接続し、指定された鍵サーバから、指定に一致する鍵を検索します。

図 10.3 鍵をインポートするための検索画面



The screenshot shows a dialog box titled 'Key Server' with two tabs: 'Import' and 'Export'. The 'Import' tab is active. Inside the dialog, there is a dropdown menu labeled 'Key Server:' with a downward arrow. Below it is a text input field with the label 'Search text or ID of key to import:'. Underneath the input field is a checkbox labeled 'Prioritize HTTP proxy:'. At the bottom of the dialog, there are three buttons: 'Search (S)', 'Import (I)', and 'Close (C)'. The 'Close (C)' button is located at the bottom right corner of the dialog box.

鍵サーバに対する検索が成功した場合、取得したすべてのサーバエントリからなるリストが新しいウィンドウ内で表示されます。鍵束に含めたい鍵を選択し、[インポート] をクリックします。メッセージが表示されたら [OK] をクリックして確認し、[閉じる] をクリックして [鍵サーバ] ダイアログを閉じます。これで、インポート済みの鍵は、[鍵マネージャ] のメインウィンドウ内にある概要の中で表示され、使用可能になります。

10.5.2 鍵サーバへの鍵のエクスポート

鍵を、インターネット上で自由にアクセス可能な鍵サーバのいずれかにエクスポートするには、[鍵サーバ] ダイアログの [エクスポート] タブを選択します。2つのドロップダウンメニューを使って、エクスポート先のサーバと、エクスポートする鍵を指定します。次に、[エクスポート] を使用して、エクスポートを開始します。

図 10.4 鍵サーバへの鍵のエクスポート



10.6 データの暗号化

鍵ペアの作成後、公開鍵をエクスポートし、他のユーザの公開鍵をインポートしたら、暗号化された電子メールを送受信できます。KMailでのこれらのオプションの使用方法については、「5.2.5項 「電子メールの署名と暗号化」 (56 ページ)」を参照してください。

KGpgを使用して、テキスト、またはクリップボードの内容を暗号化することもできます。錠前のアイコンを右クリックすると、[クリップボードを暗号化] および [クリップボードを復号化] の各オプションや、内蔵エディタを開くためのオプションが表示されます。

10.6.1 クリップボードの暗号化と復号化

クリップボードへコピーしたファイルは、数回のクリックで簡単に暗号化できます。KGpgの錠前アイコンを右クリックして、**[クリップボードを暗号化]**を選択します。使用する鍵を選択します。暗号化の手順に関するステータスメッセージがデスクトップ上に表示されます。必要に応じて、この時点で、暗号化済みの内容をクリップボードから取得し、処理を進めることができます。クリップボードの内容を復号化する作業も簡単です。パネル上のメニューを開き、**[クリップボードを復号化]**を選択して、自分の秘密鍵に関連付けられているパスワードを入力します。この時点で、利用可能な復号化済みのバージョンが、クリップボード内、およびKGpgのエディタ内にあります。現在クリップボード内にあるオブジェクトのみを暗号化または復号化でき、Klipperなどのクリップボードツールによって保存されたすべてのエントリが対象になるわけではないので注意してください。

10.6.2 ファイルマネージャからの暗号化と復号化

KGpgはDolphinやKonquerorなどのファイルマネージャに統合することもできます。ファイルマネージャ内では、暗号化されたファイルには.ascという接尾辞付きで表示されます。ファイルを暗号化または復号化するには、ファイルを右クリックして、該当するメニュー項目をコンテキストメニューから選択します。

10.6.3 KGpgのエディタ

暗号化する内容を外部エディタで作成し、上記のいずれかの方法でファイルを暗号化する代わりに、KGpgの内蔵エディタを使用することができます。エディタを開くには、パネル内の錠前アイコンを右クリックし、**[Open Editor (エディタを開く)]**を選択します。エディタ内で該当するテキストを入力し(またはクリップボードからエディタにコピーし)、**[暗号化]**をクリックします。次に、使用する鍵を選択し、暗号化の手順を完了させます。ファイルを復号化するには、**[復号化]**を使用し、秘密鍵に関連付けられているパスワードを入力します。

署名の生成と確認は、エディタから直接暗号化するのと同様に簡単です。[署名] >> [鍵の生成]に進み、ファイルダイアログから署名するファイルを選択します。次に、使用する秘密鍵を選択し、それに関連付けられているパスワードを入力します。KGpgから、署名の生成に成功したことが通知されます。単純に[署名/確認]をクリックする方法で、エディタからファイルに署名することもできます。署名済みファイルを確認するには、[署名] >> [署名の検証]に進み、次のダイアログで検証対象のファイルを選択します。選択内容を確認したら、KGpgが署名を確認し、処理結果を報告します。もう1つの方法として、署名済みのファイルをエディタにロードし、[署名/検証]をクリックすることもできます。

10.7 詳細情報

暗号化手法に関する詳細な背景情報については、「<http://www.gnupg.org/documentation/index.en.html>」に記載されているGnuPGプロジェクトページを参照してください。



パスワードと暗号キーによる暗号化

11

GNOMEパスワードおよび暗号化キープログラムは、システムの暗号化インフラストラクチャの重要なコンポーネントです。このプログラムにより、PGPキーおよびSSHキーの作成と管理、PGPキーおよびSSHキーのインポートおよびエクスポート、他のユーザとのキーの共有、キーおよびキーリングのバックアップ、パスフレーズのキャッシュ、クリップボードの暗号化と復号化を行うことができます。

☒ 11.1 [Password and Encryption Keys(パスワードと暗号鍵)] メインウィンドウ



11.1 署名および暗号化

署名とは、電子署名を電子メールメッセージまたはソフトウェアに添付して、その由来が正しいことを証明するものです。他のユーザにより名前が使用され、メッセージが書き込まれることがないように、そして自身と送信先ユーザの双方を保護するために、メールに署名する必要があります。署名によって、受信したメッセージの送信者を簡単に確認し、無害なメッセージと悪意のあるメッセージを見分けられます。

ソフトウェア開発者は、完全性をチェックできるように、ソフトウェアに署名します。非公式のサーバからのソフトウェアを所有している場合でも、パッケージを署名で検証できます。

他者から保護する必要がある機密情報を所有していることもあります。暗号化によって、データを変換して他者が読めないようにすることができます。このことは企業にとって、社内情報と社員のプライバシーを保護するために重要です。

11.2 新しい鍵ペアの生成

暗号化されたメッセージを他のユーザと交換するには、まず独自の鍵ペアを生成する必要があります。その1つである公開鍵(公開キー)は、通信相手に対して配布するものであり、通信相手はファイルや電子メールメッセージを送信する前に、公開鍵を使用してそれらを暗号化します。鍵ペアのもう一方は、秘密鍵(秘密キー)です。これは、暗号化済みの内容を復号化する目的で使用されます。

重要項目

公開鍵は、公開されること、およびすべての通信相手に対して配布されることを意図しています。一方、秘密鍵にアクセスするのはそれを所有しているユーザだけです。秘密鍵のデータにアクセスすることを他のユーザに許可しないでください。

11.2.1 OpenPGP鍵の作成

OpenPGPは、PGPに基づく公開鍵暗号化方式を使用することで電子メールを暗号化するための非専有プロトコルです。これは、公開鍵を交換するための暗号化されたメッセージ、署名、秘密鍵、および証明書の標準形式を定義します。

- 1 [コンピュータ] > [他のアプリケーション] > [ツール] > [パスワードと暗号鍵] をクリックします。
- 2 [Key(鍵)] > [Create New Key(新しい鍵の作成)] をクリックします。
- 3 PGPキーを選択し、[Continue(続行)] をクリックします。
- 4 必要に応じて、氏名、電子メールアドレス、およびコメントを指定します。
- 5 [Advanced key options(高度なキーオプション)] をクリックし、次の高度なキーオプションを指定します。

暗号化タイプ

キーを生成するための暗号化アルゴリズムを指定します。*DSA* *ElGamal*は、必要に応じて、暗号化、復号化、署名、確認を行うことができるので、推奨される選択肢です。[*DSA (sign only)*(*DSA(署名のみ)*)] および [*RSA (sign only)*(*RSA(署名のみ)*)] ではともに、署名のみが可能です。

鍵の強度

鍵の長さ(ビット)を指定します。鍵が長くなると、より安全になります(強力なパスフレーズが使用されている場合)。ただし、長い鍵で実行する処理は短い鍵で実行する処理よりも長い時間がかかることに注意してください。許容される値は、1024~4096ビットです。少なくとも2048ビットを使用することをお勧めします。

有効期限日

暗号化処理または署名処理の実行のために鍵を使用できる最後の日付を指定します。この期間が経過した後、有効期限を変更するか、新しい鍵またはサブ鍵を生成する必要があります。信頼性のステータスを維持するために、鍵の期限が切れる前に古い鍵で新しい鍵を署名します。

- 6 [作成] をクリックして新しい鍵のペアを作成します。

[*Passphrase for New PGP Key*(新しいPGP鍵のパスフレーズ)] ダイアログボックスが開きます。

- 7 新しい鍵のパスフレーズを2回指定し、[OK] をクリックします。

パスフレーズを指定するときは、強力なパスワードを作成する場合と同じ慣例に従ってください。パスワードとパスフレーズの主な相違は、パスフレーズではスペースが有効な文字であることです。

11.2.2 セキュアシェル鍵の作成

セキュアシェル(SSH)は、該当マシン上でコマンドを実行するためにリモートコンピュータにログインする手段です。SSH鍵は、デフォルトのパスワード認証システムに代わる鍵ベースの認証システムで使用されます。鍵ベースの認証では、認証するためのパスワードを手動で入力する必要はありません。

- 1 [コンピュータ] > [他のアプリケーション] > [ツール] > [パスワードと暗号鍵] をクリックします。
- 2 暗号化とキーリング [鍵] > [*Create New Key*(新しい鍵の作成)] をクリックします。
- 3 [*Secure Shell Key*(セキュアシェル鍵)] を選択し、[続行(*Continue*)] をクリックします。
- 4 使用する鍵の記述を指定します。

電子メールアドレスまたは他のリマインダを使用できます。

- 5 オプションで、[*Advanced key options*(高度なキーオプション)] をクリックし、次の高度なキーオプションを指定します。

暗号化タイプ キーを生成するための暗号化アルゴリズムを指定します。SSH鍵を作成するためにRivest-ShamirAdleman (RSA)アルゴリズムを使用するには、*RSA*を選択します。これは、推奨されるより安全な選択肢です。*DSA*を選択し、SSH鍵を作成するためにデジタル署名アルゴリズム(DSA)を使用します。

鍵の強度 鍵の長さ(ビット)を指定します。鍵が長くなると、より安全になります(強力なパスフレーズが使用されている場合)。ただし、長い鍵で実行する処理は短い鍵で実行する処理よりも長い時間がかかることに注意してください。許容される値は、1024～4096ビットです。少なくとも2048ビットを使用することをお勧めします。

- 6 新しい鍵を作成するには *[Just Create Key(鍵の作成のみ)]* をクリックし、鍵を作成して認証で使用する別のコンピュータを設定するには *[Create and Set Up(作成と設定)]* をクリックします。
- 7 新しい鍵のパスフレーズを指定して *[OK]* をクリックし、さらに繰り返します。

パスフレーズを指定するときは、強力なパスワードを作成する場合と同じ慣例に従ってください。パスワードとパスフレーズの主な相違は、パスフレーズではスペースが有効な文字であることです。

11.3 鍵のプロパティの変更

既存のOpenPGP鍵またはSSH鍵のプロパティを変更できます。

11.3.1 OpenPGP鍵のプロパティの編集

このセクションの記述は、すべてのOpenPGP鍵に当てはまります。

- 1 *[コンピュータ] > [他のアプリケーション] > [ツール] > [パスワードと暗号鍵]* をクリックします。
- 2 表示または編集するPGP鍵をダブルクリックします。(または鍵を選択し、ツールバーの *[プロパティ]* をクリックします)。
- 3 鍵に写真を追加するか、または鍵に関連するパスフレーズを変更するには、*[所有者]* タブでオプションを使用します。

写真IDにより、鍵の所有者が鍵に1つ以上の自身の画像を埋め込むことができます。これらのIDは、通常のユーザIDとまったく同じように署名できます。写真IDは、JPEGフォーマットであることが必要です。推奨サイズは、120 x 150ピクセルです。

選択した画像が必要なファイルの種類またはサイズに一致しない場合、パスワードおよび暗号化キーではGDKライブラリでサポートされる画像フォーマットからその場でサイズの変更および変換を行うことができます。

- 4 **[Names and Signatures(名前と署名)]** タブをクリックし、鍵にユーザIDを追加します。

詳細については、ユーザIDの追加項 (129 ページ)を参照してください。

- 5 **[詳細]** タブをクリックします。このタブには、次のプロパティが含まれます。

鍵ID: 鍵IDは指紋に類似していますが、鍵IDには指紋の最後の8文字のみが含まれます。一般に鍵IDのみで鍵を識別できますが、2つの鍵が同じ鍵IDを持つ場合もあります。

タイプ: 鍵を生成するための暗号化アルゴリズムを指定します。DSA鍵では、署名のみを行うことができます。ElGamal鍵は、暗号化のために使用されます。

強度: 鍵の長さ(ビット)を示します。鍵が長いほど、セキュリティはより強力になります。ただし、長い鍵を使用しても、脆弱なパズルを使用している場合に、それが相殺されることはありません。

Fingerprint (指紋の表示): 鍵を正確に識別する固有の文字列です。

作成日: 鍵が作成された日付。

有効期限: 鍵が使用できなくなる日付(鍵の期限が切れると、鍵の処理を実行するために鍵を使用することができなくなります)。鍵の有効期限を将来のある時点に変更すると、鍵が再度有効になります。一般的な良い慣行は、期限が切れないマスタ鍵を用意し、マスタ鍵によって署名された期限が切れる複数のサブ鍵を使用することです。

所有者の信頼の上書き: ここで、鍵の所有者に対する信頼レベルを設定できます。信頼とは、Webの信頼性を適切に向上させるあるユーザの能力に対する自身の信頼度です。自身で署名していない鍵の場合、該当ユーザの鍵の有効性は、そのユーザが収集した署名と、それらの署名を行ったユーザに対する自身の信頼度に基づいて決定されます。

サブ鍵: 詳細については、OpenPGPサブ鍵のプロパティの編集項(130 ページ)を参照してください。



6 [閉じる] をクリックします。

ユーザIDの追加

ユーザIDにより、同じ鍵で複数のIDおよび電子メールアドレスを使用できます。たとえば、業務用に1つ、友人用に1つIDを使用する場合に、ユーザIDを追加すると役立ちます。ユーザIDの形式は次のとおりです。

Name (comment) <e-mail address>

- 1 [コンピュータ] > [他のアプリケーション] > [ツール] > [パスワードと暗号鍵] をクリックします。
- 2 表示または編集するPGP鍵をダブルクリックします(または鍵を選択し、ツールバーの [プロパティ] をクリックします)。
- 3 [Names and Signatures(名前と署名)] タブをクリックし、 [Add Name(名前の追加)] をクリックします。
- 4 [氏名] フィールドで名前を指定します。

このフィールドには、少なくとも5文字を入力する必要があります。

- 5 [電子メールアドレス] フィールドに電子メールアドレスを1つ指定します。

この電子メールアドレスにより、大半のユーザが鍵サーバまたは他の鍵プロバイダ上で鍵を検索します。次に進む前に、電子メールアドレスが正しいことを確認します。

- 6 [Key Comment(鍵のコメント)] フィールドで、新しいIDの名前とともに表示する追加情報を指定します。

この情報は、鍵サーバ上で検索できます。

- 7 [閉じる] をクリックします。

OpenPGPサブ鍵の プロパティ の編集

各OpenPGP鍵は、署名でのみ使用される単一のマスタ鍵を持ちます。サブ鍵はまた、暗号化および署名で使用されます。これにより、サブ鍵の安全性に問題が生じて、マスタ鍵を破棄する必要はなくなります。

- 1 [コンピュータ] > [他のアプリケーション] > [ツール] > [パスワードと暗号鍵] をクリックします。
- 2 編集するPGP鍵をダブルクリックします(または鍵を選択し、ツールバーの [プロパティ] をクリックします)。
- 3 [詳細] タブをクリックし、 [Subkeys(サブ鍵)] をクリックします。
- 4 ダイアログボックスの左側にあるボタンを使用して、サブ鍵の追加、削除、失効、破棄を行います。



各サブ鍵には、次の情報が含まれます。

ID: サブ鍵のID。

タイプ: サブ鍵を生成するための暗号化アルゴリズムを指定します。DSA鍵では署名のみを行うことができます。また、ElGamal鍵は暗号化、RSA鍵は署名および暗号化のために使用します。

作成日: 鍵が作成された日付を示します。

有効期限: 鍵が使用できなくなる日付を示します。

ステータス: 鍵のステータスを示します。

強度: 鍵の長さ(ビット)を示します。鍵が長いほど、セキュリティはより強力になります。ただし、長い鍵を使用しても、脆弱なパスフレーズを使用している場合に、それが相殺されることはありません。

- 5 [閉じる] をクリックします。

11.3.2 セキュアシェル鍵のプロパティの編集

このセクションの記述は、すべてのSSH鍵に当てはまります。

- 1 [コンピュータ] > [他のアプリケーション] > [ツール] > [パスワードと暗号鍵] をクリックします。
- 2 表示または編集するセキュアシェル鍵をダブルクリックします(または鍵を選択し、ツールバーの [プロパティ] をクリックします)。
- 3 鍵に関連する鍵またはパスフレーズの名前を変更する場合は、[鍵] タブのオプションを使用します。
- 4 [詳細] タブをクリックします。このタブには、次のプロパティが含まれます。

アルゴリズム: 鍵を生成するための暗号化アルゴリズムを指定します。

強度: 鍵の長さ(ビット)を示します。鍵が長いほど、セキュリティはより強力になります。ただし、長い鍵を使用しても、脆弱なパスフレーズを使用している場合に、それが相殺されることはありません。

ロケーション: 秘密鍵が保存されている場所です。

Fingerprint (指紋の表示): 鍵を正確に識別する固有の文字列です。



- 5 [閉じる] をクリックします。

11.4 鍵のインポート

鍵をインポートするには

- 1 [コンピュータ] > [他のアプリケーション] > [ツール] > [パスワードと暗号鍵] をクリックします。
- 2 [鍵] > [インポート] の順にクリックします。
- 3 少なくとも1つのASCII外装の公開鍵を含むファイルを選択します。
- 4 鍵をインポートするには、[開く] をクリックします。

また、[パスワードと暗号鍵] で鍵を貼り付けることができます。

- 1 テキストのASCII外装パブリックのブロックを選択し、それをクリップボードにコピーします。
- 2 [コンピュータ] > [他のアプリケーション] > [ツール] > [パスワードと暗号鍵] をクリックします。
- 3 [編集] > [Paste Keys(鍵の貼り付け)] をクリックします。

11.5 鍵のエクスポート

鍵をエクスポートするには

- 1 [コンピュータ] > [他のアプリケーション] > [ツール] > [パスワードと暗号鍵] をクリックします。
- 2 エクスポートする鍵を選択します。
- 3 [鍵] > [Export Public Key(公開鍵のエクスポート)] をクリックします。
- 4 エクスポートする鍵のファイル名と場所を指定します。
- 5 [保存] をクリックし、鍵をエクスポートします。

また、テキストのASCII外装ブロックで、クリップボードの鍵をエクスポートできます。

- 1 [コンピュータ] > [他のアプリケーション] > [ツール] > [パスワードと暗号鍵] をクリックします。
- 2 エクスポートする鍵を選択します。
- 3 [編集] > [公開鍵のコピー] をクリックします。

11.6 鍵の署名

別のユーザの鍵に署名すると、ユーザに対して信頼を与えることになります。鍵に署名する前に、鍵が実際にそのユーザに属していることを確認するために、鍵の指紋を慎重にチェックします。

信頼とは、Webの信頼性を適切に向上させるあるユーザの能力に対する自身の信頼度です。自身で署名していない鍵の場合、該当ユーザの鍵の有効性は、そのユーザが収集した署名と、それらの署名を行ったユーザに対する自身の信頼度に基づいて決定されます。デフォルトでは未知の鍵は、ぎりぎりの信頼値を持つ3つの署名、または1つの完全に信頼できる署名が必要です。

- 1 [コンピュータ] > [他のアプリケーション] > [ツール] > [パスワードと暗号鍵] をクリックします。
- 2 [Trusted Keys(信頼された鍵)] または [Other Collected Keys(その他の収集された鍵)] タブから、署名する鍵を選択します。
- 3 [鍵] > [署名] の順にクリックします。
- 4 鍵をどの程度慎重にチェックするかを選択して、署名をキーリングに対してローカルにするかどうか、署名を破棄できるかどうかを指定します。



- 5 [署名] をクリックします。

11.7 暗号化の初期設定

パスワードと暗号鍵ツールの機能は、カスタマイズできます。ここでは、使用可能なオプションについて説明します。

11.7.1 Password Keyrings(パスワードキーリング)

キーリングの作成または削除、アプリケーションパスワードのデフォルトのキーリングの設定、またはキーリングのロック解除パスワードの変更を行うために、パスワードキーリングの初期設定を使用できます。新しいキーリングを作成するには、次の手順に従います。

- 1 [コンピュータ] > [他のアプリケーション] > [ツール] > [パスワードと暗号鍵] をクリックします。
- 2 [編集] > [初期設定] をクリックし、 [Password Keyrings(パスワードキーリング)] タブをクリックします。
- 3 [Add Keyring(キーリングの追加)] を押します。
- 4 新しいキーリングの名前を入力し、 [追加] を押します。
- 5 新しいキーリングを保存する場所を設定します。パスワードを設定および確認し、 [作成] をクリックします。

既存のキーリングのロック解除パスワードを変更するには、リストでキーリングをクリックし、 [Change Unlock Password(ロック解除パスワードの変更)] を押します。このパスワードを変更するには、古いパスワードを入力する必要があります。

アプリケーションパスワードのデフォルトのキーリングを変更するには、 [Default Keyring(デフォルトのキーリング)] のドロップダウンリストからキーリングを選択します。

11.7.2 鍵サーバ

リモート鍵サーバに対して鍵を定期的に同期することにより、鍵を最新の状態に維持できます。同期により、すべての鍵で最新の署名を持ち、信頼のウェブの有効性を高めることができます。

- 1 [コンピュータ] > [他のアプリケーション] > [ツール] > [パスワードと暗号鍵] をクリックします。
- 2 [編集] > [初期設定] をクリックし、[Key Servers(鍵サーバ)] タブをクリックします。



パスワードと暗号鍵では、HKP鍵サーバおよびLDAP鍵サーバがサポートされます。

HKPサーバ HKP鍵サーバは、広く普及するhkp://pgp.mit.edu:11371や、http://pgp.mit.eduなどの通常のWebベースの鍵サーバです。

LDAP鍵サーバ: LDAP鍵サーバはそれほど一般的ではありませんが、鍵をホストするために標準のLDAPプロトコルを使用しています。ldap://keyserver.pgp.comは適切なLDAPサーバです。

左側のボタンにより、使用する鍵サーバを追加または削除できます。新しい鍵サーバを追加する場合は、必要に応じて種類、ホスト、ポートを設定します。

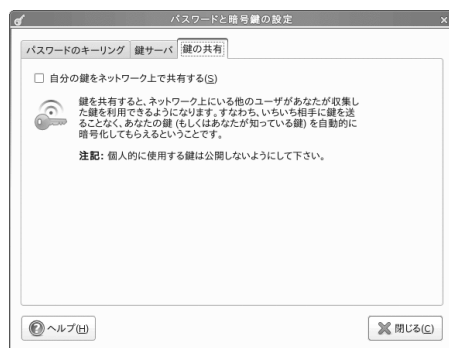
- 3 公開鍵を自動的に発行するかどうか、および使用する鍵サーバを設定します。鍵サーバから鍵を自動的に取得するかどうか、および変更した鍵を鍵サーバと同期するかどうかを設定します。

- 4 [閉じる] をクリックします。

11.7.3 鍵の共有

鍵の共有は、DNS-SD(BonjourまたはRendevousと呼ばれることもあります)により提供されます。鍵の共有を有効にすると、ローカルのパスワードと暗号鍵ユーザの公開鍵リングがリモートの検索ダイアログボックスに追加されます。こうしたローカルの鍵サーバを使用する場合、一般にリモートサーバにアクセスするよりも高速です。

- 1 [コンピュータ] > [他のアプリケーション] > [ツール] > [パスワードと暗号鍵] をクリックします。
- 2 [編集] > [初期設定] をクリックし、[Key Sharing(鍵共有)] タブをクリックします。



- 3 [Share my keys with others on my network(ネットワーク上の他のユーザと鍵を共有)] を選択します。
- 4 [閉じる] をクリックします。



BasKetによるメモの記録

BasKetはメモを記録するためのアプリケーションであり、あらゆる種類のデータを収集およびソートできます。BasKetを使用すると、アイデアをメモしたり、ToDoリストを作成したり、連絡先を割り当てたりすることができます。データを階層形式でソートし、他のユーザとそのデータを共有できます。必要に応じて、パスワードで一部のバスケットを保護することもできます。

12.1 バスケットの作成

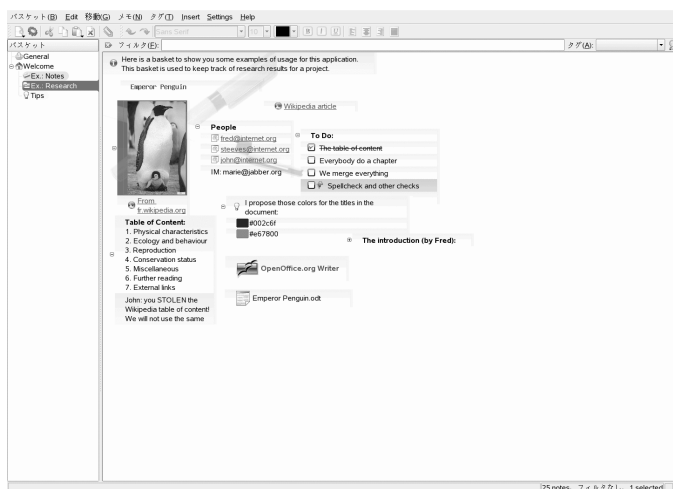
バスケットは、メモを記録できる文書です。さまざまなトピック、コンテンツ、またはプロジェクトを含むバスケットを作成し、それぞれのバスケットに独自のレイアウトを指定します。

- 1 BasKetを起動するには、**Alt+F2**キーを押してシェルを開き、バスケットを入力します。
- 2 バスケットを作成するには、**[バスケット] > [新規] > [New Basket(新規バスケット)]**の順に選択します。
- 3 バスケットの名前を入力し、**カラム構造**のテンプレートを選択します。
- 4 左側のバスケットツリーに、すべてのバスケットが表示されます。

ツリーでバスケットを右クリックし、**[プロパティ]**を選択することにより、特別な外観(背景の色またはイメージ、およびテキストの色)の設

定、その配置(カラム形式)の変更、またはショートカットの作成を行うことができます。

図 12.1 使用中のバスケット



注意: バスケットの保存

作業内容を保存する必要はありません。自動的に保存されます。

構造を明確にするために、兄弟バスケットまたはサブバスケットも作成した方がよい場合があります。このためには、[バスケット] > [新規] > [New Sub-Basket(新規サブバスケット)] の順に選択します。親バスケットの1レベル下にサブバスケットが表示されます。[バスケット] > [新規] > [New Sibling-Basket(新規兄弟バスケット)] の順に選択することにより、親バスケットと同じレベルにバスケットを作成します。いずれの場合でも、新しいバスケットでは親のバスケットから外観および配置が継承されます。

12.2 バスケットの使用

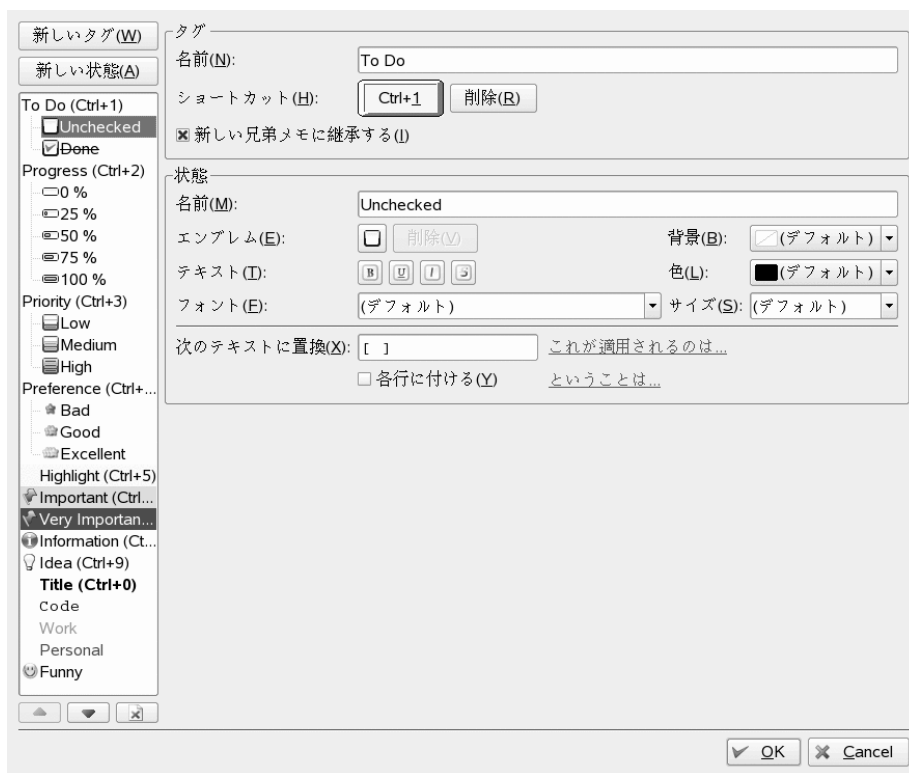
バスケットとサブバスケットを作成した後は、さまざまなメモを記入できます。メモには、さまざまな種類のデータ(テキスト、イメージ、URL、アプリケーションランチャなど以外にリンク、電子メールアドレス、ファイル、色など)を含めることができます。

12.2.1 バスケットの記入およびパーソナライズ

バスケットにメモを記入するには、右側の領域を右クリックして、追加するデータの種類を選択します。画面から取得したスクリーンショットまたは色をバスケットにインポートできます。スクリーンショットを取得するには、**[挿入] > [Insert Grab from screen(画面からの画像の取り込み)]** の順に選択します。画面の色を選択するには、**[挿入] > [Color from Screen(画面の色)]** の順に選択します。

メモを構造化するために、タグを割り当てることができます。タグは、メモの優先度、初期設定、または進行状況を表すマークです。**[タグ]** を選択し、タグのチェックボックスをオンまたはオフにするだけで、選択したメモにタグを割り当てたり、それらのメモからタグを削除したりできます。**[タグ] > [カスタマイズ]** の順に選択することにより、使用可能なタグをカスタマイズします。

図 12.2 タグのカスタマイズ



同じ種類のメモをグループ化するには、グループ化するメモを選択して右クリックし、[グループ]を選択します。メモのグループを解除するには、メモのグループ全体を選択して右クリックし、[グループを解除する]を選択します。

[メモ] > [Move Up(上に移動)]の順に選択することにより、メモのグループ内でメモを移動できます。グループ内からグループ外にメモを移動する場合は、[メモ] > [Move On Top(先頭に移動)]を選択します。

12.2.2 バスケットのインポートとエクスポート

過去に他のメモ記録用アプリケーションを使用していて、収集済みの情報を失いたくないときは、ファイルをBasKetにインポートします。アプリケーションKNotes、KJots、およびStickyNotesからデータをインポートできます。インポートするには、左側のツリー構造を右クリックするか、またはメモをインポートするバスケットを直接右クリックし、[インポート]を選択します。

たくさんのデータを収集およびソートした後で、他のユーザとそのデータを共有したい場合があります。メモの共有を準備するには2つの方法があります。

- ・エクスポートするバスケットを右クリックし、[エクスポート] > [HTML Web Page(HTML Web ページ)] の順に選択することにより、HTMLファイルにバスケットをエクスポートします。
- ・他のユーザがバスケットを開いて変更できるようにするには、バスケットをバスケットアーカイブにエクスポートします。エクスポートするバスケットを右クリックし、[エクスポート] > [BasKet アーカイブ] の順に選択します。

12.2.3 バスケットの保護

自分だけがアクセスできるようにパスワードでバスケットを保護した方がよい場合もあります。パスワード、または秘密鍵と公開鍵を使用してバスケットを保護するには、バスケットを右クリックし、[パスワード]を選択します。

12.2.4 データの検索

複数のバスケットが存在する場合は、特定のデータを検索することが困難になる場合があります。正確なタイトルを覚えていなくても、非常にすばやく目的の情報を検索できるさまざまな方法が用意されています。

- ・フィルタボックスに単語を1つか2つ入力することにより、メモを簡単に検索できます。

- ・ 特定のタグが割り当てられたメモを検索する場合は、タグボックスで目的のタグを選択します。
- ・ 右側のアイコンにより、各バスケットにフィルタを適用します。

左側のバスケットツリーの数値は、検索オプションに一致したメモの数を示します。錠のアイコンは、バスケットは現在ロックされており、検索されなかったことを示します。詳細については、12.2.3項「バスケットの保護」(143 ページ)を参照してください。

12.2.5 バックアップの作成および復元

Basketでは、データのバックアップが自動的に行われます。[バスケット] > [Backup & Restore(バックアップおよび復元)] の順に選択し、ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスには、バスケットの保存場所が表示されます。必要に応じて、[Move to Another Folder(別のフォルダに移動)] ボタンまたは [Use Another Existing Folder(別の既存フォルダを使用)] を選択して、別のフォルダを選択できます。[バックアップ] を選択してバックアッププロセスを開始し、アーカイブに名前を付けます。以前のバックアップは、[Restore a Backup(バックアップの復元)] を選択して復元できます。対応するアーカイブを選択してください。

12.3 詳細情報

BasKetの公式ホームページは、<http://basket.kde.org/index.php> です。このサイトは、アプリケーションの使用に関するツアー、最新バージョンに関するニュース、さまざまな使用事例を示す複数のスクリーンショットなどを提供しています。

Tomboyによるメモの記録

Tomboyは、毎日のアイデアや情報を整理するためのメモを記録するGNOMEデスクトップアプリケーションです。特に、あらゆる種類のデータ収集とソート、アイデアの書き込み、ToDoリストの作成、連絡先の割り当てる行うことができます。

Tomboyはまた、次のようなメモのカスタマイズに役立つ編集機能を備えています。

- 検索テキストの強調表示
- インラインスペルチェック
- 自動リンクのWebおよび電子メールアドレス
- 取り消し/やり直しのサポート
- フォントのスタイルおよびサイズ
- 箇条書き

Tomboyは、GNOMEパネル()にあり、デフォルトではGNOMEのログイン時に自動的に起動されます。また、[コンピュータ] > [他のアプリケーション] > [ツール] > [Tomboyメモ] をクリックすることにより、Tomboyを起動できます。

13.1 ノートの作成

新しいノートを作成するには、GNOMEパネルで「Tomboyメモ」アイコン()をクリックし、「新しいメモの作成」を選択します。

 **13.1** 新しいTomboyのメモ



メモを編集するには、コンテンツ領域をクリックし、キーボードを使用してコンテンツの追加および削除を行います。新しいTomboyのメモメモの1行目には、タイトルが含まれます。デフォルトでは、テキスト「新しいメモ#」が入力されます。タイトルを変更するには、該当行をクリックし、キーボードを使用して変更します。デフォルトでは、新しいノートの作成時にコンテンツ領域にフォーカスが置かれています。したがって、コンテンツ領域をクリックしなくても、直接ノートの編集を始めることができます。メモの内容の書式設定については、13.5項「メモのテキストの書式設定」(149ページ)を参照してください。

メモは自動的に保存されます。

次に、関連するメモとアイディアをリンクすることにより、作成したメモを整理できます。詳細については、13.3項「メモのリンク」(148ページ)を参照してください。

13.2 すべてのメモの検索

すべてのメモの概要を表示するには、 アイコンをクリックし、[すべてのメモを検索]を選択します。デフォルトでは、[すべてのメモを検索] ダイアログボックスに、更新された順序でメモが表示されます。ソート順を変更するには、[メモ] または [前回変更日] の列見出しをクリックします。昇順と降順を切り替えるには、列見出しを2回クリックします。

図 13.2 [すべてのメモを検索] ダイアログボックス



[検索] フィールドにテキストを入力することにより、特定のメモを検索できます。メモのリストは自動的に更新され、一致するテキストを含むメモのみが一覧に表示されます。

[すべてのメモを検索] ダイアログボックスに表示されたメモを開くためには、次のいずれかの手順を行います。

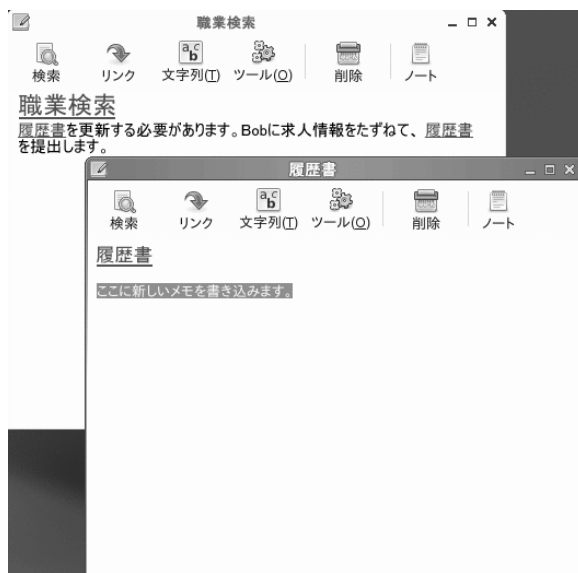
- メモをダブルクリックします。
- メモを選択し、[ファイル] > [開く] をクリックします。
- メモを右クリックし、[開く] を選択します。
- メモを選択し、Ctrl + Oを押します。

13.3 メモのリンク

現在のメモでテキストを強調表示し、ツールバーの [リンク] ボタンをクリックすることにより、Tomboy内のメモをリンクできます。これにより、新しいノートが作成され、ノートの現在のノートのタイトルに下線が引かれます。

たとえば、現在のノートにフレーズ「レジュメ」が含まれる場合、このテキストを選択し、[リンク] をクリックしてタイトル「レジュメを含む新しいノートを作成できます。」 また、クリックすると新しい「レジュメ」ノートが開くリンクが現在のノートに作成されます。

☒ 13.3 Tomboyメモのリンク



メモのタイトルを変更すると、タイトルを変更したメモに対する他のメモのリンクが自動的に更新されます。現在のメモで別のメモの名前を入力すると、そのメモに自動的にリンクします。現在のメモにリンクする他のメモを表示するには、[ツール] > [ここにどのようなリンクが] をクリックします。

13.4 メモのアクセス

メモにアクセスするには、GNOMEパネルでTomboyアイコン()をクリックし、最近にメニューで表示または作成したいいずれかのメモを選択するか、古いメモを検索します(詳細については、13.2項「すべてのメモの検索」(147ページ)を参照してください)。

最近にアクセスしたメモにかかわらずパネルメニューに常に強制的にメモを表示するには、メモの右側の「画びょう」のアイコンをクリックしてメニューに固定します。パネルメニューに固定されたメモには、●のような画びょうのアイコンが表示されます。パネルメニューに固定されていないメモには、のような画びょうのアイコンが表示されます。

13.5 メモのテキストの書式設定

Tomboyツールバーの[テキスト] ボタンを使用して、メモのテキストに書式を設定できます。[テキスト] ボタンには、次のオプションを含むドロップダウンメニューが表示されます。

元に戻す

現在のセッションでメモに加えた以前の変更を元に戻すことができます。キーボードを使用して最後の変更を取り消すには、**Ctrl+Z**を押します。

やり直し

元に戻す機能を使用して削除した変更をやり直すことができます。キーボードを使用して最後の変更をやり直すには、**Shift+Ctrl+Z**を押します。

太字

メモのテキストを太字にするには、変更するテキストを選択した後、[テキスト] ドロップダウンメニューから[太字] オプションを選択します。また、テキストを選択した後、**Ctrl+B**を押すこともできます。

イタリック

メモのテキストをイタリックにするには、変更するテキストを選択した後、[テキスト] ドロップダウンメニューから[イタリック] オプションを選択します。また、テキストを選択した後、**Ctrl+I**を押すこともできます。

Strikeout(取消し線)

選択したテキストに線を引きます。取消し線を引くには、目的のテキストを選択し、[テキスト] ドロップダウンメニューから [Strikeout(取消し線)] オプションを選択します。また、テキストを選択した後、Ctrl + Sを押すこともできます。

強調表示

選択したテキストの周囲の背景を黄色にします。強調表示するには、目的のテキストを選択し、[テキスト] ドロップダウンメニューから [Highlight(強調表示)] オプションを選択します。また、テキストを選択した後、Ctrl + Hを押すこともできます。

固定幅

固定幅スタイルでは、テキストで固定幅のフォントを使用できます。既存のテキストを変更するには、変更するテキストを選択し、[テキスト] ドロップダウンメニューから [固定幅] オプションを選択します。また、入力するテキストを固定幅のスタイルにするには、[テキスト] ドロップダウンメニューから [固定幅] オプションを選択します。

フォントサイズ

このメニューには、4つのオプション([小さい]、[標準]、[大きい]、[非常に大きい])があります。これらの各オプションは、メモで選択したテキストで使用可能なフォントのサイズを表します。フォントサイズを変更するには、変更するテキストを選択し、[テキスト] ドロップダウンメニューからいずれかのフォントサイズのオプションを選択します。

行頭文字

箇条書きを開始または終了するには、[テキスト] ドロップダウンメニューから [箇条書き] オプションを選択します。カーソルが箇条書きにある場合は、[Increase Indent(インデントを増やす)] オプションおよび [Decrease Indent(インデントを減らす)] オプションが有効になります。

箇条書きの詳細については、13.5.1項「箇条書きの使用」(151 ページ)を参照してください。

Increase Indent(インデントを増やす)

箇条書きにカーソルを置いてこのオプションを選択すると、現在の行が右に移動します。

Decrease Indent(インデントを減らす)

箇条書きにカーソルを置いてこのオプションを選択すると、現在の行が左に移動します。

Find in This Note(このメモで検索)

現在のメモのテキストを検索できます。このオプションを選択すると、メモの下側に検索バーが表示されます。キーボードを使用して検索バーを開くには、**Ctrl + F**を押します。

検索するテキストを入力します。テキストを入力すると、一致箇所が強調表示されます。[Find Next(次を検索)] をクリックすると、次の一致箇所が強調表示され、カーソルが置かれます。[前へ] をクリックすると、以前の一致に移動します。

検索バーを閉じるには、左上隅にある [X] をクリックするか、ESCキーを押します。

13.5.1 箇条書きの使用

Tomboyの箇条書きは、階層的に体系化されたコンテンツを作成するために役立ちます。Tomboyの箇条書きは、階層的に体系化されたコンテンツを作成するために役立ちます。

ここでは、箇条書きの作成および書式設定について説明します。

箇条書きを開始するには、次のいずれかの方法に従います。

- [テキスト] ドロップダウンメニューから [箇条書き] を選択します。
- 自動的に作成された箇条書き記号の直後にテキスト行を入力し、Enterキーを押します。

箇条書きの終了

箇条書きを終了するには、次のいずれかの操作を行います。

- [テキスト] ドロップダウンメニューから [箇条書き] を選択します。

- 空白の箇条書き行でEnterキーを押します。
- 現在の行が箇条書きの一部ではなくなるまで、[テキスト] ドロップダウンメニューから [Decrease Indent(インデントを減らす)] を選択します。
- 現在の行が箇条書きの一部ではなくなるまで、Shift+Tabキーを押します。

インデントを増やす

箇条書きの行のインデントを増やすには、[テキスト] ドロップダウンメニューから [Increase Indent(インデントを増やす)] を選択するか、またはTabキーを押します。

インデントを減らす

箇条書きの行のインデントを減らすには、[テキスト] ドロップダウンメニューから [Decrease Indent(インデントを減らす)] を選択するか、またはShift+Tabキーを押します。

13.6 HTMLへのメモのエクスポート

1つ以上のメモからHTML(Hypertext Markup Language)文書を作成できます。

- 1 エクスポートするメモで、[ツール] ドロップダウンメニューから [HTMLにエクスポート] オプションを選択します。
- 2 HTMLファイルを保存する場所を指定します。
- 3 現在のメモに含まれるリンクのリンク先であるメモをエクスポートする場合は、[リンクされたメモのエクスポート] を選択します。いずれかのメモに存在するリンクのリンク先のメモをすべてエクスポートするには、[他のすべてのリンクされたメモを含める] を選択します。
- 4 [保存] をクリックします。

13.7 メモの削除

メモを削除するには、Tomboyツールバーの **[削除]** ボタンをクリックします。メモとその内容を完全に削除するかどうかを尋ねるダイアログボックスが表示されます。**[削除]** をクリックするとメモが完全に破棄され、**[キャンセル]** をクリックするとプロセスが中止されます。

他のメモからこのメモへのリンクは依然として存在しますが、起動時にメモが再作成されます。

13.8 メモの印刷

現在のメモを印刷するには、**[ツール]** ドロップダウンメニューの **[印刷]** オプションを選択します。標準のGNOMEの **[印刷]** ダイアログボックスが表示されます。

13.9 Tomboyの初期設定

Tomboyの初期設定を変更するには、GNOMEパネルで  を右クリックし、**初期設定** を選択します。対応するタブの **[編集中]**、**[ホットキー]**、**[同期]**、および **[アドイン]** に関連する初期設定を設定できます。

13.9.1 初期設定の編集

[初期設定] ダイアログの **[編集中]** タブでは、メモの編集に関連するオプションを設定できます。

図 13.4 Tomboyの編集の初期設定



編集の初期設定には、次の設定が含まれます

入力時にスペルチェック

スペルの間違いに赤の下線が引かれ、右クリックによるコンテキストメニューに修正候補が表示されます。

WikiWordsの強調表示

フレーズThatLookLikeThisのリンクを作成します。リンクをクリックすると、リンクテキストに対応するタイトルを含む新しいノートが作成されます。

カスタムフォントを使用します。

メモで使用するカスタムフォントを設定します。このオプションが無効の場合は、デフォルトのシステムフォントが使用されます。

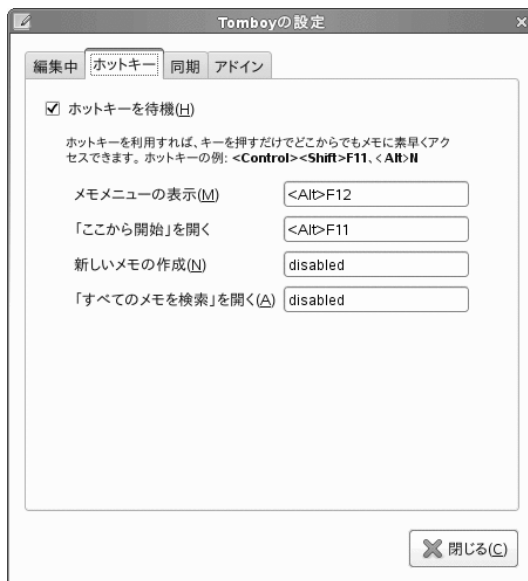
新しいメモのテンプレート

新たに作成されたノートで使用されるデフォルトのテキストを設定します。

13.9.2 ホットキーの初期設定

[初期設定] ダイアログの [ホットキー] タブでは、Tomboyのさまざまな機能を実行するためのグローバルなキーの組み合わせを設定できます。キーの組み合わせを設定するには、[Listen for Hotkeys(ホットキーのリスン)] チェックボックスを選択する必要があります。このオプションのオンまたはオフを切り替えるには、Alt + Hを押します。

図 13.5 Tomboyのホットキーの初期設定



ホットキーの初期設定には、次の設定が含まれます。

メモのメニューを表示します。

メモのメニューを開くためのキーの組み合わせを指定します。

「[ここから開始]」を開きます

Tomboyとともにプレインストールされた「[ここから開始]」メモを開くためのキーの組み合わせを指定します。

新しいノートを作成

新しいノートを作成するためのキーの組み合わせを指定します。

「[すべてのメモを検索]」を開きます。

[すべてのメモを検索] ダイアログボックスを開くためのキーの組み合わせを指定します。

13.9.3 同期の初期設定

[初期設定] ダイアログの [同期] タブでは、Tomboyの他のインスタンスのメモ、通知メモを共有し、通知の受信、メモの取得を行うことができます。この機能はたとえば、デスクトップおよびラップトップで実行するTomboyの別個のインスタンスで単一のメモセットを操作する場合に役立ちます。

図 13.6 この機能はたとえば、デスクトップおよびラップトップで実行するTomboyの別個のインスタンスで単一のメモセットを操作する場合に役立ちます。



Tomboyの同期の初期設定

サービス

同期の初期設定には、次の設定が含まれます。同期ファイルの場所を指定します。リモートの場所に対して同期するには、[アドイン] タブをクリックし、[同期] > [SSH Sync Service Add-in(SSH同期サービスアドイ

ン)] を選択し、[有効] をクリックします。これにより、[サービス] ドロップダウンリストに [SSH(sshfs FUSE)] オプションが追加されます。

選択したサービスで必要な情報を指定し、[保存] をクリックします。

Advanced (詳細)

ローカルメモと設定された同期サーバのメモの間で競合が検出された場合の処理を指定します。競合の発生時に、ローカルメモの名前を変更するか、またはローカルメモを同期サーバ上のメモで置き換えるかを選択するように求めるメッセージの表示の有無を選択できます。

クリア

現在の同期設定をクリアします。同期設定をクリアすることを選択した場合、新しい設定を保存するときに、メモを再同期化することが必要になる場合があります。

メモを同期するには、開いているメモで [ツール] > [メモとの同期] をクリックします。

13.9.4 アドインの初期設定

[アドイン] タブ付きページでは、Tomboyアドイン(以前のプラグイン)を有効にして設定できます。Tomboyには、バックリンク、Bugzillaリンク、Evolutionメール統合、HTMLへのエクスポート、固定幅、目次のメモ、印刷サポート、Sticky Notesインポートなどの複数のプリインストールされたアドインが付属しています。

インストールされたアドインのリストは、[アドイン] タブ付きのページの左側に表示されます。アドインを有効または無効にするには、必要なプラグインを選択し、[有効] または [無効] をクリックします。

図 13.7 Tomboyのアドインの初期設定



[Tomboy Add-ins(Tomboyアドイン)] [<http://live.gnome.org/Tomboy/PluginList>]ページには、追加アドインが存在します。`$HOME/.tomboy/addins`フォルダに新しいアドインを置きます。

パート III. 通信とコラボレーショ ン



Kopeteによるインスタント メッセージング

14

Kopeteはオンラインメッセージングアプリケーションで、インターネットに接続されている複数のパートナーと互いにチャットすることができます。現時点でKopeteは、AOL* Instant Messenger(AIM)、GroupWise® Messenger、ICQ、Jabber*、Lotus* Sametime、MSN、SMS、およびYahoo!*など、一般的なすべてのメッセンジャープロトコルをサポートしています。*。

14.1 Kopeteの設定

友人とチャットする前に、アカウントを作成する必要があります。

- 1 Alt + F2キーを押し、「kopete」と入力して、Kopeteを起動します。
Kopeteが起動しない場合は、パッケージkde4-kopeteがインストールされているかどうかをチェックします。
- 2 [設定] > [設定] を選択し、[Add Accounts(アカウントの追加)] をクリックします。設定ウィザードが表示されます。
- 3 メッセージングサービスを選択します。一般に、これは友人が使用しているサービスによって決まります。
- 4 メッセージングサービスで登録が要求され、このサービスのアカウントがまだない場合は、[Register New Account] をクリックします。開いたブラウザウィンドウで、登録するユーザデータを入力します。

- 5 Kopeteに戻り、メッセージングサービスの登録で受信したデータを入力します。ユーザデータは通常、ニックネームまたは電子メールアドレスとパスワードで構成されています。[Finish]をクリックして、アカウントの設定を完了します。

アカウントを設定した後、チャット相手の連絡先を追加する必要があります。別のPCに連絡先を登録してある場合は、そのデータをインポートし、ログイン後に連絡先リストに自動的に追加することができます。連絡先のエントリを手動で作成するには、[ファイル] > [コンタクトを追加]をクリックします。新しいアシスタントが表示されるので、これに従って連絡先を作成します。しかし、連絡先をリストに追加するには、オンラインで、Kopeteで選択したメッセージングサービスに接続する必要があります。

14.2 友人とのチャット

他の参加者とチャットをするには、インターネットに接続する必要があります。接続したら、[ファイル] > [Set Status] > [Online]の順をクリックしてステータスを設定します。これにより、Kopeteと、選択したメッセージングサービスとの間の接続が確立されます。ログインに成功すると、他のユーザから見えるようになります。

メインのアプリケーションウィンドウには、連絡先のリストがあります。他のユーザとチャットするには、連絡先が必要です。新しい連絡先を追加するには、[ファイル] > [Add Contact(連絡先の追加)]の順をクリックし、IDを選択します。対応するデータ(アカウントによって異なる場合があります)を入力すると、新しい連絡先が表示されます。オンラインのマークが付いている連絡先を右クリックすると、メニューが開き、オプションが表示されます。そのユーザにメッセージを送信するか、チャットセッションを開始します。チャットの場合は、他の参加者をリアルタイムの意見交換に招待します。チャットセッションの作成者がセッションを終了すると、すべての参加者との接続が終了します。

図 14.1 チャットウィンドウ



以前のチャットセッションを表示するには、連絡先を選択して、[ツール] > [Latest History(最新履歴)] の順に選択します。このメニュー項目には、該当ユーザとのチャットセッションが表示されます。また、[編集] > [View History(履歴の表示)] の順に選択することもできます。これにより、すべての連絡先とその保存されたメッセージの概要が表示されたウィンドウが開きます。

他のオプションを表示するには、ユーザ名を右クリックします。ポップアップメニューが開きます。重要なオプションは、チャットセッションを開始するための [Start Chat] です。[Rename Contact (連絡先の名前変更)] と [Remove Contact (連絡先の削除)] を選択すれば、それぞれの操作を行えます。ポップアップメニューにはまた、ユーザ名の表示されるサブメニューもあり、ユーザのブロックやユーザ情報の取得を行えます。

ティップ: 以前のチャットセッションのスクロール

最後のチャットセッションで自分が何を書いたか知りたい場合は、連絡先をクリックしてもう一度チャットウィンドウを開き、Alt + ← または Alt + →

を押してセッションをスクロールします。または、ツールバーの矢印アイコンを使用して、前後にスクロールします。

14.3 Kopeteのカスタマイズ

Kopeteでは、ニーズに合わせてカスタマイズできるさまざまなオプションがあります。次のセクションではいくつかの紹介します。

14.3.1 グループの追加

リストの連絡先をグループ化すると、概要がわかりやすくなります。 *[File]* > *[Create New Group]* をクリックします。グループに名前を指定し、 *[OK]* をクリックして確定します。連絡先リストに新しいフォルダが表示され、これを使用して連絡先を格納できます。連絡先は、ドラッグアンドドロップで別のフォルダに移動できます。

図 14.2 Kopete メインウィンドウ



空のグループは、[設定] > [空のグループの非表示] の順に選択すれば、無効にできます。特別なグループのみをカスタマイズするには、対応するエントリを右クリックし、開いたポップアップウィンドウで [プロパティ] を選択します。ここで、アイコンまたは通知を変更します。

14.3.2 IDの使用

Kopeteは複数のアカウントを管理でき、友人がさまざまなメッセンジャープロトコルを使用している場合に有益です。各アカウントは、異なるIDに関連付けることができます。これは、プライバシーまたはビジネス上の理由から名前を明らかにしたくない場合に役立ちます。新しいIDを作成するには、以下の手順に従います。

- 1 Kopeteで、[設定] > [設定] の順に選択し、[アカウント] タブに移動します。[設定] ウィンドウが表示されます。
- 2 [Add Identity(IDの追加)] を選択し、名前、ニックネーム、その他の情報を入力します。
- 3 新しいIDをさまざまなアカウントで使用する場合は、アカウントを新しいIDに移行します。

14.3.3 通知の設定

Kopeteでは、連絡先がオンラインになったこと、オフラインになったこと、またはメッセージが着信したことなど、イベントに対する通知を設定できます。この操作は、特定のグループまたは単一の連絡先に対してグローバルに行うことができます。

通知オプションを有効にするには、次の手順に従います。

- 1 すべての連絡先がKopeteウィンドウに表示されていることを確認します。すべての連絡先が表示されていない場合は、[設定] > [Show Offline Users(オフラインユーザの表示)] の順に選択します。
- 2 希望する連絡先を右クリックして、[プロパティ] を選択します。通知ダイアログが表示されます。図 14.3 を参照してください。

図 14.3 Kopete の通知ダイアログ



- 3 [通知のカスタマイズ] タブに移動して、[*contact gone online* (連絡先がオンラインから移動)] を選択します。
- 4 このイベントの実行するアクション([サウンドを演奏する]、[*Show a Message in a Popup* (ポップアップでメッセージを表示する)]、[*Log to a File* (ファイルにログを記録する)]、[*Mark Taskbar Entry* (タスクバーエントリをマークする)]、[*コマンドの実行*]) を決定します。
- 5 [OK] をクリックして設定を確認します。

デフォルトの通知オプションを変更するには、[設定] > [通知] の順に選択します。重要なイベントを選択して、通知設定を変更します。たとえば、連絡先のいずれかがオンラインになったときにサウンドで通知されるようにするには、[*A contact has come online*] を選択して [*Play a sound*] を有効にし

ます。サウンドを選択して **[OK]** をクリックして設定ダイアログを閉じます。

14.3.4 Kopeteプラグインの設定

Kopeteではチャットセッションの便利な拡張機能があり、**[Settings]** > **[Configure Plugins]** からアクセスできます。たとえば、テキストの自動置換、発信メッセージの暗号化、メッセージに関心のある語句がある場合のテキストのハイライト、LaTeXフォーマットへの変換、メッセージの翻訳などです。

14.4 詳細情報

Kopeteとチャットの詳細については、以下のWebサイトで入手可能です。

- Kopeteのホームページ [<http://kopete.kde.org/>]
- チャットセッションでよく使用される略語 [http://www.webopedia.com/quick_ref/textmessageabbreviations.asp]
- KDEフォーラム [<http://www.kde-forum.org>]



Pidginによるインスタントメッセージング

15

Pidgin (以前のGaim)は、複数のアカウントに同時に接続できるインスタントメッセージング(IM)クライアントです。使用するIMシステムにかかわらず、1つのタブ付きインタフェースで連絡先とリアルタイムにチャットできます。Pidginは、AOL* Instant Messenger (AIM)、Bonjour、Gadu-Gadu、Google Talk、GroupWise Messenger、ICQ、IRC、Jabber/XMPP、MSN Messenger、Microsoft Live Communication Server (LCS/OCS)、MySpaceIM、QQ、SILC、SIMPLE、Yahoo!*、およびZephyr*のインスタントメッセージングプロトコルをサポートします。Pidginはまた、ファイル転送、アウェイメッセージ、入力通知など、さまざまなネットワークの多数の機能をサポートしています。

次に、Pidginを設定する方法、および連絡先と通信する方法について説明します。

15.1 アカウントの設定

Pidginを使用するには、使用したいシステム上で既にアカウントを取得している必要があります。たとえば、AIMアカウントでPidginを使用するには、最初にAIMアカウントを取得していなければなりません。これらのアカウントを取得すると、そのアカウントをPidginの「[アカウントの追加]」ダイアログボックスで設定します。

手順 15.1 アカウントの追加と編集

- 1 メインメニューからPidginを起動するか、**Alt + F2**キーを押してpidginを入力します。Pidginが起動しない場合は、パッケージpidginがインストールされていることを確認してください。

最初にPidginを起動すると、アカウントを設定するように求められます。以降は、連絡先を表示する「仲間リスト」ウィンドウが表示されます。

- 2 アカウントを追加または編集するには、「[アカウント]」>「[アカウントの管理]」を選択します。
- 3 「[アカウント]」ダイアログでは、「[追加]」をクリックして新しいアカウントを追加するか、既存のアカウントを選択して「[変更]」をクリックします。
- 4 「[基本]」タブで、プロトコルを選択します。各プロトコルで使用可能なセットアップオプションに応じて、プロトコルごとにアカウントを追加または変更するためのダイアログが異なります。



- 5 メッセージングサービスに登録したときに取得したユーザデータを入力します。ニックネームは通常、ニックネームまたは電子メールアドレスとパスワードで構成されています。プロトコルには、buddy icon、エイリアス、ログインオプション、その他など詳細なオプションにサポートしています。

- 6 [詳細] タブで、メッセージサービスまたはシステム管理者から提供されたサーバおよびポートを入力します。
- 7 [保存] をクリックします。
- 8 必要に応じて、上記の各追加プロトコルにアカウントを追加します。

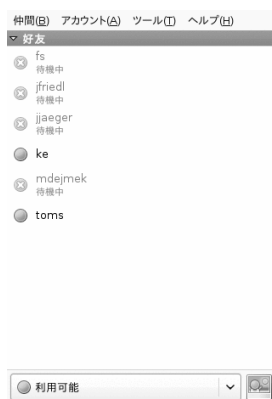
必要に応じて、上記の各追加プロトコルにアカウントを追加します。[アカウント] メニューを使用し、設定したアカウントを表示するか、有効または無効にします。

15.2 連絡先の管理

Buddy Listを使用して、「仲間」である連絡先を管理できます。Buddy Listから仲間の追加と削除を実行できます。さらに、簡単に検索できるよう仲間をグループ別に整理することができます。

アカウントがセットアップされると、オンライン中のすべての仲間が仲間リストに表示されます。オンラインでない仲間も仲間リストに表示したい場合は、[仲間] > [オフラインの仲間を表示する] の順にクリックします。

図 15.1 Pidgin仲間リスト



仲間リストに仲間を追加するには、[仲間]、> [仲間の追加] の順にクリックして、その仲間に関する情報を入力します。

注意: 特定のプロトコルに対する連絡先の追加

一部のプロトコルでは、Pidginインタフェースに仲間を追加できません。自分のBuddy Listに追加したい場合、それらのプロトコルのクライアントを使用します。プロトコルのクライアントに仲間を追加したら、Buddy Listにその仲間が表示されます。

連絡先のリストから仲間を削除するには、仲間リストにある該当する仲間の名前を右クリックし、**[削除]** をクリックします。

15.3 友人とのチャット

他の参加者とチャットをするには、インターネットに接続する必要があります。ログインが成功すると、通常は仲間リストで**接続可能**としてマークされ、したがって他のユーザから確認できるようになります。ステータスを変更するには、仲間リストの下部にあるドロップダウンリストをクリックし、別のオプションを選択します。

チャットセッションを開くには、Buddy Listで仲間の名前をダブルクリックします。チャットセッションが開きます。メッセージを入力して、**[Enter]** を押すと、送信されます。

開かれる各チャットセッションは、チャット画面にタブとして表示されます。仲間のタブをクリックすると、その仲間とチャットできます。仲間のタブを閉じると、チャットセッションが終了します。

図 15.2 Pidginチャットセッション



15.4 詳細情報

本章では、Pidginをセットアップし、連絡先と通信するために知っておくべきPidginオプションについて説明します。すべてのPidginの機能とオプションを説明しているわけではありません。詳細については、Pidginを起動し、[ヘルプ]、> [オンラインヘルプ]の順にクリックするか、F1キーを押してください。



EkigaでのVoice over IPの使用

現在のテレコミュニケーションは、単に電話をかけることだけを意味するわけではありません。テキストメッセージを交換し、時にはテレビ会議を行うことも含まれます。ローミングによって、1つの電話番号で世界中に接続ができます。Ekigaでは、これらの機能をLinuxデスクトップでを使用してブロードバンドのインターネットで通信できるようにします。

始める前に、以下の要件を満たしていることを確認してください。

- サウンドカードが適切に設定されている。
- ヘッドセットまたはマイクとスピーカーがコンピュータに接続されている。
- 通常の電話回線にダイヤルするには、SIPアカウントが必要です。
SIP(*Signaling protocol for Internet Telephony*)は、音声およびテレビ会議またはコール転送のセッション確立に使用されるプロトコルです。世界中には、多数のVoIPプロバイダが存在します。まず、<http://www.ekiga.net>でEkigaプロジェクトが提供するサービスをご覧ください。
- テレビ会議の場合、Webカメラがコンピュータに接続されている。

16.1 Ekigaの設定

最初に起動すると、Ekigaの設定アシスタントが開き、Ekigaのインスタンスの設定に必要なすべてのデータが要求されます。Ekigaを設定するには、以下の手順に従います。

- 1 フルネーム(名前と姓)を入力します。
- 2 ekiga.netアカウントデータを入力するか、またはekiga.netに登録しないことを選択します。

別のアカウントを後で追加するには、`[Edit]` > `[Accounts]` を使用して設定します。

- 3 Ekiga Call Outアカウントデータを入力するか、ekiga.netに登録しないことを選択します。
- 4 接続タイプを指定します。

- 5 使用するオーディオマネージャを選択します。デフォルトの設定 `[ALSA]` を使用します。これによって最良の音質が保証されます。SUSE Linux Enterprise Desktopでは、OSSなどの他のサウンドシステムは使用できません。

デフォルトでは、リングするデバイスセットは存在しません。リングトーンを使用する場合は、使用可能ないずれかのオーディオデバイスにこの設定を変更します。

- 6 使用可能な場合はビデオ入力デバイスを選択します。
- 7 設定の概要を確認して適用します。
- 8 設定を変更した後に登録が失敗した場合は、Ekigaを再起動します。

Ekigaでは複数のアカウントを管理できます。アカウントを追加して設定するには、以下の手順に従います。

- 1 `[編集]` > `[アカウント]` を開きます。

- 2 [アカウント]> [<アカウントの種類>の追加] の順に選択します。わからない場合は、 [Add a SIP Account(SIP アカウントの追加)] を選択します。
- 3 登録先を [Registrar] に入力します。これは通常は、インターネットテレフォニーサービスプロバイダが指定するIPアドレスまたはホスト名です。プロバイダが指定したデータに従って、ユーザとパスワードを入力します。
- 4 [OK] をクリックして設定ダイアログを終了し、アカウントを有効にします。Ekigaメインウィンドウに表示されるアカウントの状態が [Registered] に変更されます。

16.2 Ekigaのユーザインタフェース

Ekigaユーザインタフェースでは、いくつかのタブが使用可能です。第1のタブは [連絡先]、第2のタブは [Dialpad(ダイヤルパッド)]、第3のタブは [コール履歴] です。加えて、ローカルウェブカムまたはリモートウェブカムの画像およびビデオを表示できる *Call Panel*(コールパネル)が使用可能です。

☒ 16.1 Ekigaのユーザインタフェース



ユーザインタフェースにはさまざまなモードがあります。ビューを切り替えるには、タブラインを使用します。デフォルトでは、Ekigaで [連絡先] タブ

が開きます。このタブでは、ローカルアドレス帳を使用して、よく使用する番号への接続をすばやく開くことができます。ウェブカムをサポートしオーディオ制御機能を含む完全なビューを表示するには、**[表示] > [Show Call Panel(コールパネルの表示)]** の順にクリックし、**Call Panel(コールパネル)**を有効にします。

Call Panel(コールパネル)の下側には、**[Audio Settings(オーディオ設定)]**、**[Video Settings(ビデオ設定)]**、**[Video Display(ビデオ表示)]**、**[Hold Call(コール保留)]** など複数の制御用アイコンがあります。すべてのアイコンはツールチップを提供し、マウスポインタをアイコン上に置くと表示されます。**[Audio]** 設定などの一部の設定は、通話中にのみ変更できます。

Ekigaの機能の多くは、キーボードショートカットで使用できます。表 16.1. 「Ekigaのキーボードショートカット」 (178 ページ)に重要なショートカットをまとめてあります。

表 16.1 Ekigaのキーボードショートカット

Ctrlシーケンス	説明
Ctrl + O	現在の番号でコールを開始します。
Esc	通話を切断します。
Ctrl + N	アドレス帳に連絡先を追加します。
Ctrl + B	[アドレス帳] ダイアログを開きます。
H	現在のコールを保留にします。
T	現在のコールを別の相手に転送します。
M	現在の通話のオーディオストリームを一時停止します。
P	現在の通話のビデオストリームを一時停止します。
Ctrl + W	Ekigaユーザインタフェースを閉じます。
Ctrl + Q	Ekigaを終了します。

Ctrlシーケンス	説明
Ctrl + E	アカウントマネージャを開始します。
Ctrl + J	メインユーザインタフェースの <i>Call Panel</i> (コールパネル)を有効にします。
Ctrl + +	Webカメラからの画像にズームインします。
Ctrl + -	Webカメラからの画像にズームアウトします。
Ctrl + 0	Webカメラの標準サイズの画面に戻ります。
F11	Webカメラの全画面表示を行います。

16.3 電話をかける

いったんEkigaを正しく設定すれば、電話は簡単にかけることができます。

- 1 メニューまたはコマンドラインからEkigaを起動します。
- 2 *[SIPアドレス]* に、通話相手のSIPアドレスを入力します。アドレスは次のような形式になります。
 - 近距離の直接通話の場合: sip:username@domainnameまたはusername@hostname
 - sip:username@domainnameまたはuserid@sipserver
- 3 *[Call]* をクリックするか、またはCtrl+Oを入力して、相手が電話に出るまで待ちます。
- 4 コールを終了するには、*[Hang up(切断)]* をクリックするか、またはEscキーを押します。

通話中にサウンドパラメータを微調整する必要がある場合は、*Call Panel*(コールパネル)の *[Audio Settings(オーディオ設定)]* アイコンをクリックします。

再生レベルおよび録音レベルに関するオーディオオプションを含むインタフェースが表示されます。必要に合わせてレベルをスライダで調整してください。

16.4 電話に出る

Ekigaでは2つの方法で電話に出られます。まず、ユーザは直接`sip:user@host`で呼び出されます。または、SIPプロバイダ経由で通話します。多くのSIPプロバイダは、通常の電話回線からVoIPアカウントに通話を受けられるようにしています。Ekigaが実行されているモードに応じて、着信コールの通知方法は複数あります。

通常のアプリケーション

着信は、Ekigaがすでに実行している場合にのみ、受け付けて応答することができます。着信音は、ヘッドセットまたはスピーカから聞こえます。Ekigaを実行していないときには、電話を受けることはできません。

パネルアプレット

通常、Ekigaのパネルアプレットは、サイレントで動作しており、目立ちません。。これにより、着信が入るとすぐに次のように変わります。Ekigaのメインウィンドウが開き、ヘッドセットまたはスピーカから呼び出し音が聞こえます。

着信に気が付いたら、*[Accept]* をクリックして、電話に出て会話します。電話に出たくない場合には、*[Reject]* をクリックします。コールを別のSIPアドレスに転送することもできます。

16.5 アドレス帳を使用する

Ekigaには、SIPによる連絡先を管理する機能があります。起動後にメインウィンドウに表示される *[連絡先]* タブにすべての連絡先が表示されます。連絡先または新しい連絡先グループを追加するには、*[チャット]* > *[Add Contact(連絡先の追加)]* を実行します。

新しいグループを追加する場合は、下部の入力フィールドにグループ名を入力し、*[追加]* をクリックします。これにより、新しいグループがグループ一覧に追加され、事前に選択されます。

有効な連絡先には、以下のエントリが必要です。

名前

連絡先の名前を入力します。フルネームも入力できますが、またはニックネームも使用できます。

SIPアドレス

連絡先の有効なSIPアドレスを入力します。

グループ

多数の連絡先がある場合は、必要に応じて独自のグループを追加できます。

アドレス帳から連絡先に通話するには、この連絡先をダブルクリックします。即座に電話がかかります。

16.6 詳細情報

Ekigaの公式ホームページは、<http://www.ekiga.org/>です。このサイトでは、よくある質問への回答のほか、より詳細なマニュアルを利用できます。

LinuxでのH323電子会議プロトコルのサポートの詳細は、<http://www.voip-info.org/wiki/view/H.323>を参照してください。VoIPをサポートするプロジェクトを検索する際には、まずここを探してください。

プライベートな電話ネットワークを設定するには、PBXソフトウェアのAsteriskを検討できます<http://www.asterisk.org/>。詳細は、<http://www.voip-info.org/wiki-Asterisk>を参照してください。



パート IV. インターネット



Konquerorを使ったブラウズ

Konquerorは最新のWebブラウザですが、ファイルマネージャとしても使用できます。ただし、ファイルおよびディレクトリを管理するには、Dolphinを使用することをお勧めします。パネルの「ウェブブラウザ」アイコン(地球の周囲に歯車が付いている形)をクリックすると、KonquerorはWebブラウズプロファイルを使ってブラウザとして起動されます。ブラウザとしてのKonquerorは、タブブラウズ、画像を含むWebページの保存、インターネットキーワード、およびブックマークの機能を提供し、JavaとJavaScriptをサポートします。

☒ 17.1 Konquerorのブラウザウィンドウ



Konquerorは、メインメニューから起動するか、コマンドラインでkonquerorコマンドを入力して起動します。Konquerorが起動しない場合は、パッケージkde4-konquerorがインストールされているかどうかをチェックします。

Webページをロードするには、場所ツールバーにそのアドレス(`http://www.opensuse.org`など)を入力します。Konquerorはこのアドレスにアクセスして、ページを表示しようと試みます。アドレスの先頭にプロトコル(この場合は`http://`)を入力することは必須ではありません。アドレスをプログラムで自動的に完成させることができますが、これが確実に機能するのはWebアドレスの場合だけです。FTPアドレスについては、入力フィールドの先頭に必ず`ftp://`と入力する必要があります。

17.1 タブブラウズ

一度に複数のWebページを使用することがよくある場合は、タブブラウズ機能を使用すると、ページの切り替えが容易になります。この機能は、複数のWebサイトを1つのウィンドウ内の個別のタブにロードします。これにより、デスクトップ上に1つのメインウィンドウだけが表示されるので、デスクトップを管理しやすくなります。ログアウト後は、KDEのセッション管理によって、KonquerorにWebセッションを保存できます。次のログイン時に、最後にアクセスしたURLがロードされます。

新しいタブを開くには、[ウィンドウ] > [新しいタブ] を選択するか、`Ctrl+Shift+N`キーを押します。タブの動作を設定するには、[設定] > [Konquerorを設定] の順に選択します。表示されるダイアログボックスで、[Web動作] > [タブブラウズ] の順に選択します。ウィンドウを開く代わりに新しいタブを開くには、[リンクは新しいウィンドウではなく、新規タブで開く] を有効にします。[一つのタブしかオープンしていない場合、タブバーを非表示にする] を使用して、タブバーを非表示にすることもできます。他のオプションを表示するには、[詳細オプション] をクリックします。

17.2 [自動スクロール]

通常は、Webページの下方の情報を表示するには、マウスを使用してスクロールするのが一般的な方法です。ただし、マウスを使わない方が適している場合もあります。キーボードから手を離す代わりに、キーの組み合わせを使用した方が便利です。

自動的に下方向にスクロールするには、`Shift+↓`キーを使用します。こうすると、それ以上の操作を行わなくてもページが下方向にスクロールします。も

う一度Shift+↓キーを押すと、スクロールの速度が速くなります。Shift+↑キーを押すと、速度が遅くなります。スクロールを停止するには、↓キーを使用します。

17.3 [プロファイル]

17.1項「タブブラウズ」(186ページ)では、Konquerorでのタブの処理方法について説明しました。タブをURLおよびウィンドウの位置とともにプロファイルに保存できます。これは、既に説明したセッション管理とは異なります。プロファイルを使用すると、保存したタブを手元に置くことができるため、セッション管理のように起動時だけではなく、いつでもタブを復元できます。

プロファイルを作成するには、次の手順に従います。

- 1 [設定] > [ビューのプロファイルを設定] の順に選択します。
- 2 表示されるダイアログボックス内で、[プロファイル名] に名前を挿入します。
- 3 URLを保存するには、[プロファイルにURLを保存] を選択します。
- 4 ウィンドウの位置およびサイズを固定するには、[Save window size in profile(プロファイルにウィンドウのサイズを保存)] を選択します。
- 5 [保存] をクリックします。

次回「タブコレクション」が必要になったときに、[設定] > [ビューのプロファイルを読み込み] を選択すると、指定したプロファイル名がメニューに表示されます。名前を選択すると、タブが復元されます。

17.4 Webページと画像の保存

Konquerorでは、他のブラウザと同様にWebページを保存できます。これを行うには、[ファイル] > [名前を付けて保存] の順に選択し、HTMLファイルの名前を指定します。ただし、イメージは保存されません。イメージを含むWebページ全体をアーカイブするには、[ツール] > [WEBページをアーカイブに] を選択します。Konquerorは、ユーザが通常そのまま使用できるよ

うなファイル名を提案します。ファイル名は、Webアーカイブを示す拡張子 `.war` が末尾に付きます。保存したWebアーカイブを後で表示する場合は、ファイルをクリックするだけで、Konquerorにイメージとともに表示されます。

17.5 Konquerorによる検索

Konquerorを使用した検索は、非常に便利です。検索バーまたはWebショートカットを使用できます。

17.5.1 検索バーの使用

Konquerorには検索バーがあり、多くのサーチエンジンから選択できます。特定の用語を検索する場合は、次の手順に従います。

- 1 Konquerorで検索バーを見つけます。場所ツールバーの右側にあります。
- 2 検索バー内のアイコンをクリックします。ポップアップメニューからサーチエンジンを選択します。
- 3 検索する用語を挿入し、<Enter>キーを押します。Konqueror内に結果が表示されます。

ポップアップメニューに表示されないサーチエンジンを使用する場合は、次のように追加します。

手順 17.1 その他のサーチエンジンの追加

- 1 Konquerorで、検索バー内のアイコンをクリックします。
- 2 *[Select Search Engines(サーチエンジンの選択)]* を選択します。
- 3 *[Enable Web Shortcuts]* が有効になっていることを確認します。
- 4 該当するサーチエンジンを有効にし、*[OK]* をクリックしてダイアログボックスを閉じます。検索バー内のアイコンをクリックすると、選択したサーチエンジンが表示されます。

17.5.2 Webショートカットの使用

定義されている各サーチエンジンには、Webショートカットが割り当てられています。このショートカットは、場所ツールバーに入力できます。

定義済みのショートカットを確認するには、**[設定] > [Konquerorを設定]** > **[Webショートカット]** を選択します。検索プロバイダとショートカットの名前が表示されます。Konquerorには、Google、Yahoo、Lycosなどのサーチエンジンから、Acronym Database、インターネット映画データベース、KDEアプリケーション検索のような一般的にあまり使用されないサーチエンジンまで、多数のサーチエンジンが定義されています。

ここで目的のサーチエンジンが見つからない場合は、新しいサーチエンジンを簡単に定義できます。たとえば、興味がある記事についてホームページを検索するには、<http://en.opensuse.org/>に移動し、クエリを入力し、目的の結果を見つけます。

手順 17.2 Webショートカットの新規作成

- 1 検索バーに移動し、アイコンをクリックし、**[Select Search Engines]** を選択します。
- 2 **[Enable Web Shortcuts]** が有効になっていることを確認します。
- 3 **[New]** をクリックします。
- 4 Webショートカットを新規作成します。
 - 4a **[検索プロバイダ名]** でWebショートカットに名前を割り当てます。
 - 4b 検索URIを入力します。たとえば、openSUSE内を検索する場合は、`http://en.opensuse.org/Special:Search?search=\{@}`を使用します。検索クエリは`\{@}`で指定されます。詳細については、**[Search URI (URIの検索)]** テキストフィールドをクリックし、**Shift + F1**を押してください。
 - 4c **[URIショートカット]** に略語を入力します。複数の略語を入力する場合は、コンマで区切って入力します。

5 [OK] をクリックして、続行します。

新しく作成したWebショートカットは、ロケーションバーで使用できます。結果は現在のウィンドウに表示されます。

ティップ: Konquerorを開かずに直接ショートカットを使用

Konquerorを開いてWebショートカットを入力する必要はありません。メインメニューから [コマンドの実行] を選択するか、またはAlt+F2を押して、直接ショートカットを使用することもできます。ダイアログボックスが表示されたら、ショートカット、コロン(:)、および検索語を入力します。

17.6 ブックマーク

頻繁にアクセスするサイトのURLアドレスを記憶してそのつど入力する代わりに、[ブックマーク] メニューを使用すると、これらのURLをブックマークとして保存できます。この方法で、Webページのアドレスのほか、ローカルディスク上のディレクトリをブックマークとして保存することもできます。

Konquerorで新しいブックマークを作成するには、[ブックマーク] > [ブックマークに追加] をクリックします。以前に追加したすべてのブックマークが、メニュー項目として表示されます。さまざまな項目を見つけやすいように、ブックマークをテーマ別の階層構造に整理することをお勧めします。ブックマークの新しいサブグループを作成するには、[新規ブックマークフォルダ] を使用します。[ブックマーク] > [ブックマークを編集] を選択すると、ブックマークエディタが表示されます。このプログラムを使用すると、ブックマークを整理、変更、削除することができます。

Netscape、Mozilla、またはFirefoxもあわせて使用している場合、ブックマークを再度作成する必要はありません。[ファイル] ブックマークエディタで> [インポート] > [Netscapeのブックマークをインポート] の順に選択すると、NetscapeとMozillaのブックマークを最新のブックマークに統合できます。逆方向の統合も、[Netscapeへブックマークをエクスポート] を使用して実行できます。

ブックマークを変更するには、エントリを右クリックします。ポップアップメニューが表示されるので、切り取り、コピー、削除などのアクションを選択します。変更が完了したら、[ファイル]>[保存]の順に選択して、ブッ

クマークを保存します。名前またはリンクのみ変更する場合は、ブックマークツールバーでエントリを右クリックし、[プロパティ]を選択します。名前と場所を変更し、[Update (更新)]をクリックします。

ブックマークのリストを保存し、それに簡単にアクセスできるようにするには、ブックマークをKonquerorに表示します。[設定] > [ツールバー] > [ブックマークツールバー(Konqueror)]を選択してください。現在のKonquerorウィンドウに、ブックマークパネルが自動的に表示されます。

17.7 JavaとJavaScript

この2つの言語を混同しないでください。Javaは、Sun Microsystemsによるプラットフォームに依存しないオブジェクト指向のプログラミング言語です。Javaは通常、小さなプログラム(アプレット)に使用され、オンラインバンキング、チャット、ショッピングでインターネットを経由して実行されます。JavaScriptは、主に、メニューやその他の効果などのWebページのダイナミック構造化に使用されるインタプリタスクリプト言語です。

Konquerorでは、この2つの言語を有効または無効にできます。これはドメインごとに設定できるので、一部のホストにはアクセスを許可し、他のホストへのアクセスをブロックすることができます。JavaおよびJavaScriptは、セキュリティ上の理由で無効にすることがよくあります。ただし、正しく表示するためにJavaScriptが必要なWebページもあります。

17.8 Advertisement Blocker(広告ブロッカー)の使用

Webページの中には、わずらわしい広告が表示されるものもあります。Konquerorを使用すると、これらのウィンドウをブロックできます。次の手順に従います。

手順 17.3 広告の拒否

- 1 Konquerorで、[設定] > [Web Browsing(Web閲覧)] > [AdBlockフィルタ]の順に選択します。

- 2 *[Enable filters(フィルタの有効化)]* を有効にします。
- 3 フィルタするWebページの表現を入力します。たとえば、次のような指定内容です。

`http://www.example.com/*`

こうすると、そのURLで始まるすべてがフィルタされます。
- 4 *[挿入]* をクリックします。

別のコンピュータのエントリが必要な場合は、*[エクスポート]* をクリックしてファイルを保存し、他のコンピュータにファイルを移動して、そこから同じダイアログボックスでKonqueror内にインポートします。

17.9 詳細情報

Konquerorでの作業中に不明な点や問題が発生した場合は、*[ヘルプ]* メニューからアクセスできる、アプリケーションのハンドブックを参照してください。KonquerorのWebページ(<http://www.konqueror.org>)を参照することもできます。

Firefoxを使用したブラウジング

18

SUSE® Linux Enterprise Desktopには、Mozilla Firefox Webブラウザが付属しています。タブブラウズ、ポップアップウィンドウのブロック、ダウンロードとイメージ管理などの機能を備えたFirefoxは、最新のブラウズ機能とセキュリティ技術を使いやすいユーザインタフェースに統合しています。タブを使用して、1つの画面で複数のWebページを表示できます。迷惑な広告を抑制し、イメージを無効にして、高速でブラウズできます。複数の検索エンジンに簡単にアクセスできるので、必要な情報を探しやすくなっています。

Firefoxを起動するには、メインメニューから、またはコマンドfirefoxを入力します。以降では、このプログラムの主要な機能について説明します。

18.1 Webサイトのナビゲート

Firefoxのルックアンドフィールは他のブラウザととてもよく似ています。このツールを「 18.1. 「Firefoxのブラウザウィンドウ」 (194 ページ)」に示します。ナビゲーションツールバーには、*[Forward(進む)]* および *[Back(戻る)]*、Webアドレスのスマートロケーションバー、および検索バーが含まれます。またブックマークは、ブックマークツールバーからすばやくアクセスするために使用できます。Firefoxのさまざまな機能についての詳細は、*[ヘルプ]* メニューを使用してください。

図 18.1 Firefoxのブラウザウィンドウ



18.1.1 スマートロケーションバー

ロケーションバーに入力すると、自動補完ドロップダウンメニューが開き、入力内容に一致するアドレスが表示されます。一致するフレーズは、太字の文字で強調表示されます。このドロップダウンメニューには、すべての一致アドレスとブックマーク、そして閲覧履歴およびブックマークリストからのページタイトルとタグ名が表示されます。単語の境界を超えた一致最近に最も頻繁にアクセスされたエントリがリストの最初に表示されます。

ブックマークのリストからのエントリには星のマークが付けられます。タグ付きのブックマークには追加ラベルが付けられその後にタグ名が付けられます。閲覧履歴からのリストエントリはマークされません。

↑と↓、またはマウスホイールを使用してリストをスクロールします。Enterを押すかエントリをクリックすると、選択したページに移動します。Delは、履歴のエントリである場合、リストからエントリを削除します。ブックマークのエントリは、関連するブックマークを削除することによってのみ削除できます。

18.1.2 ズーム

Firefoxでは、ページズーム、そしてデフォルトのテキストズームの2つのズームオプションが提供されています。テキストズームではテキストサイズのみが変更されるのに対して、ページビューではグラフィックを含むページの全要素とともにページ全体がそのまま均等に拡大されます。

ページズームとテキストズームを切り替えるには、[表示] > [ズーム] > [Zoom Text Only(テキストのみズーム)] の順に選択します。ズームインまたはズームアウトを行うには、Ctrlキーを押しながらマウスホイールを使用するか、またはCtrl++およびCtrl+-を使用します。Ctrl+0でズーム要素をリセットします。

18.1.3 タブブラウズ

一度に複数のWebページを表示することが多い場合、タブブラウズによってページを切り替えるのが容易になります。Webサイトを同じウィンドウの別のタブにロードできます。

タブを開く

新しいタブを開くには、[ファイル] > [新しいタブ] の順に選択するか、Ctrl+Tキーを押します。これにより、Firefoxウィンドウに空のタブが表示されます。タブ内でWebページまたはブックマークのリンクを開くには、マウスの中ボタンをクリックします。代わりに、リンクを右クリックし、[Open link in new tab (リンクを新しいタブで開く)] を選択することもできます。また、Ctrl+Enterを押すことにより、ロケーションバーのアドレスを新しいタブで開くことができます。

タブを閉じる

タブを右クリックすると、閉じる、再ロード、ブックマークなど、タブ管理オプションを選択できるコンテキストメニューが開きます。またタブを終了する場合、Ctrl+Wキーを押すか、閉じるボタンをクリックすることもできます。閉じたタブは、[履歴] > [Recently Closed Tabs(最近閉じたタブ)] の順に選択することで元に戻すことができます。最後に閉じたタブを再度開くには、コンテキストメニューから [Undo Close Tab(閉じたタブを元に戻す)] を選択するか、またはCtrl+Shift+Tキーを押します。

タブのソート

デフォルトでは、タブは開いた順にソートされます。タブを目的の場所にドラッグ&ドロップすることにより、タブの順序を変更できます。多数のタブを開いている場合は、タブバーにすべてのタブが表示されません。バーの端にある矢印を使用して左に移動するか、タブバーの右端にある下矢印を右クリックしてすべてのタブのリストを表示します。

ドラッグアンドドロップ

ドラッグアンドドロップは、タブでも使用できます。既存のタブにリンクをドラッグすると、そのタブでリンクが開きます。また、タブバーの空白の領域にリンクをドラッグアンドドロップすると、新しいタブが開きます。

18.1.4 サイドバーの使用

ブラウザウィンドウの左側を使用して、ブックマークやブラウズ履歴を表示できます。拡張機能によって、サイドバーを使用するための新しい方法が追加されることがあります。サイドバーを表示するには、`[表示]` > `[サイドバー]` の順に選択し、目的のコンテンツを選択します。

18.2 情報の検索

Firefoxで情報を検索するには、検索バーを使用して検索エンジンでインターネットを検索する方法と、ページ内検索バーで現在表示されているページを検索する方法の2つがあります。

18.2.1 Web上での情報の検索

Firefoxには検索バーがあり、Google、Yahoo、Amazonなどのさまざまな検索エンジンにアクセスできます。たとえば、現在のエンジンでSUSEに関する情報を検索したい場合は、検索バー内をクリックしてから「SUSE」と入力し、`Enter`キーを押します。検索結果がウィンドウに表示されます。検索エンジンを選択するには、検索バーの左にあるアイコンをクリックします。メニューが開き、利用可能な検索エンジンのリストが表示されます。

検索バーのカスタマイズ

バーの検索エンジンの順序変更、追加、削除を行うには、インターネットに接続して以下の手順に従います。

- 1 検索バーの左にあるアイコンをクリックします。
- 2 メニューから、`[検索バーの管理]` を選択します。

- 3 エントリを削除するには [削除]、順序を変更するには [上へ/下へ] をクリックします。

検索エンジンを追加するには、[Get more search engines(検索エンジンの追加)] をクリックします。Firefoxによって、Webページに使用可能なプラグインが表示されます。Wikipedia、IMDB、Flickrなど、さまざまなエンジンを選択することができます。プラグインリンクをクリックして、[追加] を選択してインストールします。

図 18.2 検索エンジンの管理



一部のWebサイトでは、検索バーに直接追加できる検索エンジンを提供しています。こうしたWebサイト内を閲覧している場合は常に、検索バーの左側のアイコンが青くなります。このアイコンをクリックし、メニューから「[追加]」エントリを選択します。

オンライン検索へのスマートキーワードの追加

Firefoxでは、独自のスマートキーワードを定義することができます。スマートキーワードは、特定の検索エンジンのURLショートカットとして使用する略語です。たとえば、Wikipedia検索のスマートキーワードとしてwsを定義すると、ロケーションバーに「ws SEARCHTERM」と入力してWikipediaでSEARCHTERMを検索できるようになります。

検索バーから検索エンジンのショートカットを割り当てるには、検索バーの左側のアイコンをクリックし、*[Manage Search Engines(検索エンジンの管理)]* ダイアログを開きます。検索エンジンをマークし、*[Edit Keyword(キーワードの編集)]* ダイアログを開きます。

また、Webサイトの検索フィールド用のスマートキーワードを定義できます。次の手順に従います。

- 1 検索フィールドを右クリックし、開いたメニューから *[Add a Keyword for this Search(この検索に対するキーワードを追加)]* を選択します。
[ブックマークに追加] ダイアログが表示されます。
- 2 [名前] に、このスマートキーワードの内容を表す名前を入力します。
- 3 この検索のキーワードを入力します。
- 4 *[Create In(作成場所)]* で、このスマートキーワードを保存する場所を選択します。
- 5 [追加] を使用して操作を完了します。

ティップ: Regular Webサイトのスマートキーワード

スマートキーワードの使用は、検索エンジンに制限されているわけではありません。また、(ブックマークのプロパティにより)ブックマークにスマートキーワードを追加できます。たとえば、Novellホームページのブックマークにnovを割り当てた場合、ロケーションバーに「nov」と入力するだけでそのページを開くことができます。

18.2.2 現在のページ内での検索

Webページ内を検索するには、[編集] > [このページを検索] の順にクリックするか、またはCtrl+Fキーを押します。検索バーが表示されます。通常、このバーはウィンドウの一番下に表示されます。入力フィールドに、検索条件を入力します。Firefoxでは、入力中にこのフレーズに一致した最初の文字列が検索されます。このフレーズと一致するその他の項目を検索するには、F3キーを押すか、検索バーの [次を検索] ボタンをクリックします。[Highlight All(すべてを強調表示)] ボタンをクリックすると、このフレーズに一致した

すべての文字列が強調表示されます。[大文字/小文字を区別する] オプションを選択すると、検索で大文字と小文字が区別されます。

Firefoxはまた、2つのクイック検索オプションを提供しています。Webページ上で検索する任意の場所をクリックするか、/キーを押し、その後すぐ検索用語を入力します。検索用語に一致した最初の文字列が入力中に強調表示されます。次の検索用語を検索するには、F3キーを使用します。また、クイック検索機能をリンクにのみ制限できます。この検索オプションは、'キーを押すことで使用できます。

18.3 ブックマークの管理

ブックマークにより、お気に入りのWebサイトへのリンクを保存しておくことができます。またFirefoxでは、1回のマウスクリックのみで新しいブックマークを非常に簡単に追加できるだけでなく、大量のブックマークコレクションを管理するために複数の方法が用意されています。フォルダに対するブックマークのソート、スマートブックマークと呼ばれるその場で更新されるフィルタ付きビューの作成、タグによるブックマークの分類を行うことができます。

ロケーションバーの星をクリックすることにより、ブックマークを追加します。ページにブックマークが設定されたことを示すために星が黄色になります。この星をクリックすると、[Unsorted Bookmarks(未ソートのブックマーク)] フォルダ内でページタイトルの名前でブックマークが保存されます。星をダブルクリックすると、ブックマークの保存場所を選択し、名前とタグを入力するためのメニューが開きます。タブにブックマークを設定するには、コンテキストメニューを使用します。タブ内を右クリックし、[Bookmark This Tab(このタブをブックマーク)] または [Bookmark All Tabs(すべてのタブをブックマーク)] のいずれかを選択します。後者の方法の場合、タブリンクに新しいフォルダを作成するよう求められます。

ブックマークを削除または編集するには、ブックマークを開き、ロケーションバーの星をクリックします。また、[ブックマーク] を選択し、リストのブックマークを右クリックし、[削除] をクリックしてブックマークを削除するか、[プロパティ] をクリックしてブックマークを編集します。

18.3.1 ブックマークの整理

ライブラリを使用すると、各ブックマークのプロパティ(名前とURL)を管理したり、ブックマークをフォルダやセクション内に分類したりできます。この機能は、「図 18.3. 「Firefoxブックマークライブラリ」 (200 ページ)」に示しています。

図 18.3 Firefoxブックマークライブラリ



ライブラリを開くには、[ブックマーク] > [Organise Bookmarks(ブックマークの整理)] をクリックします。ライブラリウィンドウは2つの部分から成り、左側のペインにはフォルダツリービューが表示され、右側のペインには選択したフォルダのサブフォルダおよびブックマークが表示されます。右側のペインをカスタマイズするには [ビュー] を使用します。左側のペインには、3つのメインフォルダが含まれます。

履歴

完全な閲覧履歴が含まれます。エントリを削除する以外に、このリストを変更することができません。

タグ

指定した各タグのブックマークの一覧を表示します。タグの詳細については、18.3.2項「タグ」(202 ページ)を参照してください。

すべてのブックマーク

このカテゴリには、3つのメインブックマークフォルダが含まれます。

ブックマークツールバー

ロケーションバーの下にブックマークとフォルダが表示されます。詳細については、18.3.6項「ブックマークツールバー」(204 ページ)を参照してください。

ブックマークメニュー

メインメニューまたはブックマークのサイドメニューの [ブックマーク] エントリから使用できるブックマークおよびフォルダが含まれます。

未ソートのブックマーク

ロケーションバーの星を1回クリックして作成されたすべてのブックマークが含まれます。このフォルダは、ライブラリおよびブックマークのサイドバーでのみ表示されます。

右側ペインを使用して、ブックマークを整理します。アイテムを右クリックすると開くコンテキストメニューまたは [Organise(整理)] ダイアログのいずれかから、フォルダまたはブックマークのアクションを選択します。選択したフォルダまたはブックマークのプロパティは、右側のペインの下部で編集できます。デフォルトでは、ブックマークの 名前、場所、および タグ のみが表示されます。[詳細] をクリックすると、すべてのプロパティにアクセスできます。

ブックマークの配置を変更するには、ドラッグアンドドロップを使用します。ブックマークを左クリックし、マウスボタンを押したままブックマークを新しい位置にドラッグします。マウスボタンを離してドロップします。この方法により、別のフォルダにブックマークまたはフォルダを移動したり、フォルダ内でブックマークの順序を変更したりできます。

18.3.2 タグ

タグは、複数のカテゴリでブックマークを記録するための便利な方法です。必要な数の単語でブックマークにタグ付けできます。たとえば、suseのタグが付けられたすべてのサイトにアクセスするには、ロケーションバーでsuseと入力します。さらに、ライブラリのタグフォルダ内で各タグのスマートブックマークフォルダが自動的に作成されます。タグのスマートブックマークをブックマークツールバーまたはブックマークメニューのフォルダにドラッグアンドドロップすることで、スマートブックマークに簡単にアクセスできます。

ブックマークにタグを追加するには、Firefoxでブックマークを開き、ロケーションバーの黄色い星をクリックします。カンマで区切ったタグのリストを追加できる *[Edit This Bookmark(このブックマークの編集)]* ダイアログが開きます。また、ライブラリで開くことのできるブックマークのプロパティダイアログを使用するか、メニューまたはツールバーでブックマークを右クリックすることにより、タグを追加できます。

18.3.3 ブックマークのインポートとエクスポート

今までに別のブラウザを使用していた場合、以前のブックマークをFirefoxでも使用したいはずです。Firefoxでは、システムにインストールされたNetscapeやOperaなどの別のブラウザからブックマークを自動的にインポートできます。また、異なるコンピュータのブラウザまたはバックアップからエクスポートしたファイルからブックマークをインポートできます。

別のブラウザまたはHTML形式のファイルからブックマークをインポートするには、*[ブックマーク] > [Organise Bookmarks(ブックマークの整理)]* の順に選択してライブラリを開きます。*[Import and Backup(インポートおよびバックアップ)] > [Import HTML(HTMLのインポート)]* の順に選択してImport Wizard(インポートウィザード)を起動し、インポートの場所を選択します。*[次へ]* をクリックすることによりインポートを開始します。別のブラウザからのブックマークは、ブラウザ名からという名前のブックマークメニューの下にある別のフォルダにインポートされます。HTMLファイルからは、そのままの状態にインポートされます。

また、ライブラリウィンドウの *[Import and Backup(インポートとバックアップ)]* ダイアログでは、ブックマークをエクスポートすることもできます。HTMLファイルとしてブックマークを保存するには、*[Export HTML(HTMLのエクスポート)]* を選択します。ブックマークのバックアップを作成または復元するには、*[バックアップ]* または *[復元]* を選択します。Firefoxでは、バックアップ用にJavaScript Object Notationファイル形式(.json)が使用されます。

18.3.4 ライブブックマーク

ライブブックマークは、最新のニュースを確認できるように、ブックマークメニュー内に見出しを表示する機能です。これにより、お気に入りのサイトをすばやく一覧できます。ライブブックマークは自動的に更新されます。

多くのサイトとブログは、この形式をサポートしています。このことは、Webサイトを表示した際に、場所ツールバーの右側にオレンジ色のアイコンで示されます。アイコンをクリックして、開いたページで *[Subscribe now(今すぐ登録)]* を選択します。ダイアログボックスが表示されて、ライブブックマークの名前と場所を選択できます。*[追加]* をクリックして確認します。このページでは、*Bloglines*または*My Yahoo*など、別のアプリケーションを購読するよう選択することも可能です。

18.3.5 スマートブックマーク

スマートブックマークは、動的に更新される仮想ブックマークフォルダです。デフォルトでは、3つのスマートブックマークフォルダが事前定義されています。そのうちの最も閲覧するブックマーク(*Most Visited*)リンクはブックマークツールバーから利用でき、最近のブックマーク(*Recently Bookmarked*)リンクと最新のタグ(*Recent Tags*)はブックマークメニューに存在します。ライブラリの特定のエントリを検索することにより、新しいスマートブックマークを作成できます。

新しいスマートブックマークを作成するには、*[ブックマーク] > [Organise Bookmarks(ブックマークの整理)]* の順に選択してライブラリを開き、次の手順に進みます。

- 1 メインフォルダ(履歴、タグ、*All Bookmarks*(すべてのブックマーク))のいずれかを選択するか、または特定のブックマークフォルダを選択します。
- 2 入力フィールドにLinuxなどの検索語を入力します。これにより、Webページのタイトル、タグ、またはURLにLinuxというフレーズを含むすべてのリンクが大文字と小文字を区別せずに検索されます。
- 3 検索を保存し、新しいスマートブックマークを作成します。スマートブックマークは常にブックマークメニューフォルダに保存されるので、目的の場所にドラッグアンドドロップします。

ティップ

保存したブックマークからスマートブックマークを作成すると、検索語に一致するブックマークを追加または削除したときにのみ変更されるブックマークに関する最新のフィルタが適用されたビューが作成されます。

Webの閲覧中に、閲覧履歴に基づくスマートブックマークフォルダが動的に変更されます。検索語に一致するサイトを閲覧するたびに、そのサイトがスマートブックマークに「追加」されます。こうした理由から、できるだけ具体的な検索語を使用することをお勧めします。一般的なLinuxのトピックではなくSUSE Linuxに固有のトピックへのリンクに興味がある場合は、Linuxではなく**SUSE Linux**を使用します。

警告

プライベートデータをクリアすると閲覧履歴も削除され(そのように設定されていない場合を除く)、履歴に基づくスマートブックマークもクリアされることに注意してください。

18.3.6 ブックマークツールバー

ブックマークツールバーがロケーションバーの下に表示され、ブックマークにすぐにアクセスできます。ブックマークを直接追加、整理、編集することもできます。デフォルトでブックマークツールバーには、事前定義されたブックマークがいくつかのフォルダに分類されて登録されています(図18.1. 「Firefoxのブラウザウィンドウ」 (194 ページ)を参照)。

ブックマークツールバーを管理するには、18.3.1項「ブックマークの整理」(200 ページ)で説明したライブラリを使用できます。コンテンツはブックマークツールバーフォルダにあります。ツールバーを直接管理することもできます。フォルダ、ブックマーク、セパレータを追加するには、ツールバーの空白部分を右クリックして、ポップアップメニューから該当するエントリを選択します。現在のページをバーに追加するには、ドラッグアンドドロップを使用します。ロケーションバーのWebページのアイコンを左クリックして、マウスボタンを押したままブックマークツールバーの該当する場所にドラッグします。既存のブックマークフォルダ上にマウスカーソルを置くと、自動的にフォルダが開き、このフォルダにブックマークを配置できます。

特定のフォルダまたはブックマークを管理するには、右クリックします。ポップアップメニューが開き、削除したりプロパティを変更できます。エントリを移動またはコピーするには、[切り取り] または [コピー] を選択して目的の場所に貼り付けます。

18.4 ダウンロードマネージャの使用

ダウンロードマネージャは、現在または以前のダウンロードの管理を容易にします。ダウンロードマネージャはファイルをダウンロードするたびに自動的に開きます。ダウンロードマネージャを手動で開くには、[ツール] > [ダウンロード] の順にクリックします。ファイルのダウンロード中、進行状況バーにダウンロードのステータスが表示されます。必要に応じて、ダウンロードを中止し、後で再開することができます。関連するアプリケーションでダウンロードファイルを開くには、[開く] をクリックします。ファイルが保存された場所を開くには、[Open Containing Folder(格納フォルダを開く)] を選択します。[Remove From List(リストから削除)] では、ダウンロードマネージャからエントリのみが削除されます。ハードディスクからファイルが削除されるわけではありません。

デフォルトで、すべてのファイルはデスクトップにダウンロードされます。この動作を変更するには、[編集] > [設定] の [Main] タブから、ダウンロードマネージャの設定ウィンドウを開きます。[ダウンロード] エリアで、別のデフォルトの場所を選択するか、または [Always ask me where to save files(ファイルの保存場所を常に選択)] を選択します。

ティップ: ダウンロードの再開

ダウンロード中にブラウザがクラッシュしたり、ブラウザを閉じたりした場合は、次回にFirefoxを起動したときに、すべての保留中のダウンロードがバックグラウンドで自動的に再開されます。ブラウザを閉じる前に一時停止したダウンロードは、ダウンロードマネージャにより手動で再開できます。

18.5 セキュリティ

インターネットを閲覧するリスクが高まっているために、Firefoxでは閲覧をより安全にするためのさまざまな手段が用意されています。有害なソフトウェア(マルウェア)を含むことがわかっているサイトや機密データを詐取(フィッシング)することがわかっているサイトにアクセスしようとしているかどうか自動的にチェックされ、これらのサイトにアクセスすることを防ぎます。インスタントWebサイトIDによりサイトの正当性を簡単にチェックでき、パスワードマネージャとポップアップブロッカーによりセキュリティが強化されます。「ポップアップブロッカー」、「インスタントWebサイトID」は新規用語です。

18.5.1 インスタントWebサイトID

Firefoxでは、WebページのIDを一目でチェックできます。Webサイトのアドレスの左側にあるロケーションバーのアイコン(faviconとも呼ばれています)の色は、どのような識別情報が利用可能かどうかと通信が暗号化されているかどうかを示します。

灰色

サイトでは識別情報が提供されておらず、Webサーバとブラウザ間の通信が暗号化されていません。このサイトと機密情報を交換しない限り、問題はありません。ほとんどのWebサイトは「灰色」になります。

青

青いアイコンはドメインが証明書により確認されたことを示し、実際に接続しているサイトが本物であることを確認できます。「青い」アイコンのサーバとの通信は常に暗号化されています。

緑

緑のアイコンのサイトは、正しいユーザまたは組織によってサイトが所有されていることを証明する証明書によってその身元が完全に確認されています。これは、非常に機密性の高いデータを交換する場合、たとえばインターネット経由で金銭取引を行う場合に特に重要です。このような取引を行う場合は、完全な識別情報を送信するときに自分の銀行のWebサイトであることを確認する必要があります。「緑の」アイコンのサーバとの通信は常に暗号化されています。

詳細な識別情報を表示するには、Webサイトのロケーションバーのアイコンをクリックします。開いたポップアップで、[その他の情報] をクリックして [Page Info(ページ情報)] ウィンドウを開きます。ここでは、保存されているパスワードとクッキーに関する情報に加えて、サイトの証明書および暗号化レベルを表示できます。

許可(Permissions)ビューでは、イメージのロード、ポップアップ、クッキー、およびインストールの許可に関するサイト単位の許可を設定できます。メディア(Media)ビューでは、サイトのすべてのイメージ、背景のグラフィック、および組み込みオブジェクトの一覧と、各アイテムの詳細情報およびプレビューが表示されます。またこのビューでは、個別のアイテムを保存できます。

図 18.4 [Firefoxページ情報(Firefox Page Info)] ウィンドウ



18.5.2 パスワード管理

ユーザ名とパスワードをWebサイトに入力するたびに、Firefoxではこのデータを保存するかどうか確認します。このページの上に新しいツールバーが開き、Firefoxにパスワードを記憶させるかどうか尋ねるメッセージが表示されます。[Remember] をクリックすると、パスワードがハードディスクに暗号化された形式で保存されます。次回このサイトにアクセスすると、Firefoxは自動的にログインデータを入力します。

パスワードを確認または管理するには、[編集] > [設定] > [セキュリティ] > [Show Passwords(記憶されたパスワード)] の順にクリックしてパスワードマネージャを開きます。パスワードマネージャが開き、サイトのリストとそのユーザ名が表示されます。デフォルトで、パスワードは表示されません。パスワードを表示するには、[Show Passwords] をクリックします。リストから1つのエントリまたはエントリすべてを削除するには、[Remove] または [Remove All] をそれぞれ使用します。

無許可のアクセスからパスワードを保護するために、パスワードの管理または追加時に必要になるマスタパスワードを設定できます。[初期設定] ダイアログの[セキュリティ] タブを開き、[Use a Master Password(マスタパスワードを使用)] をチェックします。

GNOMEキーリングまたはKDE Walletを使用して他のパスワードを保存している場合、SUSE Linux Enterprise DesktopではCASA (Common Authentication Service Adapter)経由でFirefoxパスワードマネージャを使用してこれらのパスワードを管理できます。

18.6 Firefoxのカスタマイズ

Firefoxは縦横にカスタマイズできます。初期設定を変更することによりFirefoxの動作を変更できるだけでなく、拡張機能をインストールして機能を追加したり、新しいテーマをインストールして外観と操作性を変更したりできます。Firefoxでは、アドオンマネージャにより、拡張機能、テーマ、およびプラグインを管理するための便利な方法を提供しています。

18.6.1 初期設定

Firefoxでは、[編集] > [初期設定] からアクセス可能な広範な設定オプションが用意されています。図 18.5. 「[初期設定] ウィンドウ」 (210 ページ)を参照してください。各オプションの詳細は、[ヘルプ] ボタンをクリックしてアクセスできるオンラインヘルプで説明されています。

図 18.5 [初期設定] ウィンドウ



セッション管理

デフォルトでは、Firefoxはクラッシュした後、または拡張機能をインストールして再起動した後にのみ自動的にセッション(ウィンドウおよびタブ)を復元します。ただし、起動のたびにセッションを復元するように設定できます。18.6.1項「初期設定」(209 ページ)の説明に従って[初期設定]ダイアログを開き、[Main(メイン)]タブに移動します。[When Firefox Starts(Firefoxの起動時)]を[Show My Windows and Tabs from Last Time(前回のウィンドウおよびタブを表示)]に設定します。

複数のウィンドウを開いている場合は、[ファイル] > [終了] またはCtrl + Qによりすべてのウィンドウを一度に閉じた場合にのみ復元されます。1つずつウィンドウを閉じた場合は、最後のウィンドウのみが次回に復元されます。

プライバシーデータのクリア

Firefoxでは、Webを閲覧しているときに閲覧履歴、クッキー、およびフォームデータを保存し、訪問したWebサイトをキャッシュすることによりアクティビティが常に追跡されます。このデータを収集および保存することにより、

閲覧操作がより快適で高速になります。ただし、たとえば公衆端末を使用する場合などで、このデータを削除したい場合があります。[ツール] > [Clear Private Data(プライベートデータのクリア)] の順に選択するか、またはCtrl + Shift + Delを押し、削除するデータを選択します。

Firefoxを閉じるたびにプライベートデータを自動的に削除するには、18.6.1項「初期設定」(209 ページ)の説明に従って [初期設定] ウィンドウを開き、[プライバシー] タブに移動します。[Always Clear My Private Data When I Close Firefox(Firefoxを閉じるときに常にプライベートデータをクリアする)] をチェックし、[設定] ボタンをクリックして削除するデータを選択します。

Webサイトに対する言語の初期設定

webサーバに要求を送信するときにブラウザは常に、ユーザによって選択された言語に関する情報を送信します。複数の言語が使用可能であり、この言語パラメータを評価するように設定されるWebサイトでは、ブラウザが要求する言語でページが表示されます。SUSE Linux Enterprise Desktopでは、デスクトップと同じ言語を使用するように希望の言語があらかじめ設定されています。この設定を変更するには、18.6.1項「初期設定」(209 ページ)の説明に従って [初期設定] ウィンドウを開き、[コンテンツ] タブに移動し、希望の言語を選択します。

スペルチェック

複数行の入力フィールドに入力する場合、Firefoxではデフォルトで入力内容のスペルチェックが行われます。スペルミスのある単語には、赤い下線が引かれます。単語を修正するには、単語を右クリックし、コンテキストメニューから適切なスペルを選択します。また、単語が正しい場合は、単語を辞書に追加できます。

辞書を変更または追加するには、複数行の入力フィールドを右クリックし、コンテキストメニューから該当するオプションを選択します。またここで、この入力フィールドのスペルチェック機能を無効にできます。スペルチェック機能をグローバルに無効にする場合は、18.6.1項「初期設定」(209 ページ)の説明に従って [初期設定] ウィンドウを開き、[詳細] タブに移動します。[Check My Spelling As I Type(入力時にスペルをチェック)] のチェックをオフにします。

18.6.2 アドオン

拡張機能によって、Firefoxをニーズに合わせてパーソナライズできます。拡張機能を利用して、Firefoxの外観と操作性を変更し、既存の機能(ダウンロードマネージャやタブブラウズなど)を拡張したり、ブログエディタ、BitTorrentサポート、音楽プレーヤーなどの機能を追加したりできます。Web開発者を支援する拡張機能や、アクティブコンテンツを動的にブロックしてセキュリティを強化する拡張機能もあります。Firefoxには5000を超える拡張機能があります。アドオンマネージャでは新しい拡張機能をインストールできるだけでなく、無効化、有効化、削除も可能です。インストールされた拡張機能のアップデートも検出します。

Firefoxの標準的なルックアンドフィールが気に入らない場合は、新しいテーマをインストールします。テーマを変更しても、ブラウザの外観が変わるだけで機能そのものに影響はありません。

アドオンのインストール

拡張機能またはテーマを追加するには、[ツール] > [アドオン] の順にクリックし、アドオンマネージャを起動します。推奨されるアドオンの選択肢または前回の検索結果を表示する [Get Add-Ons(アドオンの取得)] タブが開きます。[Search All Add-Ons(すべてのアドオンの検索)] フィールドを使用して、特定のアドオンを検索します。リストのエントリをクリックすると、簡単な説明とスクリーンショットが表示されます。[Add to Firefox(Firefoxに追加)] をクリックしてアドオンをインストールするか、または [Learn More(詳細な情報)] リンクをクリックして詳細な情報を含むWebページを開きます。

図 18.6 Firefox拡張機能のインストール



使用可能なすべてのアドオンを単に表示する場合や、高度な検索オプションを使用する場合は、**[Browse All Add-ons(すべてのアドオンを表示)]** をクリックします。これにより、FirefoxアドオンのWebページが開きます。拡張機能をインストールするには、アドオンについて説明するページで **[Add to Firefox(Firefoxに追加)]** ボタンをクリックします。

新たにインストールされた拡張機能またはテーマを有効にするには、アドオンマネージャの **[Restart Firefox(Firefoxの起動)]** ボタンを押してFirefoxを再起動する必要があります。このボタンを押してブラウザを再起動すると、完全なセッションが復元されます。

アドオンの管理

アドオンマネージャはまた、拡張機能、テーマ、およびプラグインを管理するための便利なインタフェースを提供します。拡張機能は有効/無効にしたり、アンインストールしたりできます。拡張機能が設定可能な場合は、**[初期設定]** ボタンを押して設定オプションにアクセスできます。**[テーマ]** タブでは、**[Use Theme(テーマの使用)]** をクリックすることによりテーマをアンインストールしたり、別のテーマを有効にしたりできます。保留中の拡張機能またはテーマのインストールも一覧に表示されます。インストールを中止するには**[キャンセル]** を選択します。ユーザとしてプラグインをインストールすることはできませんが、アドオンマネージャで無効または有効にすることは可能です。

アドオンのアンインストールや無効化などの処理では、ブラウザを再起動する必要があります。このような処理を実行するたびに、アドオンマネージャに *[Restart Browser(ブラウザの再起動)]* ボタンが表示されます。

18.6.3 機能の無効化

SUSE Linux Enterprise Desktopをインターネットターミナルとして使用する場合などの特殊なケースでは、ページの保存や印刷、ページソースの表示、またはキャッシュの無効化などの特定の機能を無効にする(ロックダウン)ことが望まれます。これはGConfシステムを使用して実現できます。詳細については、項「Desktop Lock Down Features」(第4章 *GNOME Configuration for Administrators*, ↑管理ガイド)を参照してください。

18.7 Firefoxからの印刷

Webページを実際に印刷する前に、印刷プレビュー機能を使用して印刷されたページの外観を制御できます。*[ファイル] > [印刷プレビュー]* の順に選択します。*[ファイル] > [Page Setup(ページの設定)]* の順に選択し、プリンタごとに用紙のサイズと向きを設定します。SLE11_JAでPage Setupには「ページ設定」と「ページの設定」が使用されています

Webページを印刷するには、*[ファイル] > [印刷]* の順に選択するか、またはCtrl + Pキーを押します。*[プリンタ]* ダイアログが開きます。デフォルトオプションで印刷する場合は、そのまま *[印刷]* をクリックします。

[プリンタ] ダイアログでは、印刷物を微調整するための広範な設定オプションも使用できます。*[一般]* タブでは、プリンタ、印刷範囲、コピー部数、および順序を選択します。*[Page Setup(ページの設定)]* では、面ごとのページ数、比率係数に加えて、用紙のソース、および種類を指定できます。また、プリンタでサポートされている場合は、ここで両面印刷を有効にできます。*[オプション]* タブで、フレーム、背景、見出し、およびフッタの印刷方法を制御します。このダイアログではまた、特定の時間で印刷などのジョブオプションと *[Image Quality(イメージ品質)]* を指定できます。

18.8 MHTMLアーカイブを開く

Microsoft* WordおよびInternet ExplorerやOperaでは、Webページを1つのMHTMLファイルとして保存でき、これはWebアーカイブと呼ばれます。このようなアーカイブでは、Webページの表示に必要なすべてのリソースが1つのアーカイブファイルにまとめられ、オフラインで表示できます。デフォルトでは、MHTMLアーカイブはFirefoxでサポートされていません。パッケージmhtml-firefoxはすべてのユーザ向けにFirefox拡張機能MHTML Archive Readerをインストールし、MHTMLアーカイブ(末尾は.mhtまたは.mhtml)をデスクトップシエルのFirefoxにバインドします。

18.9 Microsoft Silverlightコンテンツの表示

Microsoft Silverlightテクノロジーは、インタラクティブアニメーション、ベクトルグラフィックス、およびオーディオビデオ再生を使用したリッチインターネットアプリケーションのためのプラットフォームです。Novellは、Moonlightと呼ばれるSilverlightのオープンソース実装を開発しました。Moonlightは、Silverlightアプリケーションの開発ツールだけでなく、Firefoxのブラウザプラグインも提供します。このプラグインはデフォルトでインストールされ、FirefoxでSilverlightアプリケーションを表示することを可能にします。

18.10 詳細情報

Firefoxの詳細については、F1キーを押してオフィシャルナレッジベースを参照してください。次のリンクでは、より有用な追加情報を参照できます。

サポートフォーラム:<http://support.mozilla.com/forum>
メインメニューのリファレンス:<http://support.mozilla.com/kb/Menu+reference>
初期設定のリファレンス:<http://support.mozilla.com/kb/Options+window>
キーボードショートカット:<http://support.mozilla.com/kb/Keyboard+shortcuts>

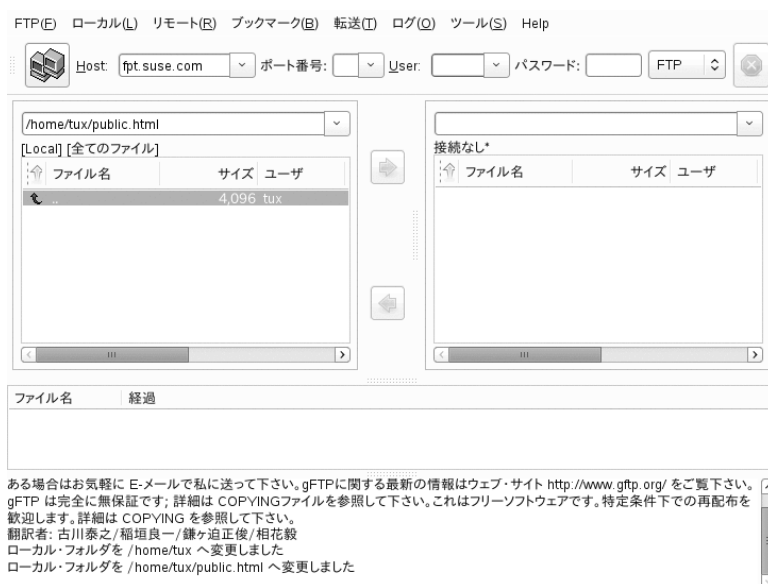


インターネットからのデータの転送

19

GNOMEFTP(gFTP)は、マルチスレッドファイル転送クライアントです。FTP、FTPS(管理接続のみ)、HTTP、HTTPS、SSH、およびFSPの各プロトコルをサポートします。さらに、FXPにより2つのリモートFTPサーバ間でファイル転送を可能にします。GNOME FTPを開始するには、Alt + F2キーを押し、「gftp」と入力します。

19.1 GNOME FTP



19.1 ASCII転送とバイナリ転送

FTPによるファイル転送には、ASCIIおよびバイナリの2つの一般的な方法が存在します。ASCIIモードでは、ファイルをテキストとして転送します。ASCIIファイルの例としては、.txt、.asp、.html、.phpなどのファイルがあります。バイナリモードでは、ファイルを生データとして転送します。バイナリファイルの例としては、.wav、.jpg、.gif、mp3などのファイルがあります。

転送モードを変更するには、[FTP] > [Binary(バイナリ)] または [FTP] > [Ascii] の順にクリックします。

FTP転送の場合は、[FTP] > [オプション] の順に選択し、[FTP] タブをクリックして [Transfer Files in ASCII Mode(ASCIIモードでファイルを転送)] オプションを選択することもできます。

19.2 リモートサーバへの接続

リモートサーバに接続するには、次のことを行います。

- 1 GNOMEFTPで、[リモート] > [URLを開く] の順にクリックします。
- 2 接続先のURLを指定し、ユーザ名とパスワードを入力します。
匿名ユーザとしてログインする場合はユーザ名を空白のままにします。
- 3 [接続] をクリックします。

接続が成功すると、リモートサーバ上のファイルのリストがGNOME FTPウィンドウの右側に表示されます(左側のファイルのリストはローカルコンピュータのファイルディレクトリです)。これで、ダウンロードファイルをアップロードできます。

頻繁にアクセスするサイトにブックマークを設定するには、[ブックマーク] > [ブックマークの追加] の順にクリックします。ブックマークの名前を指定して、[Add(追加)] をクリックします。新しいブックマークがブックマークのリストに追加されます。

19.3 ファイルの転送

次の図では、右側のファイルリストにリモートサーバのファイルディレクトリが表示されています。左側のファイルリストには、ローカルコンピュータ(ハードドライブまたはネットワーク)のファイルディレクトリが表示されています。

図 19.2 gFTP ファイル転送



ファイルをダウンロードするには、ファイルのリモートリストでダウンロードするファイルを選択し、左の矢印ボタンをクリックします。各ダウンロードの進行状況がウィンドウ中央のフィールドに一覧表示されます。転送が成功すると、ファイルが左側のディレクトリリストに表示されます。

ファイルをアップロードするには、左側のローカルディレクトリリストでアップロードするファイルを選択し、右の矢印ボタンをクリックします。各ダウンロードの進行状況がウィンドウ中央のフィールドに一覧表示されます。転送が成功すると、ファイルが右側のリモートディレクトリリストに表示されます。

ダウンロードの初期設定を変更するには、`[FTP]` > `[オプション]` の順にクリックします。

19.4 HTTPプロキシサーバの設定

HTTPプロキシサーバを設定するには、次のことを行います。

- 1 GNOMEFTPで、`[FTP]` > `[オプション]` の順にクリックし、`[FTP]` タブを選択します。
- 2 `[プロキシサーバの種類(Proxy Server Type)]` ドロップダウンリストから `[HTTP Proxy(HTTPプロキシ)]` を選択し、ダイアログボックスでプロキシサーバの情報を指定します。
- 3 `[HTTP]` タブをクリックし、先のダイアログボックスと同じプロキシサーバ情報を入力します。
- 4 `[OK]` をクリックします。

19.5 詳細情報

gFTPの詳細については、<http://www.gftp.org>を参照してください。

パート V. グラフィックス



GIMPによるグラフィックスの 操作

20

GIMP (*The GNU Image Manipulation Program*)は、ラスタグラフィックスの作成と編集を行うためのプログラムです。ほとんどの面で、その機能はAdobe Photoshopや他の市販プログラムに匹敵するレベルにあります。写真のサイズ変更とレタッチ、Webページ用のグラフィックスの作成、カスタムCDのカバーの作成、その他さまざまなグラフィックスプロジェクトにGIMPを活用することができます。また、アマチュアとプロフェッショナル両方のニーズを満たすことができます。

Linuxの他の多くのプログラムと同様、GIMPは、作業時間と作成したコードをプロジェクトに提供している、世界中にいるボランティア開発者の共同作業により開発されています。このプログラムは今も継続的に開発が進められているため、使用中のに付属しているバージョンが、ここで説明されているバージョンとはわずかに異なっている可能性もあります。個別のウィンドウや、ウィンドウ内のセクションのレイアウトは、特に違いが生じやすい箇所です。

GIMPは、非常に複雑なプログラムです。この章で説明するのは、限られた範囲の機能、ツール、およびメニュー項目です。このプログラムの詳細情報については、「20.7項 「詳細情報」 (240 ページ)」を参照してください。

20.1 グラフィックファイルの形式

グラフィックには主に、ラスタとベクタという2つのタイプがあります。GIMPはラスタグラフィックの使用を目的として作成されています。ラスタはデジタル写真やスキャンしたイメージの標準的な形式です。ラスタ画像はピクセ

ルという色の付いた小さな点の集まりであり、それらの集合体が画像全体を形成しています。高解像度の画像には多数のピクセルが含まれているため、画像ファイルのサイズは大きくなりがちです。また、画質を低下させることなくピクセル画像のサイズを大きくすることはできません。**GIMP**は、**JPEG**、**PNG**、**GIF**、**BMP**、**TIFF**など、ラスタグラフィックの一般的な形式をすべてサポートします。

ラスタグラフィックと異なり、ベクタグラフィックは個々の点すべてに関する情報を格納しているわけではありません。代わりに、点、直線、曲線、ポリゴンなどの図形プリミティブを使用します。ベクトル画像は非常に簡単に拡大縮小でき、画像ファイルはより小さくなります。ベクトルグラフィックスの欠点は、写真のようなさまざまな色を含む複雑な画像を表現することに適していないことです。ベクタグラフィックには、**Inkspace**などの特殊アプリケーションが多数あります。**GIMP**では、ベクタグラフィックのサポートは非常に限定されています。たとえば、**GIMP**はベクタグラフィックを**SVG**形式で開いてラスタ化したり、ベクタパスを操作したりします。

GIMP 2.6は、依然として制限された色空間しかサポートしません。1チャンネルあたり8ビット(アルファチャンネルを持たない**RGB**画像では1ピクセルあたり24ビット)のインデックス付き画像およびグレースケール画像または**RGB**画像をサポートします。多くのハイエンドデジタルカメラで、より大きな色深度の画像ファイルを作成できます。**GIMP**にこうした画像をインポートすると、一部の色情報が失われます。

20.2 GIMPの起動

GIMPはメインメニューから起動します。代わりに、コマンドラインで、「**gimp &&**」と入力することもできます。

20.2.1 デフォルトのウィンドウ

デフォルトでは、3つのウィンドウが表示されます。ツールボックス、メイン**GIMP**メニューを含む空白のイメージウィンドウ、およびいくつかのドッキングダイアログを含むウィンドウ。画面内でこれらを整列させることや、必要がなくなった時点でツールボックスおよび最後の画像ウィンドウ以外を閉じることができます。ツールボックスまたは開いている最後の画像ウィンドウを閉じると、アプリケーションが終了します。デフォルトの設定では、**GIMP**

は終了時にウィンドウの位置を保存します。終了時に表示されていたダイアログは、次回にこのプログラムを起動すると、再び表示されます。

画像ウィンドウ

新しい画像、開かれた画像、またはスキャンされた画像は、別のウィンドウ内に表示されます。複数の画像を開いている場合は、各画像に独自の画像ウィンドウが割り当てられます。少なくとも1つの画像ウィンドウが常に開いています。現在画像を開いていない場合は、画像ウィンドウは空白になり、メインGIMPメニューとドロップ領域のみが表示されます。このドロップ領域にファイルをドラッグアンドドロップするとファイルを開くことができます。最後の画像ウィンドウを閉じるとアプリケーションが終了します。

それらのウィンドウの最上部にあるメニューバーを使用して、すべての画像機能を利用することができます。メニューバーの代わりに、画像を右クリックするか、ルーラの左隅にある小さな矢印をクリックする方法でメニューを使用することもできます。

[ファイル] メニューには、[保存] や [Print (印刷)] など、標準的なファイルオプションがあります。[閉じる] は、現在の画像を閉じます。[終了] は、このアプリケーション全体を終了させます。

[表示] メニュー内の項目を使用して、画像と画像ウィンドウの表示方法を制御します。[新規ビュー] は、現在の画像を表示する2番目の表示ウィンドウを開きます。1つのビューに加えた変更は、その画像を表示している他のすべてのビューに反映されます。追加のビューは、あるビューで画像を拡大表示して操作しながら、他のビューで画像全体を表示する場合に役立ちます。現在のウィンドウの拡大レベルを調整するには、[ズーム] を使用します。

[Fit Image in Window(ウィンドウに合わせる)] が選択されている場合、現在の画像表示サイズに合わせて、画像ウィンドウのサイズが適切に変更されます。

ツールボックス

このツールボックスには、アプリケーションの重要な制御機能が用意されています。このウィンドウを閉じると、このアプリケーションは終了します。一番上には、画像ファイルをドラッグアンドドロップするだけで開くことができるドロップ領域があります。その下には、さまざまなツールに対応した

アイコンがあります。これらのアイコンの上にマウスポインタを移動すると、そのアイコンに関する情報が表示されます。

20.1 ツールボックス



現在の前景色と背景色が、重なっている2つの長方形で表示されます。デフォルトの色は、前景色が黒、背景色が白です。長方形をクリックすると、その色を変更するダイアログが表示されます。2つの長方形の右上にある曲がった矢印記号をクリックすると、前景色と背景色が入れ替わります。左下にある黒と白の記号をクリックすると、色をデフォルトに戻すことができます。

ツールボックスの下には、現在選択しているツールのオプションが表示されます。オプションが表示されない場合は、ツールボックス内のアイコンをダブルクリックしてください。

レイヤー、チャンネル、パス、アンドゥ

最初のセクションでは、ドロップダウンボックスを使用して、タブが参照する画像を選択します。[自動] をクリックして、アクティブな画像が自動的に選択されるかどうかを制御することができます。デフォルトでは、[自動] は有効になっています。

[レイヤー] は、現在の画像内にあるさまざまなレイヤーを表示します。また、レイヤーを操作することもできます。情報は、20.5.6頁「レイヤ」(238ページ)から入手できます。[チャンネル] は、画像のカラーチャンネルを表示しますが、ここで操作することもできます。

パスは、画像の一部を選択するためのベクタベースの方法です。パスを使用して描画することもできます。[パス] は、画像に関連して使用できるパスを表示し、パス機能にアクセスする手段を提供します。[アンドゥ] は、現在の画像に対して加えられた変更からなる、限られた数の履歴を表示します。使用方法は、20.5.5項「操作の取り消し」(238 ページ)で説明されています。

20.3 はじめに

GIMPを初めて使用する場合、少々使いにくく感じるかもしれませんが、一度基本操作を覚えてしまえば、操作は簡単であることがわかります。不可欠な基本機能は、画像を作成し、開き、保存することです。

20.3.1 新しい画像の作成

新しい画像を作成するには、[ファイル] > [新規] の順に選択するか、Ctrl+Nを押します。新しい画像に関する設定を行うためのダイアログが表示されます。必要に応じて、[Template] という名前の事前定義された設定を選択します。カスタムテンプレートを作成するには、[ウィンドウ] > [Dockable Dialogs(格納式ダイアログ)] > [テンプレート] の順に選択し、表示されたウィンドウにあるコントロールを使用します。

[画像のサイズ] セクションで、作成する画像のサイズをピクセルまたは他の単位で設定します。それ以外の単位を使用するには、使用可能な単位からなるリストを使用して、希望の単位をクリックします。ピクセルと他の単位との比率は、[解像度] で設定されており、[拡張オプション] セクションを開くと設定値を確認できます。72ピクセル/インチという解像度は、共通画面表示に対応しています。Webページの画像として使用する場合は、これで十分です。画像を印刷する場合は、これより高い解像度を使用してください。ほとんどのプリンタでは、300ピクセル/インチの解像度を使用すると、許容可能な画質になります。

[色空間] で、画像をカラー([RGB])と[グレースケール]のどちらにするかを選択します。画像タイプの詳細は、20.5.7項「画像モード」(239 ページ)を参照してください。[Fill With] で、イメージを塗りつぶす色を選択します。ツールボックスで設定した[Foreground Color]と[Background Color]で、透明イメージに対して[White]または[Transparency]を選択します。

[透明] は、灰色のチェッカーパターン(格子模様)で表現されます。 [コメント] には、新しい画像に関する説明を入力します。

設定値がニーズを満たした時点で、 [OK] をクリックします。デフォルト設定に戻すには、 [リセット] をクリックします。 [キャンセル] をクリックすると、新規画像の作成を取り消します。

20.3.2 既存の画像を開く

既存の画像を開くには、 [ファイル] > [開く] の順に選択するか、 **Ctrl+O** キーを押します。ダイアログが開いたら、希望のファイルを選択します。または、 **Ctrl+L** を押し、目的の画像のパスを直接入力します。次に、 [開く] をクリックして選択した画像を開くか、 [キャンセル] をクリックして画像を開くのを取り消します。

20.3.3 画像のスキャン

既存の画像を開いたり、画像を新規作成する代わりに、画像をスキャンすることができます。GIMPから直接スキャンするには、パッケージxsaneがインストールされていることを確認します。スキャンを行うダイアログボックスを開くには、 [ファイル] > [作成] > [XSane:Device dialog(XSane: デバイスダイアログ)] の順にクリックします。

スキャンするオブジェクトがスキャン領域全体よりも小さい場合は、プレビューを作成します。プレビューを作成するには、 [プレビュー] ダイアログボックスの [Acquire preview] をクリックします。領域の一部のみをスキャンする場合は、目的の矩形の部分をマウスで選択します。

[xsane] ダイアログでは、白黒(灰色の階調なし)、グレースケール、またはカラーイメージをスキャンするかどうか、また必要なスキャン解像度を選択します。解像度が高くなると、スキャンしたイメージの品質がよくなります。しかし、高解像度では、それに対応してファイルが大きくなり、スキャン処理に非常に時間がかかることがあります。最終的な画像のサイズ(ピクセル単位およびバイト単位の両方)が、ダイアログボックスの下部に表示されます。

[xsane] ダイアログボックスのスライダを使用して、目的のガンマ、明度、およびコントラストの値を設定します。これらのスライダは、白黒モードで

は利用できません。変更内容は即座にプレビューに表示されます。すべての設定が完了したら、[スキャン]をクリックして画像をスキャンします。

20.4 画像の保存

最も重要な画像機能の処理手順は、[ファイル] > [保存] です。保存の回数が少なすぎるより、多すぎる方が適切です。新しいファイル名で画像を保存するには、[ファイル] > [別名で保存] の順に選択します。何段階か異なる名前を使用して画像を保存すること、または他のディレクトリ内にバックアップを作成することは良い考えです。その結果、以前の状態に戻ることができます。

初めて保存する場合や、[別名で保存] を使用する場合、ファイルの名前と種類を指定するためのダイアログが表示されます。最上部にある[名前]フィールドに、ファイルの名前を入力します。[Save in folder (フォルダに保存)] の場合は、共通で使用するディレクトリの一覧から、ファイルを保存するディレクトリを選択します。異なるディレクトリを使用、またはディレクトリを新規作成する場合は、[Browse for other folder(他のフォルダを参照)] を開きます。[Select File Type (ファイル形式の決定)] は、[拡張子で判別] のままにしておくことをお勧めします。この設定の場合、GIMPはファイル名に追加された拡張子に基づいてファイルの形式を決定します。使用頻度の高いファイル形式は、次のとおりです。

XCF

これは、GIMPのネイティブの形式です。画像だけでなく、すべてのレイヤー情報とパス情報を保存します。他の形式の画像を必要とする場合であっても、将来の変更を簡略化するために、XCF形式でコピーを保存しておくことは、通常は良い考えです。レイヤに関する詳細は、20.5.6項「レイヤ」(238 ページ)を参照してください。

PAT

これは、GIMPのパターンに関して使用される形式です。画像をこの形式で保存すると、その画像をGIMP内の塗りつぶしパターンとして使用できるようになります。

JPEG

JPGまたはJPEGは、写真や、Webページ用で透過性のないグラフィックスを処理するための一般的な形式です。その圧縮方法はファイルサイズを縮小しますが、圧縮を行う際に一部の情報が失われます。圧縮レベルを調整

する際に、プレビューオプションを使用するのは良い考えです。85～75%のレベルを選択すると、多くの場合、許容可能な画像品質(画質)で、妥当な圧縮を達成することができます。同時に、XCFなどロスレス(情報損失なし)の形式で、バックアップを保存しておくこともお勧めします。画像を編集する場合は、完成した画像だけをJPGとして保存します。JPGをロードして保存する作業を繰り返すと、画像品質がすぐに低下する可能性があります。

GIF

GIFは透過性をサポートするグラフィックスとして、以前は非常に人気がありましたが、現在はライセンスの問題が原因となり、使用頻度が低下しています。GIFは、動画(アニメーション画像)を処理する場合にも使用されています。この形式では、インデックス画像の保存だけを実行できます。インデックス付き画像の詳細は、20.5.7項「画像モード」(239ページ)を参照してください。数色のみを使用すると、多くの場合、ファイルサイズは非常に小さくなる可能性があります。

PNG

PNGには、透過性のサポート、ロスレス(情報損失なし)圧縮のサポート、フリー(ライセンス料不要)入手と配布が可能、およびブラウザでのサポートが拡大中という特徴があるので、透過性を使用するWebグラフィックスとしてGIFを凌駕する勢いです。さらに、追加された利点として、PNGは部分的な透過性をサポートしています。これは、GIFがサポートしていない特徴です。この結果、色付きの領域から透過領域へのスムーズな遷移(アンチエイリアシング)が可能になります。

選択した形式で画像を保存するには、[保存]をクリックします。保存を中止するには、[キャンセル]をクリックします。画像が、選択した形式では保存できない機能を利用している場合、その状況を解決する選択肢を示すダイアログが表示されます。[エクスポート]が表示される場合、通常はそれを選択することによって、望ましい結果が得られます。次に、使用可能な形式をオプションとして表示するウィンドウが表示されます。妥当なデフォルト値が用意されています。

20.5 画像の編集

GIMPには、画像を変更するためのさまざまなツールが用意されています。ここでは、自宅でご利用のユーザの方に魅力的な機能を取り上げています。

20.5.1 画像サイズの変更

画像をスキャンしたり、デジカメから写真をロードした場合、それをWebページに表示したり、印刷をするために、サイズを変更しなければならないことがあります。これらの画像は、縮小したり、不要な部分をカットすることで、簡単にサイズを小さくすることができます。画像サイズを大きくする方は、より大変です。画像はラスタで構成されているため、画像を大きくすると画像品質が低下してしまいます。画像を編集する前に、元の画像のコピーを保持しておくことをお勧めします。

イメージのクロッピング

画像のクロッピングは、用紙の端を切り取る作業と似ています。ツールボックスからクロップツール(メスに類似)を選択するか、または [ツール] >

[*Transform Tools*(変換ツール)] > [クロッピング] の順にクリックします。開始点をクリックしてからドラッグして、画像を保持する領域を選択します。

クロッピング領域を示す長方形が表示されます。長方形のサイズを調整するには、マウスポインタを長方形の辺か角に合わせ、クリックおよびドラッグして必要なサイズの変更を行います。長方形の幅および高さの両方を調整する場合はコーナーを使用し、一方向のみを調整する場合は辺を使用します。サイズを変更しないで長方形全体を別の場所に移動するには、長方形の中央の近くをクリックし、目的の位置へドラッグします。

クロッピング領域に問題がなければ、その内側のどこかをクリックして画像をクロッピングします。クロッピングを取り消すには、クロッピング領域の外側のどこかをクリックします。

[*Tool Options*(ツールオプション)] ダイアログで、クロッピングツールの詳細なオプションを利用できます。

画像の拡大/縮小

画像全体のサイズを変更するには、[Image] > [*Scale Image*] の順にクリックします。[Width] または [Height] に、新しいサイズを入力してください。拡大/縮小時に画像の比率を変更するには(画像の変形)、フィールドの右側にあるチェーンアイコンをクリックして、リンクを切断してください。これらのフィールドがリンクされている場合、片方のフィールドの値を変更すると、

それに合わせてもう一方のフィールドの値も変化します。 *[X resolution]* および *[Y resolution]* で、解像度を調整します。

[Interpolation(補間)] オプションでは、結果として得られる画像の品質を制御します。ほとんどの場合、デフォルトの立方補間法が適切なオプションです。

サイズの調整が完了したら、 *[Scale]* を押すと画像が拡大/縮小されます。
[Reset] を押すと、元の値に戻ります。 *[Cancel]* を押すと、処理を中止します。

キャンバスサイズの変更

キャンバスサイズの変更は、画像の周囲にマットを敷くのと似ています。マットが画像より小さい場合でも、画像は残っていますが、その一部しか表示されません。マットを大きくすると、元の画像の全体が見えて、その周囲には余分なスペースが残ります。キャンバスサイズを変更するには、 *[Image]* > *[Canvas Size]* の順にクリックします。

表示されるダイアログに、新しい値を入力します。デフォルトでは、現在の画像の幅と高さの比率を維持するように設定されています。この設定を変更するには、チェーンアイコンをクリックします。

サイズを調整したら、そのサイズに合わせて既存の画像をどの位置に配置するかを指定します。オフセット値を指定するか、または下部にあるフレーム内のボックスをドラッグしてください。変更を完了したら、 *[Resize]* をクリックすると、キャンバスサイズが変更されます。元の値に戻すには *[Reset]* を、サイズ変更をキャンセルする場合は *[Cancel]* をクリックします。

20.5.2 画像の一部の選択

画像の一部にのみ画像処理を行う必要がある場合もあります。この場合、作業対象となる画像の部分を選択する必要があります。作業対象領域を選択するには、ツールボックスの選択ツールやクイックマスクを使用するか、または複数のオプションを組み合わせて使用します。選択範囲は、 *[Select]* 下の項目を使って変更することもできます。選択範囲は *marching ants* と呼ばれる点線で表示されます。

選択ツールの使用

メインの選択ツールの使用法はとても簡単です。パス(paths)ツールを使えば選択する以外にもさまざまな処理を行えますが、操作が複雑なためここでは説明しません。他の選択ツールのツールオプションで、*[Mode]* 行にあるアイコンを使って、選択範囲を置換するか、追加するか、削除するか、またはインターセクトするかどうかを指定します。

Rect Select

このツールは、長方形または正方形の領域を選択する場合に使用します。固定したアスペクト比、幅、高さ、またはサイズを持つ領域を選択するには、*[Fixed(固定)]* オプションを有効にし、*[Tool Options(ツールのオプション)]* ダイアログで関連するモードを選択します。また、Shiftキーを押しながら領域を選択することで、*[Fixed(固定)]* オプションを有効にできます。

Ellipse Select

円形または楕円形の範囲を選択する場合に使用します。長方形の範囲を選択する場合と同じオプションを利用できます。*[Fixed(固定)]* オプションを使用するか、Shiftキーを押しながら選択すると、円を作成できます。

Free Select (Lasso)

このツールにより、手書き図とポリゴンセグメントの組み合わせに基づく選択を作成できます。手書きの線を描くには、左マウスボタンを押しながら画像の上でマウスをドラッグします。ポリゴンセグメントを作成するには、セグメントが開始する場所でマウスボタンを離し、セグメントが終了する場所で再びマウスボタンを押します。

Fuzzy Select (Magic Wand)

このツールは、色の類似性に基づいて連続した領域を選択します。*[Threshold]* のツールオプションダイアログには、色の違いの最大値を設定することができます。

By Color Select

画像内で選択したピクセルと同じ色または類似色を持つすべてのピクセルが選択されます。*[Threshold]* のツールオプションダイアログには、色の違いの最大値を設定することができます。

Intelligent Scissors

画像中の一連の点をクリックします。点をクリックしていくと、画像内の色の違いに基づいてそれぞれの点がつながられます。開始点をクリックすると、その領域が閉じられます。その内部をクリックすると、そこが選択範囲になります。

クイックマスクの使用

クイックマスクは、ペイントツールを使って画像の一部を選択する方法です。Intelligent Scissorsやフリー選択ツールを使っておおまかな領域を選択してから、それをクイックマスクで調整すると、目的の領域を手軽に選択することができます。クイックマスクを使用するには、左下にあるダッシュが記載された小さなアイコンをクリックします。

クイックマスクでは、選択範囲が赤のオーバーレイで表示されます。赤味のない領域は選択されていません。マスクを利用する前に、通常通りに表示されていた領域が選択されます。選択範囲を変更するには、ペイントツールを使用します。白でペイントすると、ペイントしたピクセルが選択されます。黒でペイントすると、そのピクセルの選択が解除されます。灰色の部分は部分選択です(色は灰色の陰影として扱われる)。部分選択により、選択領域と選択しない領域間をスムーズに遷移させることができます。

クイックマスクの表示に別の色を使用する場合は、クイックマスクボタンを右クリックして *[Configure Color and Opacity]* を選択します。表示されるダイアログから、目的の色を選択してください。

ペイントツールを使って選択範囲を調整したら、画像ウィンドウの左下にあるアイコン(現在は赤いボックスを表示)をクリックして、クイックマスクビューから元のビューに戻ります。選択範囲が点線で表示されます。

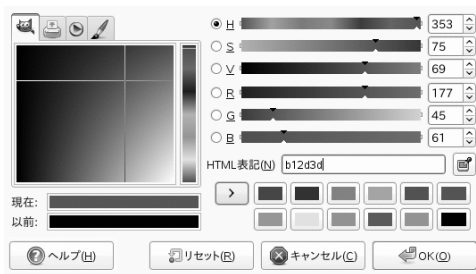
20.5.3 色の適用と削除

画像の編集時には、しばしば色の適用や削除が行われます。画像の一部を選択して、色を適用したり削除する範囲を制限できます。ツールを選択してカーソルを画像上に移動すると、カーソルが選択したツールに対応した形状に変わります。大部分のツールでは、現在のツールのアイコンに矢印が付いた形状になります。ペイントツールの場合は、現在のブラシのアウトラインが表示されます。そのため、画像内のどこをペイントするのか、そしてどれだけの範囲がペイントされるのかを明確に把握することができます。

色の選択

ペイントツールは、前景色を使用します。色を選択するには、まずツールボックスで前景色の表示ボックスをクリックします。5つのタブのあるダイアログが開きます。これらのタブは、異なる色選択方法を提供しています。ここでは、図 20.2. 「[Basic Color Selector] ダイアログ」(235 ページ)に表示されている最初のタブのみを取り上げます。[*Current*] に新しい色が表示されます。前の色は [*Old*] に表示されます。

図 20.2 [Basic Color Selector] ダイアログ



色を選択するもっとも簡単な方法は、左側にある色が表示されているボックスを使用することです。垂直バーで、目的の色に近い色を選択します。左側の大きな領域に、色合いが違う複数の色が表示されます。目的の色をクリックします。[*Current*] にその色が表示されます。目的の色が表示されなかった場合は、もう一度操作を行ってください。

[*Current*] の右側にある矢印ボタンを使って、その色を保存することができます。矢印をクリックすると、現在の色が履歴にコピーされます。履歴にコピーされた色は、それをクリックして選択することができます。色の16進数色コードを [*HTML Notation*] に入力して、直接色を選択することもできます。

色セレクトのデフォルトでは、色を色相により選択します。普通のユーザにとっては、この方法が一番簡単です。彩度、値、赤、緑、または青で色を選択するには、右側にある該当するラジオボタンを選択してください。スライダーと数値フィールドを使って、現在選択している色を変更することもできます。いろいろと試して、自分に一番合った方法を見つけてください。

[Current] に目的の色が表示されたら、[OK] をクリックしてください。ダイアログを開いた時点での値に戻すには、[Reset] をクリックします。色の変更を中止するには、[Cancel] をクリックします。

画像内の色を選択するには、カラーピッカーツールを使用します。このツールのアイコンは、目薬の形をしています。ツールのオプションを使って、前景色および背景色を選択するかどうかを設定します。次に、目的の色がある画像内の一点をクリックします。選択した色が正しい場合は、[Close] をクリックしてダイアログを閉じます。

ペイントと消去

ペイント、諸挙するには、ツールボックスのツールを使用します。各ツールをきめ細かく調整するための、さまざまなオプションが用意されています。Pressure sensitivity(圧力感度)オプションは、圧力を感知するグラフィックタブレットを使用する場合にのみ適用されます。

鉛筆、ブラシ、エアブラシ、および消しゴムは、実際の物と同じような動きをします。インクツールは、筆のような動きをします。クリックしてドラッグすると、そこがペイントされます。バケツは、画像内の領域に色を付ける場合に使用します。画像の色境界に基づいて、色が付けられます。色の変化に対する感度を変更するには、しきい値を調整します。

テキストの追加

テキストツールを使用すれば、画像に文字列を簡単に追加できます。このツールオプションを使って、目的のフォント、サイズ、色、インデント、文字揃え、および行間などを選択してください。次に、画像内にテキストを挿入する場所をクリックします。テキストを入力するための、小さなダイアログが表示されます。1行または複数行のテキストを入力したら、[Close] を選択します。

専用のレイヤにテキストが配置されます。テキストの追加後に画像に関する作業を行う場合は、20.5.6項「レイヤ」(238 ページ)を参照してください。テキストレイヤがアクティブな状態では、テキストを変更することができます。画像内のテキストをクリックすると、入力ダイアログが再表示されます。ここから、設定を変更してください。

画像の修正—クローンツール

画像を修正する場合は、クローンツールが役立ちます。このツールは、画像内の他の部分の情報を使って画像をペイントすることができます。必要に応じて、パターンから情報を取得することもできます。

修正を行う場合は、ソフトエッジの小さなブラシを使用することをお勧めします。そうすれば、修正内容を元の画像と調和させることができます。

画像内のソースとなる場所を選択するには、**Ctrl**キーを押しながら、目的の場所をクリックしてください。次に、普段と同じようにペイントを行います。ペイント中にカーソルを移動すると、十字で示されているソース点も移動します。**[Alignment(配置)]** に **[なし]** を設定すると(デフォルト設定)、マウスの左ボタンを離したときにソースがリセットされます。

20.5.4 色レベルの調整

理想的な印刷/表示結果を得るために、画像を調節しなければならないようなこともあります。多くのプログラムは不慣れなユーザの方向けに設計され、メイドとコントラストレベルが変更されます。**GIMP**でも同じですが、色レベルを調節すればより良い結果が得られます。

色レベルを調節するには、**[色] > [レベル]** の順にクリックします。画像内のレベルを調節するためのダイアログが表示されます。通常は、**[Auto]** をクリックすると、適切な結果を得ることができます。すべてのチャンネルを手動で調整するには、**[All Channels]** のスポイトツールを使用して、黒、灰色、および白にする画像内の領域をピックします。

チャンネルを個別に変更する場合は、**[Channel]** で目的のチャンネルを選択してください。次に、**[Input Levels]** にあるスライダーを使って、黒、白、および中間のマーカーをドラッグします。代わりにスポイトツールを使って、チャンネルの白、黒、および灰色ポイントとして使用する画像内の場所を選択することもできます。

[Preview] を選択した場合、変更内容を反映した場合の画像のプレビューが表示されます。適切な結果が得られたら、**[OK]** をクリックすると、変更内容が適用されます。**[Reset]** をクリックすると、元の設定にリセットされます。**[Cancel]** をクリックすると、色レベルの調整がキャンセルされます。

20.5.5 操作の取り消し

GIMPで行う操作の大半は、それを取り消してやり直すことができます。変更履歴を表示するには、デフォルトのレイアウトに用意されているUndoダイアログを使用するか、画像ウィンドウのメニューから [ウィンドウ] > [Dockable Dialogs(格納式ダイアログ)] > [Undo History(取り消し履歴)] の順にクリックします。

このダイアログには、元の画像と、取り消すことができる一連の変更内容が表示されます。ボタンを使って変更内容を取り消したり、やり直してください。このようにして、元の画像に戻して作業を再度行うことができます。変更内容を取り消した後に別の変更を行った場合、取り消した変更をやり直すことはできません。

[Edit] メニューを使って変更内容を取り消したり、やり直すこともできます。また、Ctrl+ZキーやCtrl+Yキーを使って取り消したり、やり直すこともできます。

20.5.6 レイヤ

GIMPでは、レイヤが重要な役割を果たします。画像の各部を個別のレイヤで修正することにより、それぞれの部分を、残りの画像に影響を与えずに変更、移動、または削除することができます。レイヤの仕組みを理解するには、透明なシートを何枚も重ねて作られた画像を想像してください。画像の各部は、それぞれ個別のシートに描かれています。積み重ねる順番を変更して、任意のシートを一番上にもっと来ることができます。個別のレイヤ、または一群のレイヤの位置を移動したり、画像のセクションを別の場所に移動することができます。また、新しいシートを追加したり、既存のシートを取り除くこともできます。

画像のレイヤを表示するには、[Layers] を使用します。テキストツールを使用した場合、テキスト専用のレイヤが自動的に作成されます。アクティブなレイヤが選択されています。このダイアログの一番下にあるボタンを使って、さまざまな作業を行うことができます。また、ダイアログのレイヤを右クリックして表示されるメニューにも、さまざまな機能が用意されています。画像名の前にある2つのアイコンを使って、画像表示を切り替えたり(表示している場合は眼の形をしたアイコンが表示される)、レイヤをリンクすることがで

きます。リンクされているレイヤにはチェーンのアイコンが表示されます。リンクされたレイヤは、グループとして移動できます。

20.5.7 画像モード

GIMPには、RGB、Grayscale(グレースケール)、およびIndexed(インデックス)の3種類の画像モードがあります。RGBは標準のカラーモードで、大部分の画像を編集するのに最適なモードです。Grayscaleは、白黒画像で用いられます。Indexedは、画像内の色を制限します。このモードは、おもにGIFイメージで使用されます。インデックス画像を作成する必要がある場合、通常はRGBで画像を編集してから、インデックス画像に変換して保存します。インデックス画像が必要な形式で画像を保存する場合、保存時にインデックス画像に変換されます。

20.5.8 特殊効果

GIMPには、さまざまなフィルタやスクリプトが用意されています。これらのフィルタやスクリプトを使って、画像にさまざまな特殊効果を適用することができます。特殊効果を適用するには、[フィルタ]を使用します。どのような特殊効果があるかは、実際に試してみてください。

20.6 画像の印刷

画像を印刷するには、画像メニューから[ファイル] > [印刷]の順に選択します。使用中のプリンタを環境内で既に設定した場合、リスト内にそのプリンタが表示されるはずですが、[Page Setup(ページの設定)]タブおよび[画像の設定]タブで、印刷オプションを設定できます。

図 20.3 [印刷] ダイアログ



設定値の入力後、[印刷] をクリックします。[キャンセル] は、印刷を取り消します。

20.7 詳細情報

次に、GIMPのユーザにとって非常に役立つ資料を紹介します。これらの資料には、The GIMPについてこの章よりも詳しい情報が掲載されています。The GIMPでより高度なタスクを行う場合は、必ずこれらの資料を参照してください。

- <http://www.gimp.org>は、GIMPのオフィシャルWeb ページです。GIMP に関するニュースと関連するソフトウェアは、フロントページに定期的に掲載されます。
- [ヘルプ] では、広範なGIMPユーザマニュアルを含む内部ヘルプシステムにアクセスできます。パッケージgimp-helpをインストールする必要があります。このマニュアルは、HTMLおよびPDF形式であり、<http://docs.gimp.org>でオンラインで取得できます。また、さまざまな言語の翻訳版が使用可能です。

- <http://gimp.org/tutorials/>では、多数の興味深いGIMPチュートリアルが用意されています。ここでは、上級ユーザまたはエキスパートユーザのためのチュートリアルに加えて、完全な初心者のための基本的なチュートリアルも含まれています。
- The GIMPに関する書籍も定期的に発行されています。<http://gimp.org/books/>では、これらの書籍のうち優れたものを簡単なコメントとともに紹介しています。
- GIMP機能は、スクリプトおよびプラグインにより拡張できます。このようなスクリプトおよびプラグインの多くはGIMPパッケージで配布されていますが、インターネットからダウンロードできるものもあります。
<http://registry.gimp.org/>で、GIMPスクリプトおよびプラグインのデータベースを検索できます。

また、メーリングリストやIRCチャネルを使用してThe GIMPについて質問することができます。質問を行う前に常に、上記の文書またはメーリングリストのアーカイブで回答を検索するようにしてください。経験豊富なユーザがGIMPリストおよびチャネルを使用する時間は限られているため、入手可能な文書で解決できない質問を行うことが望まれます。質問するときは、礼儀正しさと忍耐強さが必要です。質問の回答が得られるまでに、ある程度の時間がかかる場合があります。また、質問のための質問はしないでください。ただ、質問してください。

- The GIMPに関する多数のメーリングリストが存在します。こうしたメーリングリストは、http://gimp.org/mail_lists.htmlで検索できます。GIMPユーザリストは、ユーザが質問するうえで最適な場所です。このリストに登録しないで、アーカイブを参照する場合は、<http://lists.xcf.berkeley.edu/lists/gimp-user/>にアクセスしてください。
- The GIMPおよびGNOMEデスクトップ環境専用のIRCネットワークであるGIMPNetが用意されています。お好きなIRCクライアントでirc.gimp.orgサーバーを参照することにより、GIMPNetに接続できます。#gimp-usersチャネルは、The GIMPの使用に関する質問を行うのに最適な場所です。開発者の議論をご覧になりたい場合は、#gimpチャネルに参加してください。



DigiKamによるデジタルイメージコレクションの管理

21

Linuxでのデジタル写真の管理は簡単です。KDEのdigiKamを利用すれば、カメラから直接画像をダウンロードすることができます。また、画像を整理したり、他人に見せるために編集することもできます。このアプリケーションには、画像をさまざまな形式に変換できる複数のプラグインが含まれています。画像改善プラグインには、赤目補正、汚れ除去、ホットピクセル除去などの機能も含まれています。また、さまざまなフィルタ/効果用プラグインにより、デジタル画像から簡単に芸術作品を作成することができます。

メインメニューからdigiKamを起動するか、**Alt + F2**キーを押してdigikamと入力します。digiKamを起動すると、ウィンドウが表示されます。このウィンドウの左側には、アルバムの一覧が、右側には現在選択されているアルバムの画像が表示されます。参照先 図 21.1. 「digiKamのメインウィンドウ」(244 ページ). ウィンドウの右端には、イメージに関する重要情報の表示またはイメージに関連する特定のデータの操作を行うための多数のタブが存在します。

プロパティ

このタブでは、ファイルのプロパティ(許可、所有権、変更日時など)、イメージプロパティ(サイズやファイル形式など)、および写真プロパティ(基本モデル、露出、および口径に関する情報)など、イメージに割り当てられたプロパティにアクセスできます。

メタデータ

たとえばこのタブを使用して、EXIFやGPSなど、イメージに関連付けられたさまざまな種類のメタデータにアクセスできます。

Colors

このタブを使用して、カラー管理に関連するデータにアクセスし、イメージに関連するヒストグラムを分析します。

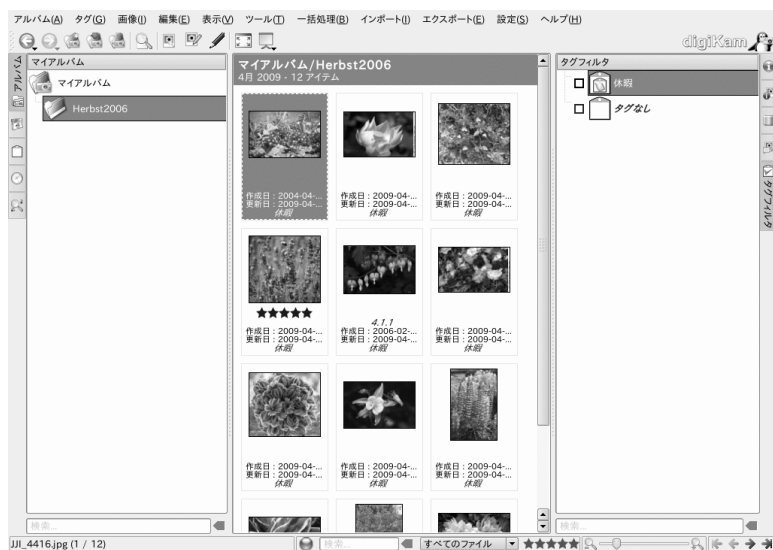
コメント/タグ

このタブを使用して、イメージにコメント、タグ、または評価を割り当てます。

タグフィルタ

[*Tag Filter*(タグフィルタ)] では、タグ付け情報を使用して、メインビューに表示されるイメージにフィルタを適用します。digiKamでのタグの使用方法については、「21.4項 「タグの管理」 (248 ページ)」を参照してください。

図 21.1 digiKamのメインウィンドウ



21.1 カメラの設定

デジタルカメラから画像をダウンロードするには、カメラに付属のUSBケーブルを使って、コンピュータのUSBポートにカメラを接続してください。カ

メラの種類によっては、カメラをデータ転送モードに切り替える必要があるものもあります。詳細は、カメラのマニュアルを参照してください。

カメラにある写真にアクセスするには4つの方法があります。

1. **USB大容量記憶装置** ご使用のカメラがUSB大容量ストレージデバイスに切り替えることができる場合、このオプションを選択してください。コンピュータのUSBポートにカメラを接続して、カメラをオンにしたら、そのUSBデバイスが自動的に検出されてマウントされます。KDEでは、このようなデバイスがマウントされた時に行う操作を選択することができます。この種類のデバイスのマウント時には、常にdigiKamまたは他の画像表示/処理アプリケーションを起動するように設定できます。
2. **PTP(画像転送プロトコル、PictBridgeと呼ばれることもあります)** カメラをPTPに切り替えることができる場合は、このオプションを選択します。カメラは通常、PTPモードで自動的にマウントされず、digiKamを使用してアクセスできます。
3. **特別なドライバとGphoto2** カメラがUSB大容量記憶装置とPTPのいずれもサポートしない場合は、gphoto2により提供されている特別なドライバを使用してみてください。21.10項「トラブルシューティング」(265ページ)を参照してください。
4. **カードリーダー** 現在のカメラでは、SDメモ리카ード、コンパクトフラッシュ(CF)、メモリスティックなど、さまざまな不揮発性メモ리카ードを使用できます。新しいコンピュータには、このようなすべての形式をサポートするためにさまざまなスロットを持つカードリーダーが備わっているものもあります。ケーブル、プロトコル、またはドライバを使用したくない場合は、このオプションを選択することで作業を大幅に簡素化できます。カードリーダーは通常、取り外し可能なデバイスとして検出され、KDEで自動的にマウントされます。

digiKamでカメラを設定するには、[インポート] > [カメラ] > [Add Camera(カメラの追加)] の順に選択します。最初に、[Auto-Detect] を使用して、カメラの自動検出を試します。この方法が失敗した場合、[追加] を使用してサポートするカメラのリストを参照し、使用中のモデルを探します。使用中のカメラモデルがこのリスト内にない場合は、それより古いモデルを試してみます。または [USB/IEEE mass storage camera (USB/IEEE大容量ストレージカメラ)] を選択して、[OK] をクリックします。

21.2 カメラからの写真ダウンロード

正しく設定されたカメラから画像をダウンロードするには、コンピュータにカメラを接続して、**[Camera]** メニューからカメラを選択します。digiKamはウィンドウを開き、サムネイルのダウンロードを開始し、図21.2.「カメラからの写真のダウンロード」(246ページ)のようにサムネイルを表示します。いずれかのイメージを右クリックしてポップアップメニューを開きます。メニューには、**[表示]**、**[ダウンロード]**、または**[削除]**のオプションが表示されます。ダウンロードウィンドウの右側にある**[設定]**タブを選択し、

[Renaming Options(名前変更オプション)] を使用してイメージファイルの名前を変更します。**[メタデータ]** タブを使用して、選択したイメージに関連するEXIFデータをレビューします。

図 21.2 カメラからの写真のダウンロード



ティップ: 画像の名前の変更

カメラの画像ファイル名がわかりにくい場合は、わかりやすい名前に画像名を変更すると役立ちます。固有のプリフィックスと、必要に応じて日付を指定すれば、デジカムがそれに一連のシーケンス番号を付けたファイル名を作成します。

Ctrlを押しながら左マウスボタンを押すかまたは個別のイメージをクリックするか、あるいはダウンロードウィンドウの下部にある**[イメージ]**メニューに提示されるいずれかの選択モードを使用することにより、カメラからダウ

ンロードするすべてのイメージを選択します。[Download] をクリックしてリストから場所を選択するか、または [New Album] で新しいアルバムを作成すると、現在の日付を入れたファイル名が自動的に表示されます。[OK] をクリックすると、ダウンロードプロセスが開始されます。

ティップ: 記憶メディアからのイメージのダウンロード

また、カメラのバッテリーの消費電力を節約するために、記憶メディアに対応する適切なスロットを備えるUSBハブをコンピュータに接続してファイルをダウンロードすることもできます。USBハブをコンピュータに接続すると、KDEメディアハンドラのダイアログが開き、接続したメディアからイメージをダウンロードする旨のメッセージが表示されます。

21.3 アルバムの管理

digiKamのデフォルトでは、画像を保存するために*My Albums*フォルダを作成します。ここに保存された画像は、後でサブフォルダに移動できます。アルバムは、ディレクトリレイアウトごと、アルバムプロパティに設定されたコレクション名ごと、アルバムが最初に作成された日付(この日付は各アルバムのプロパティ内でも変更できます)ごとに保存できます。

新しいアルバムを作成するには、次のいずれかの方法を使用してください。

- カメラから新しい画像をアップロードして、ダウンロード時にターゲットアルバムを作成する。
- まず [My Albums(マイアルバム)] エントリを選択し、次にメインメニューから [アルバム] > [New Album(新規アルバム)] の順に選択することにより、新しいアルバムを作成します。
- ハードディスクからイメージが保存されている既存のフォルダをインポートします([インポート] > [Add Folders(フォルダの追加)] の順に選択)。
- [My Albums] を右クリックして、[New Album] を選択する。

新しくアルバムを作成することを選択したら、アルバムのタイトルなど、アルバムを管理するための基本的な情報を指定してください。オプションで、コレクションの選択、コメントの挿入、アルバムの日付の選択ができます。

コレクションは一般的なラベルごとにアルバムを構成する1つの方法です。このラベルは、[表示する] > [アルバム] > [By Collection(コレクションごと)] の順に選択した場合に使用されます。コメントはメインウィンドウの最上部のバナーに表示されます。アルバムの日付は、[表示する] > [アルバム] > [Sort Albums(アルバムのソート)] の順に選択した場合に使用されます。

digiKamは、アルバム内の最初の写真を [My Albums(マイアルバム)] リストのプレビューアイコンとして使用します。異なる写真を選択するには、任意の写真を右クリックし、コンテキストメニューから [Set as Album Thumbnail(アルバムサムネイルとして設定)] を選択します。

21.4 タグの管理

複数のアルバム間にまたがって、多数の画像を管理する作業はとても大変です。カスタムカテゴリを使って、複数のアルバム間にまたがってイメージを管理するために、digiKamには [My Tag(マイタグ)] 機能が用意されています。タグは、画像を分類するために利用されます。1枚の画像に複数のタグを割り当てることができます。

たとえば、友達のJoeのいろいろな写真を撮影して、それを複数のアルバムに保管している場合を考えてみましょう。ここで、Joeを撮影したすべての写真の概要を簡単に作成する方法はないでしょうか?このような場合に、digiKamのタグを使用して、次の作業を行います。

- 1 上部のメニューバーから [タグ] > [New Tag(新規タグ)] の順に選択して、新しいタグ名を入力します(この例ではJoe)。

このダイアログボックスでは、階層的なタグを作成することもできます。たとえば、Peopleタグの下にJoeタグを置くには、テキストフィールドにPeople/Joeを挿入します。必要に応じてアイコンを指定し、[OK] を選択してダイアログを閉じます。

- 2 各アルバムを開いて、Joeが写っているすべての画像に対してこのタグを割り当てます。タグを割り当てするには、画像を右クリックして [Assign Tag] > [Joe] の順に選択します。

大量のイメージを処理する必要がある場合に、最も簡単にタグ付けする方法は、メインウィンドウの右端にあるタブバーから [Captions/Tags(キャプション/タグ)] を選択することです。

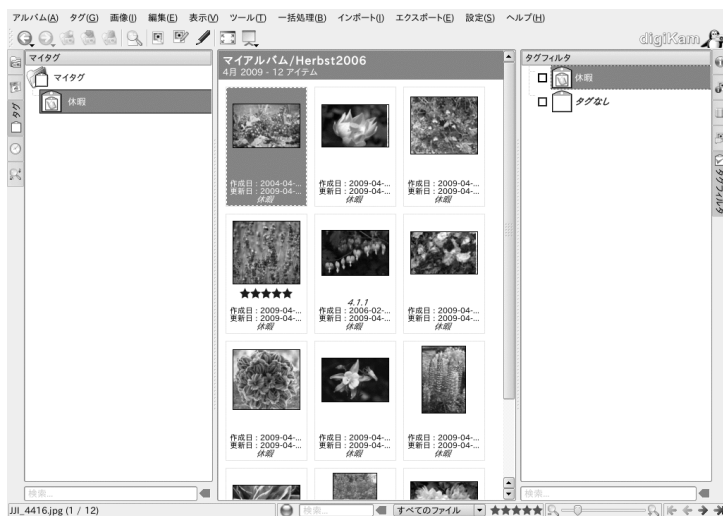
ン/タグ] タブを使用することです。表示されるインタフェースでは、このイメージにタグを割り当てたり、説明を入力したり、イメージの評価を指定したりできます。最初のイメージの操作が終わったら、引き続きこのダイアログで右矢印ボタンをクリックし、[適用] をクリックして設定を適用します。このアルバムのすべてのイメージに対してこの操作を行います。他のアルバム内の画像に対しても、同様の作業を行ってください。

コレクション全体から、特定のタグを持つすべての画像を抽出するには、以下の手順に従ってください(この例では「Joe」)。

- 1 左側のタブバーから、[Tags] タブを開きます。
- 2 [My Tag] を開きます。
- 3 [Joe] タグを選択します。

選択したタグを持つ、コレクション内のすべての画像が表示されます。

図 21.3 タグ付き画像のみの表示



メインウィンドウの一番右端にある [Tag Filter] を利用すれば、現在のアルバム中の画像表示を、ここで選択したタグを持つ画像のみに限定することができます。

21.5 強力な検索フィルタの作成

目的の画像を素早く簡単に探し出す手段がなければ、画像コレクションはいずれ管理不可能な状態になってしまいます。コレクションの管理を支援するために、digiKamには2種類の検索オプションが用意されています。

単純な検索

基本的な検索機能です。[ツール] > [検索] の順に選択し、イメージに関連する文字列(イメージ名、タグ名、コメントなど)を入力して、[OK] をクリックします。この検索内容は将来の使用のために保存できます。また、digiKamウィンドウの左端の [検索] に表示される他の既存の検索内容を編集できます。

Advanced Search

複雑な検索フィルタです。[ツール] > [拡張検索] の順に選択し、イメージプロパティ(アルバム、タグ、評価、日付など)を使用して複雑さのルールを設定します。また、必要に応じてこれらのオプションを組み合わせます。今後とも使用するためにこの検索フィルタを保存したり、[Searches] に表示されている既存の検索内容を編集することができます。

評価またはタグ情報を使って画像を検索する [Advanced Search] の作成方法を、次の例に示します。

- 1 メインメニューから [ツール] > [拡張検索] の順に選択します。
- 2 最初の検索基準を選択します。この例では、評価(Rating)が5つ星(5 Stars)の画像を検索するために、[Rating+Equals+5 Stars] を選択します。
- 3 [Add/Delete Option] セクションで、[Or] を選択して、[Add] をクリックします。既存の検索ルールの下に、新しい検索ルールが追加されます。
- 4 2番目の検索基準を選択します。この場合、[Filters] で言う名前のタグを付けられたすべての画像を検索するために、[Tag+Equals+Filters] を選択します。
- 5 必要に応じて他の検索基準を追加したり、基準をグループ化したり、削除してください。検索結果は、検索ウィンドウに表示されます。

- 6 今後も使用するために検索を保存するには、名前を入力してから、**[OK]** をクリックして **[Advanced Search]** ダイアログを閉じます。

図 21.4 詳細検索フィルタの作成



21.6 画像コレクションのエクスポート

digiKamには、個人の画像コレクションのアーカイブと公開に役立つ、いくつかのエクスポートオプションがあります。CDやDVDへのアーカイブ(k3bを使う)、HTMLへのエクスポート、リモートギャラリーへのエクスポートが行えます。

画像コレクションをCDまたはDVDに保存するには、以下の手順に従います。

- 1 エクスポートするアルバムを選択し、**[エクスポート]** > **[CD/DVDへのアーカイブ]** の順に選択します。
- 2 **[Create CD/DVD Archive]** ダイアログのいくつかのサブメニューで、必要な調整を行います。
 - 2a **[Album Selection(アルバムの選択)]** で、コレクションのうちのどの部分をアーカイブするかを決めます。
 - 2b **[HTML Interface]** では、画像コレクションをHTML形式で表示できるようにするかどうか、またCD/DVDアーカイブに自動実行機能を追加するかどうかを指定します。コレクションのタイトル、イメージ、フォント、および背景のプロパティを設定してください。

2c 必要に応じて、*[Media Volume Descriptor]* のボリューム説明の設定を変更します。

2d 必要に応じて、*[Media Burning]* の書き込みオプションを変更します。

3 *[OK]* をクリックして、書き込みプロセスを開始します。

画像コレクションのHTMLエクスポートを作成するには、以下の手順に従います。

- 1** *[エクスポート]* > *[HTMLギャラリー]* の順に選択します。
- 2** *[コレクション]* でアルバムまたはタグを選択することによりアーカイブするコレクションの部分を決定し、*[次へ]* をクリックします。
- 3** *[テーマ]* ダイアログを使用してHTMLギャラリーのタイトルおよび外観を設定し、*[次へ]* をクリックします。
- 4** *[画像の設定]* のギャラリーナビゲーションで使用するサムネイルについて、そのサイズ、圧縮、およびファイルタイプを指定し、*[次へ]* をクリックします。
- 5** *[出力]* によりディスク上のギャラリーの場所を決定し、*[完了]* をクリックします。

コレクションをインターネット上の外部イメージギャラリーにエクスポートするには、以下の手順に従います。

- 1** ギャラリーを置く外部Webサイトのアカウントを取得します。
- 2** *[エクスポート]* > *[Remote Gallery Sync(リモートギャラリーの同期)]* の順に選択し、外部サイトのURL、ユーザ名、およびパスワードを入力します(要求された場合)。Digikamは、指定されたサイトへの接続を確立して、*[Gallery Export]* というウィンドウを表示します。
- 3** ギャラリー内の新しいアルバムの場所を決めます。
- 4** *[NewAlbum]* をクリックして、digiKamから求められたら情報を入力します。

- 5 [Add Photos] で、新しいアルバムにイメージをアップロードします。

21.7 画像の表示と編集

digikamには、さまざまなプラグインから成り立つ広範な画像表示/編集機能が用意されています。digikamの表示モードまたは編集モードに移行するには、イメージのサムネイルを右クリックし、コンテキストメニューから [表示] または [編集] を選択します。プラグインを使用するには、digikamimagepluginsパッケージをインストールする必要があります。

イメージを表示する場合に、次のオプションを選択できます。

- 単一のイメージを表示する場合は、アルバムまたはコレクションを開き、目的のイメージをクリックして表示します。もう一度クリックすると、以前のビューに戻ります。
- すべてのイメージを含むスライドショーを開始するには、[表示] > [スライド] > [すべて] を使用します。
- 選択したイメージのみを含むスライドショーを開始するには、Ctrlキーを押しながらイメージを選択し、[表示] > [スライド] > [選択] の順に選択します。

選択したイメージを編集するには、メインメニューから [編集] を使用します。この結果、よく使用される一部の基本編集オプションを提示するウィンドウが開きます。

- [back(戻る)] / [forward(進む)] ボタンを使用すると、フルアルバムビューに戻らずにアルバムをブラウズできます。
- 特定の操作を選択的に取り消すかやり直すには、[取り消し] / [redo(やり直し)] メニューを使用します。
- ズームオプションを使用して、使用中のウィンドウのサイズに合わせてイメージビューをズームイン/ズームアウトします。イメージの特定の領域を選択的に拡大する場合は、鏡のアイコンを使用します。
- イメージを右回りまたは左回りにフリップします。

- ・ 選択したイメージのスライドショーまたは全画面ビューを有効にします。

21.7.1 イメージの装飾の適用

編集モードでは、より効果的な機能を使用できます。 *[Decorate(修飾)]* メニューを使用することで、フィルタとその微調整について考慮しなくても、グラフィックとテキストのさまざまな効果をイメージに重ね合わせることができます。

テクスチャの適用

画像に適用するテクスチャの種類を選択して、テクスチャの強度を指定します(*[Relief]*)。テクスチャが適用され、変更内容が画像のオリジナルコピーに保存されます。

枠線の追加

枠線の種類を選択します。選択した枠線の種類に応じて、枠線の色を1つまたは2つ選択し、枠線の幅を指定します。枠線が作成され、変更内容が画像のオリジナルコピーに保存されます。

テキストの挿入

画像に表示するテキストを入力し、フォント、スタイル、およびサイズを選択します。テキストの文字揃え情報を選択し、テキストを回転するかどうか、および回転する場合はその回転角度を指定します。必要に応じて枠線や透明度を指定します。オリジナル画像のテキスト専用レイヤにテキストが追加されます。

テンプレートの重ね合わせ

イメージにテキストを重ね合わせるように、出来合いのテンプレートを適用して、楽しいグリーティングカードやポスターなどを作成できます。

21.7.2 色の設定の操作

[色] メニューでは、色に関連するすべての設定を管理できます。その機能の範囲は、簡単な自動補正メカニズムから色プロファイルによる本格的な色管理まで至ります。

自動色補正

イメージの簡単な色補正および露出補正を行う場合は、このオプションを使用します。さまざまな事前設定モードから最適なものを適用します。ヒストグラムを使用して、得られた結果がニーズに適合するかどうかを決定します。

明るさ/コントラスト/ガンマ

このツールでは、露出過剰/不足のイメージを簡単に修正できます。

色相/彩度/明度

このツールは、非常に明るい状態で記録され、やや色あせたように見えるイメージを最適化するために役立ちます。色相と彩度のスライダを操作することにより、こうしたイメージの彩度を復元できます。また、色のレベルに応じて、イメージが暗くなりすぎないように、明度を調整した方がよい場合もあります。もちろん、低明度の状態で記録され、彩度があまりにも高いイメージを明るくする必要がある場合は、このツールを使用して逆の効果を狙うこともできます。

色のバランス

イメージが記録された明度の状態またはイメージスキャンの品質によっては、色のバランスが崩れて見える場合があります。この色バランスツールを使用することにより、色スペクトルの他端に向けてバランスを移動することができます。

反転

色の値を反転します。

Black & White

カラー画像を白黒画像に変換します。フィルム、レンズフィルタ、トーン、および明度を使用して、最終生成物を微調整します。[Film(フィルム)] タブでは、さまざまな白黒フィルムが持つ効果をエミュレートできます。カメラレンズで使用する色フィルタをエミュレートするには、[Lens Filters(レンズフィルタ)] タブを使用します。一度に1つのフィルタしか適用できないことに注意してください。[Tone(トーン)] タブを使用することで、特別な方法(たとえばセピア調)で白黒イメージの色を変更できます。

色数

色数(ビット)を決定します。8ビットイメージから16ビットイメージへの変換とその逆方向の変換を行います。

色管理

ICC色プロファイルを使用した色管理を使用すると、複数の出力デバイス(カメラ、ディスプレイ、プリンタ)にわたり色精度を保持できます。

レベルの調整

このオプションを使用することにより、単一のツールで複数のレベルを管理し、結果イメージをチェックします。選択したレベルの設定を保存できるので、必要に応じて複数のイメージに同じ補正を適用できます。この機能は、カメラで常に誤った同じ色設定が適用される傾向があることがわかっていて、1回のクリックのみでそれを補正したいときに役立ちます。

色の効果

このツールでは、端検索や露出過度などの色効果を選択できます。

ホワイトバランス

各光源は、デジタルカメラのチップで異なって登録されています。光源に応じて色温度は、標準的な日光より暖方向(スペクトルの赤い端)、または冷方向(スペクトルの青い端)のいずれかで登録される傾向があります。ほとんどのカメラでは、こうした効果を補正するホワイトバランススキームが事前設定されています。得られた結果イメージが誤って登録されている場合は、**digiKam**のホワイトバランス調整機能を使用します。ケルビンスライダを使用して色温度を直接操作するか、または事前設定されたいずれかのホワイトバランススキームを選択します。

曲線の調整

このツールでは基本的に、明るさ/コントラスト/ガンマツールとレベル調整ツールで可能なあらゆる操作を実行できます(ただし、単一のツールで実行でき、自由なマッピングを使用できます)。したがって、このツールは他の2つのツールよりも強力ですが、その使用に慣れるにはある程度の時間がかかる場合があります。

チャンネルミキサー

チャンネルミキサーツールは、カラーイメージを白黒イメージに変換するための上記とは別の方法を提供するものです。[モノクロ]オプションおよびチャンネルスライダを使用することで、各色チャンネルが全体的なイメージに寄与する割合を選択的に決定できます。チャンネルミキサーオプションは、各色チャンネルを個別に管理できるので、標準的な白黒変換方式よりもはるかに柔軟です。

21.7.3 画像の修正と微調整

[機能強化] メニューを利用して、デジタルイメージに関する多くの一般的な欠陥を修正することができます。

ぼかし , シャープ

画像をシャープにしたり、ぼがします。

Red Eyes(赤目)

フラッシュ使用による赤目を補正します。

Inpainting(塗り直し)

画像内の不完全な領域を修正します。

Noise Reduction(ノイズ低減)

レンズやセンサのホコリなどが原因の欠陥を修正します。ISO感度を高く設定したことによるピクセルノイズを補正し、低品質スキャンによるノイズや汚れを低減します。

Hot Pixels(ホットピクセル)

カメラセンサの不良ピクセルによる、画像内のピクセルに関する問題を検出、修正します。

Lens Distortion (レンズ歪み補正)

広角レンズや望遠レンズの使用による画像の樽型歪みや糸巻き型歪みを補正します。

復元

ノイズやスクラッチなど、さまざまな種類のデジタル画像に関する欠陥を修正する手段を提供しています。

Vignetting(口径食補正)

超広角/超望遠レンズの使用による、画像中央または端のケラレ(口径食)を補正します。

[Fix] の機能を理解するために、たとえば [Inpainting] の機能を見てみましょう。レンズの傷や汚れにより画像に問題が生じた場合を考えてみます。このタイプの問題を修正するには、以下の手順に従います。

- 1 画像を開きます。

- 2 マウスカースルを使って、修正する領域を選択します。
- 3 [機能強化] > [塗り直し] の順に選択するか、またはCtrl+Eキーを押します。
- 4 傷や汚れを修正する方法を指定します。
 - いずれかのプリセットオプション([Remove Small Artifact]、 [Remove Medium Artifact]、または [Remove Large Artifact])を選択し、「ステップ 6」に進みます。
 - フィルタパラメータを設定します。に従って手順を進めます。ステップ 5
- 5 事前設定されたフィルタの使用を選択しない場合は([Preset(事前設定)] タブ)、 [General(一般)] タブと [詳細設定] タブを使って、設定内容を調整してください。
- 6 [OK] をクリックすると、設定内容に応じて画像が修正されます。

ティップ: 独自のフィルタ設定の作成と再利用

同じ設定を何回も使用する必要があるような場合は(たとえば、レンズの傷により複数の画像に同じ問題が発生しているような場合)、独自のフィルタ設定を作成します。独自のフィルタを保存するには、 [Save As] をクリックして設定内容をテキストファイルに保存します。以降の画像を修正する場合は、 [Image Inpainting] ダイアログを開いて [Load] をクリックし、使用するフィルタ設定に対応するテキストファイルを選択して [OK] をクリックします。

図 21.5 [Inpainting] を使った傷/汚れの除去



21.7.4 画像変換の適用

画像を拡大/縮小したり、回転するには、[Transform] メニューを使用します。

Rotate、Flip、Free Rotation

画像を一定の角度回転します。[Rotate] は、画像を90度単位で回転します。[Free Rotation] を使用すれば、任意の回転角度を指定できます。

Crop、Aspect Ratio Crop

画像をクロップします。[Crop] は、画像の長方形の領域を切り取ります。[Aspect Ratio Crop] を使用すれば、さまざまな方法で画像のクロッピングを行うことができます。

Perspective Adjustment(視点の調整)

画像の視野を調整します。たとえば、垂直線または水平線を含む画像の角度がおかしい場合に、このツールを使ってそれを修正することができます。画像の角にあるハンドルを使って、移動してください。その結果として生じた画像端の黒い領域を削除したり、画像をトリミングするには、[Crop] ツールを使用します。

Shear(剪断変形)

画像の一部をある方向に、そして別の部分を反対方向に移動します(垂直または水平方向)。垂直または水平方向の角度を指定して、[Crop] を使って結果の画像をトリミングします。

サイズ変更

イメージのサイズを調整します。[*Resize*] では、ピクセルまたはパーセントを使ってイメージサイズを簡単に変更することができます。アスペクト比を維持するかどうかを選択してください。[*Restore photograph*(写真の復元)] を選択することで、サイズ変更イメージで使用されるアルゴリズムを微調整し、最終生成物の品質を向上させることができます。このオプションの処理は簡単なサイズ変更操作よりも大幅に遅くなる場合があります。

修正内容に不満がある画像や、一定の形式に合わせて画像をクロップする必要があるような画像がある場合を考えてみましょう。このような場合は、[*Aspect Ratio Crop*] を使って以下の作業を行います。

- 1 画像を開きます。
- 2 [*Transform*] > [*Aspect Ratio Crop*] の順に選択します。
- 3 向きとアスペクト比を指定します。

なし

[*X*]、[*Width*]、および [*Y*]、[*Height*] スライダーを使って、画像のフリークロップを指定します。

カスタム

プリセット値の代わりに使用するカスタムの幅と高さの比を選択します。

[*X:Y Ratio*]

これらの比率は、写真の印刷に一般的に使われる用紙サイズの大半に合います。目的に一番合ったオプションを選択してください。

[*Golden Ratio*]

従来から芸術家や建築家に使用されている、最良の調和を産む比率(黄金比:1:1.618)です。

[*最大*] を使用します。指定した比率で可能な最大サイズのクロップ領域を設定するには、[*アスペクト*] ボタンを使用します。

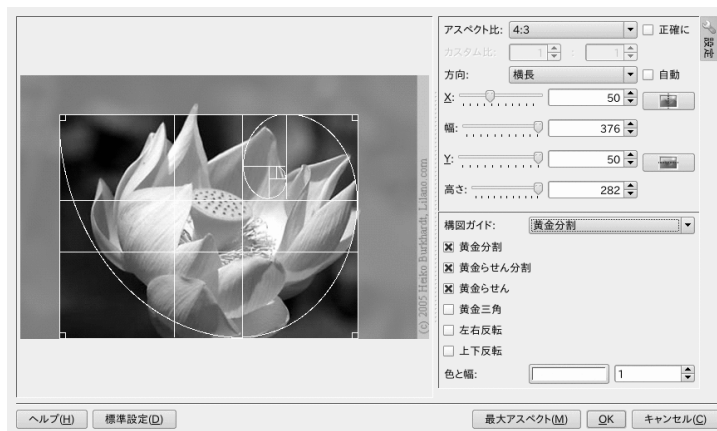
- 4 クロップ領域を設定したら、必要に応じて合成ルールを適用します。見栄えのいい結果を得るための設定には、[*Composition Guide*] が役立ちます。より良い画像を得るためのガイドとして、点線が表示されます。

ティップ: 詳細情報

これらのオプションの詳細は、<http://docs.kde.org/kde3/en/extragear-graphics/digikam/image-editor.html>を参照してください。

- 5 クロップ領域が、合成ルールと合わない場合は、移動してください。
- 6 設定内容に合わせて画像をトリミングするには、**[OK]** をクリックします。

図 21.6 アスペクト比クロップを使ったカスタムクロップの作成



21.7.5 フィルタと効果の適用

さまざまな基本効果やフィルタを適用して、芸術的な画像や見栄えのいい画像を作成することができます。

雨滴

画像に雨滴効果を適用します。雨滴のサイズと数を指定した後に、雨滴によるゆがみの度合いを **[Fish eyes]** に指定します。

赤外線フィルム

非現実的な効果を出すために、赤外線フィルムの使用をシミュレートします。結果は元の画像と大幅に異なります。粒状度やISO感度を調整して、よりアーティスティックな結果を得ることもできます。

油絵

油絵シミュレートします。画像に適用するブラシのサイズとスムージングの度合いを指定してください。

エンボス

画像をエンボス(浮き彫り)加工します。適切な深さを選択してください。

Distortion Effects(歪め効果)

魚眼レンズなどの、さまざまな歪み効果を適用します。種類、レベル、および反覆度を指定してください。

Add Film Grain(フィルム粒子の追加)

画像を粗くするために、フィルムの粒状度を上げます。

Blur Effects(ぼかし効果)

画像をぼかして、焦点の合わない状態での撮影や、動いている物の撮影をシミュレートします。

木炭画効果

画像を白黒の木炭画に変換します。適切な鉛筆サイズを選択し、画像に適用するスムージングの度合いを指定します。

図 21.7 赤外線写真のシミュレート



21.8 便利なツール

digiKamには、画像コレクションを整理/編成や、画像の処理に役立つさまざまな機能が用意されています。これらのツールは、[ツール]メニュー内に用意されています。いくつかの強調点:

Find Duplicate Images(重複画像の検索)

コレクション内に重複している画像があるような場合には、このオプションを使って重複画像を検索、削除することができます。まず、検索対象にするアルバムやタグを指定します。[OK]をクリックすると、検索が開始されます。コレクションに重複する画像があった場合は、画面に両方の画像が表示されます。ここから、削除する画像を選択することができます。

カレンダーの作成

使用する画像と用紙サイズ、フォントを選択するだけで、標準のレイアウトを使った単純なカレンダーを作成することができます。

RAW画像コンバータ

digiKamでは、さまざまなベンダー固有のRAW画像から、JPEGやPNGなどの一般的な形式に画像を変換することができます。このオプションを使って、単一の画像を変換することができます。複数の画像を変換する必要がある場合は、バッチ変換を使用してください([Tools] > [Batch Processes] > [RAW Images Converter (Batch)])。お使いのカメラのRAW画像形式をdigiKamコンバータプラグインがサポートしているかどうかを確認するには、<http://www.cybercom.net/~dcoffin/dcraw/>を参照してください。

21.9 バッチ処理

多数のファイルに対して特定のアクションを一度に実行する必要がある場合は、バッチ処理を使用します。枠線の追加、色の編集、効果やフィルタの適用、画像の名前/サイズの変更、再圧縮、またはRAW画像の変化などの操作を行えます。

たとえば、多数の画像を露光過多状態に一括して変換することができます。画像をバッチ処理キューに格納したり、実際にバッチ処理を実行するには、以下の手順に従ってください。

- 1 [バッチ] > [Image Effects(画像効果)] の順に選択するか、またはアルバム名を右クリックして [Batch Processes(バッチ処理)] > [Image Effects(画像効果)] の順に選択します。
- 2 [Solarize] 効果を設定して、[Options] をクリックし、効果を適用する度合いを設定したり、プレビューを表示します。
- 3 元の画像に上書きするか、それとも名前を付けて保存するかを選択します。また、変換後に画像を削除することもできます。
- 4 変換後の画像を保管するフォルダを設定します。変換後の画像をオリジナル画像のフォルダに保存したくない場合は、[New] を選択して新しいフォルダまたはサブフォルダを追加してください。新しいフォルダを選択します。
- 5 変換キューに保存する画像リストをそのまま使用するか、または必要に応じて修正してください。
- 6 [Start] をクリックすると、画像の変換が開始されます。

進行状況を示すメッセージが表示されます。すべての処理が完了すると、その旨を知らせるメッセージが表示されます。

図 21.8 バッチ処理:画像を露光過多にする



21.10 トラブルシューティング

SUSE Linux Enterprise DesktopとdigiKamはさまざまなカメラをサポートしていますが、SUSE Linux Enterprise Desktopでデジタルカメラを使用する場合に、次のような問題が発生することがあります。

カメラからの画像のダウンロードに失敗する

どのプロトコル(PTPまたはUSB)を使っても、画像のダウンロードに失敗する場合は、digiKamの代わりにコマンドラインを使用してください。

gphoto2 --Pコマンドを実行すると、カメラが初期化されて画像がダウンロードされます(gphoto2がカメラをサポートしている場合)。

お使いのカメラをdigiKamが公式にサポートしていない

gphoto2 --list-camerasコマンドを実行したり、<http://www.gphoto.org/>を参照して、Linuxがサポートするカメラに関する情報を確認してください。

お使いのカメラがこれらの情報源に記載されていない場合は、カメラから記録メディアを取り出して、カードリーダー(外部デバイスや内部デバイス)を使用してください。メディアが検出されたら、自動的にマウントされます。イメージをdigiKamコレクションにインポートするには、[インポート] > [Add Images(イメージの追加)] の順に選択するか、または [インポート] > [Add Folders(フォルダの追加)] の順に選択します。

21.11 詳細情報

Linuxと共にデジタルカメラを使用する方法については、次のWebサイトを参照してください。

- <http://www.digikam.org>—digiKamの公式ホームページ
- <http://www.digikam.org/drupal/docs>—digiKam公式ハンドブック
- <http://www.gphoto.org>—gPhoto2に関する情報
- <http://www.gphoto.org/proj/libgphoto2/support.php>—サポートしているカメラ全般のリスト



F-スポットによるデジタルイメージコレクションの管理

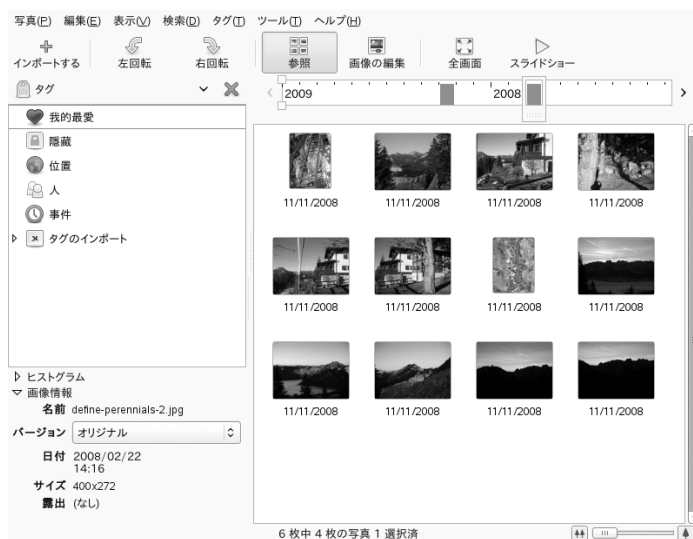
22

F-スポットはGNOMEデスクトップ用に設計されたデジタル画像のコレクションの管理ツールです。これを使用すると、さまざまなタグを画像に割り当てて写真を分類することができます。また、画像編集オプションが多数用意されています。たとえば、赤目を修正したり、クロッピングを行ったり、色の明度を調整することができます。F-スポットは、JPEG、BMP、GIF、TIFF、RAWなど、16種類のファイル形式をサポートしています。

ハードディスク、デジカメ、またはiPodから画像をインポートすることができます。また、F-スポットを使ってPhoto CDを作成したり、Webサイトギャラリーを作成したり、画像をFlickr、23、Picasa Web、またはSmugMugなどのアカウントにエクスポートすることもできます。

F-スポットにアクセスするには、[コンピュータ] > [F-スポットフォトブラウザ] の順にクリックします。初めてF-スポットを実行した場合、コレクションにインポートする画像がある場所を指定することができます。すでにハードドライブに画像コレクションを保存している場合は、それぞれのディレクトリへのパスを入力し、オプションとしてサブフォルダを含めます。F-スポットはこれらの画像をデータベースにインポートします。

図 22.1 F-スポットメインウィンドウ



ウィンドウの右側には、画像のサムネイルが表示されます。左側のサイドバーには、選択した画像の詳細情報が表示されます。デフォルトでは、写真は新しい日付から古い日付へと表示されます。写真の表示順を変更するには、[表示] > [Reverse Order(逆順)] の順にクリックします。

ティップ: サイドバーの内容

サイドバーの上部で、サイドバーの内容をタグからメタデータまたは編集に変更します。サイドバーがまったく表示されない場合は、F9キーを押すか、または [表示] > [コンポーネント] > [サイドバー] の順にクリックしてサイドバーを表示します。

ウィンドウの最上位のメニューバーから、メインメニューにアクセスできます。メニューバーの下にあるツールバーには、以下のオプションが用意されています。

表 22.1 F-スポットツールバー

アイコン	説明
回転(左または右)	このショートカットを使用して、画像の向きを変更します。
参照	ブラウズモードでは、全体のコレクションまたはコレクションのタグ付きサブセットの表示と検索を実行できます。また、作成日で画像を検索するためにタイムラインを使用することもできます。
イメージの編集	このモードでは、画像を1つ選択し、基本的な画像処理を実行できます。詳細は、「22.7項「基本的な写真の編集」(279 ページ)」に説明しています。
フルスクリーン	全画面表示モードに切り替えます。
スライドショー	スライドショーを開始します。

22.1 写真のインポート

ハードディスクやデジカメから、写真をインポートすることができます(詳細は22.2項「カメラからの写真ダウンロード」(271 ページ)を参照)。F-スポットは、ハードディスクからインポートした写真のコピーを自動的に作成します。画像のコピーを作成しない場合は、[インポート] ダイアログボックスの [写真フォルダにファイルをコピー] の選択を解除するか、または写真をF-スポットにShiftキーを押しながらドラッグしてください。

図 22.2 画像のF-スポットへのインポート



デフォルトでは、写真はホームディレクトリ中の/Photosディレクトリにコピーされます。F-スポットが使用するディレクトリを変更するには、**[編集]** > **[初期設定]** の順にクリックします。

インポートするすべての写真が特定のイベントのものだったり、共通の特徴があるような場合は、後ほど簡単に見つけられるように写真のタグを作成することができます。**[タグの添付]** フィールドで、すべての新しい写真へのインポートに関連付けるタグをコンマで区切って入力します。

写真をインポートする

- 1 **[写真]** > **[インポート]** の順にクリックします。
- 2 インポート元を選択し、**[開く]** をクリックします。
- 3 写真のロードが完了したら、**[インポート]** をクリックします。

写真がカタログに追加されます。

22.2 カメラからの写真ダウンロード

デジカメをコンピュータのUSBポートに接続して、そこから新しい画像をインポートすることができます。カメラの種類が自動的に検出されます。デジカメから写真をインポートする場合、写真のコピーが作成されます。

- 1 [写真] > [インポート] の順にクリックします。
- 2 インポート元としてカメラを選択します。

F-スポットはカメラからダウンロードできるすべての画像を表示するプレビューウィンドウを起動します。これらのファイルは、*[Copy Files to(ファイルのコピー先)]* で指定されたターゲットディレクトリにコピーされます。*[コピー後にファイルをインポート]* を選択すると、カメラからコピーされたすべての画像は自動的にF-スポットのデータベースにインポートされます。*[Select Tags]* の選択で適切なタグを選択すると、タグ付けがインポートで実行されます。カメラのすべての画像をデータベースにインポートしない場合、プレビューウィンドウで不要な画像の選択を解除してください。



- 3 [コピー] をクリックします。

- 4 作業が完了したら、[OK] をクリックします。

写真がカタログに追加されます。

22.3 写真情報の取得

画像を選択すると、その画像に関する基本的統計情報がウィンドウの左下に表示されます。この情報には、ファイル名、バージョン(コピーまたは元の写真)、作成日、サイズ、およびこの画像の作成に使用された露出が含まれています。

ファイルに関連するEXIFデータを含む写真に関するより詳細な情報を表示するには、[インポート] ボタンの下にある [メタデータ] を選択し、[拡張メタデータ] をクリックします。

22.4 タグの管理

このタグを使用して写真を分類し、管理可能なコレクションのサブセットを作成します。F-スポットにはデフォルトのタグが用意されています。これを変更したり、新しいタグを追加できます。たとえば、大事な人たちの写真のコレクションを整理、編成するには、以下の作業を行います

- 1 F-スポットの [参照] モードを選択します。
- 2 左側のサイドバーでタグビューを有効にします。
- 3 サイドバーで [ユーザ(People)] カテゴリを右クリックし、[新しいタグの作成] を選択します。
 - 3a Friendsという新しいタグを作成します。
 - 3b Familyという新しいタグを作成します。

新しいタグが、[人物] カテゴリの下にサブカテゴリとして表示されます。

4 ここで、画像、または選択した画像のグループにタグを添付します。

画像を右クリックして、[タグの添付] を選択し、この画像に適切なタグを選択します。画像のシーケンスにタグを関連付けるには、最初の画像をクリックしてShiftキーを押し、Shiftキーを押したまま別の画像を選択します。選択したイメージのグループにタグを関連付けるには、Ctrlキーを押しながらイメージを選択します。タグメニューを右クリックして、一致するカテゴリを選択します。

次の方法で写真にタグを付けることもできます。

- 写真をタグにドラッグアンドドロップする。
- タグを写真にドラッグアンドドロップする。
- [タグ] メニューのオプションを使用します。
- 写真を選択してからtを押して、タグ入力バーを表示する。

タグに関連付けた最初の写真が、そのタグのアイコンとして使用されます。タグ名、親タグ、またはアイコンを変更するには、タグを右クリックして [選択したタグを編集] を選択します。

タグの親を変更するには、タグを任意の場所にドラッグアンドドロップします。また、タグを選択してF2キーを押してタグの名前を編集することもできます。

写真にタグを付けたら、そのタグを使ってコレクションを参照することができます。前の例では、[人物]、> [家族] をクリックすると、[家族] のタグが付けられた写真のコレクションだけが表示されます。タグを使用したコレクションの検索は、[検索] > [選択したタグの検索] の順にクリックしても実行できます。検索の結果は、サムネイル概要ウィンドウに評されます。

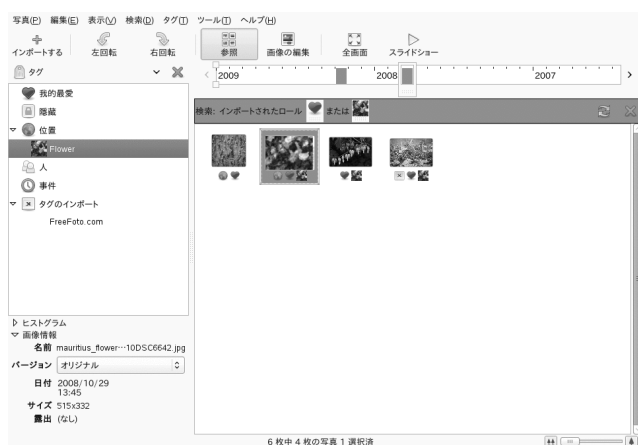
単一の画像または画像グループからのタグ削除は、タグの添付と同じように実行できます。タグ編集機能は、最上位のメニューバーの [タグ] メニューからもアクセスできます。

22.5 写真の検索

で説明したとおり、タグは特定の画像を検索する手段として使用することができます。22.4項「タグの管理」(272 ページ) また、ツールバーの下にある「タイムライン」を使用する方法もあります。タイムラインの小さなフレームをドラッグすれば、サムネイルに表示する画像を選択したタイムフレーム内に撮影された写真に限定することができます。F-スポットにはデフォルトのタイムラインが設定されていますが、スライダーをタイムラインの左右に移動して期間を変更することができます。

また、「検索」>「検索バーの表示」の順にクリックして検索を行うこともできます。表示された検索バーに、タグビューからタグをドラッグできます。

図 22.3 F-スポットの検索バーの表示



複数のタグが付けられた写真を検索するには、タグビューで最初のタグを選択し(またはタグを検索バーにドラッグし)、次に2番目のタグを最初のタグにドラッグアンドドロップします。また、タグビューで2番目のタグを右クリックして「選択したタグの検索方法」を選択するか、または「検索」>「選択したタグの検索方法」の順にクリックして、次に最初のタグ(またはタググループ)を選択することもできます。

検索バーのタグをダブルクリックして、特定のタグを持たない写真を検索できます。ダブルクリックしたタグを持たない写真(または何もタグが付けられ

ていない写真)が表示されます。また、検索バーのタグを右クリックして、**[除外]**を選択することができます。

検索からタグを削除するには、検索バーから削除するタグをドラッグするか、またはタグを右クリックして **[削除]** を選択します。

デフォルトでは、**[非表示]** のタグが付けられた写真は表示されません。このような写真を表示するには、検索で明示的に **[非表示]** のタグを付けられた写真を指定する必要があります。

文字列を入力して検索することもできます。開くには、スラッシュ(/)を押します。これは、検索バーと同時に使用することはできません。検索時には「**「タグA and (タグB or (タグC and タグD))」**」のように入力することができます。入力中に、F-スポットが有効なクエリーと認識したら、そのクエリーに応じて検索内容が更新されます。**not**は使用できません。

図 22.4 入力検索



22.6 画像コレクションのエクスポート

F-スポットには、写真コレクションのさまざまなエクスポート機能(22.6.1項「Webサイトギャラリーの作成」(276 ページ)、22.6.2項「写真のCDへのエクスポート」(277 ページ)、22.6.3項「写真のフォルダへのエクスポート」(277 ページ)、22.6.4項「SmugMug、Flickr、23hq、Zoomr、またはPicasa Web Albumsのアカウントへのコピー」(278 ページ))が用意されています。

22.6.1 Webサイトギャラリーの作成

Gallery[<http://gallery.sourceforge.net>]として知られているPHPソフトウェアをお使いの場合は、写真を既存のアルバムに投稿することができます。ギャラリーのリモート(Remote)モジュールが有効になっていることを確認してください([Site Admin] > [Plugins (Get More Plugins)] > [Remote])。

他の写真ギャラリーアプリケーションとしては、PennAve[<http://pennave.sourceforge.net/>]があります。これをF-スポットと連携使用して、写真の整理、管理を行うことができます。

- 1 エクスポートする写真を選択します。
- 2 [写真] > [エクスポート] > [Webギャラリーにエクスポート] の順にクリックします。



- 3 画像をエクスポートするギャラリーを選択するか、[追加] をクリックして新しいギャラリーを追加します。

F-スポットは、指定されたWeb上のギャラリーとの接続を確立します。

- 4 画像をエクスポートするアルバムを選択し、画像のサイズと向きを自動的に設定するかどうかを指定し、タイトルとコメントをエクスポートします。
- 5 [エクスポート] をクリックします。

22.6.2 写真のCDへのエクスポート

- 1 CDに書き込む写真を選択します。
- 2 [写真] > [エクスポート] > [CDにエクスポート] の順にクリックして、[エクスポート] をクリックします。

ファイルがコピーされ、[ディスク書き込み先] ダイアログボックスが表示されます。



情報

書き込み先: ファイル・イメージ

ディスクの名前: 個人データ(2009年4月29)

データのサイズ: 31.3 KiB

書き込みのオプション

書き込み速度: 最大値

ヘルプ キャンセル 書き込む

- 3 画像ディスクの名前を入力し、書き込み速度を選択します。
- 4 [Write] をクリックして、CDの書き込み処理を開始します。

22.6.3 写真のフォルダへのエクスポート

- 1 エクスポートする写真を選択します。
- 2 [写真] > [エクスポート] > [フォルダ] の順にクリックします。



3 次のエクスポート方法から選択します。

スタンドアロンのWebギャラリーを作成: 写真をWebサイトにエクスポートし、アップロード準備を行います。

ファイルのみ保存: ディレクトリ内に写真をファイルとして保存します。ギャラリーにはアップロードしません。

「オリジナル」を使ってギャラリーを作成: Jakub Steiner氏のOriginal Photo Gallery [<http://jimmac.musichall.cz/original.php>]ソフトウェアでできるように、写真をエクスポートします。

4 [エクスポート] をクリックします。

22.6.4 SmugMug、Flickr、23hq、Zoomr、またはPicasa Web Albumsのアカウントへのコピー

SmugMug [<http://www.smugmug.com/>]、Flickr [<http://www.flickr.com/>]、23hq [<http://www.23hq.com/>]、Zoomr [<http://www.zoomr.com/>]、またはPicasa Web Albums [<http://picasaweb.google.com/>]を使用している場合は、F-スポットからこれらのアカウントにファイルを直接コピーできます。

1 エクスポートする写真を選択します。

- 2 [写真] > [エクスポート] > [SmugMug]、[Flickr]、[23hq]、[Zoomr]、または [Picasaweb] をクリックします。
- 3 [エクスポート] ダイアログボックスで、適切なオプションを設定します。

[エクスポート] ダイアログボックスに表示されるオプションは、エクスポート先アカウントの種類によって異なります。たとえば、Flickrおよび23hqの場合は、写真をアップロードするために認証が必要です。そのためには、[オーソライズ] をクリックしてWebブラウザを表示して、自分のアカウントにログインしてください。
- 4 [エクスポート] をクリックします。

22.7 基本的な写真の編集

F-スポットには、赤目補正、クロップ、およびメイドやコントラストの調整など、画像を編集するためのさまざまな基本機能が用意されています。

写真を編集するには、新しいコピー(バージョン)が作成されます。元の写真は変更されません。最初に写真を修整した時に作成されたジーはジョンが、その後の編集でも使われます。写真のバージョンを複数作成する場合は(異なるクロッピングや色修正を行う場合など)、[写真] > [新しいバージョンの作成] の順にクリックします。写真のオリジナルのバージョンを表示するには、[写真] > [バージョン] > [オリジナル] の順にクリックします。

- 1 編集する写真を選択します。
- 2 編集モードに移行するには、ツールバーの [画像の編集] アイコンをクリックするか、画像をダブルクリックするか、またはEnterキーを押します。



- 3 左側のサイドバーのボタンまたは「編集」メニューのエントリを使用して、次の編集機能から選択を行います。

機能	説明
 クロップ	画像をクロッピングして、写真のバランスを改善することができます。写真をクロップするには、写真上の残しておきたい領域を選択します。写真を特定のプリントサイズに必要な寸法に合わせるために、「[制約]」ドロップダウンリストからさまざまな条件を選択することができます。詳細は、赤目補正機能の説明を参照してください。 設定が完了したら、写真の下にある「[クロップ]」アイコンをクリックすると、クロップ処理が完了します。オリジナルの写真に対して作業を行っている場合、クロップにより新しいバージョンが作成されます。
 赤目軽減	写真の赤目を補正するには、赤目のある領域を選択してください。赤目の部分を正しく選択するために、画像を拡大することもできます。ある人物の両目を同時に補正したり、複

機能	説明
	数の人々の赤目を同時に補正することができます。うまく選択できなかった場合、または選択した領域に他の赤色(唇など)が含まれてしまう場合は、赤目を1つずつ補正してください。 領域を選択するには、目的の領域の片方の角をクリックして、ドラッグしながら領域を選択し、適切な範囲を選択できたらボタンを離します。選択領域の端をドラッグしてサイズを変更したり、領域の中央をクリックして任意の場所にドラッグしながら領域を移動することができます。 領域を選択した後に、写真の下にある [赤目補正] アイコンをクリックすると、赤目が補正されます。
 彩度を減らす	写真を白黒に変換します。
 セピア調	写真をセピアトーンに変換します。
 傾き補正	傾き補正は、三脚を使わずに撮影した写真など、対象物が傾いて写ってしまった写真の傾きを修正するような場合に役立ちます。このツールは写真を指定された角度だけ回転し、その画像を適切な形になるよう自動的にクロッピングします。
 ソフトフォーカス	ある領域を強調したり、興味を惹かせるための方法として、写真のある領域をシャープにしながら、残りの領域をぼやかすことができます。ソフトフォーカス効果は、前面からの短距離撮影を行って、対象物の背景をぼかすことができるレンズをエミュレートしています。

機能	説明
	焦点を合わせる領域の中央を選択し、次に写真の下にある [ソフトフォーカス] アイコンをクリックしてください。ぼやかす程度を調整したら、 [適用] をクリックします。
 自動カラー	自動的に色レベルを調整し、バランスのとれた色彩の写真を作成します。自動ホワイトバランスで撮影された写真に最適です。この機能を利用するには、 [色を自動的に調節します] アイコンをクリックします。
 色の調整	明度、コントラスト、および写真の色を調整するには、 [写真の色の調整] をクリックします。必要に応じて設定を変更して、 [OK] をクリックします。
時間の調整	この機能を利用するには、 [編集] > [時間の調整] の順にクリックします。日付と時間を調整し、 [OK] をクリックします。
Sharpen	この機能を利用するには、 [編集] > [シャープ] の順にクリックします。必要に応じて [量]、 [半径]、および [しきい値] を調節し、 [OK] をクリックします。
コメント	写真に説明やコメントを追加するには、写真の下にあるテキスト入力ボックスをクリックして、文字列を入力してください。

- 4 (オプション)別の写真を編集する場合は、右のツールバーにある矢印キーを使って新しい写真に切り替えることができます。
- 5 編集モードを終了するには、ツールバーの [参照] をクリックしてください。

ティップ

GIMPでは、プロフェッショナルな画像編集も行えます。詳細については、第20章 *GIMP*によるグラフィックスの操作(223 ページ)を参照してください。

22.8 写真の共有

次のいずれかの方法を使って、F-スポットで写真を共有することができます。どちらの方法でも、選択した写真のみが共有されます。

- 22.8.1項 「写真を電子メールで送信する」 (283 ページ)
- 22.8.2項 「写真を印刷する」 (284 ページ)

22.8.1 写真を電子メールで送信する

F-スポットから直接写真を電子メールすることができます。写真は元のサイズで送信することも、サイズを変更することもできます。

- 1 電子メールする写真を選択します。
- 2 [写真] > [Send by Mail(メールで送信)] をクリックします。



- 3 写真のサイズを選択します。
- 4 [メールの作成] をクリックします。

デフォルトの電子メールプログラムが起動し、新しい電子メールメッセージに写真が添付されます。

22.8.2 写真を印刷する

- 1 印刷する写真を選択します。
- 2 [写真] > [印刷] の順にクリックします。



- 3 使用プリンタや用紙の向きなど、適切な印刷オプションを選択したら、[印刷] をクリックします。

パート VI. マルチメディア



音楽と動画の再生:amaroK、Kaffeine、その他

23

インストール時に、YaSTはお使いのコンピュータにあるサウンドカードを自動的に検出および設定します。YaSTによって自動検出されない場合(または、新しいサウンドカードを取り付けた場合)は、YaSTを起動して、[サウンド]モジュールからサウンドカードを手動設定します。詳細については、項

「Setting Up Sound Cards」(第5章 *Setting Up Hardware Components with YaST, ↑Deployment Guide (導入ガイド)*)を参照してください。サウンドカードを設定したら、ミキサーを使って音量やバランスを調整したり、他のサウンドアプリケーションを起動したりできます。

Linuxには、幅広いサウンドと\83\7dルチメディアのアプリケーションが含まれます。一部のアプリケーションは、デフォルトでLinuxシステムにインストールされます。ここで取り上げているアプリケーションを使用して、CD、音楽ファイル、およびムービーファイルの再生時の音量やバランスを調整できます。

リストに含まれているアプリケーションがデフォルトでシステムにインストールされていない場合には、YaSTを使って不足しているパッケージをインストールしてください。YaSTのパッケージ管理ツールの検索機能を使って、パッケージを見つけてください。ソフトウェアのインストールの詳細については、第6章 *Installing or Removing Software (↑Deployment Guide (導入ガイド))*を参照してください。

23.1 ミキサー

ミキサーは、音量、サウンド出力とコンピュータの入力のバランスをコントロールする使いやすい方法です。

多様なミキサー間の相違点には、ユーザインタフェースの外観も含まれています。ただし、特定のハードウェア用に設計されたミキサーもあります。使用可能なミキサーの中から、ニーズに最適なミキサーを選択します。

デフォルトのKDEミキサーアプリケーションは、**KMix**です。デスクトップのパネルにミキサーアイコン(スピーカー記号)が表示されない場合は、**Alt + F2**キーを押してから、**kmix**を入力するか、メインメニューからミキサーを起動します。デフォルトでは、システムトレイにある**KMix**アイコンをクリックすると、マスタコントローラが表示されます。ここから、全体的なボリュームを上げたり、下げたりできます。複数チャンネルのサウンド設定を細かく制御するには、**KMix**アイコンを右クリックして、**[Show Mixer Window]**を選択します。

すべてのチャンネルのボリュームを個別にミュートおよび増減できます。マスタチャンネルとして使用するチャンネルを変更する必要がある場合は、**KMix**アイコンを右クリックし、**[Select Master Channel(マスタチャンネルの選択)]**をクリックします。ミキサーウィンドウに表示するチャンネルの多少にかかわらず、**[設定] > [Configure Channels(チャンネルの設定)]**を選択し、表示するチャンネルを選択します。

図 23.1 KMix ミキサー



ティップ: ミキサーの開始

一般に、ミキサーアプリケーションは、他のサウンドアプリケーションより前に開いておくことをお勧めします。ミキサーを使用して、サウンドカードの入力と出力のコントロール設定を調整します。

23.2 音楽ファイルの再生

Linuxには、Ogg VorbisやWAVファイルなどの音楽ファイルを再生するための、さまざまなアプリケーションが用意されています。Ogg Vorbisは無償のオーディオ圧縮形式で、現在では大部分のオーディオプレーヤーおよびポータブルMP3プレーヤーでもサポートされています。アプリケーションによりサポートされるファイルタイプは、使用するエンジンによって異なります。

23.2.1 amaroKメディアプレーヤー

KDE 4 amaroKバージョンはすでに利用可能ですが、デフォルトではインストールされません。KDE 4バージョンを使用する場合は、kde4-amarokパッケージをインストールします。このセクションではまた、KDE 4デスクトップで

使用できるamaroK(amarokパッケージ)のKDE 3バージョンについて説明します。

amaroK音楽プレーヤーでは、さまざまなオーディオ形式を再生し、プレイリストを作成し、ポータブルMP3プレーヤーまたは外部ハードディスクなどのリムーバブルメディアから音楽をインポート(またはリムーバブルメディアへファイルをアップロード)し、インターネット上のラジオ局のストリーミングオーディオブロードキャストを利用できます。サポートされるファイルタイプは、使用するエンジンによって異なります。

最初の起動時に、amaroKは *[First-Run Wizard(最初の実行ウィザード)]* を起動します。このウィザードを使って、amaroKが音楽ファイルを探すフォルダを定義します。ウィザードで作成したすべての設定は、後で *[Settings]* > *[Configure AmaroK]* を選択して設定ダイアログで変更できます。

図 23.2 amaroKメディアプレーヤー



クイックスタート

amaroKは起動時に、ミュージックファイルのコレクションの一部であるフォルダをスキャンします。コレクションを作成せずにamaroKを使用することも可能ですが、強力で高度な機能は、既存のコレクションとのみ使用可能なので、作成することをお勧めします。

amaroKメインウィンドウは、2つの部分に分かれています。左側にさまざまなビューを表示するサイドバーがあります。音楽コレクション、コンテキストブラウザ、プレイリスト、ファイルブラウザなど、さまざまなビューが用意されています。ブラウザを変更するには、左端にあるタブをクリックします。右側にはプレイリストウィンドウ、およびその下にはプレーヤー(異なるウィンドウで表示されるように設定していない場合)が含まれています。

音楽を再生するには、いずれかのサイドバーブラウザから、プレイリスト領域にアイテムをドラッグアンドドロップします。またはShiftを使用してアイテムを複数選択します。Ctrlプレイリスト内のアイテムをダブルクリックすると再生されます。コンテキストメニューで、再生中にリストからアイテムを追加または削除できます。プレイリストエリア上のアイコンを使用して、プレイリストのクリア、プレイリストを名前を付けて保存、変更を元に戻す、またはやり直し、または特定のトラックの検索を実行できます。再生モードを操作するには、amaroKステータスバーの *[Repeat]* または *[Random]* アイコンを何度かクリックしてモードを切り替えるか、または目的のモードをamaroKメインメニューから選択します。

サイドバーブラウザ

コンテキスト

このタブでは、現在再生されているトラックに関する情報と統計が表示されます。サイドバー上部のタブをクリックして、コンテキストブラウザ内部の別のビューに切り替えます。たとえば、*[Artist]* タブをクリックすると、Wikipedia内の記事が検索され、コンテキストブラウザに表示されます。曲の歌詞を表示するには、*[Lyrics]* タブを表示して検索を行ってください。*[Music]* タブにはアルバムカバー(ある場合)(カバーマネージャ項(293 ページ)を参照)と現在のトラックに関する再生統計が表示されます。

コレクション

このタブは、曲タイトルの個人コレクションを管理し、\95\5c示するためを使用します。ブラウザの最上部にあるツールバーを使用すると、コレクションの表示方法の設定およびコレクションの再構成を行うことができます。*[Group By]* を使用して、ブラウザ内でタイトルが表示される順番を定義します。*[Primary (プライマリ)]*、*[Secondary (セカンダリ)]*、および *[Tertiary (ターシャリ)]* を使用して、事前に定義された基準または自分で作成したソート基準のいずれかを選択できます。次の4つのアイコンで、ツリービュー、フラットビュー、iPod*ビュー、*[Show dividers]* を

切り替えて、大規模な音楽コレクションの概要をわかりやすくします。スパナのアイコンを使用して、amaroKがコレクションに追加する音楽をスキャンするフォルダを追加または削除します。

特定のトラックまたはアルバムのコレクションを検索またはフィルタするには、タイトル(またはその一部)を上部の検索フィールドに入力します。入力した各文字列によって検索が絞り込まれ、ブラウザ内の選択内容が入力に従って調整されます。ジャンルまたはビットレートなどの特定のメタデータで検索するには、または複数の検索オプションを組み合わせるには、検索フィールドの右側のボタンをクリックして、*[Edit Filter]* ダイアログを開きます。

プレイリスト

プレイリストブラウザを使用して、異なるプレイリストにアクセスできます。*[プレイリスト]* には、コレクションフォルダ内にある個人用プレイリストが含まれます。プレイリストウィンドウから新しくプレイリストを作成し保存するたびに、そのリストはここに表示されます。*[プレイリスト]* フォルダを右クリックして、新しいプレイリストを作成またはインポートするか、またはサブフォルダを追加します。プレイリストウィンドウから既存のプレイリストに新しいアイテムを追加するには、それらのアイテムをブラウザウィンドウ内のプレイリストにドラッグアンドドロップするだけです。

重要項目: 他のプレーヤーとのプレイリストの共有

プレイリストは、m3u形式で保存すると、この形式を使用する他のプレーヤーと共有することができます。

[Smart Playlists (スマートプレイリスト)] は、再生されたことがないトラック、最新のトラック、またはジャンルごとのトラックなどのさまざまなコレクションのビューを提供します。たとえば、コレクションからランダムプレイリストを作成するには、*[50 random Tracks]* を選択して、エントリをプレイリストエリアにドラッグします。*[Smart Playlists]* フォルダを右クリックして、サブフォルダを追加するか、または独自のスマートプレイリストを作成します。

[Radio Streams (ラジオストリーム)] では、インターネット経由でライブのラジオストリームを聴くことができます。詳細リストがamaroKの出荷にすでに含まれています。さらに追加する、またはサブフォルダを作成するには右クリックします。

[Podcasts**b**(ポッドキャスト)] では、amaroKにポッドキャストをインポートします。右クリックすることでメニューが開き、そのメニューからポッドキャストおよびサブフォルダの追加、全ポッドキャストのリフレッシュ、またはスキャン間隔の設定ができます。

ファイル

このタブでは、標準KDEファイルマネージャダイアログに対応するファイルブラウザが開きます。上部のアイコンを使用してファイルシステムをナビゲートし、ビューを変更したりブックマークを作成したりします。テキスト入力フィールドに、URLまたはパスを直接入力します。表示されたコンテンツから要素をプレイリストにドラッグして、プレイリストに追加します。

Magnatune

このタブでは、音楽をオンラインで購入できるMagnatuneストアへの接続を確立できます。[Update] をクリックして、magnatune.comで購入できるアルバムとタイトルを表示します。アルバムリストをジャンルでソートして、amaroKでトラックを聴きます。音楽を購入するには、[Purchase Album] をクリックして支払い詳細を入力します。

Devices

ポータブルMP3プレーヤーまたは外部ハードディスクを所有している場合、このブラウザを使用してポータブルデバイスを設定し、amaroKからアクセスします。

カバーマネージャ

amaroKを使用すると、コレクションの各アルバムにカバーを割り当てることができます。[カバーマネージャ] を使用して、アルバムカバーを簡単に追加、削除、取得できます。

[ツール] > [カバーマネージャ] を選択してカバーマネージャを起動します。ウィンドウの左側のツリービューには、コレクション内のすべてのアーティストが\95\5c示されます。ウィンドウの中央部分には、すべてのアルバムのカバーが\95\5c示されます。表示されたカバーにフィルタをかけるには、ツリービュー内の個々のアーティストをクリックするか、ウィンドウの最上部にある入力フィールドに用語を入力します。[View(ビュー)] を使用して、全アルバム、カバーのあるアルバム、または、カバーなしアルバムの表示を切り替えます。

アルバムにカバーを割り当てるには、3つの異なる方法があります。

カバーの自動割り当て

amaroKは、メインウィンドウに'95'5c示されるカバーのうち欠けているものがあれば、Amazonから自動的に取得します。[Amazon Locale (Amazon ロケール)] を使用して、どのAmazon Webサーバーからカバーを取得するかを決定し、その後、[Fetch Missing Covers (欠けているカバーの取得)] をクリックします。

重要項目: 適切なタグ付けが必要

amaroKでは、アーティスト-アルバムというクエリ文字列を使用して、Amazonからカバーを取得します。この情報は、音楽ファイルのタグから展開されます。タグの付け方が良いと、カバーを自動取得する際のヒット率が上がります。

Amazonから取得されるカバーの手動選択

どの画像を使用するか、およびどのクエリ文字列を使用してカバーを取得するかをより細かくコントロールしたい場合は、メインウィンドウ内でアルバムを右クリックして、[Fetch from amazon (Amazonから取得)] を選択します。[Next Cover (次のカバー)] では、利用可能なすべての画像を繰り返し表示できます。[保存] を使用すると、実際のカバーが選択され、選択済みのアルバムにそれが割り当てられます。表示されたカバーに満足できない場合は、[New Search (新規検索)] を使用して検索を絞り込みます。メインウィンドウのツールバーから [Amazon Locale (Amazon ロケール)] を使用して、どのAmazon Webサーバーからカバーを取得するかを決定します。

カバーの手動割り当て

自分のカバー画像をすでにお持ちの場合は、アルバムを右クリックし、[Set Custom Cover] を選択することで、その画像を割り当てることができます。

視覚化

amaroKの視覚化をインストールした場合、[Tools] > [Visualizations] で再生する音楽にさまざまなグラフィック効果を選択できます。プレーヤーウィンドウには、amaroK自体に含まれている視覚化機能が表示されます。アニメーションをクリックすると、表示モードを切り替えることができます。

amaroKトレイアイコン

他のKDEアプリケーションと同様、amaroKはKDEのシステムトレイにアイコンを追加します。このアイコンを使用して、amaroKの多くの機能をコントロールできます。アイコン上にマウスポインタを置くと、現在再生されているトラックについての情報が表示されます。マウスホイールをスクロールすると、再生音量を同時に調整できます。左クリックを1回行くと、再生に影響を与えることなくアプリケーションウィンドウが閉じます。もう一度クリックすると、ウィンドウが再度開きます。マウスの中ボタンをクリックすると再生が一時停止します。再開するには、中ボタンを再びクリックします。右クリックすると、プレーヤーコントロールへのアクセスおよびamaroKの終了を行うコンテキストメニューが開きます。

および<Shift>キーをマウスとともに使用すると、より高度な機能にアクセスできます。Ctrlマウスホイールをスクロールさせる間、Shiftをホールドすることによって、現在のトラック内を検索します。マウスホイールをスクロールさせる間、<Ctrl>キーをホールドすることによって、プレイリスト内にあるトラックをスキップします。

トレイアイコンにあるアイテムをドラッグアンドドロップして、現在のプレイリストに追加することもできます。トラックをプレイリストに付加するか、付加して再生するか、または現在のトラックのあとに挿入するかを尋ねるポップアップメニューが開きます。

23.2.2 JuKジュークボックス

JuK (kde4-jukパッケージ)は、音楽ファイルやプレイリストを管理するためのジュークボックスアプリケーションです。JuKは、認識しているすべてのファイルのリストを管理しています。このリストは、コレクションリストと呼ばれます。このリストはJuK固有のリストで、他のアプリケーションと共有することはできません。コレクションリストとは別に、プレイリストもあります。コレクションリストとは別に、プレイリストもあります。音楽ファイルのタグを編集することもできます。

Jukを起動するには、メインメニューを使用するか、またはAlt+F2キーを押してjukを入力します。最初の起動時に、JuKで音楽コレクションについてスキャンするフォルダを入力するように求められます。JuKの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

23.3 オーディオCDの取り扱い

音楽トラックを再生するには、多くの方法があります。CDを再生するか、そのデジタル化バージョンを再生します。ここでは、CDプレーヤーアプリケーションをいくつか取り上げ、オーディオCDをデジタル化するために使用するアプリケーションについても説明します。

独自のCDの作成方法は、第26章 *K3b* による *CD* および *DVD* の書き込み(331 ページ)を参照してください。

重要項目: CDDAとアナログCDの再生

オーディオCDを再生するには、2つの方法があります。アナログCDを再生できるCD/DVDドライブは、オーディオデータを読み出してサウンド出力デバイスに送ります。PCMCIA、FireWire、またはUSBを使用して接続されている外付けドライブは、CDDA (Compact Disk Digital Audio)を使用してオーディオデータを抽出してからデジタルPCMとして再生する必要があります。ここで取り上げるプレーヤーはCDDAをサポートしていません。CDDAのサポートを必要とする場合は、XMMSを使用してください。

23.3.1 KsCD—オーディオCDプレーヤー

KsCDは使いやすいオーディオCDプレーヤーで、kde4-kscdパッケージに付属しています。インストールされている場合、Alt+F2キーを押してkscdを入力してアプリケーションを起動します。KsCDをKDEパネルに統合して、CDが挿入されると自動的に再生するように設定できます。設定メニューにアクセスするには、[エクストラ] > [Configure KsCD (KsCDの設定)] の順に選択します。KsCDは、インターネットでCDDDBサーバからアルバムとトラック情報を取得するように設定できます。CDDDB情報をアップロードして他のユーザと共有することもできます。情報の取得とアップロードには、[CDDDB] ダイアログを使用します。

図 23.3 KsCDのユーザインタフェース



23.3.2 オーディオデータの圧縮:リッピング

オーディオ圧縮は、さまざまなツールによって実行できます。ここでは、コマンドラインを使用してオーディオデータをエンコードして再生する方法について説明します。一部のグラフィカルアプリケーションにはオーディオ圧縮機能もあります。

オーディオデータのエンコードと再生のためのコマンドラインツール

Ogg Vorbis (vorbis-toolsパッケージ)は無償のオーディオ圧縮形式で、現在では大部分のオーディオプレーヤーおよびポータブルMP3プレーヤーでもサポートされています。このプロジェクトのWebページは<http://www.xiph.org/ogg/vorbis>です。

お使いのシステムには、Ogg Vorbisをサポートするツールがいくつか付属しています。oggencは、WAVファイルをOggにエンコードするために使用するコマンドラインツールです。指定された.wavファイルをOgg Vorbisに変換するには、`oggenc myfile.wav`を実行します。`-h`オプションで、その他のパラメータの概要が表示されます。Oggencは可変ビットレートでのエンコードをサポートします。この方法で、より高度な圧縮も実現できます。ビットレートの代わりに、必要な品質を`-q`パラメータで指定することもできます。`-b`パラメータは、平均ビットレートを決定します。`-m`と`-M`を使用すると、最小と最大のビットレートを指定できます。

ogg123は、コマンドラインOggプレーヤーです。`ogg123 mysong.ogg`などのコマンドを使用して起動します。

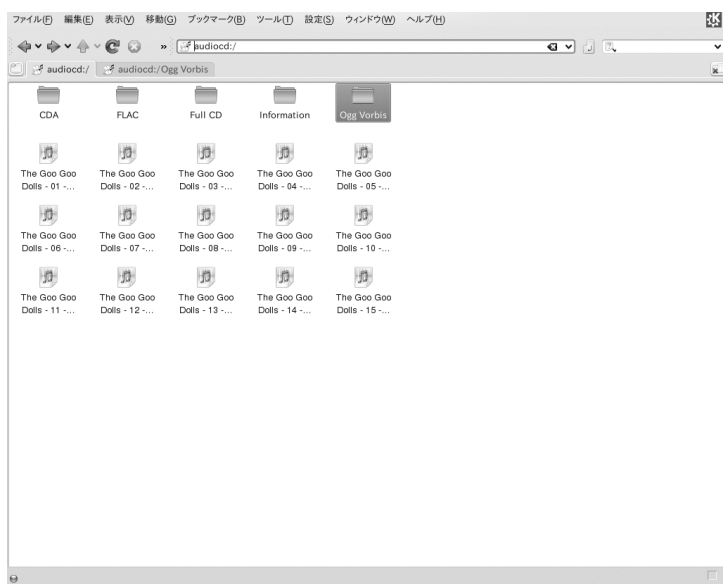
KonquerorによるオーディオCDの圧縮

Konquerorは、ブラウザおよびファイルマネージャとして使用できるだけでなく、音楽CDをリッピングすることも可能です。Konquerorを使用して実際のリッピングプロセスを開始する前に、個人設定でオーディオCDとOgg Vorbisエンコーダの処理方法を設定します。メインメニューから、**[デスクトップの設定]**を選択し、**[詳細] > [音楽CD]**をクリックします。設定モジュールは、**[一般]**、**[名前]**、および**[Ogg Vorbis Encoder]**の3つのタブに分かれています。通常、適切なCDデバイスが自動的に検出されます。自動検出が失敗し、CDデバイスを手動で設定する必要がある限り、このデフォルト設定を変更しないでください。エラー修正およびエンコーダー優先度もここで設定できます。**[Ogg Vorbis Encoder (Ogg Vorbisエンコーダ)]**タブでは、エンコードの品質を指定します。リッピングしたオーディオデータのアルバム、トラック、およびアーティストの情報をオンラインで検索するように設定するには、**[トラック情報の追加]**を選択します。

Konquerorを起動するには、**Alt + F2**キーを押し、konquerorと入力します。リッピングプロセスは、CDをCD-ROMデバイスに挿入し、**[場所]** バーに**「audiocd:/」**と入力して開始します。Konquerorは、CDとフォルダのトラックを表示します。

解凍されたオーディオデータをディスクに保持するには、.wavファイルを選択して別のKonquerorウィンドウにドラッグし、最終保存場所にコピーします。Ogg Vorbisのエンコードプロセスを開始するには、Ogg Vorbisフォルダまたはこのフォルダのファイルを別のKonquerorウィンドウにドラッグします。Ogg Vorbisフォルダを目的の場所にドロップすると、すぐにエンコードが始まります。

図 23.4 Konquerorによるオーディオデータのリップング



23.4 ムービーファイルの再生

SUSE Linux Enterprise Desktopに同梱されている複数のムービープレーヤーから好きなプレーヤーを選択できます。たとえばKaffeineは、XineやMPlayerなどの複数のバックエンドとともに実行できます。

Kaffeineを起動するには、Alt + F2キーを押し、kaffeineと入力します。

Kaffeineで再生可能な形式は、バックエンドによって異なります(デフォルトではXineが使用されます)。Xineは、最も一般的なマルチメディア形式の多くを解釈します。詳細については、<http://xinehq.de/>を参照してください。

プレーヤーのエンジンでフォーマットがサポートされていない場合は、YaSTとともにインストールできる適切なコーデックを検索するように推奨されます。

☒ 23.5 Kaffeine メインウィンドウ



Kaffeineは、インターネット上にストリームされるマルチメディアも再生でき、また、Konquerorのプラグインとして使用できます。通常オプションには、フルスクリーンモードでのファイルの再生、ファイル内での移動などがあります。ビデオのスナップショットを撮り、画像として保存することもできます。

KDE 4にはまた、Phonon技術を使用するDragon Player (dragonplayer)が同梱されています。Phononは、いくつかあるマルチメディアフレームワークのいずれかに接続するマルチメディアAPIです。ドラゴンプレーヤを起動するには、Alt + F2を押し、dragonと入力します。ドラゴンプレーヤの使用について詳しくは、オンラインヘルプを参照してください。

23.5 トラブルシューティング

オーディオ出力が得られない場合は、次のことをチェックしてください。

サウンドカードは設定されていますか？

サウンドカードがYaSTにより適切に設定されているかどうかをチェックします。詳細については、項「Setting Up Sound Cards」(第5章 *Setting Up Hardware Components with YaST*, ↑*Deployment Guide* (導入ガイド))を参照してください。

ミキサーアプリケーションの音量コントロール

マスタチャンネル、およびミキサーアプリケーションで使用可能なその他のチャンネルの音量コントロールをチェックします。詳細については、23.1項「ミキサー」(288 ページ)を参照してください。

キーボードによる音量コントロール

また、多くのキーボードには、音量をコントロールするためのキーが存在します。キーボードの音量コントロールキーをチェックしてください。

アプリケーションの音量コントロール

また、大半のマルチメディアアプリケーションで音量コントロールが提供されています。音楽または動画ファイルを再生するために使用するアプリケーションで、音量コントロールをチェックしてください。

個人設定のサウンド設定

個人設定のサウンドシステム設定のデフォルトをチェックしてください。
[デスクトップの設定] を選択することにより、メインメニューからアクセスします。個人用設定で、[コンピュータの管理] カテゴリの [サウンド] をクリックします。

外部デバイスが適切に接続されているか

スピーカまたはヘッドホンなどの外部デバイスがマシンに接続されている場合、右ポートに適切に接続されていることをチェックします。



Bansheeでの音楽の再生と管理

Banshee™は、GNOMEのメディア管理、再生用アプリケーションであり、CDのインポート、音楽およびビデオのコレクションのiPod*または他のデジタルオーディオプレーヤーとの同期化、iPod(または他のデジタルオーディオプレーヤー)からの直接の音楽再生、ライブラリの曲を使ったプレイリストの作成、ライブラリのサブセットからのオーディオCDやMP3 CDの作成、および好きなポッドキャストの登録、ダウンロード、試聴の機能を提供しています。またBansheeは、Internet Radioプラグインを使って、ストリーミングオーディオにも対応しています。

Bansheeを開くには、[コンピュータ] > [&musicplayer]、[メディアプレーヤー] の順にクリックします。

最初にBansheeを起動すると、[Musik Library(音楽ライブラリ)] ウィンドウが開き、音楽およびビデオのインポートやインターネットラジオステーションの追加を行うことができます。

24.1 Banshee メディア プレーヤー



24.1 音楽の再生

音楽を再生するには、音楽を聴くために何が利用できるかをBansheeに知らせる必要があります。ライブラリ内にある音楽を再生することができます。つまり、ファイル、フォルダ、CDなどの外部ソースから音楽をインポートする必要があります。直接CDから音楽を再生することもできます。また、インターネットラジオ、ポッドキャスト、およびデジタルオーディオプレーヤーから音楽を再生することもできます (詳細は24.3項「デジタルオーディオプレーヤーでBansheeを使用する」(313 ページ)を参照)。

Bansheeでは、MP3もサポートされます。音楽コレクションがMP3およびOgg Vorbisの両ファイルから構成される場合、いずれかのファイルを別の形式に変換する必要はありません。Bansheeを起動するだけで音楽を聴くことができます。

再生しようとする形式がプレーヤーのエンジンでサポートされていない場合、Bansheeでは適切なコーデックが検索され、YaSTを使用してそのコーデックをインストールできます。

24.1.1 音楽のインポート

Bansheeでは、ファイル、フォルダ、CD、またはその他の音楽ソース(デジタルオーディオプレーヤーなど)から音楽をインポートできます。

☒ 24.2 音楽ライブラリをインポート



- 1 Bansheeで、[メディア] > [Import Media(メディアのインポート)] の順にクリックします。
- 2 インポートソースを選択します。
- 3 [メディアソースのインポート] をクリックします。

24.1.2 音楽の再生

曲を再生するには、ライブラリから曲を選択して、左上の再生ボタンをクリックするだけです。その他のボタンを使用して、曲を一時停止したり、次または前の曲を再生できます。右側の拡声器ボタンを使用して、音量を調節します。[Playback] (再生)メニューの項目を使って、音楽を繰り返したり、シャッフルすることもできます。

BansheeはCDプレーヤーも統合されています。音楽CDを挿入すると、CDタイトルが左側のパネルに表示されます。タイトルを選択して再生ボタンをクリックすると、CD全体が再生されます。

通知エリアアイコン

Bansheeを操作していない時は、ウィンドウを最小化して通知エリアに隠すことができます。この場合、トラックが変わった場合にのみ、現在の音楽を知らせるポップアップが表示されます。

ポップアップを表示しない場合は、[編集] > [初期設定]、> [拡張] > [通知領域] アイコン、> [無効] の順にクリックします。

お奨めの音楽

Bansheeは、現在再生中の音楽に基づいてユーザの好みに合いそうな音楽を自動的に推奨します。音楽の雰囲気が似ているようなアーティストの音楽や人気のある音楽を探します。

図 24.3 Bansheeのお奨めの音楽



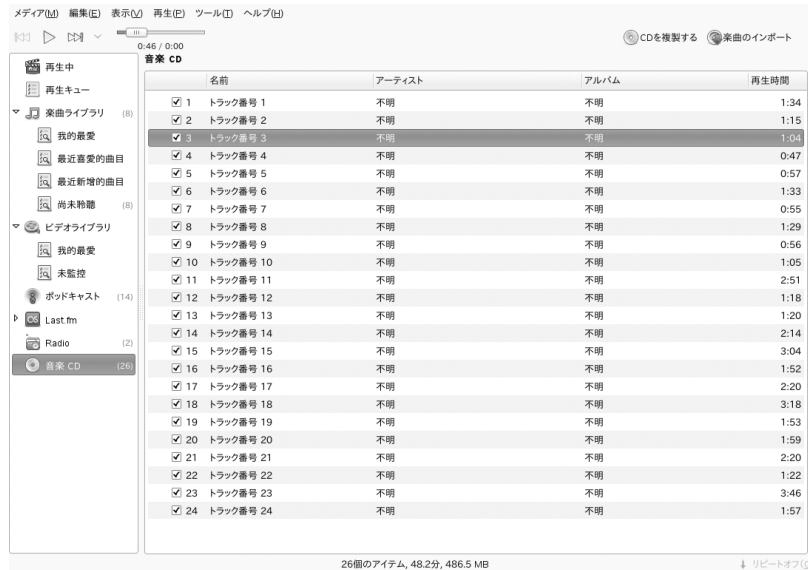
このお薦めを表示しない場合は、[表示] をクリックして、[お薦めを表示] の選択を解除してください。

24.1.3 音楽のリッピング

CDから音楽をリッピングしてライブラリに追加する

- 1 CDまたはDVDドライブにCDを挿入します。

Bansheeの左側のサイドバーに、CDがソースとして自動的に表示されます。



- 2 左側のソースリストからCDのタイトルを選択してから、右上の [Import CD] を選択します。

24.1.4 インターネットラジオの再生

&musicplayer:を使って、インターネットラジオやストリーミングオーディオを再生することができます。独自のステーションを追加します。

インターネットラジオの再生

インターネットラジオを再生するには、左側のソースリストから **[Radio]** を選択して、再生するインターネットラジオステーションをダブルクリックします。

図 24.4 Bansheeのインターネットラジオステーション



新しいインターネットラジオステーションの追加

- 1 ソースリストの **[Radio]** を右クリックして、 **[AddStation]** をクリックします。



新しいラジオステーションを追加します

追加するラジオステーションのジャンル、タイトル、およびURLを入力してください。説明は省略してもかまいません。

ステーションジャンル: Classical

局名: WCPE

ストリームURL: http://audio-mp3.libiblio.org/8000

ステーション作成者:

説明:

評価:

キャンセル(C) 保存(S)

- 2 [Add new radio station] ダイアログボックスに詳細を入力したら、[Save] をクリックします。

リストに新しくステーションが追加されます。

24.1.5 ポッドキャストの再生

Bansheeでは、ポッドキャストに登録して、ダウンロード、再生することができます。ポッドキャストはオーディオのブログのようなものであり、ユーザがショーを購読すると、ショーのエピソードがダウンロードおよび管理され、ショーをオフラインで再生することができます。

ポッドキャストへの登録

- 1 [メディア] > [新しいポッドキャストを購読] の順にクリックします。
- 2 登録するポッドキャストのURLを入力します。
- 3 このポッドキャストの新しいエピソードが使用可能になったときの処理をプルダウンメニューから選択します。
- 4 [Subscribe] をクリックします。

リストに新しくポッドキャストが追加されます。

ポッドキャストの再生

ポッドキャストを再生するには、ソースリストから [Podcast] を選択して、再生するポッドキャストをダブルクリックします。

図 24.5 Banshee のポッドキャスト



ポッドキャストの更新、他のポッドキャストの購読、または新しいポッドキャストの検索を行うには、ソースリストで [ポッドキャスト] を右クリックします。

24.2 音楽ライブラリの管理

Bansheeでは、複数の方法で音楽を整理できます。似たような音楽を一緒にしたプレイリストを作成したり、音楽をソートしたり、評価することができます。再生統計(歌を最後に再生したときと再生回数)を含め、音楽コレクションに関するさまざまな情報を表示することもできます。

24.2.1 音楽の整理

新しいプレイリストを作成するには、[メディア] > [新しい再生リスト]の順にクリックします(またはCtrl+Nキーを押します)。新しいプレイリストが左側のパネルの [Music Library] の下に表示されます。名前を変更するには、プレイリストを右クリックして [名前の変更] を選択し、希望する名前を入力します。新しいプレイリストに登録するには、ウィンドウの右側から音楽を対応するプレイリストエントリにドラッグしてドロップするか、または [Edit] メニューのオプションを使用して音楽を削除し、プレイリストを名前変更または削除します。プレイリストをソートするには、タイトル列をクリックしてください。もう一度列をクリックすると、逆の順序でソートされます。また、[Music Library] を右クリックして、[Sort Playlists] を選択してプレイリストをソートすることもできます。

アーティスト名、アルバム、タイトルだけでなく、トラックナンバーやトラックカウントも編集できます。楽曲を選択して [編集] > [トラック情報の編集] [E] の順にクリックするか、メインウィンドウで楽曲を右クリックし、[トラック情報の編集] を選択します。また、音楽を評価することもできます。評価を付けることによって、一定の評価が付いた音楽だけを再生することができます。音楽を評価するには、[Rating] フィールドから、その音楽に付ける星の数を選択します。

図 24.6 トラックエディタ



グループ内のすべてのフィールドに同じ値を設定する場合は、プレイリストで複数の曲を選択し、[編集] > [トラック情報の編集] の順にクリックします。必要な変更を行ったら、[すべてのフィールド値を同期化する] をクリックします。[Back] および [Forward] ボタンを使って、選択した音楽を確認することができます。

ビットレート、サンプルレート、前回の曲の再生日時、曲のインポート日時、曲の長さ、曲の再生回数など、選択した曲に関する詳細情報を表示するには、**[プロパティ]** タブをクリックします。

24.2.2 スマートプレイリストの作成

指定した基準に基づいて自動的に音楽を追加、削除するようなプレイリストを作成できます。たとえば、5つ星の評価を付けたけれども6ヶ月間聞いていない音楽を入れるようなスマートプレイリストを作成することができます。また、2006年に公開された、クラシックのジャンルのすべての音楽を入れるスマートプレイリストを作成することもできます。

音楽ライブラリが変更されると、**Banshee**が自動的にすべてのスマートリストを更新します。新しい音楽をインポートした場合、それらの音楽がスマートプレイリストの登録条件に一致するかどうかチェックされます。また、単に曲を再生したり、曲のメタデータを更新したりした場合も、スマートプレイリストが更新されます(該当する場合)。

スマートプレイリストの作成

- 1 左側のソースリストで**楽曲ライブラリ**を有効にします。
- 2 **Banshee**で、**[メディア] > [新しいスマート再生リスト]** の順にクリックします。
- 3 スマートプレイリスト名を指定し、プレイリストに追加する音楽の条件を設定します。



基準を追加/削除するには、プラス/マイナス記号を使用します。すでに定義されているスマートプレイリストを使用する場合は、*[Predefined Smart Playlists]* をクリックしてから、目的のプレイリストを選択します。

- 4 [保存] をクリックします。音楽ライブラリにスマートプレイリストが追加されます。

24.3 デジタルオーディオプレーヤーで Banshee を使用する

Bansheeは、Apple* iPod、Creative* Nomad、Dell* DJ、Nokia* N810などのさまざまなデジタルオーディオプレーヤーと他のほとんどすべての汎用USB大容量記憶装置プレーヤーをサポートしています。Bansheeを利用すると、個々のオーディオデバイスをサポートするために異なるアプリケーションを使用する代わりに統合されたサポートが提供され、音楽のファイル形式に関係なく音楽をデバイスにコピーしたり、デバイスからコピーしたりできます。

24.3.1 デジタルオーディオプレーヤーからの音楽の再生

デジタルオーディオプレーヤーから音楽を再生するには、システムにプレーヤーを接続してください。システムがデバイスを認識すると、Bansheeの左側のパネルにアイコンが表示されます。

アイコンを選択すると、デバイスにある音楽が右のパネルに表示されます。再生する音楽をダブルクリックしてください。

図 24.7 BansheeNokia N810からのMP3再生



デバイスのプロパティを表示または変更するには、デバイスを右クリックして「デバイスのプロパティ」を選択します。ここから、さまざまな情報を表示することができます。たとえば、iPodを所有している場合は、所有者名を更新することができます。

図 24.8 Banshee iPodデバイスのプロパティ



24.3.2 デジタルオーディオプレーヤーへの音楽の追加

プレーヤーに音楽を追加するには、音楽ライブラリからデバイスに音楽をドラッグします。

Bansheeでは、デバイスに合わせた形式で音楽を透過的に追加することができます。音楽ライブラリには、任意の形式(FLAC、OggVorbis、MP3、AAC、その他さまざまな形式)の音楽を保管できます。これらの音楽は、デジタルオーディオプレーヤーに送信する前に、透過的に変換されます。

曲を削除するには、ソースリストからデバイスを選択して目的の曲を右クリックし、[<デバイス名>から削除]をクリックします。

24.3.3 デジタルオーディオプレーヤー上の音楽のBansheeへのコピー

Bansheeでは、デジタルオーディオプレーヤーからの音楽を音楽ライブラリにインポートすることができます。デジタルオーディオプレーヤーからの音楽を音楽ライブラリにドラッグアンドドロップすれば、その音楽が自動的にコピーされます。また、ソースリストのプレーヤーを右クリックして[インポート]を選択して、デジタルオーディオプレーヤーからすべての音楽をインポートすることもできます。

 **24.9** デジタルオーディオプレーヤーからBansheeへの音楽のインポート



24.3.4 ライブラリの同期化

デジタルオーディオプレーヤーをBansheeと同期化するには、[このデバイスを手動で管理する]を無効にし、右上の[同期]をクリックします。

Bansheeは、評価やカバーアートもiPodと同期化します。

24.4 オーディオおよびMP3 CDの作成

- 1 CDまたはDVDドライブに空のCDを挿入します。
- 2 書き込む曲を選択し、[編集] > [CDを作成]の順にクリックします。
- 3 [書き込む]をクリックします。Braseroが起動し、追加オプションを設定できます。Braseroの詳細については、「第27章 *Brasero* によるCDおよびDVDの書き込み (339 ページ)」を参照してください。

Bansheeの左下には、書き込みの状態が表示されます。書き込みが完了すると、その旨を知らせるメッセージが表示されます。

- 4 [OK] をクリックします。

24.5 音楽の共有

Bansheeで再生している音楽で、オンラインのAudioscrobbler [<http://www.last.fm>] プロファイルを自動的に更新することができます。こうすることにより、他人に現在自分が聞いている音楽を公開したり、再生履歴の詳細を参照することができます。Banshee Group [<http://www.last.fm/group/Banshee>]などのグループに参加している場合は、他のユーザが聞いている音楽を参照することもできます。

音楽を共有するには、Srobblerプラグインを有効にして、音楽レポート機能を有効にする必要があります。

- 1 Bansheeで、[ツール] > [Last.fm] > [設定] の順にクリックします。
- 2 すでにLast.fm [<http://www.last.fm/>]に登録している場合は、[Enable song reporting] をクリックしてLast.fmのユーザ名とパスワードを指定します。

まだLast.fmに登録していない場合は、[Create an account] をクリックします。Last.fmのWebサイトが表示されます。ここから、Last.fmに登録することができます。[Enable song reporting] をクリックして、Last.fmのユーザ名とパスワードを指定します。

- 3 [保存してログイン] をクリックします。次に再生する音楽から、音楽のレポートが開始されます。

Scrobblerの設定後は、[ツール] > [Last.fm] > [楽曲情報の送信を有効にする] の順にクリックして表示されるオプションを使用し、音楽レポート機能を有効/無効にしたり、ユーザプロフィールWebページにアクセスしたり、所属する任意のScrobblerグループのWebサイトにアクセスしたりできます。

24.6 Bansheeの初期設定の設定

- 1 [Edit] > [Preferences] の順にクリックします。



- 2 [一般] タブの次のオプションから選択します。

Music Library

音楽フォルダの場所を指定できます。音楽をインポートする場合に使用する場所を設定します。インポートしたファイルのコピーを BansheeのMusicフォルダに入れる場合は、*[Copy files to music folder when importing]* を選択します。

File System Organization

音楽ライブラリのフォルダ階層、およびファイル名の表示方法を指定できます。

その他

インターネットアクセスを必要とする機能を無効にします。

たとえば、[音楽CD] タブから選択します。

音楽CDのインポート

CDリッピングのエンコード方法を指定します。適切な出力形式を選択して *[Edit]* をクリックすると、その形式の詳細オプションを設定することができます。

Use error correction when importing

エラー訂正ではディスク表面の擦り傷など、ディスクに関する問題の解決が試みられますが、インポートにかかる時間が大幅に長くなってしまいます。

[拡張機能] タブで、カバーアートフェッチやインターネットラジオなどの機能を有効または無効にします。

- 3 変更内容を保存するには、 *[Close]* をクリックします。



Totemによるビデオの再生

Totemは、GNOMEデスクトップのデフォルトの動画プレーヤーです。Totemでは、次のマルチメディア機能が用意されています。

- さまざまなビデオファイルおよび音声ファイルのサポート
- さまざまなズームレベルとアスペクト比、および全画面ビュー
- シークおよび音量のコントロール
- プレイリスト
- 完全なキーボードナビゲーション
- GNOMEのビデオサムネイル
- [Nautilusプロパティ] タブ

Totemを起動するには、[コンピュータ] > [他のアプリケーション] > [オーディオ&ビデオ] > [Totem] をクリックします。

25.1 Totemの使用

Totemの起動時に、次のウィンドウが表示されます。

図 25.1 [Totem Movie Player Start Up(Totem動画プレーヤ起動)] ウィンドウ



25.1.1 ビデオビデオまたは音声ファイルを開く

- 1 [動画] > [開く] をクリックします。
- 2 開くファイルを選択し、[追加] をクリックします。

また、別のアプリケーション(ファイルマネージャなど)から [Totem] ウィンドウにファイルをドラッグできます。Totemは、ファイルを開き、動画または楽曲を再生します。Totemは、ファイルを開き、動画または楽曲を再生します。

注意: 認識されていないファイル形式

Totem動画プレーヤで認識されないファイルフォーマットを開こうとすると、エラーメッセージが表示され、適切なコーデックが提示されます。

Nautilusファイルマネージャでビデオファイルまたは音声ファイルをダブルクリックすると、ファイルが [Totem] ウィンドウで開きます。

25.1.2 URI位置によりビデオファイルまたは音声ファイルを開く

- 1 [Movie(動画)] > [ファイルを開く] をクリックします。
- 2 開くファイルのURIの場所を指定し、[開く] をクリックします。

25.1.3 DVD、VCD、またはCDの再生

DVD、VCD、またはCDを再生するには、コンピュータの光学デバイスにディスクを挿入し、[Movie(動画)] > [Play Disc(ディスクの再生)] をクリックします。

DVD、VCD、またはCDを取り出すには、[Movie(動画)] > [取り出し] をクリックします。

再生中の動画または楽曲を一時停止するには、 ボタンをクリックするか、または [Movie(動画)] > [再生/一時停止] をクリックします。動画または楽曲を一時停止すると、ステータスバーで [一時停止] と表示され、現在の動画または楽曲が停止したときの経過時間が示されます。

動画または楽曲の再生を再開するには、 ボタンをクリックするか、または [Movie(動画)] > [再生/一時停止] をクリックします。

動画または楽曲のプロパティを表示するには、[表示] > [サイドバー] をクリックしてサイドバーを表示した後、ドロップダウンリストで [プロパティ] をクリックします。このダイアログには、動画または楽曲のタイトル、アーティスト、年、時間と、ビデオのサイズ、コーデック、フレームレート、そしてオーディオのビットレートとコーデックが表示されます。

25.1.4 動画または楽曲のシーク

動画または楽曲をシークするには、次のいずれかの方法を使用します。

前方にスキップするには

動画または楽曲を前方にスキップするには、[移動] > [前面にスキップ (Skip Forward)] をクリックします。

後方にスキップするには

動画または楽曲を前方にスキップするには、[移動] > [後方にスキップ (Skip Backward)] をクリックします。

次の動画または楽曲に移動するには

次の動画または楽曲に移動するには、[移動] > [Next Chapter/Movie(次のチャプタ/動画)] をクリックするか、または **N** ボタンをクリックします。

前の動画または楽曲に移動するには

前の動画または楽曲に移動するには、[移動] > [Previous Chapter/Movie(前のチャプタ/動画)] をクリックするか、または **M** ボタンをクリックします。

25.1.5 ズーム倍率の変更

表示領域のズーム倍率を変更するには、次のいずれかの方法に従います。

全画面モードに拡大するには

[表示] > [全画面] をクリックします。全画面モードを終了するには、[Leave Fullscreen(全画面モードを終了する)] ボタンをクリックするか、または Esc を押します。

元の動画または表示の半分(50%)のサイズにするには

[表示] > [Fit Window to Movie(ウィンドウのサイズを動画に合わせる)] > [Resize 1:2(1:2のサイズに変更)] をクリックします。

元の動画または表示のサイズ(100%)にするには

[表示] > [Fit Window to Movie(ウィンドウのサイズを動画に合わせる)] > [Resize 1:1(1:1のサイズに変更)] をクリックします。

元の動画または表示のサイズの2倍(200%)にするには

[表示] > [Fit Window to Movie(ウィンドウのサイズを動画に合わせる)] > [Resize 2:1(2:1のサイズに変更)] をクリックします。

異なるアスペクト比の間で切り替えを行うには、**[表示] > [アスペクト比]** をクリックします。次に、サポートされるアスペクト比をいくつか示します。

- Auto
- スクエア
- 4:3 (TV)
- 16:9(ワイドスクリーン)
- 2.11:1 (DVB)

デフォルトのアスペクト比は自動です。

25.1.6 コントロールの表示または非表示

[Totem] ウィンドウのコントロールを非表示にするには、**[表示] > [Show Controls(コントロールの表示)]** をクリックして、**[Show Controls(コントロールの表示)]** オプションの選択を解除します。**[Totem Movie Player(Totem動画プレーヤ)]** ウィンドウでコントロールを表示するには、ウィンドウを右クリックし、**[Show Controls(コントロールの表示)]** を選択します。**[Show Controls(コントロールの表示)]** オプションを選択すると、**[Totem Movie Player(Totem動画プレーヤ)]** にメニューバー、時間経過スライダ、シークコントロールボタン、ボリュームスライダ、およびウィンドウのステータスバーが表示されます。**[Show Controls(コントロールの表示)]** オプションを選択していない場合、これらのコントロールは非表示になり、表示領域のみが表示されます。

25.1.7 プレイリストの管理

再生リストを表示するには、**[表示] > [スライドバー]** をクリックし、サイドバーの上部にある再生リストをクリックします。**[再生リスト]** ダイアログボックスが表示されます。

[再生リスト] ダイアログボックスで、次の操作を行うことができます。

- **トラックまたは動画を追加するには:** `[追加]` ボタンをクリックします。再生リストに追加するファイルを選択して、`[OK]` をクリックします。
- **トラックまたは動画を削除するには:** `[ファイル名]` リストボックスからファイル名を選択し、`[削除]` をクリックします。
- **ファイルへの再生リストの保存:** `[保存]` ボタンをクリックし、ファイル名を指定します。
- **再生リストでトラックまたは動画を上に移動するには:** `[ファイル名]` リストボックスからファイル名を選択し、`[上へ]` ボタンをクリックします。
- **再生リストでトラックまたは動画を下に移動するには:** `[ファイル名]` リストボックスからファイル名を選択し、`[上へ]` ボタンをクリックします。

再生リストを非表示にするには、`[表示]` > `[スライドバー]` をクリックするか、または `[スライドバー]` ボタンをクリックします。

繰り返しモードを有効または無効にするには、`[編集]` > `[Repeat Mode(繰り返しモード)]` をクリックします。シャッフルモードを有効または無効にするには、`[編集]` > `[Shuffle Mode(シャッフルモード)]` をクリックします。

25.1.8 サブタイトルの選択

サブタイトルの言語を選択するには、`[表示]` > `[Subtitles(サブタイトル)]` をクリックし、表示するサブタイトルの言語を選択します。

サブタイトルの表示を無効にするには、`[表示]` > `[Subtitles(サブタイトル)]` > `[なし]` をクリックします。

デフォルトでは、Totem動画プレーヤはコンピュータ上で使用するサブタイトルについて同じ言語を選択します。

Totem動画プレーヤは、サブタイトルを含むファイルがビデオファイルと同じ名前を持ち、その拡張子がasc、txt、sub、smi、またはssa拡張子である場合に、サブタイトルを自動的にロードして表示します。

25.1.9 スクリーンショットの取得

再生している動画または楽曲のイメージ画像のスクリーンショットを取得するには、**[編集]** > **[スクリーンショットの取得]** をクリックします。次のいずれかにスクリーンショットを保存できます。

- **ファイル:** **[Save screenshot to file]**(ファイルにスクリーンショットを保存) を選択し、**[参照]** ボタンをクリックしてファイル名を指定します。
- **デスクトップ:** **[Save screenshot to the desktop]**(デスクトップにスクリーンショットの保存) を選択します。

25.2 Totem動画プレーヤの初期設定の変更

Totem動画プレーヤの初期設定を変更するには、**[編集]** > **[初期設定]** をクリックします。次の設定を変更できます。

25.2.1 一般的な初期設定

Totemの一般的な初期設定では、ネットワーク接続速度の選択、TV出力接続の種類の指定、サブタイトルの表示で使用するフォントおよびエンコードの変更を行うことができます。

図 25.2 Totemの一般的な初期設定



一般的な初期設定には、次の設定が含まれます。

ネットワーキング

【Connection speed(接続速度)】 ドロップダウンリストボックスからネットワーク接続速度を選択します。

TV出力

TV出力接続が存在しない場合に、*[No TV-out(TV出力なし)]* を選択します(TV出力インタフェースが存在しない場合、デフォルトでこのオプションが選択されます)。NTSCのTV出力接続が必要な場合は *[TV-out in fullscreen by Nvidia (NTSC)(NvidiaによるTV出力の全画面表示(NTSC))]* を選択し、PALのTV出力接続が必要な場合は *[TV-out in fullscreen by Nvidia (PAL)(NvidiaによるTV出力の全画面表示(PAL))]* を選択します。

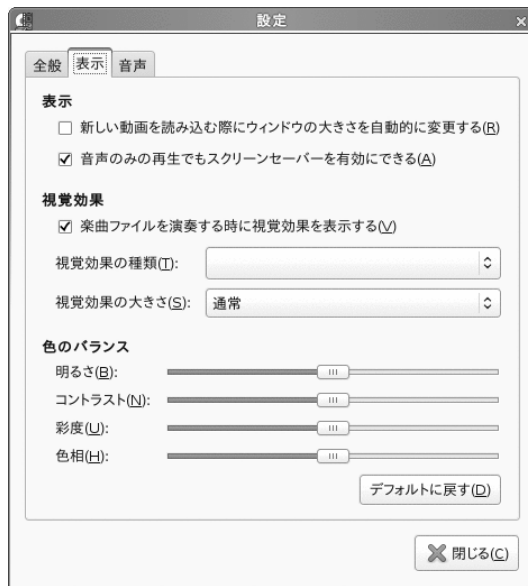
Text Subtitles(テキストのサブタイトル)

サブタイトルの表示で使用するフォントおよびエンコードを変更できます。

25.2.2 表示の初期設定

表示の初期設定

図 25.3 Totem表示初期設定



表示初期設定には、次の設定が含まれます。

新しいビデオのロード時にウィンドウのサイズを自動的に変更します。

新しいビデオのロード時に、トーテム動画プレーヤーでウィンドウのサイズを自動的に変更する場合に、このオプションを選択します。

Visual Effects(視覚効果)

音声ファイルの再生時に視覚効果を表示するかどうか、表示するイメージ画像の種類、およびイメージ画像のサイズを選択できます。

色のバランス

色の明るさ、コントラスト、彩度、および色相のレベルを指定します。

25.2.3 Audio Preferences(オーディオ初期設定)

〔Totemオーディオ初期設定(Totem Audio Preferences)〕ダイアログボックスでは、オーディオ出力の種類を選択できます。

図 25.4 Totemオーディオ初期設定(Totem Audio Preferences)



K3bによるCDおよびDVDの書き込み

26

K3bは、データCDとオーディオCD、DVDの書き込みを行う総合的なプログラムです。メインメニューから [マルチメディア]、[CD/DVDの作成] の順に選択するか、k3bコマンドを入力して、このプログラムを起動します。ここでは、Linuxで初めてCDまたはDVDを作成するユーザのために、基本の書き込みプロセスを開始する方法について簡単に説明します。

26.1 データCDまたはDVDの作成

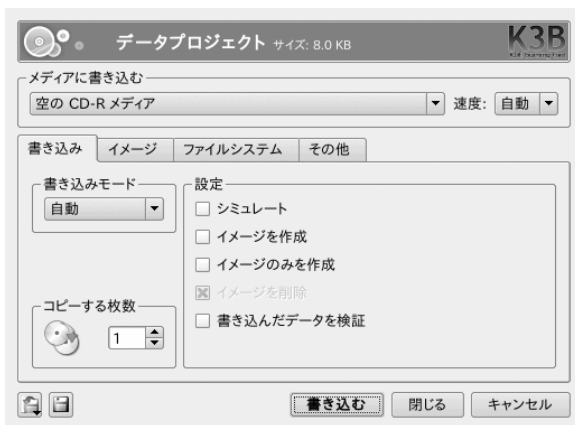
データCDまたはDVDを作成するには、次の手順に従います。

- 1 プロジェクトに応じて、[ファイル] > [New Project(新しいプロジェクト)] > [New Data CD Project(新しいデータCDプロジェクト)] または [ファイル] > [New Project(新しいプロジェクト)] > [New Data DVD Project(新しいデータDVDプロジェクト)] の順に選択します。ウィンドウの下側にプロジェクトビューが表示されます。
- 2 自分のホームディレクトリ内にある、希望のディレクトリや個別のファイルをドラッグし、このビューヘドロップします。
- 3 [ファイル] > [名前を付けて保存] を選択して任意の名前を付け、このプロジェクトを保存します。
- 4 ツールバーの [書き込む] をクリックするか、Ctrl+Bキーを押します。CD/DVDに書き込むためのさまざまなオプション用の4つのタブがある

ダイアログが表示されます。これらのタブについては、次で説明します。

5 [書き込み] をクリックして手順を開始します。

図 26.1 書き込みプロセスのカスタマイズ



[書き込み] タブには、書き込みデバイス、速度、および書き込みオプションの設定があります。次のオプションがあります。

[Burn Medium(メディアの書き込み)]

検出されたメディアおよびライターがこのポップアップメニューの下に表示されます。複数のライターがインストールされている場合は、ここで使用するライターを選択します。ここでは書き込み速度も選択できます。

警告: 書き込み速度を選択する際の注意

通常は [Auto] を選択してください。これにより、可能な最大速度が選択されます。ただし、この値を大きくしてもシステムでデータを十分高速に送信できなければ、バッファアンダーランによりディスクにエラーが発生することがあります。

書き込みモード

このオプションは、レーザーのCD/DVDへの書き込み方法を指定します。CDの場合は、DAO(ディスクアットワンス)、TAO(トラックアットワンス)、およびRAW(ロー)の3つのモードが使用可能です。[DAO] (ディス

クアットワンス)モードでは、ディスクに書き込んでいる間、レーザーを無効にしません。オーディオCDを作成する場合、このモードをお勧めします。[TAO] (トラックアットワンス)モードでは、個々のトラックごとに別の書き込みプロセスが使用されます。[RAW] (ロー)モードは使用頻度があまり高くありませんが、ライターがデータ補正を何も行わないのが特徴です。DVDでは、自動またはDAOの2つのモードが使用可能です。[自動]を選択することをお勧めします。この場合、K3bが最適な設定を決定します。マルチセッションDVDを作成する場合は、DAOモードは使用しないでください。

Simulate (シミュレート)

この機能を使用して、使用中のシステムが、選択された書き込み速度をサポートしているかどうかチェックすることができます。システムをテストするために、レーザーを無効にして書き込みます。

イメージの作成

このオプションでは、CDまたはDVDのISOイメージを作成できます。このイメージファイルは、後でCDまたはDVDに書き込まれます。このオプションは、パフォーマンスの低いシステムで使います。[イメージ] タブの [一時ファイル] に、このファイルのパスを設定します。このオプションをチェックすると、[Remove Image(イメージの削除)] オプションも有効になります。書き込みの完了後に画像を削除しない場合は、このオプションのチェックをオフにします。

イメージのみを作成します。

このオプションを有効にした場合、ISOイメージファイルが作成されますが、後でCDまたはDVDには書き込まれません。後でイメージをCDまたはDVDに書き込む場合は、このオプションを使用します。このためには、[ツール] > [Burn CD Image(CDイメージの書き込み)] または [ツール] > [Burn DVD ISO Image(DVD ISOイメージの書き込み)] を使用します。このオプションを使用する場合、このセクション内にある他のすべてのオプションは無効になります。

Remove Image

書き込みが終了するときに、一時イメージファイルをハードディスクから削除します。

Verify Written Data

元のデータと書き込まれたデータのMD5チェックサムを比較することによって、書き込まれたデータの完全性を確認します。

[イメージ] タブは、[イメージの作成] または [Only Create Image(イメージの作成のみ)] オプションを設定した場合にのみ使用できます。この場合、ISOを書き込むファイルを指定します。

[ファイルシステム] タブで、ボリューム名を設定します。[More Fields(詳細なフィールド)] をクリックすると、発行者や作成者、著作権情報、このプロジェクトの作成で使用されたアプリケーションおよびオペレーティングシステムなど、プロジェクトに関する詳細を追加できます。使用ファイルシステムを設定し、シンボリックリンクと空白の処理方法を決定できます。

[その他] タブには2つのオプションがあります。[Datatrack Mode] は、CDの場合のみ利用できます。ここで、データトラックの書き込み方法を設定できます。通常は、[自動] が最適な方法です。[Multisession Mode] は、書き込みが行われたものの、まだファイナライズされていないメディアにデータを追加するために使います。

必要に応じてすべての設定を調整したら、[書き込む] を使用して実際の書き込みプロセスを開始します。または、これらの設定を将来の使用や調整に備えて、[保存] を使用し保存します。

26.2 オーディオCDの作成

基本的に、オーディオCDの作成とデータCDの作成に大きな違いはありません。[ファイル] > [新しいオーディオCDプロジェクト] の順に選択します。個別のオーディオトラックをプロジェクトフォルダにドラッグアンドドロップします。オーディオデータは、WAVまたはOgg Vorbisのどちらかの形式でなければなりません。プロジェクトフォルダ内でトラックを上下に移動することにより、トラックの順序を決定します。

CDTextを使えば、CDのタイトル、アーティスト名、トラック名などのテキスト情報をCDに追加できます。この機能をサポートしているCDプレーヤーは、この情報を読み取って表示することができます。オーディオトラックにCDテキスト情報を追加するには、まずトラックを選択します。右クリックして[プロパティ] を選択し、新たに開くウィンドウに必要な情報を入力します。また、[Query Cddb(Cddbの照会)] をクリックすることにより、インターネットからトラック情報をダウンロードできます。

オーディオCDを書き込むためのダイアログは、データCDを書き込むためのダイアログと大差ありません。しかし、[DAO] と [TAO] のモードには大き

な違いがあります。TAOモードでは、各トラックの後にレーザーが停止し、短い中断時間が発生します。DAOモードでは、中断のないセッションを使用し、ディスクにデータを順次書き込みます。TAOモードでは、各トラックの後に2秒の中断時間が入ります。

ティップ: データの完全性の維持

オーディオCDを書き込むときは、低速の書き込み速度を選択した方が書き込みエラーが発生する可能性は低くなります。

必要に応じてすべての設定を調整したら、[書き込む] を使用して実際の書き込みプロセスを開始します。また、フロッピーディスクのアイコンをクリックすることにより、将来の使用および調整のために設定を保存できます。

26.3 CDまたはDVDのコピー

[ツール] > [Copy Medium(メディアのコピー)] の順に選択します。開いたダイアログで、図 26.2. 「メディアのコピー」 (336 ページ) に示すように [Source Medium(ソースメディア)] および [Burn Medium(書き込みメディア)] を選択します。これまでに説明した書き込みオプションは、ここでも使用できます。追加の機能により、CDやDVDのコピー枚数を指定することもできます。

図 26.2 メディアのコピー



ターゲットメディアにデータを書き込む前にハードディスクにデータをキャッシュする場合は [イメージの作成] をチェックします。 [イメージ] タブの [Write Image Files To(イメージファイルの書き込み先)] で指定されたパスに画像を作成し、イメージの書き込みを後で行う場合は、 [Only Create Image(イメージの作成のみを行う)] を選択します。

26.4 ISOイメージの書き込み

すでにISOイメージが存在する場合は、 [ツール] > [Burn CD Image(CDイメージの書き込み)] または [ツール] > [Burn DVD ISO Image(DVD ISOイメージの書き込み)] の順に選択します。開いたウィンドウで、書き込むイメージの場所を入力します。K3bによってチェックサムが計算され、 [MD5 Sum] 行にその値が表示されます。イメージソースから得られるMD5合計値をインターネットからダウンロードしたISOファイルと比較します。合計値が異なる場合、イメージは正しくダウンロードされていません。

[Burn Medium(メディアの書き込み)] で、使用するメディアとライターを選択します。書き込み速度を選択します。 [設定] で、コピー部数などの初期

設定を指定します。これらの設定の意味は、新しいCDまたはDVDを最初から作成する場合と同じです。26.1項「データCDまたはDVDの作成」(331 ページ)を参照してください。ディスクに書き込むには、**[開始]** をクリックします。

26.5 マルチセッションCDまたはDVDの作成

マルチセッションのディスクでは、データを複数回にわたって書き込むことができます。この機能は、メディアよりも小さなバックアップを書き込む場合などに役立ちます。セッションごとに、バックアップファイルを追加していくことができます。興味深い点として、この機能はデータCDやDVDだけに限られているわけではありません。マルチセッションディスクにオーディオセッションを追加することもできます。

注意: マルチセッションのディスクの容量

マルチセッションディスクでは、セッションの全エントリを記録する領域が必要になることに注意してください。これにより、ディスク上で使用可能な領域が少なくなります。この大きさは、セッションの数に応じて異なります。

マルチセッションのディスクを作成するには、以下の手順に従います。

- 1 まず、データディスクを作成して、すべてのファイルを追加します。オーディオCDセッションから開始することはできません。ディスクがいっぱいになっていないことを確認してください。新しいセッションを追加することができません。
- 2 データを書き込むには、**[プロジェクト] > [Burn]** の順に選択します。
- 3 表示されるダイアログボックス内で、**[その他]** タブに移動し、**[Start Multisession(マルチセッションの開始)]** を選択します。DVDに書き込む場合は、マルチセッションをサポートしないDAO書き込みモードは使用しないでください。
- 4 必要に応じて他のオプションを設定します。関連項目 26.1項「データCDまたはDVDの作成」(331 ページ)。

5 [Burn] をクリックして、書き込みセッションを開始します。

書き込みプロセスが成功すれば、マルチセッションディスクが作成されたことになります。メディアに十分な空き領域がある限り、必要に応じてセッションを追加できます。[Finish Multisession(マルチセッションのファイナライズ)] によるディスクのファイナライズは、新しいセッションを追加する必要がない場合、またはスペースが残っていない場合にのみ行ってください。

26.6 詳細情報

上記の機能に加えて、K3bはオーディオCDからの音楽のリッピング、CDの書き換えなどの機能を提供しています。K3bの詳細については、<http://k3b.org/>を参照してください。

BraseroによるCDおよびDVDの書き込み

27

Braseroは、データ/オーディオCDとDVDへの書き込みを行うプログラムです。メインメニューから、またはコマンドbraseroを入力することで、このプログラムを起動します。ここでは、Linuxで初めてCDまたはDVDを作成するユーザーのために、基本の書き込みプロセスを開始する方法について簡単に説明します。

27.1 データCDまたはDVDの作成

Braseroを初めて起動すると、図 27.1 に示されたようなメインウィンドウが表示されます。CDまたはDVDを作成するには、*[Data project(データプロジェクト)]* をクリックします。

図 27.1 Braseroのメインビュー



プロジェクトビューが表示されます。ファイルマネージャから目的のディレクトリまたは個別ファイルのいずれかをドラッグアンドドロップするか、または [追加] をクリックします。Braseroでディレクトリ構造を直接表示するには、[表示] > [Show side panel(サイドパネルの表示)] の順に選択します。[プロジェクト] > [名前を付けて保存] の順に選択して任意の名前を付け、このプロジェクトを保存します。操作が完了したら、[Burn(焼き付け)] をクリックします。

書き込み先のディスクデバイスを選択できる新しいダイアログボックスが表示されます。また、CDまたはDVDをISOイメージファイルとして保存することもできます。CDまたはDVDの名前を [Label of the disc(ディスクラベル)] に入力し、Windowsシステムとの互換性がどうかを指定して、最後に [焼き付け] をクリックします。

このダイアログボックスについては、図 27.2 を参照してください。

図 27.2 コピーダイアログ



27.2 オーディオCDの作成

基本的に、オーディオCDの作成とデータCDの作成に大きな違いはありません。次の手順に従います。

- 1 [プロジェクト] > [New Project(新規プロジェクト)] > [New Audio Project(新規オーディオプロジェクト)] の順に選択します。
- 2 個別のオーディオトラックをプロジェクトフォルダにドラッグアンドドロップします。オーディオデータは、WAVまたはOgg Vorbisのどちらかの形式でなければなりません。プロジェクトフォルダ内でトラックを上下に移動することにより、トラックの順序を決定します。
- 3 [Burn(書き込み)] をクリックし、[Disc burning setup(ディスク書き込みの設定)] ダイアログボックスを開きます。
- 4 書き込み先のドライブを指定します。

- 5 [プロパティ] をクリックし、書き込み速度とその他の初期設定を調整します。オーディオCDを書き込むときは、低速の書き込み速度を選択した方が書き込みエラーが発生する可能性は低くなります。
- 6 [書き込む] をクリックします。

27.3 CDまたはDVDのコピー

CDまたはDVDをコピーするには、次の手順に従います。

- 1 [Disc Copy(ディスクのコピー)] をクリックするか、または [Project(プロジェクト)] > [New Project(新規プロジェクト)] > [Copy Disc(ディスクのコピー)] の順に選択します。CD/DVDコピーオプションのダイアログボックスが開きます。
- 2 コピーするソースデバイスを指定します。
- 3 書き込み先のドライブまたはイメージファイルを指定します。
- 4 必要に応じて、プロパティの書き込み速度、一時ディレクトリ、その他のオプションを変更します。
- 5 [コピー] をクリックします。

27.4 ISOイメージの書き込み

すでにISOイメージが存在する場合は、[Burn image(イメージの書き込み)] をクリックするか、または [プロジェクト] > [New Project(新規プロジェクト)] > [Burn Image(イメージの書き込み)] の順に選択します。メディアおよびライターを選択し、必要な場合は [プロパティ] をクリックしてパラメータを変更します。[パス] ポップアップメニューでイメージファイルの場所を選択します。書き込みプロセスを開始し、[Burn(書き込み)] をクリックします。

27.5 マルチセッションCDまたはDVDの作成

マルチセッションのディスクでは、データを複数回にわたって書き込むことができます。この機能は、メディアよりも小さなバックアップを書き込む場合などに役立ちます。セッションごとに、バックアップファイルを追加していくことができます。興味深い点として、この機能はデータCDやDVDだけに限られているわけではありません。マルチセッションディスクにオーディオセッションを追加することもできます。

マルチセッションのディスクを作成するには、以下の手順に従います。

- 1 まず、27.1項「データCDまたはDVDの作成」(339ページ)の説明に従ってデータディスクから開始します。オーディオCDセッションから開始することはできません。ディスクがいっぱいになっていないことを確認してください。新しいセッションを追加することができません。
- 2 *[Burn(書き込み)]* をクリックします。 *[Disc Burning Setup(ディスク書き込みの設定)]* が開きます。
- 3 ディスクをマルチセッションに対応させる場合は、 *[Leave the disc open to add other files later(後で他のファイルを追加するためにディスクを開いたままにする)]* を選択します。必要に応じて他のオプションを設定します。
- 4 *[Burn]* をクリックして、書き込みセッションを開始します。

27.6 詳細情報

Braseroの詳細については、<http://www.gnome.org/projects/brasero/>を参照してください。



パート VII. 付録



ヘルプとドキュメント

SUSE® Linux Enterprise Desktopではさまざまな情報源とドキュメントが提供されており、その多くはインストール済みのシステムに統合されています。

デスクトップヘルプセンター

KDEデスクトップ(KDE help center)とGNOMEデスクトップ(Yelp)の両方のヘルプセンターでは、システムの最も重要なドキュメントリソースに検索可能な形式で一元的にアクセスできます。これらのリソースにはインストール済みのアプリケーションのオンラインヘルプ、マニュアルページ、情報ページ、製品に付属しているNovell/SUSEマニュアルが含まれます。デスクトップのヘルプセンターの詳細については、「28.1項「KDE Help Centerの使用法」(348 ページ)」と「28.2項「GNOME Yelpの使用」(350 ページ)」を参照してください。

一部のアプリケーション用の別なヘルプパッケージ

YaSTを使って新しくソフトウェアをインストールした場合、通常はそのソフトウェアのドキュメントも自動的にインストールされ、デスクトップのHelpCenterに表示されます。ただし、GIMPなどの一部のアプリケーションは、YaSTとは別個にインストールされる独自のオンラインヘルプパッケージを利用しており、ヘルプセンターには表示されない場合があります。

/usr/share/doc内のドキュメント

この従来のヘルプディレクトリには、システムのドキュメントファイルとリリースノートが格納されます。詳細については「項「Documentation Directory」(第6章 *Help and Documentation*, ↑*System Analysis and Tuning Guide* (システム分析およびチューニングガイド))」を参照してください。

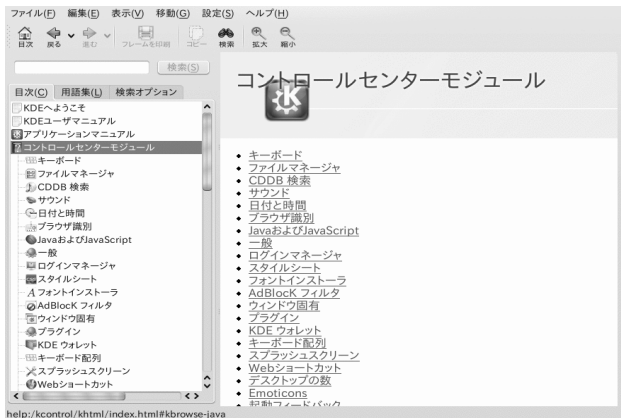
シェルコマンドのマニュアルページと情報ページ

シェルを使用する場合は、コマンドのオプションを記憶しておく必要はありません。シェルは以前からマニュアルページおよび情報ページによって統合ヘルプを提供しています。詳細については「項「Man Pages」(第6章 *Help and Documentation*, ↑*System Analys and Tuning Guide* (システム分析およびチューニングガイド))」および「項「Info Pages」(第6章 *Help and Documentation*, ↑*System Analys and Tuning Guide* (システム分析およびチューニングガイド))」を参照してください。

28.1 KDE Help Centerの使用方法

KDEデスクトップから、KDE help centerにさまざまな方法でアクセスできます。アプリケーション内部からの情報が必要な場合は、アプリケーションの[ヘルプ] ボタンをクリックするか、またはF1キーを押して、Help Centerでのアプリケーションのドキュメントを開きます。メインメニューからヘルプセンターを起動するか、コマンドラインで「khelpcenter」と入力してヘルプセンターを起動すると、ヘルプセンターのメインウィンドウが表示され、ここでヘルプトピックをブラウズできます。

☒ 28.1 KDE Help Centerのメインウィンドウ



メニューとツールバーには、Help Centerの内容を印刷したり、表示しているページ内を検索したり、Help Center内を移動したりカスタマイズするためのオプションが用意されています。ウィンドウの右側にある表示フィールドに

は、オンラインマニュアル、検索結果、またはWebページなど、選択したコンテンツの内容が表示されます。

ウィンドウの左側のナビゲーションエリアには、複数のタブがあります。

目次

利用できる情報ソースがツリービューで表示されます。**Help Center**は、ユーザ、管理者、開発者など、さまざまなグループを対象にしています。ブックアイコンをクリックすると、個別のカテゴリが開いて、参照可能になります。たとえば、見出し「**管理**」では、コマンドラインプログラムに関連するさまざまなマニュアル(**man**)や情報(**info**)ページを参照することもできます。また、**Help Center**からは、特定のハードウェアやソフトウェアに関する製品の問題を取り上げたオンラインデータベースにアクセスすることもできます。検索インデックスを一度生成すると、これらのソースすべてを簡単に検索できます。

Help Centerで利用できる内容は、現在インストールされているソフトウェアパッケージと、設定されているシステム言語によって異なります。

用語集

用語の簡単な説明が記載されています。

Search Options

Help Centerを全文検索するためのオプションが用意されています。さまざまな検索基準を指定して、検索を行うことができます。

手順 28.1 **Help Center**の検索方法

KDE help centerで全文検索を行うには、検索インデックスを生成して、検索パラメータを設定する必要があります。検索インデックスをまだ生成していない場合、**[Search]** タブをクリックすると、インデックスを生成するプロンプトが自動的に表示されます。

- 1 用語を検索するには、テキストフィールド内でクリックして検索文字列を入力します。
- 2 演算子を使って複数の文字列を組み合わせた検索を行う場合は、**[Method]** をクリックして、使用する演算子を選択します。
- 3 **[Max.Results]** からオプションを選択して、表示するヒット数を制限します。

- 4 検索するドキュメントの種類を指定する場合は、*[Scope selection (範囲の選択)]* からオプションを選択します。*[Default]* を選択した場合、あらかじめ定義されている種類のドキュメントが検索対象になります。*[All]* は、すべての種類のドキュメントを検索対象にする場合に使用します。*[Custom]* は、検索対象にするドキュメントを設定する場合に使用します。検索を実行するドキュメントだけを選択してください。
- 5 適切なオプションを設定したら、*[検索]* をクリックします。検索結果が一覧表示されます。表示されているリンクをクリックすると、ドキュメント中の該当する場所に移動することができます。

手順 28.2 新しい検索インデックスの生成

- 1 検索インデックスを作成するには、メニューから *[設定] > [Build Search Index]* の順に選択します。ウィンドウに、現在Help Centerで利用できるドキュメントが一覧表示されます。
- 2 検索インデックスを生成するドキュメントを選択し、*[インデックス作成]* をクリックします。インデックスが生成されたら、全文検索を実行することができます。

28.2 GNOME Yelpの使用

GNOMEデスクトップでアプリケーションから直接Yelpを起動するには、*[Help]* ボタンをクリックするか、またはF1を押します。どちらのオプションでもHelp Centerのアプリケーションのマニュアルに直接アクセスできます。ただし、Yelpはメインメニューから、またはコマンドラインからyelpで起動することもでき、Help Centerのメインウィンドウでブラウズできます。

図 28.2 Yelpのメインウィンドウ



メニューとツールバーのオプションで、**Help Center**のナビゲーションとカスタマイズ、**Yelp**からのコンテンツの検索と印刷が可能です。目次を表示するには、**[Help Topics]**をクリックします。ヘルプトピックはカテゴリに分類され、リンクで示されています。リンクの1つをクリックすると、そのカテゴリのトピック一覧が開きます。項目を検索するには、検索文字列をウィンドウ上部の検索フィールドに入力します。

28.3 デスクトップからのマニュアルページと情報ページのブラウズ

KDEまたはGNOMEデスクトップでは、マニュアルページおよび情報ページにアクセス(または印刷)することもできます。

KDE

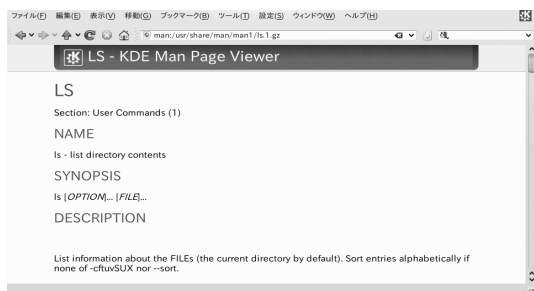
Konquerorで`ls`のマニュアルページを表示するには、ロケーションバーに「`man:/ls`」と入力します。1つのコマンドに対して異なるカテゴリがある場合、**Konqueror**はそれらのカテゴリをリンクで表示します。たとえば`grep`の情報ページを表示するには、「`info:/grep`」と入力します。

KDE help centerで目次で**[管理]**を探して、マニュアルページと情報ページをブラウズします。

GNOME

`yelp man:ls`または`yelp info:ls`を実行して、マニュアルページまたは情報ページを表示します。

☒ 28.3 *Konqueror*でのマニュアルページの表示



28.4 追加のヘルプリソース

/usr/share/docにインストールされたオンラインバージョンのNovell/SUSEマニュアル以外に、Webで製品ごとのマニュアルやドキュメントにアクセスすることもできます。使用している製品に提供されているすべてのドキュメントの概要については、「<http://www.novell.com/documentation/>」にある製品ごとのドキュメントに関するWebページをご覧ください。

製品ごとの追加情報を検索する場合は、次のWebサイトも参照してください。

- openSUSE Wiki English [<http://en.opensuse.org>]および<http://www.opensuse.org>
- SUSEサポートデータベース [<http://en.opensuse.org/SDB:SDB>]
- Novellテクニカルサポートナレッジベース [<http://www.novell.com/support/>]
- 製品サポートコミュニティのリソース [<http://support.novell.com/forums/index.html>]
- Novell Cool Solutions [<http://www.novell.com/cool solutions/>]
- KDEドキュメントWebサイト [<http://www.kde.org/documentation>]
- KDEアプリケーション用のドキュメントWebサイト [<http://www.kde-apps.org>]
- GNOMEドキュメントWebサイト [<http://www.gnome.org/learn/>]

汎用の検索エンジンも使用するとよいでしょう。たとえば、CDの書き込み時の問題や、OpenOffice.orgファイルの変換に関する問題を調べたい場合は、「Linux CD-RWヘルプ」や「OpenOfficeファイルの変換の問題」のような用語を検索します。また、GoogleにはLinux用の検索エンジン<http://www.google.com/linux>も用意されています。このエンジンを利用すれば、有益な情報を探し出すことができます。

Linuxソフトウェアの概要

Linux*には多くのアプリケーションが付属しているため、多くの場合、特定のニーズに対して複数のソリューションが存在します。ただし、目的に最も適したアプリケーションを見つけ出すのは容易ではありません。ここでは、一般的なWindowsソフトウェアと同等の強力なLinuxアプリケーションについて説明します。各セクションでは、それぞれ特定の分野のアプリケーションを取り上げ、Windowsアプリケーションとそれに対応するLinuxのアプリケーション、およびその概要について説明します。各項の下には、それぞれのLinuxアプリケーションの詳細や他の情報へのリンクが記載されています。ソフトウェアの開発プロセスは常に進歩し、絶えず新しいアプリケーションが開発されているため、このリストが完結することはありません。

ティップ: デフォルトでインストールされないアプリケーション

ここで説明されているすべてのアプリケーションがデフォルトでシステムにインストールされるとは限りません。一部のアプリケーションは、製品と同梱されていない可能性があります。使用するアプリケーションがない場合は、システム管理者にお問い合わせください。アプリケーションが製品によって提供されている場合は、YaSTを使用してそのアプリケーションをインストールできます。YaSTソフトウェア管理ツールの検索機能を使用して、必要なパッケージの名前を検索します。

29.1 オフィスアプリケーション

ここでは、一般的で強力なLinuxのオフィスビジネスソフトウェアソリューションについて説明します。このようなソフトウェアとしては、オフィススイート、データベース、財務会計ソフトウェア、およびプロジェクト管理ソフトウェアがあります。

表 29.1 WindowsとLinuxのオフィスソフトウェア

タスク	Windowsアプリケーション	Linuxアプリケーション
オフィススイート	Microsoft* Office	OpenOffice.org, StarOffice, KOffice
ワードプロセッサ	Microsoft Word, WordPerfect	OpenOffice.org/StarOffice Writer, KWord
表計算ソフト	Microsoft Excel	OpenOffice.org/StarOffice Calc, Gnumeric, KSpread
プレゼンテーション	Microsoft PowerPoint	OpenOffice.org/StarOffice Impress, KPresenter
データプロット	Microsoft Excel	OpenOffice.org Calc, Kst, Gnuplot, Grace(Xmgr), LabPlot
ローカルデータベース	Microsoft Access	OpenOffice.org Base, Rekall, kexi, Mergeant, PostgreSQL
財務会計	Microsoft Money, Quicken	GnuCash, KMyMoney
プロジェクト管理	Microsoft Project	Planner, Taskjuggler
マインドマップ	MindManager, Free Mind	VYM (View Your Mind), Free Mind, KDissert

29.1.1 オフィススイート

OpenOffice.org

OpenOffice.orgは、ワードプロセッサ(Writer)、表計算ソフト(Calc)、とデータベースマネージャ(Base)、プレゼンテーションマネージャ(Impress)、描画プログラム(Draw)、および数学の方程式と式を生成する数式エディタ(Math)を含む、Microsoft Officeに対応する安定したオープンソースです。ユーザインタフェースは、Microsoft Officeスイートに類似しています。詳細については、<http://www.openoffice.org/>または第1章 *OpenOffice.org Office Suite* (3 ページ)を参照してください。

StarOffice

Sun Microsystemsにより開発された独自のオフィススイートソフトウェアであるStarSuiteは、OpenOffice.orgに類似しています。Linux、Windows、Solarisを含む、複数のプラットフォームで利用可能です。OpenOffice.orgスイートと同じモジュールが含まれます。オープンソース版では利用できない、いくつかの高度な機能も含まれています。詳細については、<http://www.sun.com/software/star/staroffice/>を参照してください。

KOffice

KOfficeは、KDEデスクトップ向けに完全に統合されたオフィススイートです。ワードプロセッサ(KWord)、表計算ソフト(KSpread)、プレゼンテーション(Kpresenter)、いくつかの画像処理アプリケーション(Kivio、Karbon14、Krita)、データベースフロントエンド(Kexi)や、他の多くのアプリケーションが付属しています。詳細については、<http://www.koffice.org/>を参照してください。

29.1.2 ワープロ

Writer

Writerは、OpenOffice.orgおよびStarSuiteの安定したワープロおよびデスクトップパブリッシングモジュールです。StarOffice Writernには、OpenOffice.orgで使用できないいくつかの高度な機能が備わっています。詳細については、<http://www.openoffice.org/product/writer>および<http://www.sun.com/software/star/staroffice>を参照してください。

KWord

KWordは、KOfficeスイートの安定したフレームベースのワープロモジュールです。KWordの扱いやすい機能により、プロフェッショナルな外観の文書を容易に作成でき、大量のテキストを扱うことが可能です。詳細については、<http://www.koffice.org/kword/>を参照してください。

29.1.3 スプレッドシート

Calc

Calcは、OpenOffice.orgスイートおよびStarSuiteのスプレッドシートおよびデータプロットモジュールです。操作を覚えやすく、広範な機能が提供されます。詳細については、<http://www.openoffice.org/product/calc.html>および<http://www.sun.com/software/star/staroffice>を参照してください。

KSpread

KSpreadは、KOfficeスイートのスプレッドシートモジュールです。これは、表形式のシートを提供し、複雑な数式と統計をサポートするスクリプト可能なスプレッドシートプログラムです。詳細については、<http://www.koffice.org/kspread/>を参照してください。

Gnumeric

Gnumericは、他のスプレッドシートで作成されたファイルも読み取ることができるGNOMEデスクトップ環境向けのスプレッドシートソリューションです。この組み込み関数とツールは非常に正確です。詳細については、<http://www.gnumeric.org>を参照してください。

29.1.4 プレゼンテーション

Impress

Impressは、OpenOffice.orgスイートおよびStarSuiteのプレゼンテーションモジュールです。Impressでは、2Dおよび3Dのクリップアート、特殊効果、アニメーション、描画ツールによりマルチメディアプレゼンテーションを作成できます。Impressでは、プレゼンテーションからPDFファイルを作成でき、Microsoft PowerPointにより使用されている*.ppt形式を含む複数のファイル形式のファイルを表示、編集、および保存できます。詳細については、<http://www.openoffice.org/product/impress.html>を

参照してください。および <http://www.sun.com/software/star/staroffice>.

KPresenter

KPresenterは、KOfficeスイートのプレゼンテーションモジュールです。KPresenterでは、さまざまな形式のテキストとグラフィックを含む完全なスライドセットを準備し、あらゆる種類のオブジェクトを埋め込むことができます。またKPresenterは、Microsoft PowerPoint、MagicPoint、およびOpenOffice.org Impress文書からプレゼンテーションをロードできます。詳細については、<http://www.koffice.org/kpresenter/>を参照してください。

29.1.5 データプロット

Calc

詳細については、Calc (356 ページ)を参照してください。

Gnuplot

Gnuplotは、非常に強力で移植性の高い、コマンドラインで制御するデータプロット用ソフトウェアです。MacOSおよびWindowsプラットフォームでも利用可能です。Gnuplotが作成するプロットは、PostScript、PDF、SVG、およびその他の形式でエクスポートできるため、容易にプロットを処理できます。詳細については、<http://www.gnuplot.info/index.html>を参照してください。

Grace

Graceは、Linuxを含むさまざまなプラットフォームで使える2Dプロットツールです。グラフィカルユーザインターフェースを使ってプロットを作成および編集できます。Graceは、プロットごとにいくらかでも多くのグラフをサポートしています。詳細については、<http://plasma-gate.weizmann.ac.il/Grace/>を参照してください。

Kst

Kstは、KOfficeスイート向けのデータプロットモジュールです。これにより、リアルタイムデータの表示とプロット、および基本的なデータ分析が可能になります。詳細については、<http://kst.kde.org/>を参照してください。

LabPlot

LabPlotは、2Dまたは3Dのデータプロットを作成および管理するためのプロットツールであり、KDE向けに作成されました。グラフはデータと関数の両方から生成することができ、1つのプロットに複数のグラフを含めることができます。また、様々なデータ分析方式も提供しています。詳細については、<http://labplot.sourceforge.net/>を参照してください。

29.1.6 ローカルデータベース

Base

Baseは、OpenOffice.orgスイートおよびStarSuiteのデータベースモジュールです。すべての関連データ、テーブル定義、レポート、およびフォームを含む「自己充足型」のデータベース文書を作成するために使用できます。詳細については、<http://www.openoffice.org/product/base.html> および<http://www.sun.com/software/star/staroffice>を参照してください。

Gnome-DB

GNOME-DBは、GNOMEに対する統合型データアクセスアーキテクチャを提供します。このアーキテクチャは、永続データにアクセスするすべてのアプリケーションで役立ちます。このアーキテクチャは、データ抽象化レイヤ(Libgda)、データベースウィジェットライブラリ、およびデータベースフロントエンド(Mergeant)から構成されます。詳細については、<http://www.gnome-db.org/>を参照してください。

Kexi

Kexiは、統合型データ管理アプリケーションです。このアプリケーションは、データベースの作成、データの挿入、クエリの実行、およびデータの処理のために使用できます。データに対するカスタムインタフェースを提供するためのフォームを作成できます。詳細については、<http://www.koffice.org/kexi/>を参照してください。

PostgreSQL

PostgreSQLは、トランザクション、外部キー、サブクエリ、トリガ、ユーザ定義の型および関数を含む標準SQLの拡張サブセットをサポートするオブジェクトリレーショナルデータベース管理システムです。詳細については、<http://www.postgresql.org/>を参照してください。

Rekall

Rekallは、MySQL、PostgreSQL、Xbaseなど、さまざまなデータベースアプリケーションをサポートするデータベース管理ツールです。Rekallは、レポート、フォーム、クエリなど、多くのタスクで使用できます。詳細については、<http://www.thekompany.com/products/rekall/>を参照してください。

29.1.7 財務会計

KmyMoney

KmyMoneyは、KDEデスクトップ向けのパーソナル財務マネージャです。オープンソースのオペレーティングシステムのユーザが個人的な財務状況を追跡し、豊富な財務機能やツールを利用できます。詳細については、<http://kmymoney2.sourceforge.net>を参照してください。

GnuCash

GnuCashは、個人および法人の財務を管理するためのソフトウェアツールです。これによりユーザは、損益を追跡できます。また、銀行口座と株式のポートフォリオの管理のために使用できます。詳細については、<http://www.gnucash.org/>を参照してください。

29.1.8 プロジェクト管理

Planner

Plannerは、Windows用のプロジェクト管理ツールと同等の機能を提供することを目的とするGNOMEデスクトップ用のプロジェクト管理ツールです。こうした機能には、タスクおよびリソースのガントチャートとさまざまな表示形式が存在します。詳細については、<http://www.imendio.com/projects/planner/>を参照してください。

Taskjuggler

Taskjugglerは、ユーザがガントチャート機能を使用してプロジェクトを管理できるプロジェクト管理ツールです。また、さまざまな形式(XML、HTML、またはCSV)のレポートを生成するために使用できます。Taskjugglerは、コマンドラインから管理できるだけでなく、グラフィカルなフロントエンドを提供しています。詳細については、<http://www.taskjuggler.net>を参照してください。

29.1.9 マインドマップ

FreeMind

FreeMindは、アイディア、思考、概念を整理するためのマインドマッピングに似たツールです。簡単にノードおよびノードのスタイルをコピーして、HTML、RTF、メールなどのソースからテキストを容易に貼り付けることができます。マインドマップは、HTMLとXMLなどのさまざまな形式にエクスポートできます。詳細については、http://freemind.sourceforge.net/wiki/index.php/Main_Pageを参照してください。

VYM

VYM (View Your Mind)は、アイディア、思考、概念を整理するためのマインドマッピングに似たツールです。VYMマインドマップは、XML形式で作成され、HTML形式でエクスポートできます。詳細については、insilmaril.de/vymを参照してください。

Semantik

Semantik(以前のKDissert)は、アイディアを整理するためのマインドマッピングに似たツールです。ユーザは、マインドマップから、PDFファイル、テキスト文書、HTMLファイルなどのさまざまな出力を生成できます。詳細については、<http://freehackers.org/~tnagy/kdissert/>を参照してください。

29.2 Network

次のセクションでは、ネットワーク用のさまざまなLinuxアプリケーションを紹介します。最も人気のあるLinuxのブラウザ、電子メール、チャットクライアントについて説明します。

表 29.2 WindowsとLinuxのネットワークソフトウェア

タスク	Windowsアプリケーション	Linuxアプリケーション
Webブラウザ	Internet Explorer、Firefox*、Opera	Konqueror、Firefox、Opera、Epiphany

タスク	Windowsアプリケーション	Linuxアプリケーション
電子メールクライアント/個人情報管理	Microsoft Outlook*、Lotus Notes、Mozilla Thunderbird*	Evolution、Kontact、Mozilla Thunderbird
インスタントメッセージ/IRCクライアント	MSN、AIM*、Yahoo!* Messenger、XChat、Gaim	Gaim、Empathy、Kopete、Konversation、XChat
会議(オーディオとビデオ)	NetMeeting、LifeMeeting	Ekiga
VoIP(Voice over IP)	X-Lite	Ekiga、Skype
FTPクライアント	leechftp、wsftp	gftp、kbear

29.2.1 ブラウザ

Epiphany

Epiphanyは、GNOMEデスクトップ用の、軽量ながら強力なWebブラウザです。その機能および拡張機能の多くがFirefoxに類似しています。詳細については、<http://projects.gnome.org/epiphany/>を参照してください。

Firefox

Firefoxは、Linux、MacOS、Windowsを含むさまざまなプラットフォームで動作するWebブラウザです。Firefoxの主な機能としては、カスタマイズ可能な検索機能、ポップアップブロッキング、RSSニュースフィード、パスワード管理、タブ付きブラウズ、および高度なセキュリティとプライバシーのオプションがあります。詳細については、<http://www.mozilla.org/products/firefox/>または第18章 *Firefox*を使用したブラウジング(193 ページ)を参照してください。

Konqueror

Konquerorは、KDEデスクトップ向けに作成されたマルチアプリケーションです。Webブラウザ、ファイルマネージャ、および文書ビューアとして

使用できます。CSS(2)、Javaアプレット、JavaScript、Netscapeプラグイン、DOM、SSLなど、最も一般的なWeb標準がサポートされます。詳細については、<http://www.konqueror.org/>または第17章 *Konqueror* を使ったブラウズ(185 ページ)を参照してください。

Opera

Operaは、電子メールクライアント、チャットモジュールを備えた強力なWebブラウザです。Operaは、ポップアップブロッキング、RSSニュースフィード、カスタマイズ可能な内蔵検索機、パスワードマネージャ、およびタブ付きブラウズ機を提供します。詳細については、<http://www.opera.com/>を参照してください。

29.2.2 電子メールクライアント/ 個人情報管理

Evolution

Evolutionは、GNOMEデスクトップのための個人情報管理アプリケーションです。電子メール、カレンダー、およびアドレス帳の各機能が含まれています。詳細については、<http://projects.gnome.org/evolution/ftp>または第6章 *Evolution: 電子メールとカレンダーリング* (69 ページ)を参照してください。

Kontakt

Kontaktは、KDEデスクトップ向けの個人情報管理スイートです。電子メール、カレンダー、アドレス帳、Palmとの同期機能が含まれています。詳細については、<http://www.kontakt.org/>または第5章 *Kontakt: 電子メールとカレンダーリング* (49 ページ)を参照してください。

Mozilla Thunderbird

Mozilla Thunderbirdは、Mozillaスイート向けの電子メールクライアントです。また、Microsoft WindowsおよびMacOSで使用可能です。詳細については、<http://www.mozilla.com/en-US/thunderbird/>を参照してください。

29.2.3 インスタントメッセージ/IRCクライアント

Empathy

Empathyは、GNOMEデスクトップのためのインスタントメッセンジャーツールです。再使用可能なインスタントメッセージングウィジェットの豊富なセットとGNOMEクライアントから構成されます。詳細については、<http://live.gnome.org/Empathy>を参照してください。

Konversation

Konversationは、多くの機能を備えるKDEデスクトップのIRCクライアントです。詳細については、<http://konversation.kde.org>を参照してください。

Kopete

Kopeteは、多数のプロトコルをサポートする使いやすいインスタントメッセンジャーツールです。詳細については、<http://kopete.kde.org/>または第14章 *Kopete*によるインスタントメッセージング(161 ページ)を参照してください。

Pidgin

Pidgin(以前のGaim)は、一般的に使用されている多数のインスタントメッセージングプロトコルをサポートするマルチプラットフォームインスタントメッセージングクライアントであり、ユーザが単一のアプリケーションからさまざまな異なるサービスにログインすることを可能にします。詳細については、<http://pidgin.im/>または第15章 *Pidgin*によるインスタントメッセージング(169 ページ)を参照してください。

29.2.4 VoIP、ビデオ、およびオーディオによる会議

Ekiga

Ekiga(以前のGNOMEMeeting)は、無料かつオープンソースのビデオ会議およびVoIP用アプリケーションです。Ekigaは、SIPおよびH.323の両プロトコルをサポートし、Microsoft NetMeetingおよびLifeMeetingと完全に相互運用可能です。詳細については、<http://www.ekiga.org/>または第16章 *Ekiga*でのVoice over IPの使用(175 ページ)を参照してください。

Skype

Skypeは付く数のプラットフォーム(Linux、Windows、Mac Os X)用のアプリケーションで、優れた音質とエンドツーエンドの暗号化を使用して、インターネット上での通話に使用できます。Skypeを使用するときは、ファイアウォールまたはルータの設定は不要です。詳細については、<http://www.skype.com/>を参照してください。

29.2.5 FTPクライアント

gftp

gftpは、GTKツールキットを使用するFTPクライアントです。同時ダウンロード、中断されたファイル転送の再開、ファイル転送キュー、ディレクトリ全体のダウンロード、FTPプロキシのサポート、リモートディレクトリのキャッシング、パッシブおよび非パッシブのファイル転送、ドラッグアンドドロップのサポートといった機能が含まれています。詳細については、<http://gftp.seul.org/>または第19章 インターネットからのデータの転送(217 ページ)を参照してください。

KBear

KBearは、複数のホストに同時に接続できるグラフィカルなFTPクライアントです。ユーザは、ドラッグアンドドロップまたは切り取りと貼り付けを行うことにより、ホスト間でファイルまたはディレクトリをコピーまたは移動できます。また、動的なサイトデータベースが存在します。詳細については、<http://sourceforge.net/projects/kbear/>を参照してください。

29.3 マルチメディア

次のセクションでは、Linux用の最も人気のあるマルチメディアアプリケーションを紹介します。ディープレーヤー、サウンド編集ソリューション、およびビデオ編集ツールについて解説します。

表 29.3 WindowsとLinuxのマルチメディアソフトウェア

タスク	Windowsアプリケーション	Linuxアプリケーション
オーディオCDプレーヤー	CD Player、Winamp、Windows Media Player	KsCD、Grip、Banshee
CDバーナー	Nero、Roxio Easy CD Creator	K3b
CDリッパ	WMPowerPlayer	KAudioCreator、Sound Juicer
オーディオプレーヤー	Winamp、Windows Media Player、iTunes	amaroK、XMMS、Rhythmbox
ビデオプレーヤー	Winamp、Windows Media Player	Kaffeine、MPlayer、Xine、XMMS、Totem、RealPlayer
オーディオエディタ	SoundForge、Cooledit、Audacity	Audacity
サウンドミキサー	sndvol32	alsamixer、Kmix
楽譜作成	Finale、SmartScore、Sibelius	LilyPond、MusE、Noteedit、Rosegarden
ビデオの製作と編集	Windows Movie Maker、Adobe Premiere、Media Studio Pro	Kino
テレビの再生	AVerTV、PowerVCR 3.0、CinePlayer DVR	xawtv、motv (アナログ)、tvtime、kdetv、zapping、Kaffeine

29.3.1 メディアプレーヤー

amaroK

amaroKは、KDEデスクトップ向けの強力なメディアプレーヤーです。さまざまなオーディオ形式に対応し、インターネットラジオ局のストリーミングオーディオ放送を再生できます。詳細については、<http://amarok.kde.org/>または23.2.1項「amaroKメディアプレーヤー」(289ページ)を参照してください。

Banshee

Bansheeは、各種のメディア形式をエンコードおよびデコードできるメディアプレーヤーです。詳細については、<http://banshee-project.org/>または第24章 *Banshee* での音楽の再生と管理(303ページ)を参照してください。

Grip

Gripは、GNOMEデスクトップ向けのCDプレーヤーおよびリッパーです。Gripは、GNOMEデスクトップ向けのCDプレーヤーおよびリッパーです。詳細については、<http://www.nostatic.org/grip/>を参照してください。

Kaffeine

cdparanoiaのリッピング機能を内蔵していますが、外部リッパーを使用することもできます。詳細については、<http://kaffeine.kde.org/>を参照してください。

KsCD

KsCDは、KDEデスクトップ用の、CDプレーヤーアプリケーションです。ユーザインタフェースは、標準のハードウェアCDプレーヤーによく似ています。詳細については、<http://docs.kde.org/en/3.3/kdemultimedia/kscd/>を参照してください。

MPplayer

MPlayerは、多数のメディアフォーマットをサポートしており、ストリーム化されたすべての内容をファイルに保存することもできます。詳細については、<http://www.mplayerhq.hu/>を参照してください。

RealPlayer

RealPlayerは、多数のマルチメディア形式を再生できるRealNetworks独自のクロスプラットフォームメディアプレーヤです。詳細については、<http://uk.real.com/player/>を参照してください。

Totem

Totemは、GNOMEコンピュータのデスクトップ環境向けのデフォルトマルチメディアプレーヤです。Totemは、GNOME Nautilusに完全に統合されています。詳細については、<http://projects.gnome.org/totem/>または第25章 *Totem* によるビデオの再生(321 ページ)を参照してください。

Xine

Xinelは、さまざまなフロントエンドプレーヤアプリケーションをサポートするLinux向けマルチメディアプレーヤです。もう1つの重要な機能は、オーディオとビデオストリームの同期を手動で修正する機能です。詳細については、<http://xinehq.de/>を参照してください。

XMMS

X Multimedia System 2 (XMMS2)は、オーディオビデオ形式をサポートするLinuxシステム向けのオーディオプレーヤです。詳細については、http://wiki.xmms2.xmms.se/wiki/Main_Page/を参照してください。

29.3.2 CD書き込み

Banshee

Banshee (366 ページ)については、上記を参照してください。

Brasero

Braseroは、ユーザがオーディオおよびデータのCD/DVDをリアルタイムに書き込むことができるGNOMEデスクトップ向けディスク書き込みプログラムです。詳細については、<http://projects.gnome.org/brasero/>または第27章 *Brasero* によるCDおよびDVDの書き込み(339 ページ)を参照してください。

K3b

K3bは、Unixに似たコンピュータオペレーティングシステムのKDEデスクトップ環境向けCDおよびDIDオーサリングアプリケーションです。大半のCD/DVD書き込みタスクを実行できるグラフィカルユーザインタフェースを備え、DIDリッパを内蔵しています。詳細については、<http://>

www.k3b.org/または第26章 *K3b* によるCDおよびDVDの書き込み(331 ページ)を参照してください。

29.3.3 CDリッパ

Grip

Grip (366 ページ)については、上記を参照してください。

KAudioCreator

KAudioCreatorは、音楽CDのリッピング、WAVEファイルのエンコードを行うためのフロントエンドツールです。詳細については、<http://www.icefox.net/programs/?program=KAudioCreator>を参照してください。

Sound Juicer

Sound Juicerは、cdparanoia CDリッピングライブラリに対するフロントエンドアプリケーションです。Sound Juicerは、cdparanoia CDリッピングライブラリに対するフロントエンドアプリケーションです。多数のオーディオコーデックのリッピングがサポートされています。詳細については、<http://www.burtonini.com/blog/computers/sound-juicer>を参照してください。

29.3.4 オーディオエディタ

Audacity

Audacityはデジタルオーディオエディタアプリケーションです。このクロスプラットフォームによりユーザは、トラックのミキシング、効果の適用を行い、得られた結果をWAVまたはOgg Vorbisにエクスポートできます。詳細については、<http://audacity.sourceforge.net/>を参照してください。

29.3.5 サウンド ミキサー

ALSAミキサー

ALSAミキサーは、Advanced Linux Sound Architecture(ALSA)向けのミキサープログラムです。ALSAミキサーは、Advanced Linux Sound

Architecture(ALSA)向けのミキサープログラムです。サウンド設定を指定し、ボリュームの調整を行うことができます。複数のサウンドカードと複数のデバイスをサポートします。詳細については、http://www.alsa-project.org/main/index.php/Main_Pageを参照してください。

29.3.6 楽譜作成

LilyPond

LilyPondは楽譜エディタです。LilyPondは楽譜エディタです。ユーザはスペース、改行、ポリフォニーの衝突などの書式や表記の問題を処理する必要はありません。詳細については、<http://lilypond.org/web/>を参照してください。

MusE

入力フォーマットはテキストベースであるために、ユーザは任意のテキストエディタを使用して楽譜シートを作成できます。MusEは現在のところ、記録機能および編集機能を備えるMIDI/オーディオシーケンサです。詳細については、<http://www.muse-sequencer.org/index>を参照してください。

Noteedit

NoteeditはLinuxの強力な楽譜エディタです。楽譜シートを作成し、多数のフォーマットでスコアをインポートおよびエクスポートできます。グラフィカルユーザインタフェースを備えています。詳細については、<http://noteedit.berlios.de/>を参照してください。

Rosegarden

Rosegardenは無料の作曲編曲環境で、オーディオ、MIDIシーケンサ、および楽譜エディタ機能を提供します。詳細については、<http://rosegardenmusic.com/>を参照してください。

29.3.7 ビデオクリエータおよびビデオエディタ

Kino

Kinoは、多数のフォーマットへのエクスポート機能を持つ簡単に信頼性の高いデジタルビデオエディタです。このプログラムは、多数の基本的なビデオ編集タスクとアセンブルタスクをサポートします。生のDIV、AVI、およびQuicktimeフォーマットでビデオをディスクに収集します。詳細については、<http://www.kinodv.org>を参照してください。

29.3.8 TVビューアおよびエディタ

xawtv

xawtvは、TVビューアおよびレコーダのスイートです。テレビチューナまたは衛星レシーバカードDB-Sのいずれかを使用したアナログおよびデジタルの両オーディオ、およびビデオブロードキャストをサポートします。詳細については、<http://linux.bytesex.org/xawtv/>を参照してください。

kdetv

kdetvは、チューナカードを使用したTVの処理をサポートするKDEデスクトップ向けTVビューアおよびレコーダアプリケーションです。詳細については、<http://www.kdetv.org>を参照してください。

29.4 グラフィックス

ここでは、グラフィックス処理のためのLinuxソフトウェアソリューションについて説明します。これらのソフトウェアには、フル装備のイメージ処理ツール、強力なレンダリングおよびアニメーションプログラムだけでなく、簡単な描画アプリケーションもあります。

表 29.4 WindowsとLinuxのグラフィックスソフトウェア

タスク	Windowsアプリケーション	Linuxアプリケーション
簡単なイメージ編集	Microsoftペイント	KolourPaint
プロフェッショナル イメージ編集	Adobe Photoshop、Paint Shop Pro、Corel PhotoPaint、GIMP	GIMP、Krita
ベクターイメージの作 成	Adobe Illustrator、 CorelDraw、Freehand	OpenOffice.org Draw、 Inkscape、Dia
SVG編集	WebDraw、Freehand、 Adobe Illustrator	Inkscape、Dia、Kivio
3Dイメージの作成	3D Studio MAX、Maya、 POV-Ray、Blender	POV-Ray、Blender、 KPovmodeler
デジタル写真の管理	カメラメーカーが提供するソ フトウェア	DigiKam、F-スポット
スキャン	Vuescan	Vuescan、GIMP
イメージビューア	ACDSee	gwenview、gThumb、 Eye of Gnome、f-spot

Blender

Blenderは、Windows、MacOS、Linuxを含む多くのプラットフォームで使
用できる強力なレンダリング/アニメーションツールです。詳細について
は、<http://www.blender.org/>を参照してください。

Dia

Diaは、Visioに相当するLinuxのアプリケーションです。ネットワーク、
UMLチャートなど、多くの特殊なダイアグラムをサポートします。エク
スポートの形式には、SVG、PNG、EPSがあります。カスタムのダイアグ
ラムタイプをサポートするには、新しい形状を特別なXML形式で指定し
ます。詳細については、<http://projects.gnome.org/dia/>を参照し
てください。

Digikam

digikamは、KDEデスクトップ用の高機能デジタル写真管理ツールです。数回のクリックでデジタルイメージをインポートして整理できます。アルバムを作成してタグを追加すると、複数のサブディレクトリにイメージをコピーせずにWebサイトにイメージをエクスポートできます。詳細については、<http://www.digikam.org/>または第21章 *DigiKam*によるデジタルイメージコレクションの管理 (243 ページ)を参照してください。

Eye of Gnome (eog)

Eye of Gnomeは、GNOMEデスクトップ用の画像ビューアアプリケーションです。詳細については、<http://projects.gnome.org/eog/>を参照してください。

F-Spot

f-spotは、GNOMEデスクトップ用の、柔軟なデジタル写真管理ツールです。アルバムの作成と管理、HTMLページなどの様々なエクスポートオプションのサポート、画像アーカイブのCDへの書き込みなどが行えます。また、f-spotをC\83\7dンドラインの画像ビューアとして使用することもできます。詳細については、http://f-spot.org/Main_Pageまたは第22章 *F-スポットによるデジタルイメージコレクションの管理* (267 ページ)を参照してください。

gThumb

gThumbはGNOMEデスクトップ用のイメージビューア、ブラウザ、オーガナイザで、**gphoto2**によるデジタルイメージのインポートをサポートし、基本的な変換および修正を実行でき、一定の分類規則に従ってイメージにタグを付けてアルバムを作成できます。詳細については、<http://gthumb.sourceforge.net/>を参照してください。

Gwenview

Gwenviewは、KDE用のシンプルな画像ビューアです。フォルダツリーウィンドウとファイルリストウィンドウがあり、ファイルの階層構造内を簡単に移動できます。詳細については、<http://gwenview.sourceforge.net/home/>を参照してください。

Inkscape

Inkscapeは無料のSVGエディタです。Inkscapeは、Adobe Illustrator、Corel Draw、およびVisioと同様の機能とユーザインタフェースを提供します。Inkscapeには、SVGからPNGへのエクスポート、レイヤー、変換、グ

ラレーション、オブジェクトのグループ化の機能があります。詳細については、<http://www.inkscape.org/>を参照してください。

Kivio

Kivioは、KOfficeスイートに統合されている、フローチャート用アプリケーションですこれまでのVisioのユーザは、Kivioのルックアンドフィールに親しみを覚えるでしょう。詳細については、<http://www.koffice.org/kivio/>を参照してください。

KolourPaint

KolourPaintは、KDEデスクトップ用の使いやすいペイントプログラムです。このプログラムを使用して、ダイアグラムのペイントや描画、スクリーンショット、写真、アイコンの編集などのタスクを実行できます。詳細については、<http://kolourpaint.sourceforge.net/>を参照してください。

KPovmodeler

KPovmodelerは、KDEデスクトップと統合されている、POV-Rayのフロントエンドです。KPovmodelerでは、POV-Ray言語がわかりやすいツリービューに変換されるので、POV-Rayスクリプトについての詳細な知識は必要ありません。ネイティブなPOV-RayスクリプトをKPovmodelerにインポートすることもできます。詳細については、<http://www.kpovmodeler.org>を参照してください。

Krita

Kritaは、Adobe PhotoshopとThe GIMPに対するKOfficeの解答です。ピクセルベースの画像作成および編集に使用することができます。通常Adobe PhotoshopやThe GIMPにあるような、多くの高度な画像編集機能を備えています。詳細については、<http://www.koffice.org/krita>を参照してください。

OpenOffice.org Draw

詳細については、OpenOffice.org (355 ページ)を参照してください。

POV-Ray

POV-Ray(Persistence of Vision Ray)トレーサを使用すると、レイトレーシングというレンダリング技術を使用して3次元のフォトリアリスティックなイメージを作成できます。POV-RayにはWindowsバージョンがあるため、このアプリケーションのWindowsユーザは容易にLinuxバージョンに切り

替えることができます。詳細については、<http://www.povray.org/>を参照してください。

The GIMP

GIMP(GNU Image Manipulation Program)は、Adobe Photoshopに相当するオープンソースです。デジタルグラフィックおよび写真を処理するために使用するラスタグラフィックスエディタです。詳細については、<http://www.gimp.org/>または第20章 *GIMP*によるグラフィックスの操作(223 ページ)を参照してください。

VueScan

VueScanは、複数のプラットフォームに使用できるスキャンソフトウェアです。自分のベンダーのスキャナソフトウェアに平行してインストールできます。バッチスキャン、オートフォーカス、埃と瑕の抑制用の赤外線チャンネルなどの、スキャナの特殊ハードウェア、さらに、スライドの暗い部分でのスキャナノイズを軽減するためのマルチスキャンにもサポートしています。デジタルグラフィックおよび写真を処理するために使用するラスタグラフィックスエディタです。詳細については、<http://http://www.hamrick.com/vsm.html>を参照してください。

29.5 システム管理とファイル管理

ここでは、システム管理とファイル管理のためのLinuxツールの概要について説明し、テキストエディタ、ソースコードエディタ、バックアップソリューション、およびアーカイブツールについて解説します。

表 29.5 WindowsとLinuxのシステム管理とファイル管理のソフトウェア

タスク	Windowsアプリケーション	Linuxアプリケーション
ファイルマネージャ	Windows Explorer	Dolphin、Nautilus、Konqueror
テキストエディタ	メモ帳、WordPad、(X)Emacs	kate、gedit、(X)Emacs、vim
PDFの作成	Adobe Distiller	Scribus

タスク	Windowsアプリケーション	Linuxアプリケーション
PDFビューア	Adobe Reader	Adobe Reader、Evince、Okular、Xpdf
テキスト認識	Recognita、FineReader	GOOCR
コマンドライン圧縮プログラム	zip、rar、arj、lhaなど	zip、tar、gzip、bzip2など
GUIベースの圧縮プログラム	WinZip	Ark、File Roller
ハードディスクのパーティション管理	PowerQuest、Acronis、Partition Commander	&yast、GNU Parted
バックアップソフトウェア	ntbackup、Veritas	KDar、taper、dump

Adobe Reader

Adobe Reader for Linuxは、このアプリケーションのWindowsおよびMac版に完全に対応しています。Linux版のルックアンドフィールは、他のプラットフォームのものと同一です。Adobe Acrobatスイートの他のコンポーネントは、Linuxに移植されていません。詳細については、<http://www.adobe.com/products/acrobat/readermain.html>を参照してください。

Ark

Adobe Reader、Evince、Okular、Xpdfアーカイブ内の単一ファイルの表示、選択、圧縮、解凍を実行できます。詳細については、項「Displaying, Decompressing, and Creating Archives」(第2章 *Working with Your Desktop*, ↑*KDE User Guide*)を参照してください。

Dolphin

Dolphinは、KDE 4向けのデフォルトのファイルマネージャです。Dolphinは、複数のビューモード、ファイルプレビュー、および分割ビューを備えています。詳細については、<http://dolphin.kde.org/>または項

「Using Dolphin File Manager」(第2章 *Working with Your Desktop*, ↑*KDE User Guide*)を参照してください。

dump

dump コマンドはファイルシステムのファイルを確認し、バックアップする必要があるファイルを特定し、指定されているディスク、テープ、またはその他の記憶媒体にファイルをコピーします。restore コマンドはdumpとは逆の操作を実行し、ファイルシステム全体のバックアップを復元します。詳細については、<http://dump.sourceforge.net/>を参照してください。

Evince

Evinceは、GNOMEデスクトップ用の、PDFおよびPostScript形式のドキュメントビューアです。詳細については、<http://www.gnome.org/projects/evince/>を参照してください。

File Roller

File Rollerは、GNOMEデスクトップ用のGUIベースバックプログラムです。Arkに類似する機能を提供します。詳細については、<http://fileroller.sourceforge.net/home.html>を参照してください。

GEdit

GEditはGNOMEデスクトップの公式エディタで、Kateに類似する機能を提供します。詳細については、<http://www.gnome.org/projects/gedit/>を参照してください。

GNU Parted

GNU Partedは、パーティションおよびそのファイルシステムの作成、破壊、サイズ変更、チェック、およびコピーのためのコマンドラインツールです。新しいオペレーティングシステムのためのスペースを作成する場合は、このツールを使用してディスクの使用量を調整し、ハードディスク間でデータをコピーします。詳細については、<http://www.gnu.org/software/parted/>を参照してください。

GOOCR

GOOCRは光学文字認識(OCR)ツールで、スキャンされたテキストイメージをテキストファイルに変換します。詳細については、<http://jocr.sourceforge.net/>を参照してください。

gzip, tar, bzip2

ディスクの使用量を減らすためのパッケージ作成プログラムは数多くありますが、一般に圧縮アルゴリズムが異なるだけです。LinuxはWindowsで使用されているパッケージ形式も処理することができます。bzip2はgzipより効率的ですが、圧縮アルゴリズムによっては時間がかかる場合があります。.

Kate

Kateは、KDEスイートのモジュールです。ローカルまたはリモートで複数のファイルを同時に開くことができます。Kateには構文の強調表示、プロジェクトファイルの作成、および外部スクリプト実行の機能があるため、プログラマに最適のツールです。詳細については、<http://www.kate-editor.org/>を参照してください。

KDar

KerrはKDEディスクアーカイブを表し、ハードウェア独立のバックアップソリューションです。KDarはtarとは異なりカタログを使用するため、アーカイブ全体を読み込まずに単独のファイルを抽出でき、増分バックアップを作成することもできます。KDarは、アーカイブを複数のスライスに分割して、スライスごとデータCDやDVDの書き込みをトリガすることができます。詳細については、<http://kdar.sourceforge.net/>を参照してください。

Konqueror

Konquerorは、Webブラウザ、文書、およびイメージビューアとして使用できるファイルマネージャおよびCDリッパです。詳細については、<http://www.konqueror.org/>または第17章 *Konqueror* を使ったブラウズ (185 ページ) でKonquerorのWeb閲覧機能に関する説明を参照してください。

Nautilus

Nautilusは、GNOMEデスクトップのデフォルトのファイルマネージャです。Nautilusを使えば、フォルダやドキュメントの作成、ファイルやフォルダの表示と管理、スクリプトの実行、CDへのデータ書き込み、URIロケーションの表示が行えます。詳細については、<http://www.gnome.org/projects/nautilus/>または項「Nautilusを使ったフォルダとファイルの管理」(第2章 デスクトップの使用, ↑GNOMEユーザガイド)を参照してください。

Okular

Okularは、KPDFに代わるKDE 4向けの文書ビューアです。PDFファイル以外に、Okularではさまざまなファイル形式を表示できます。その機能は、他のアプリケーションに簡単に組み入れることができます。詳細については、<http://okular.kde.org/>または第4章 *Viewing PDF Files and Other Documents with Okular* (↑*KDE User Guide*)を参照してください。

taper

taperは使いやすいユーザインタフェースを提供するバックアップと復元のプログラムで、テープドライブを使用してファイルのバックアップと復元を実行できます。ファイルをアーカイブファイルにバックアップすることもできます。ディレクトリの再帰的な選択もサポートします。詳細については、<http://taper.sourceforge.net/>を参照してください。

vim

vim (vi improved)は、viというテキストエディタに似たプログラムです。vimにはコマンドモードと挿入モードがあるため、場合によっては、慣れるまで時間がかかります。基本的な特徴は他のテキストエディタと同じですが、vimにはマクロの記録、ファイル形式の検出と変換、画面上の複数のバッファなどのユニークなオプションがあります。詳細については、<http://www.vim.org/>を参照してください。

GNU EmacsおよびXEmacs

GNU Emacsは、拡張可能およびカスタマイズ可能で自己文書化されたリアルタイム表示エディタです。XEmacsは、GNU Emacsを基にしています。この2つのエディタの機能はほとんど同じですが、多少の違いはあります。経験豊富な開発者がEmacs Lisp言語を使用すると、機能を大いに拡張できます。ロシア語、ギリシア語、日本語、中国語、韓国語などの多くの言語がサポートされています。詳細については、<http://www.xemacs.org/>および<http://www.gnu.org/software/emacs/emacs.html>を参照してください。

Xpdf

Xpdfは、LinuxおよびUnixに似たプラットフォーム用の、軽量のPDFビューアスイートです。ビューアアプリケーションと、PostScriptやテキスト形式用のエクスポートプラグインが含まれています。詳細については、<http://www.foolabs.com/xpdf/>を参照してください。

29.6 ソフトウェア開発

ここでは、プロフェッショナルのソフトウェア開発のためのLinux IDE、ツールキット、開発ツール、およびバージョン管理システムについて説明します。

表 29.6 WindowsとLinuxの開発ソフトウェア

タスク	Windowsアプリケーション	Linuxアプリケーション
統合開発環境	Borland C++, Delphi, VisualStudio, .NET	KDevelop, Eric, Eclipse, MonoDevelop, Anjuta
ツールキット	MFC, Qt, GTK+	Qt, GTK+
コンパイラ	VisualStudio	GCC
デバッグツール	Visual StudioでのGDBに関する情報	GDB, Valgrind
GUIデザイン	Visual Basic, Visual C++	Glade, Qt Designer
バージョン管理システム	Clearcase, Perforce, SourceSafe	CVS, Subversion

Anjuta

Anjutaは、GNOME/GTK+のアプリケーション開発用のIDEです。自動書式設定、コード補完、ハイライト機能のあるエディタが含まれています。GTK+のほかにも、Perl、Pascal、およびJavaによる開発をサポートしています。GDBベースのデバッガも含まれています。詳細については、<http://anjuta.sourceforge.net>を参照してください。

CVS

CVS (Concurrent Versions System)は、オープンソース用の最も重要なバージョンコントロールシステムです。これは、標準のLinuxディストリビューションに含まれているRevision Control System (RCS)のフロントエンドです。詳細については、<http://ximbiot.com/cvs/>を参照してください。

Eclipse

Eclipse Platformは、カスタムプラグインによって拡張可能な統合開発環境を構築できるように設計されています。ベースディストリビューションには、完全なJava開発環境も含まれます。詳細については、<http://www.eclipse.org>を参照してください。

Eric

Ericは、PythonおよびPython-Qtによる開発用に最適化されたIDEです。詳細については、<http://www.die-offenbachs.de/eric/index.html>を参照してください。

GCC

GCCは、様々なプログラミング言語用のフロントエンドを持つ、コンパイラコレクションです。機能の詳しいリストと、詳細なドキュメントは、<http://gcc.gnu.org>を参照してください。

GDB

GDBは、様々なプログラミング言語で書かれたプログラム用のデバッグツールです。詳細については、<http://www.gnu.org/software/gdb/gdb.html>を参照してください。

Glade

Gladeは、GTK+およびGNOME開発用のユーザインタフェースビルダです。GTK+のほかに、C、C++、C#、Perl、Python、Javaやその他の言語もサポートしています。詳細については、<http://glade.gnome.org/>を参照してください。

GTK+

CVS (Concurrent Versions System)は、オープンソース用の最も重要なバージョンコントロールシステムです。すべてのGNOMEアプリケーション、GIMP、およびその他のアプリケーションで使用できます。GTK+はC/C++以外の言語もサポートするように設計されています。GTK+は最初はGIMPのために記述されたため、「GIMP Toolkit」という名前になっています。「」詳細については、<http://www.gtk.org>を参照してください。GTK+と言語の関係については、<http://gtk.org/features.html#LanguageBindings>にまとめられています。

KDevelop

KDevelopでは、異なる言語(C/C++、Python、Perlなど)でプログラムを記述できます。KDevelopには、ドキュメントブラウザ、構文の強調表示機能

を含むソースコードエディタ、コンパイラのGUI、およびその他の機能が含まれます。詳細については、<http://www.kdevelop.org>を参照してください。

MonoDevelop

MonoDevelopは、MonoおよびMicrosoft .NET frameworkの両方を使用するソフトウェア開発を主な対象とするLinuxプラットフォーム向けのオープンソース統合開発環境です。MonoDevelopは、Intellisense、ソース管理統合、統合型GUIおよびWebデザイナーなど、EclipseおよびMicrosoft Visual Studioの機能に類似する機能を統合しています。詳細については、<http://www.monodevelop.com/>を参照してください。

Qt

Qtは、グラフィカルユーザインタフェースでアプリケーション開発するためのプログラムライブラリです。これによって、プロフェッショナルなプログラムを迅速に開発できます。詳細については、<http://trolltech.com>を参照してください。Qtによる開発と言語の関係については、<http://developer.kde.org/language-bindings/>にまとめられています。

Qt Designer

MonoDevelopは、Intellisense、ソース管理統合、統合型GUIおよびWebデザイナーなど、EclipseおよびMicrosoft Visual Studioの機能に類似する機能を統合しています。KDevelop IDEの一部として、またはスタンドアロンモードで動作します。QtDesignerは、Windowsでも動作し、VisualStudio開発スイートに統合することもできます。詳細については、<http://trolltech.com/products/qt/designer.html>を参照してください。

Subversion

SubversionはCVSと同様の機能を提供しますが、メタ情報の移動と名前の変更、およびファイルとディレクトリへのアタッチなどの機能が強化されています。詳細については、<http://subversion.tigris.org/>を参照してください。

Valgrind

Valgrindは、x86アプリケーションのデバッグおよびプロファイリング用の、プログラムのスイートです。詳細については、<http://valgrind.org/>を参照してください。

